enterbrain MOOK

今日から主食UFC! まるごと一冊オクタゴン特集!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

2.6 UFC109
2.20 UFC110
徹底詳報

大会速報、選手ブログは携帯で!
kamiproMove

2010 APRIL
880yen



祝! 復活勝利!!
PRIDE魂は“最先端”でモガキ続ける!

PRIDE絶対王者

昔の顔で出てねえぜ!!

俺たちのPRIDE三銃士が初のオーストラリア大会に揃い踏み!!

ヴァンダレイ・シウバ
ミルコ・クロコップ
A・ホドリゴ・ノゲイラ

日本進出の野望を激白!!

ダナ・ホワイト UFC代表

火の玉は通用するのか?

徹底激論! 五味隆典

あなたの知らないレジェンドファイター列伝

ヘイズマン変態座談会

kamipro Special 2010 APRIL 昔の顔で出てねえぜ!!

発売元 株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

CONTENTS

全編アメリカがらみの話題でお届けします!

UFCを カンガェル～!!



MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special

表紙写真／Josh Hedges（UFC）

2010 APRIL

UFC

006 UFCの大ボスが爆弾発表を示唆!
ダナ・ホワイト UFC代表

012 UFCの頭脳が本誌初登場!
ジョー・シルバ UFCマッチメイカー

014 今夏、マット界にカオスが巻き起こる!?
UFC日本上陸の噂

018 UFCの会場で緊急アンケートを敢行!
五味隆典のUFC初戦はどうなる?

024 五味隆典のUFC初戦の相手はこの男!
ケニー・フロリアン

028 UFC常連来場者が徹底指南!?
UFCを10倍楽しむための方法

033 “奇人”が語る憧れのUFC!
朝日昇

040 アメリカ行きは日本マット界のロマンなのか!?
野茂英雄から考えるメジャー挑戦

042 熱血オヤジの壮絶半生!
マーク・コールマン

049 UFC株売却の仕掛人はこの男だった!
ヘンゾ・グレイシー

054 あの明石家さんまも大注目!!
We Love オクタゴンガール!

060 世界最高峰の戦場ではこんな選手が闘っている!
UFCファイター名鑑
NEXT10／日本人ファイター名鑑

065 いろんな角度から巨大帝国のいまに迫る!
UFCビジネス大解剖
広告効果／PPV／ステーションカジノ／アブダビと株売却の真相／vs反MMA勢力／世界戦略／CM

084 覇王がひさびさの快勝で復活を証明!
ミルコ・クロコップ

088 “現役UFCファイター”としての生き様
ヴァンダレイ・シウバ

092 『UFC110』で沈んだ“リオの太陽”
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

096 『UFC110』試合中止の無念を晴らせ!
クリストファー・ヘイズマン変態座談会

STRIKEFORCE

100 ストライクフォース離脱説は本当か!?
皇帝ヒョードルの行方とは!?

102 4月にヒョードル戦実現か!?
ファブリシオ・ヴェウドゥム

105 進化し続けた男が語る2000年代!
ダン・ヘンダーソン

108 日本マット界復帰を熱望!
レナード・ババル

Presents

111 kamipro Special PRESENTS


TOYO TIRES
HITMAN
ultimatebet
THE ULTIMATE POKER EXPERIENCE

主食UFCのススメ



私もUFCでいろいろ変わりました！（目元がパッチリしたヴァンダレイ・シウバさん）

今回の『kamipro Special 2010 APRIL』は、まるごと一冊UFC大特集！　読めば今日からあなたも〝主食UFC〟ですよ!!

あらためて説明すると、UFCは、リアリティショー『ジ・アルティメットファイター（TUF）』の人気爆発と、巨大なPPV市場を背景にして、いまや〝世界最高峰の舞台〟として君臨しています。現在契約中の選手数やイベント収益は、MMAシーンの中では群を抜いており、UFCのほぼ独走状態。

かろうじてアメリカMMAイベントのストライクフォースがその牙城に迫るべく奮闘するも、力の差は50対1といったところでしょうか。え？　DREAMはだってぇ？　その差は100対1……いや、これは脅しでもなんでもなく1000対1と主張する関係者も存在する。


そんなUFCの一挙手一投足が日本市場に影響しないわけがありませんが、UFCの日本進出が現実味を帯びていないこともあってか、UFCの存在自体が我が国にはそれほど届いてないのが現状です。

もしかしたら、ヴァンダレイ・シウバが目元を整形したことを知らない読者の方もいるかもしれない。「誰なんだ、おまえは!?」と叫びたくなるんですよ、これが。

いやいや、最も伝えたいのはそんなことではないんですけども、UFCを頂点としたアメリカMMAは、ヴァンダレイの顔のように刻一刻と変わり続けている。日本を見ているだけでは感じられない時代の変化があるし、そしてUFCを見ることは、いまの日本を見ることにもつながると思うのです。

「あれ？　ヴァンダレイってこんな顔だったけ？」


そう思ったアナタ、今日からでも〝主食UFC〟をオススメします！



MAメジャー団体が
向けて本気になった!

UFN』が日本で地上波放送!?

、日本台風!!



世界最大のMMA
アジア制覇へ向け

五味隆典出場の3.31『UFN

UFC旋風、



ズッファ本社に独占潜入!!

“ジャイアン”が五味、青木、秋山、シウバ さらに日本進出、ツイッターの魅力まで語りまくる!!

ダナ・ホワイト

Dana White

UFC PRESIDENT

「ここ数ヵ月で驚くべきことを発表する 日本進出も必ず実現させてやるさ」

**躍進を続けるUFCの社長として、分刻みのスケジュールで行動するダナ・ホワイト。
いまや取材時間を割いてもらうのも難しい存在となったが、今回、本誌がラスベガスを訪れるとズッファ本社での取材を承諾してくれた。
五味隆典の参戦、そして日本進出の噂など、再び注目度が増すUFCのさまざまな事象を直撃した。**

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）通訳／石井史彦

——今回はズッファ本社にお招きいただきありがとうございます！

ダナ　『kamipro』が取材に来るのも、ずいぶんひさしぶりじゃないか。どうしてたんだい？

——毎大会取材に来たいんですけど、不況ということもありますから、そう何度もアメリカに来てられないっていうのが正直なところです（笑）。UFCはあいかわらず好調みたいですね。

ダナ　まあな。忙しいけど順調だぜ。確実に試合数も増えてるし、開催地も拡大されてきてるからね。

——今回は3年半ぶりのズッファ本社へおジャマしてのインタビューなんですけど……。

ダナ　もう3年半にもなるか。そのときのことは覚えてるよ。オフィスの外に出て俺の車の前で写真を撮ったときだろう？

——覚えていただいていて光栄です。たしかPRIDEラスベガス大会の前日にインタビューしたんですよ（笑）。

ダナ　そうだったか、そりゃ大昔だな（笑）。

——で、あれから3年半経ったら、本社ビルがこんなに大きくなっていてビックリしましたよ。

ダナ　そうだろう。ビルディングだけでも、その当時とは比べ物にならないほど大きくなったし、建物全体の改装工事も行なったんだよ。それにいまでは隣のビルも所有しているんだ。

——隣のビルもズッファですか！

ダナ　そこでは撮影されたビデオなどの編集作業を専門的に行なっているんだ。おそらくラスベガスで一番大きな編集専門スタジオだと思うよ。だが、これで満足


MARINES
THE FEW. THE PROUD.

してるわけじゃない。このスポーツはもっともっと世界に広まって、これから大きくなっていくんだからな。

——そのUFCのトップとして忙しい日々を送るダナ代表が、『kamipro』の独占取材に時間を割いてくれるということは、まだ日本市場を大事に考えてくれていると考えていいですか？（笑）。

ダナ　もちろんだよ。俺がどれだけ日本に進出したいか、キミには何万回も話したはずだろう？

——たしか、それぐらい聞いた気がします（笑）。

ダナ　もう少し時間はかかるだろうが、必ずUFCの最高のイベントを日本に持っていくので楽しみにしていてほしい。

——今回、五味隆典選手と契約を結んだのも、日本進出計画の一環ですか？

ダナ　もちろん、そういった側面がないわけではないが、それだけじゃない。ご存知のとおり、昔からタカノリ・ゴミにはUFCに上がってほしいと思っていたから、契約のチャンスをうかがっていたんだ。ちょうどいま日本の格闘技界に動きがあり、かなりの数のファイターが将来どうなるかを見きわめようとしているときだと思うんだよ。その中でゴミは我々と契約することを選んだんだ。ゴミはいまでも日本国内で一番の人気を誇るファイターだから、契約できてうれしいよ。

——五味選手のアメリカでの知名度はどうなんでしょうか？　最近、アメリカでは『ベスト・オブ・PRIDE』というテレビ番組がスタートし、五味選手の過去の名勝負をスパイクTVで放映しているらしいですけど。

ダナ　もちろんゴミはハードコアなファンのあいだでは伝説的な存在だし、あの番組が始まってから新しいファンも増えている。でも、彼の名前が本当に知られるのはこれからだろう。そして、アメリカでの知名度を上げて、彼をビッグスターにしていくのが我々の仕事だ。ゴミのUFCデビュー戦は、スパイクTVでヘッドライン（メイン）のカードとして放映されるんだ。この意味がわかるかい？

——PPVではなく、ケーブルテレビであるスパイクTVなら、より多くのアメリカ人が五味選手の試合を観ることになりますね。


ズッファ本社の社長室でインタビューを受けてくれたダナ。広く清潔な室内に置かれた、見るからに高級そうなソファでくつろぎながら語る姿は、まさにMMA界の首領だ。

俺がどれだけ日本に進出したいか もう何万回も話したはずだろう！

ダナ　そうだ。そして対戦相手のケニー・フロリアンは『TUF』シーズン1にも出ている、アメリカではとても人気のあるファイターだ。ゴミにとっては大きな意味を持つカードだろう。

——ただ、UFNはアメリカではスパイクTVで多くの人が観られると思いますが、日本のWOWOWでは放映してないんですよ。五味選手だけでなく、岡見選手、宇野選手まで出る大会ですから、何か日本でのテレビディールについては考えていらっしゃいますか？

ダナ　それはグッドクエスチョンだね。もちろん担当者が日本市場へ対してなんらかのアレンジをしているはずだよ。ヘイ、クレイグはいるかい？　いたら呼んでくれ！（ここで秘書が担当者クレイグを連れてきて、ダナに説明）なるほど、そういうことか。

——どうなんでしょう、日本で観られそうですか？

ダナ　まだこの場で言うことはできないが、絶対になんらかのアレンジはするよ。日本のファンがこの試合を観られないなんて、クレイジーなことだからな。

——では、テレビ放映についても期待してます！　ところで、ケンフロはUFCライト級ナンバー2と言ってもいい存在だと思いますが、この試合で五味選手が勝てば、BJペンの持つライト級王座挑戦も見えてきますか？

ダナ　ケニーに勝てば、間違いなくタイトル戦線に浮上してくるだろう。可能性としては、グレイ・メイナードとタイトル挑戦権を懸けた試合をすることになるだろうね。

——それにしても、いきなりケンフロというのは、かなり厳しい相手だと思いますが、これは期待の表われと受け取ってよろしいでしょうか？

ダナ　ケニーは素晴らしいファイターだが、ゴミにとって特別厳しい相手だとは思ってない。彼がいままで世界最強のファイターたちと闘ってきたのを日本人はさんざん観てきたはずだろう？　UFCでデビューするにあたっても、ベストのファイターと試合をしてほしいということなんだ。ぜひ、タイトルに挑戦してほしいんだよ。

——五味選手については2年前にも交渉があったと思いますが、そのときは契約が実現しませんでした。そして今回、あらためてUFC参戦が決まるまで、五味選手はあまりいい結果が残せませんでしたが、彼のこの2年間についてどう思いますか？

ダナ　ゴミが俺の知らないどこかで、以前に何をやっていようが、俺には関係ないことさ。〝恋人〟の過去のプライバシーをさぐるような趣味はないんだよ（笑）。

——いま、自分のそばにいるならそれでいい、と（笑）。

ダナ　そう、とにかく我々はタカノリ・ゴミと契約できたんだからハッピーさ（笑）。ちゃんと聞いてほしいのは、最終的にゴミ

五味はケニーに勝ったら、BJペンへの挑戦権を懸けてメイナードと闘うだろう

は155ポンド（ライト級）はもちろん、170ポンドでも世界のベストファイターになれる素材だ、ということだ。我々はいつでもベストのファイターに興味を持っているんだよ。

――では、ライト級の日本人といえば、DREAMの現役王者でもある青木真也の獲得は考えていませんか？

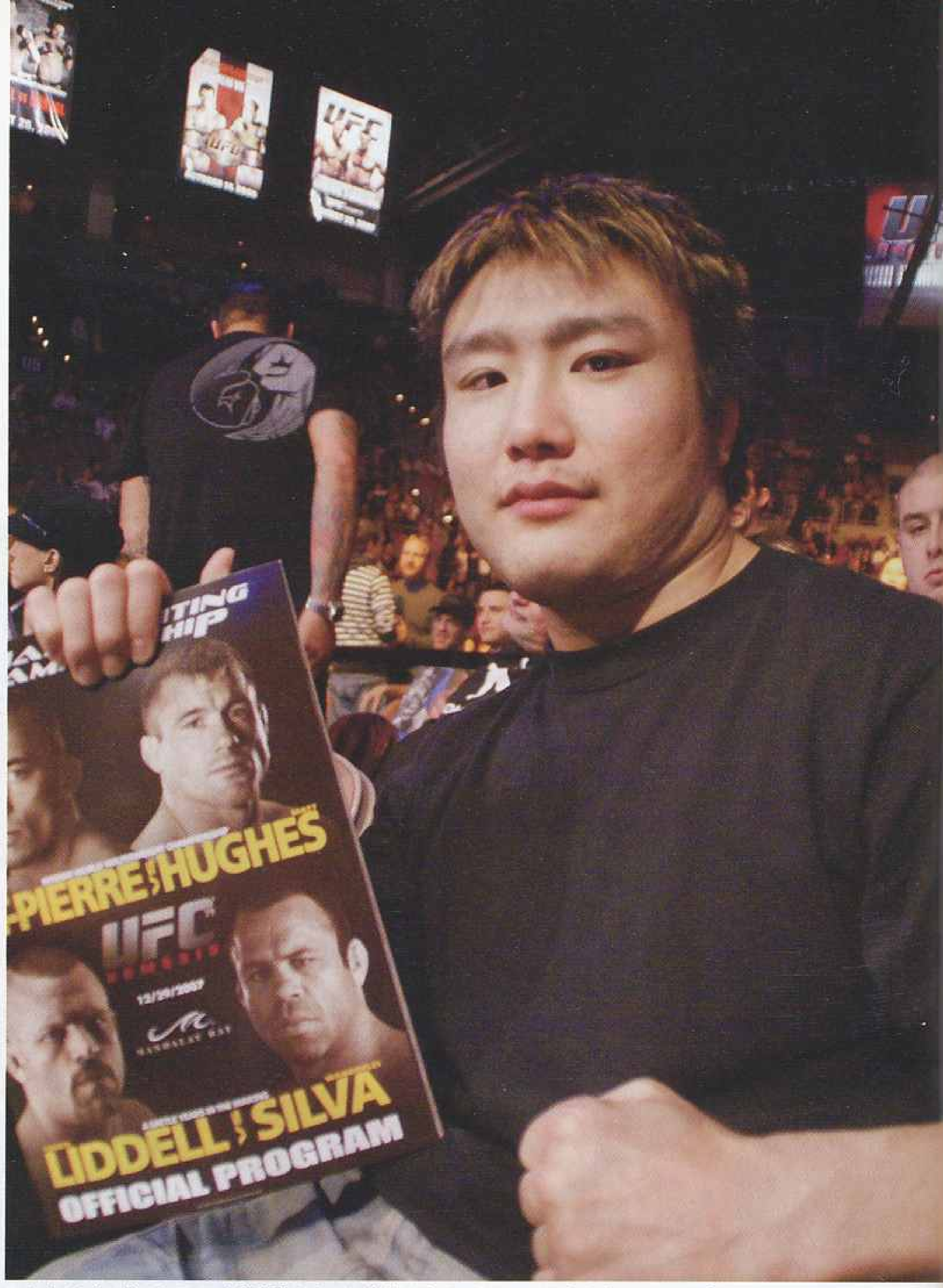
ダナ　アオキは過大評価されているファイターだ。本当にみんなが言うように世界でナンバー2であるなら、自分自身でその強さを証明する必要があるじゃないかい？　もし彼が世界トップ5のファイターを倒したら、その実力を認めるよ。

――でも、UFCを毎回観ているメディアやファンでも「BJに続くライト級ナンバー2は青木である」と言ってる人が多いですけど、それについてはどう思いますか？

ダナ　アオキはアメリカ以外の国で試合をしているから、イメージだけ巨大化してランキングが上がっているんだろう。日本やロシアや誰も知らないところでね。

――ロシアでは試合はしていませんが（笑）。

ダナ　その実力が本物だというなら、ここアメリカに来て試合をするべきだ。UFCのトップレベルのファイターたちは、年間3試合、コンスタントにトップレベルの



これまで、たびたびUFCの会場を訪れながら参戦が実現しなかった五味隆典だが、3.31『UFN』でついにUFCデビューが決定。ファイアーボールキッドは、アメリカで燃え上がるのか？

Dana White

試合をこなしているんだ。その中で実力を証明してくれたら、潔くアオキを認めるさ。ただ、現状では彼がナンバー2だなんて、間違っても言えないよ。

――では、そんな青木選手には興味がない、と？

ダナ　そうは言ってない。「アオキは才能のあるファイターかい？」って聞かれたらもちろん「素晴らしいタレントを持っている」って答えるよ。ブロック・レスナーがUFCに出始めた頃のことを覚えているだろう？　デビュー戦でフランク・ミアに負けたとき、誰がいまのブロック・レスナーを想像できたんだい？　彼はいま誰もが認めるチャンピオンだ。でも、それはベストのファイターたちと試合をして証明してきたから認められたんだよ。俺たちはブロックに簡単な道のりを提供しなかっただろう？　キャリアで2戦目となったUFCのデビュー戦は元UFCヘビー級チャンピオンのフランク・ミア、3戦目がヒース・ヒーリング、4戦目がランディ・クートゥアー、そして5戦目でフランク・ミアと再戦してリベンジしてる。これだけのことをやったから、周りがなんと言おうと世界でトップにランクされる権利を持っているんだよ。

――青木選手はその証明をまだしていない、と。

ダナ　そうだ。俺の知らないところで連勝しているらしいが、早く世界の舞台に出てこいと言いたいね。〝世界大会〟で何十連勝していても、〝地方大会〟に一度も出たことがない選手を「世界一だ」なんて言えるわけがないだろう。俺が言いたいのは、それだけだ。

――では、青木選手が日本の団体と契約的に問題がなくなれば、すぐにでも獲得に動く準備はありますか？

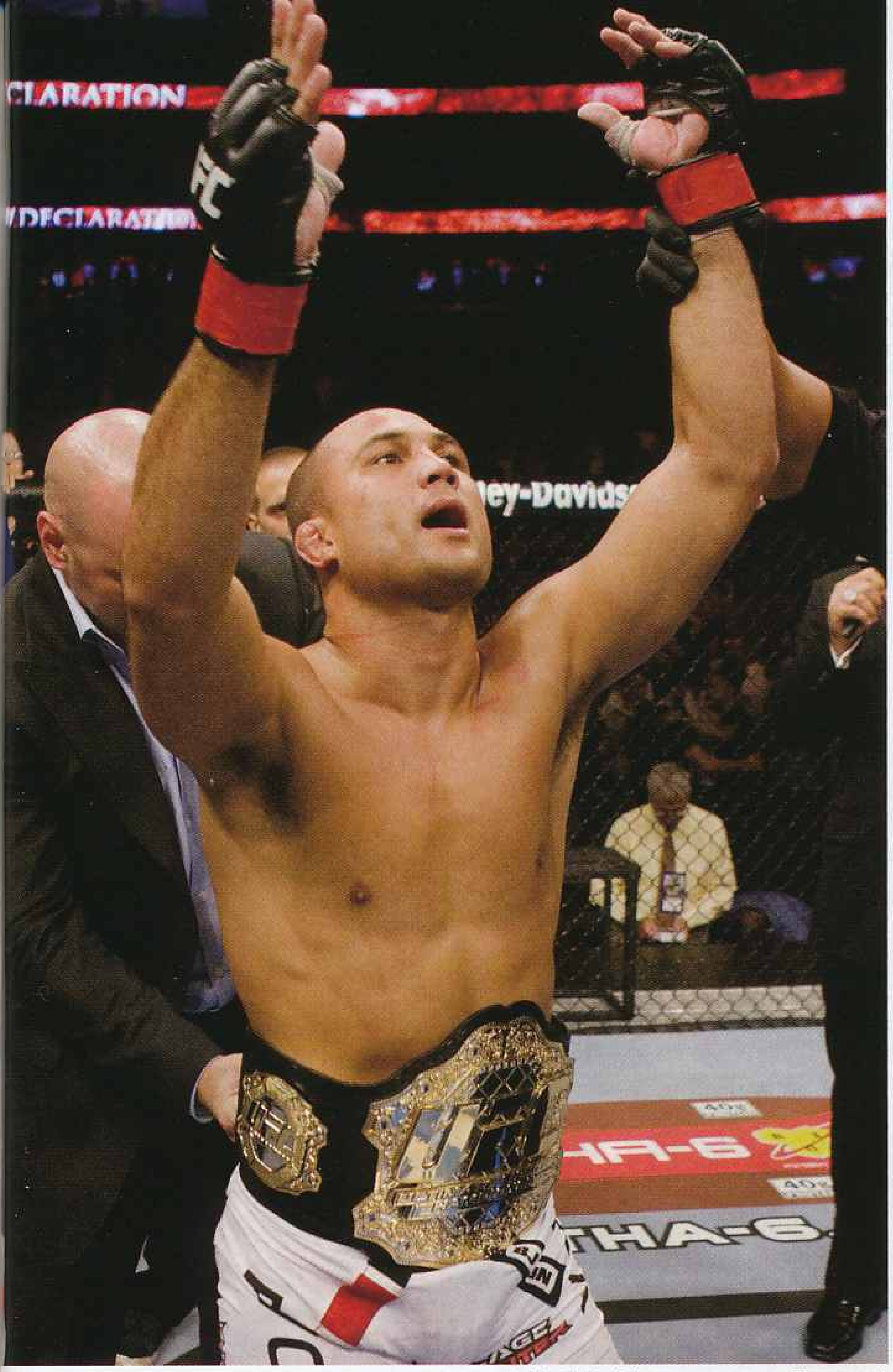
ダナ　もちろん獲得に動きたいよ。契約上問題なければね。俺はアオキを嫌ってるわけじゃない。「自分が世界でベストである」と言うならば、UFCに来てそれを証明してほしいんだ。タカノリ・ゴミがそうしようとしているようにね。

――青木選手のUFC参戦が期待されるのは、現在、BJペンがUFCライト級で闘うべき相手がほとんど残っていない現状が関係していると思います。この状況についてどう思いますか？

ダナ　アオキ自身が「もう自分しかいない」とでも思ってるのかい？「落ち着け！」って言いたいね（笑）。確かにBJは、いままで見たことがないほど素晴らしいコンディショニングができているし、多くの人がBJに勝てるヤツはいないと思っているのが現状だろう。だからこそ、アオキにはここアメリカで自分の力を証明して、B



五味がケンフロに勝ったら対戦が濃厚とされる、グレイ・メイナード。MMA10戦無敗。今年1月にはニック・ディアスの実弟ネイト・ディアスも破った難敵だ。



まさにライト級絶対王者と呼ぶにふさわしい、無敵の強さを誇るBJペン。4.11『UFC112』アブダビ大会で、フランク・エドガーの挑戦を受けることが決定しているが、この男と五味隆典や青木真也が対戦する日は来るのか。

Jに挑戦する位置まで勝ち上がってほしいね。アオキはアグレッシブでいいファイターであることは認めよう、だが、まだ何も証明していないいまの彼ではBJに挑戦する権利はないんだ。

――昨年の大晦日、その青木選手が対戦相手の腕を折り、試合後に中指を立てて相手を挑発したことについてはどう思いますか？

ダナ　試合は観てないけど、その件についてはみんなから聞いたよ。すぐに「ブロック・レスナーみたいなことをするヤツだな」って思ったよ（笑）。

――スポンサーを怒らせてしまって（笑）。

ダナ　ああいったことは、もちろんこのスポーツにとっても、アオキ本人にとってもよくないことだけど、ファイターたちは自分の感情を抑えられないときがあるからね、個人的には理解できる面もあることは事実だ。MMAは「スポーツ」といってもゴルフやテニスみたいなお行儀のいいものじゃなく、人間同士の壊し合いだからね。アグレッシブな行動に出てしまうのも仕方がない部分はあるけど、プロフェッショナルとしては慎むべき行ないだな。

その後、アオキはみんなに謝ったのかい？

――謝罪はしてますね。

ダナ　あれは二人のあいだで、とくに憎み合ったりとか理由があったのかい？

――個人的な恨みというより、団体のチャンピオン同士の対決だったこともあって、一種の〝戦争〟状態になっていた部分はあります。

ダナ　なるほどな。プロフェッショナルとしてマイナスになることは避けるべきだけど、ときにはそういうことも起こるということだよ。

――もう一人、日本人の注目ファイターでは、秋山成勲選手が今回、デミアン・マイア戦というチャンスを断ったというのは

Dana White

青木が世界ナンバー2であるならUFCに来てその実力を証明すべきだ

本当ですか？

ダナ　ああ、アキヤマが「ベストのファイターとベストの試合がしたいから、試合を一つ飛ばしてもヴァンダレイとやりたい」って直訴してきたんだよ。そういうアキヤマを俺は好きだよ。もちろんデミアンも素晴らしいファイターさ。でも、ヴァンダレイと比べたら、ヴァンダレイのほうが上だし、より上のファイターと闘いたいということは理解できる。

――では、ヴァンダレイvsビスピン戦の勝者vs秋山という試合は、本当に実現しそうですか？　それとも秋山選手の次戦は違う相手になる可能性もありますか？

ダナ　勝者との対戦は、実現するかもしれないね。まあ、どうなるかのお楽しみということで（笑）。ホントはその試合を組むより、アキヤマには170ポンド（ウェルター級）に落とすようにアドバイスしたんだけど、聞く耳を持たなかったよ（笑）。

――現在のヴァンダレイについては、どう評価していますか？　UFC参戦後、負けが先行していますが。

ダナ　確かにラフな状況になってるのが現実だね。次のビスピン戦は彼にとっても大きな意味を持つだろう（このインタビューは、シウバvsビスピン戦の前に収録）。もし負けるようなことがあったら、次は何をしたいのか、ちゃんと話し合う機会を持たなければならないと思っている。

――PRIDEのスーパースターが負け越しでは、〝期待はずれ〟だとは思っていませんか？

ダナ　ノー！　期待はずれだなんて、これっぽっちも思ってないよ。どうしたらヴァンダレイの試合が不満だなんて言えるんだい？　彼こそ本当の戦士だぜ。どの試合だって、戦士の姿を見せているし、一度だってつまらない試合を見せたことがない。ファンはそういうヴァンダレイを愛しているし、俺自身、その闘いを最大限に評価しているつもりだよ。

――UFCは戦績でファイターを評価するイメージが強いのですが、それだけではない、と。

ダナ　もちろん戦績というのは一番大事なことだ。ただし、ヴァンダレイ、チャック・リデル、ランディ・クートゥアー……彼らのようなレジェンドは特別なんだよ。マイケル・ジョーダンのようなスーパースターだって幕を下ろすときが来るように、彼らにもいつかはそのときがやってくるんだ。でも、これまで彼らがこのスポーツに貢献してきたことを尊敬しなくてはいけないし、彼ら自身もその権利を持っているんだ。それを忘れちゃいけないよ。

――今回、オーストラリア初進出でヴァンダレイの試合が組まれ、前回、ドイツ初進出でメインに登場したのは、それだけヴァンダレイのエキサイティングな試合に信頼があるからですか？

ダナ　そのとおりだよ。ヴァンダレイとマイケル・ビスピンとの試合は、激しい試合になることは保証されているようなものだからね。また、クロコップの試合も組まれているけど、オーストラリアにはミル

コファンがたくさんいるんだよ。俺はファンが観たいものを見せていきたいんだ。

──4月のアブダビ大会でBJとアンデウソン・シウバ、両選手のタイトルマッチが同時に行なわれる理由は？

ダナ　ミドルイースト（中東）で行われる最初の大会だから、これまでにない規模のショーにしたいからさ。まあ、アブダビだけでなく、いままでも最初に開催されるところで大きな大会になるように、ビッグカードを組んできたから、それと同じだよ。

──アブダビのシーク・タハヌーン王子の会社、フラッシュ・エンターテインメント社がUFCの株式を取得したことで、UFCにとってどんなメリットが考えられますか？

ダナ　いままでにもパートナーとして名乗りを挙げてくれたところがたくさんあるけど、その中で今後、世界にビジネスを展開していくうえで戦略的にベストなパートナーと判断できたからさ。

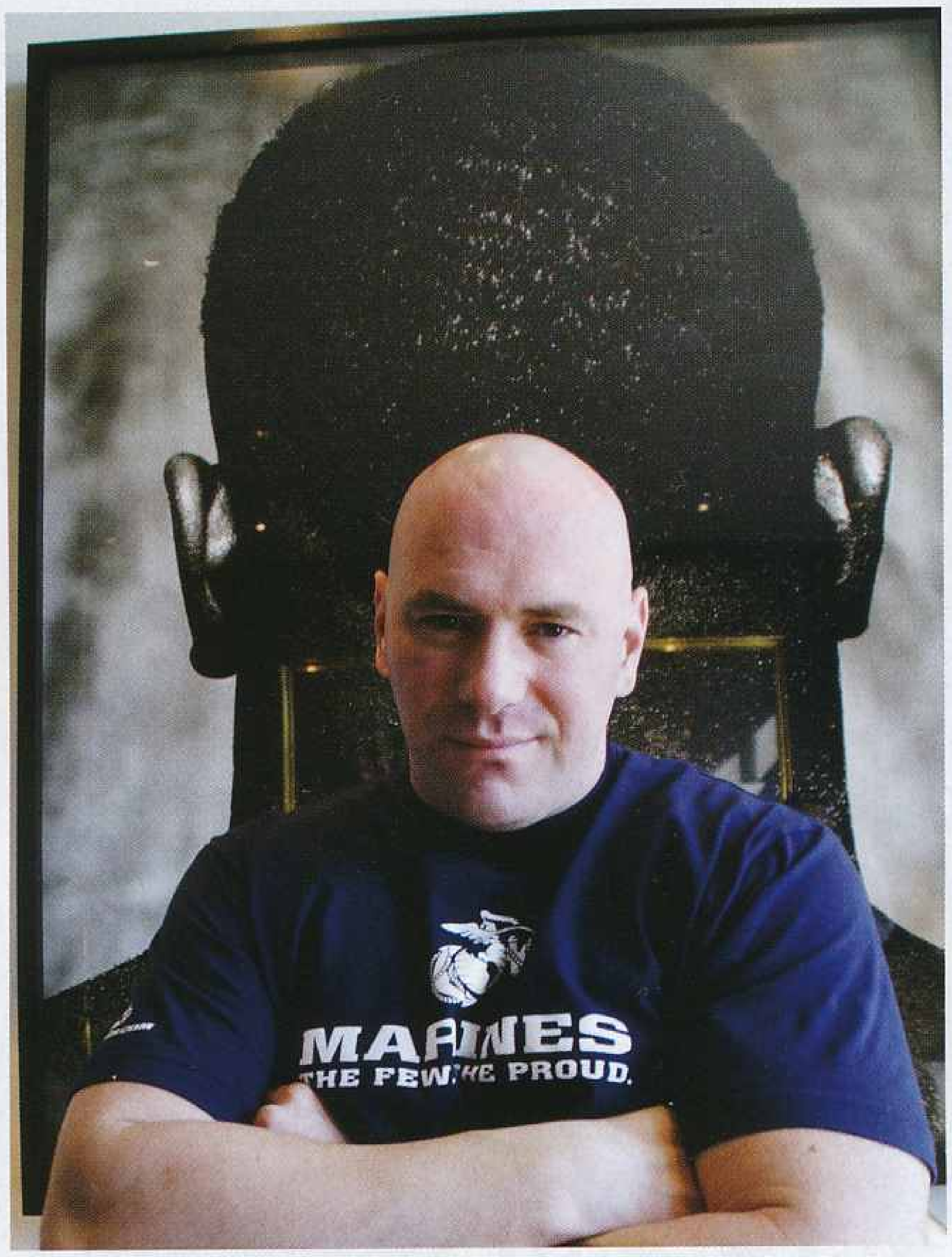
──では、中東はこれから重要な意味を持ってきますか？

ダナ　もちろん、そうなるだろう。まだ調整中だけど、じつは『ジ・アルティメットファイター（TUF）』のインターナショナル版として、ミドルイーストの選手を集めて撮影を行なう予定があるんだ。マーシャルアーツの歴史が数千年もある地域だからね、素晴らしいファイトが観られると思う。

──今後のアジア戦略については、どんな展開を考えていますか？

ダナ　まずは中国、インド、そのあと韓国へ進出して行く予定だ。日本はそのあとになりそうだが、何度も言うように必ず実現させる。いま中国を一番に考えているのは、あそこには潜在的に巨大な市場が眠っているはずだからね。じつはロレンゾ（・フェティータ＝UFCオーナー）が3〜4週間後に中国で現地の大物と会合を持つ予定になっているんだ。ここ数カ月で、みんなが驚くことを発表できる予定だし、2年後には世界規模でUFCを展開する計画を立てているから、今後の動きは非常にエキサイティングなんだよ。

ツイッターで俺の「つぶやき」を何万人もの人が読んでいる。本当にクレイジーなことさ



DANA WHITE■1969年7月28日、米国コネチカット州マンチェスター出身。プロボクサー、MMAファイターのマネージャーを経て、UFCを運営するズッファ社の社長に就任。"ジャイアン節"を轟かせながら、UFCの世界展開に力を入れている。

──ますます忙しくなりそうですね。

ダナ　そうなるだろう。だが、俺はこのスポーツが好きだし、この仕事が好きだから、それは歓迎すべき事態だよ。

──そんな中で、ツイッターというのはUFCのプロモーション活動にとって大事なツールですか？

ダナ　最高のツールだね！　普通のインターネットより格段に便利だ。なんせメッセージを瞬時に見ることができるんだからね。電子メールだと相手に読まれないことがあるだろう？　ツイッターはケータイでメッセージをやり取りできるんだから比べ物にならないんだ。現在これ以上強力なツールは存在しないね。

──ツイッターでの「つぶやき」情報を元に、ファンが街角であなたに会ったら、UFCのチケットがもらえるというのは本当ですか？

ダナ　本当のことさ。ニューヨークでの出来事のことを言ってるんだろう？　あれは本当に驚くべきことだったよ。

──具体的にはどんなことがあったんですか？

ダナ　あれは休日の雨の降る夜10時30分、ミッドタウンで「チケットを配る」ってつぶやいたら、すぐに人だかりができてしまったんだ。クレイジーだろう？　そのチケットは西海岸の大会のものなんだぜ。それだけツイッターは強力なツールなんだよ。いままでの手法でビジネスを立ち上げようとして、広告を打ったりしても、実際に何人の人が見てくれているかなんてわからなかった。でも、俺のツイッターでは数百万の人がフォローしているんだ。またそれだけの人たちが、俺が何をしてるのかを知りたがってるってことなんだよ。本当にクレイジーなことさ。

──では、「『kamipro』の取材を受けた」ということも、ツイッターでつぶやいておいてください（笑）。日本のファンへのアピールとして。

ダナ　ハハハハ、つぶやいておくよ（笑）。

──現在、日本ではWOWOWが1カ月に1〜2回程度、試合映像を流しているだけで、プロモーション活動的なものが少ないので、UFCファイターの知名度がなかなか上がらない現状があるんですよ。だからこそ、今後とも日本の雑誌メディアへの協力をお願いします（笑）。

ダナ　こちらこそ、いつでもインタビューしてくれ。俺がどれだけ日本に進出したいか、キミはわかっているはずだ。ただ、いままで何度かトライしても、いい結果が出てないことも事実なんだ。本格的に進出するには時間がかかるだろうけど、あきらめないよ。東京はまさにニューヨークと同じだからね。ニューヨークも日本も、完全に準備を整えて、満を持して進出することになるだろう。その日をぜひ期待してくれ。今日はここまでだ！

【10年2月3日／米国ネバダ州ラスベガス、ズッファ本社社長室にて収録】



UFCマッチメイカーが語る
五味vsケンフロが組まれた理由

ジョー・シルバ

Joe Silva

「ケニー戦が実現したのは五味サイドの要望でもあるんだ」

3・31『UFN21』シャーロット大会で行なわれる五味隆典のUFCデビュー戦。その対戦相手は、噂どおりケニー・フロリアンとなることが正式発表された。ケニー・フロリアンといえば、日本での知名度こそあまり高くないが、BJペンに次ぐUFCライト級のナンバー2といえる強豪。UFCデビュー戦の相手としてはきわめてキツい相手だが、UFCがこのカードを組んだ意図はどこにあるのか? マッチメイカーであるジョー・シルバに、五味隆典vsケニー・フロリアン戦実現の経緯を独占直撃した。

聞き手/堀江ガンツ　撮影/Josh Hedges　通訳/石井史彦

——五味隆典選手のUFCデビュー戦がついに正式決定しましたけど、マッチメイカーであるあなたに、なぜこのカードが組まれたのか、いろいろと聞いていきたいと思います。

ジョー　ハハハ、お手やわらかに(笑)。

——まず、ズバリ聞きますけど、五味隆典選手はUFCで成功すると思いますか?

ジョー　もちろんさ、だからUFCが契約したんだろう?　ゴミはみんなも知っているとおりスーパータフで、重いパンチを持っていて、打たれ強いアゴも持っている。またレスリングのベースもしっかりしているオールラウンドのタフなファイターだからね。そして、その実力をこれまで世界のベストファイターたちと対戦して証明しているからね。UFCでタカノリ・ゴミの試合をマッチアップするのは、数年来の念願でもあるんだよ。

——PRIDE時代の五味選手はライト級世界一と呼ばれていましたが、ここ2~3年はあまりいい戦績を残せていません。このへんについてはどう思いますか?

ジョー　ある程度の目的を達成したファイターの中には、試合に対するチャレンジ精神が薄れてしまう時期を迎えることがあるけれど、ゴミもそういう時期を迎えてしまったんだと思う。

——確かにPRIDEでチャンピオンになったあと、次の目標が見つけられなかったように感じます。

ジョー　個人的にはそのあとすぐにUFCに来てほしかったんだけど、彼は一度は日本(『戦極』)を選んだ。でも、PRIDEのときと同じモチベーションを持つことはできなかったんだろうな。でも、いまゴミはようやくUFCを新しいステージと決めて、心身ともにエキサイティングな状態にあるだろうから、ここ数年のことは考えなくていいんだよ。モチベーションを持ったときの彼は本当に危険なファイターとなるからね、いまはそのときなんだよ。

——では、五味選手のUFCデビューでケニー・フロリアンというきわめてタフで厳しい相手を用意したのは、どういった理由がありますか?

ジョー　ケニーは確かに素晴らしいファイターだよ。でも、ゴミにとってそこまでタフなファイトだとも思っていないんだ。

——そこまでタフではない?

ジョー　ファイターにはスタイルによって相性というものがある。ゴミはレスリングをベースにしたハードパンチャーという〝ファイタースタイル〟。その彼がオクタゴンで闘うにあたって、一番手強い相手となるのは〝レスラー〟なんだ。UFCにはたくさんタフなレスラーがいるからね。そして事実、今回のUFCデビュー戦をマッチアップするにあたって「レスラー以外のベストのファイターにしてほしい」という要求がゴミサイドからあったんだ。

——へえ、五味選手サイドからの要求でもあるんですか。

ジョー　でも、UFCとしては、ゴミが真剣に試合に向けた練習をするためにも簡単な相手を当てたくなかったんだ。簡単な相手だったら、「そんなにハードな練習をしなくても勝てる」って思ってしまうことも心配してね。

——気合いの入り方によって、全然パフォーマンスが変わってくる選手ですからね(笑)。

ジョー　そうだろう?(笑)。だから、ケニーというBJペンに次ぐ、ライト級のトップファイターを用意した。ただし、ケニーはオールラウンドの素晴らしいファイタ

ーではあるけど、〝レスラー〟ではないということを忘れないでほしいんだ。

——厳しい相手ではあるけれど、相性は悪くないというわけですね。

ジョー　でも、一つ勘違いしてほしくないのは、べつにゴミはレスラーを恐れているわけではないんだ。UFCデビュー戦であり、オクタゴンという初めての戦場だから、〝ファイタースタイル〟である自分の持ち味を充分に発揮するためにも最初はレスラー以外がいいというだけでね。

——あとケニーが〝厳しい相手〟というのは、その実力のわりに、日本のファンのあいだでは名前が知られてないということがあります。知っていてもBJペンとの試合の印象が強かったり。

ジョー　BJと対戦したら、誰でも簡単に仕留められてしまうので、確かに見栄えは悪いよね。でも、それ以外の試合を観ればケニーの実力が理解できると思う。ムエタイ、柔術どちらも強いオールラウンドのテクニックを持った素晴らしいファイターなので、ゴミとはエキサイティングが試合を見せてくれるはずだよ。

——一番最近の試合であるクレイ・グイダとの試合も素晴らしかったですよね。

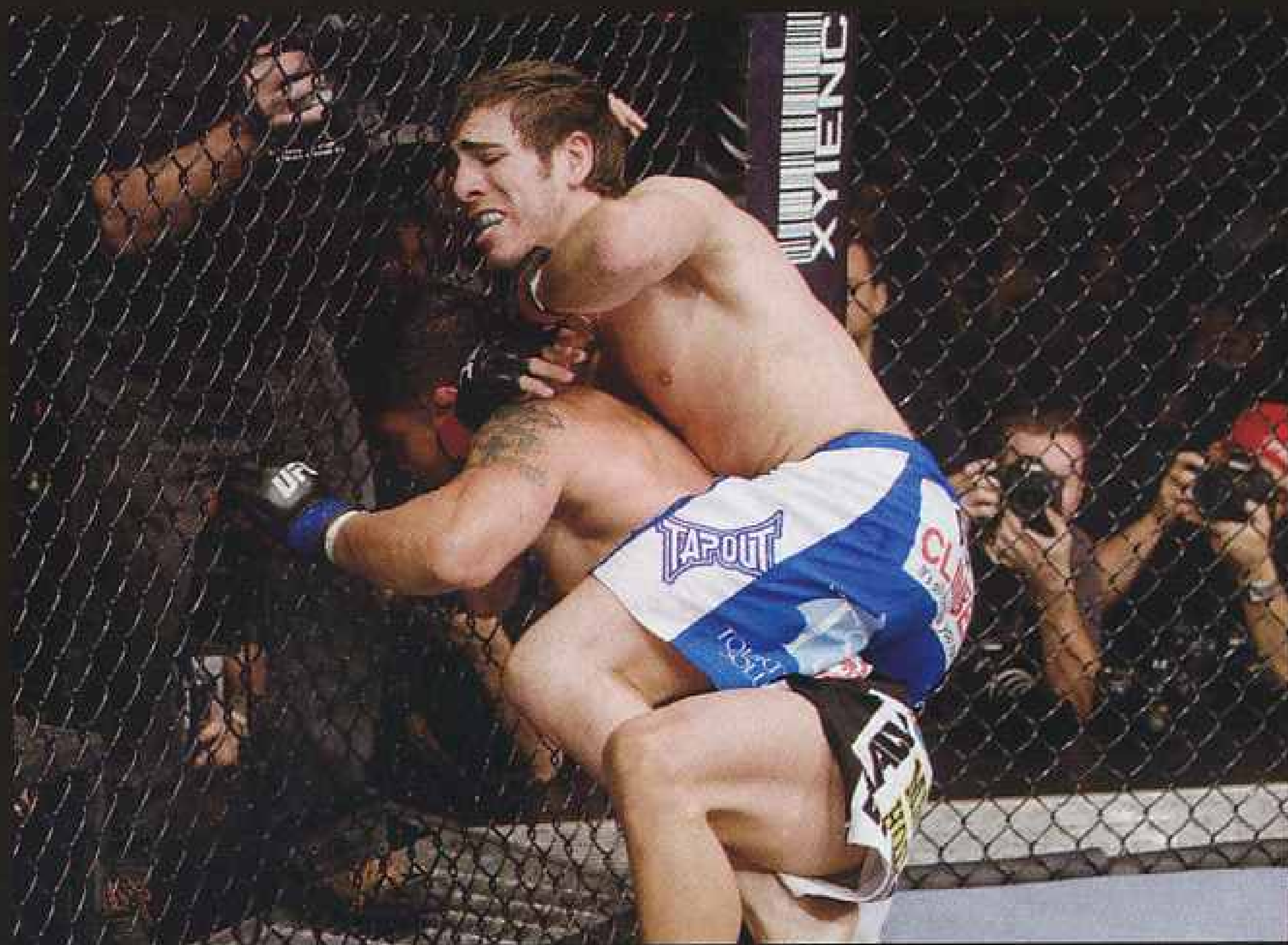
ジョー　あの試合では、暴れ馬のようなグイダを完全にコントロールしていたね。ただ、グイダ自身もキャンプを変えたばかりでレスリングを使わなかったという戦略的なミスもあったと思う。誰でも何か新しいものを身につけようとすると中途半端になってしまう時期があるからね。グイダもちょうどそういう時期だったんだよ。

——では、五味選手がケニーに勝つには何が必要だと思いますか?

ジョー　ゴミはケニーより重いパンチを打ち込めるからね、それにレスリングも優れている。KOで試合を決める可能性は高いはずだよ。テイクダウンしてグラウンド&パウンドという流れも考えられるしね。ケニーは正確でスピードのある素晴らしいストライカーだけど、パワーという点では、ゴミのハードパンチのほうがずっと上だと思っている。その自分の強い部分を出せるかどうかだよ。

——あと五味選手のデビュー戦はなぜUFCナンバーシリーズではなく、UFNになったんでしょうか?

ジョー　タカノリ・ゴミという大物のデビューには、ヘッドラインのメインイベントのほうがいいという判断だよ。もしUFCでのPPVになってしまったら、ゴミのアメリカでの浸透度からして、ヘッドラインのカードは組めないからね。



地味ながらもその実力は誰しもが注目しているケンフロ。かつて青木真也も「ヒジも使えてパウンドワークもうまいし、かなりの実力者だと思いますよ」と絶賛。

ダナからはいつも「ベストのファイターと契約するのがおまえの仕事だ!」って言われるよ(笑)

——秋山成勲選手のデビュー戦は、『UFC100』という最高の舞台でしたけど、やはり上から5番目という順番でしたもんね。

ジョー　そのとおり。アキヤマは「ファイト・オブ・ザ・ナイト」を獲得するような素晴らしい試合を見せてくれたけど、やはりあの日はメインイベントが3つも組まれていたから、やはりそれに隠れてしまった部分はあったからね。そういった意味でも、UFNのメインイベントというのは、ゴミのようなトップファイターのデビュー戦として、ふさわしい舞台だと思っている。

——ただ、UFC本戦は日本でも衛星放送WOWOWで観ることができますが、UFNは観られません。今回はなんらかのテレビアレンジはあるんでしょうか?

ジョー　自分のポジションでは言えることはないし、まだどうなるかはわからない。ただ、当日はオカミやウノのカードもあるから、選手をプロモートする意味でも日本のファンが試合を観れるようなんらかのアレンジがあるんじゃないかと思うよ。

——五味参戦の続く日本人ファイターはいますか?

ジョー　私は昔からルミナ・サトーの大ファンだし、その影響で飼っている猫の名前も〝ルミナ〟なんだよ。それぐらいUFCは昔から日本の格闘技界に尊敬の念を持っているし、ぜひとも日本のベストファイターに来てもらいたいと思っている。ただ、日本のファイターとの契約はいろいろと難しい問題があるんだ。

——たとえば、どういうことですか?

ジョー　多くの日本人トップファイターは、日本の団体との契約を持っているということが一つ。また、契約が切れても、日本では団体とのジムの結びつきが強いため、そういった日本の団体に選手を送り込んでいるジムに所属しているというだけで、契約が難しくなってしまったりするんだ。ファイターというのは個人商売なのに、ジムの都合でチャンスの芽が摘まれるなんていうことは、ここアメリカでは絶対に起こらないことだし、ファイターがかわいそうだと思うけどね。

——では、日本人ファイターを積極的に獲得する意思はある、ということですね。

ジョー　ダナからも、いつも「早くベストのファイターと契約しろ!　それがおまえの仕事だろ!」って言われてるからね(苦笑)。これからも日本のトップファイターが、UFCの強豪たちと闘う機会を作ろうと思っているよ。

——いま具体的に獲得したいファイターはいますか?

ジョー　獲得したい選手はいるけど、契約の問題もあるので、ここでは名前を出すのは控えたいな。

——たとえばライト級の○○選手やフェザー級の○○選手とかですか?

ジョー　もちろん、彼らには興味を持っているけど、名前は出さないでくれよ(笑)。とにかく、日本からはWECにもいいファイターが参戦してきているし、今後も期待している。UFCにはベストの〝ジャパン〟を必要としている、それだけは確かなことだよ。

【10年2月5日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】



3.31『UFN』に日本人ファイターが揃い踏み!
そして今夏、マット界にカオスが巻き起こる!?

UFC日本上陸
噂の真相

かねてから噂されていたUFCの日本進出がいよいよ真実味を帯びてきた!
五味をはじめ、3人の日本人ファイターが出場する3.31『UFN』が、
な、な、な〜んと日本の地上波で放送する話が急浮上してるのだ!
これはついにUFCが本腰入れて日本進出に乗り出そうとしてる前兆なのか? その真相に迫る!

構成/鈴木佑　試合写真/乾晋也、Josh Hedges(UFC)



ケニー・フロリアン戦が、昨年10月に行なわれたバリジャパでのトニー・ハービー戦以来、5ヵ月ぶりの試合となる五味。念願のUFC進出、ぜひとも観る者が「これが噂の!」と口に出してしまいそうな活躍を見せてほしい!

金　五味隆典のUFCデビュー戦となる3・31『UFN』が、日本の地上波で放送されるんじゃないかって噂されてるけど？

銀　うん。これは「UFCの日本進出をにらんだ市場調査的な意味合いがある」って報道もされてるね。

金　そもそも今回、五味が出場するUFNとUFCの違いっていうのはなんなの？

銀　単純にいうと有料と無料の違い。UFC本戦はPPVで、UFNはケーブルに契約している人は無料で視聴できる。だから、当然ランクはUFCのナンバーシリーズのほうが高いんだけど、UFNはUFCを広める宣伝の役割も兼ねてるわけ。だからUFNのメインなんかに、UFCのトップクラスのファイターが出てもおかしくはない、と。

金　なるほど。じゃあ、いきなりUFNのメインに出場する五味は、それだけズッファ側の期待も大きいってことだ。で、同じ大会には岡見勇信と宇野薫も出場するわけだけど、やっぱり日本人ファイターを並べたのは、日本進出に対する意味合いが強いんだろうね。

銀　おそらくそうだろうね。まぁ、完全に日本進出ありきの大会というよりは、「五味も参戦するし、この大会をそういうふうに使ってみるか」みたいなノリって気もするけど（笑）。

金　あ、そういう軽いノリ（笑）。

銀　でも、いまUFCが世界戦略を視野に入れてるのは確かだから。逆に言えば、さすがにアメリカ国内の成長は頭打ちになってきたとも言える。

金　選手も大会も増える一方だしね。

銀　ということは、さらに金を儲けるためには海外進出するしかないってことで。いま、ズッファが日本にかぎらず世界戦略にプライオリティを置いているのは、ここ最近の動きを見てもよくわかるよね。

金　いままでにもミルコ・クロコップをプッシュしてヨーロッパ進出をはかったり、韓国やフィリピン大会開催の噂もあったしね。で、今度は4月にアブダビで初開催することも決まっていて。

銀　ちなみに、いまのところ海外進出で最も成功してるのはイギリス。最初は大損だったみたいだけど、いまはマイケル・ビスピンやダン・ハーディーみたいな有力選手もどんどん出てきて、大会をやれば満員っていう状態になってる。あとはGSPの母国であるカナダも調子がいいね。UFCの最大観客動員数はカナダ大会で記録してるから。で、2・20『UFC110』オーストラリア大会もチケットは即日完売。だから、ズッファも次はアジアとイギリス以外のヨーロッパ諸国っていうふうに考えてるんだろうね。

金　凄いな〜。

銀　で、もともと日本は格闘技大国だったわけだし、その日本で活躍したファイターの多くもUFCに進出してるんだけど、いまはその格闘大国だった場所にUFCが進出するのが難しくなってるっていうか。

金　それはなんでなんだろう？

銀　そもそも、UFCが進出してるところはMMA＝UFCの地域なんだよね。たとえば、イギリスにはケージレイジがあったけど、それさえUFCは「そんなものは存在しない」って勢いで突っ切っちゃった。だから別の言い方をすれば、ほかの国はMMAや総合格闘技っていう競技名よりも、UFCっていうイベント名が先にくるんだよ。でも、日本の場合はUFCよりも総合格闘技っていう競技名のほうが大きいし、かつてはPRIDEっていう“世界最高峰のリング”があったから。

UFCが進出しているところは MMA＝UFCの地域なんだよ

金　つまりズッファもほかの国と同じように、「これが流行ってるんだぜ」っていう方法でUFCを打ち出すことが日本ではできないわけだね。まぁ、ブラジルなんかもそうなんだろうけど。

銀　ダナいわく「ブラジルはいままであんまり興味なかったけど、夏期オリンピックの開催が決まったからな」ってことだったから、少し前向きにとらえてるみたいだけどね。

金　なるほどね〜、そのへんはいろいろ計算してるというか、抜け目ないというか（笑）。

銀　だから整理すると、いまのUFCは海外進出に凄く重点を置いてる、と。当然、その中で日本進出も考えてる。ただ、日本は面倒くさいというか障害になる部分も少なからずあるから、「何がなんでもいますぐ進出する」っていうのは考えてないのが現状だろうね。

金　そうは言っても夏ぐらいには進出す

対談出席者

【金】
もともとは実話誌系をフィールドに活動していたが、気づいたらマット界に深く関わっていた四十路男。業界に強力な情報網を持つ事情通であり、地獄耳の異名をとる。ちなみに小田美代ではない。

【銀】
学生の頃からこの業界でキャリアを重ねてきたベテラン。英語が堪能なため、外国人選手の通訳を務めることもしばしば。1年に5回は取材をかねてアメリカやタイへ旅行。ちなみに小田美代ではない。

噂の真相

ダナは日本進出するとしたら凄いカードを組むつもりらしい

るんじゃないかっていう話もあるけど？

銀 それも「あらゆることがうまくいってたら、その可能性はないわけじゃない」ってくらいなんじゃないかな。

金 すいぶん低い可能性（笑）。

銀 UFCぐらい大きくなると、「こうなったらこうしよう」っていう動きを何パターンも考えてるんだよね。で、その中に「もしかしたら日本でやっちゃうかもね」っていうのが選択肢の一つとしてあるって話で。たとえば、去年のドイツ進出もそんな感じだったし。

金 ああ、あれもギリギリまで実現するかどうかっていう話だったみたいだね。

銀 やれないかもしれないけど、やれなかったらイギリスにしちゃおうみたいなスタンスでいたら、結局は実現したっていう。

金 でも、単純にUFCは日本でやるのに必要なコマは、充分揃ってるよね。

銀 だから、きっとUFCの中にも「日本は面倒だ」っていうのがありながら、「かつての日本の格闘技熱が復活すれば凄い市場になるぞ」っていう思惑はあるはずなんだよね。ただ、日本の市場が落ちてるっていうのはわかってるから、「いまのメンツで日本に進出したらどうなるんだ？」っていうのを知りたがってるっていうか。

金 その「日本は面倒だ」っていう理由の一つに、英語圏じゃないっていうのはあるんじゃない？

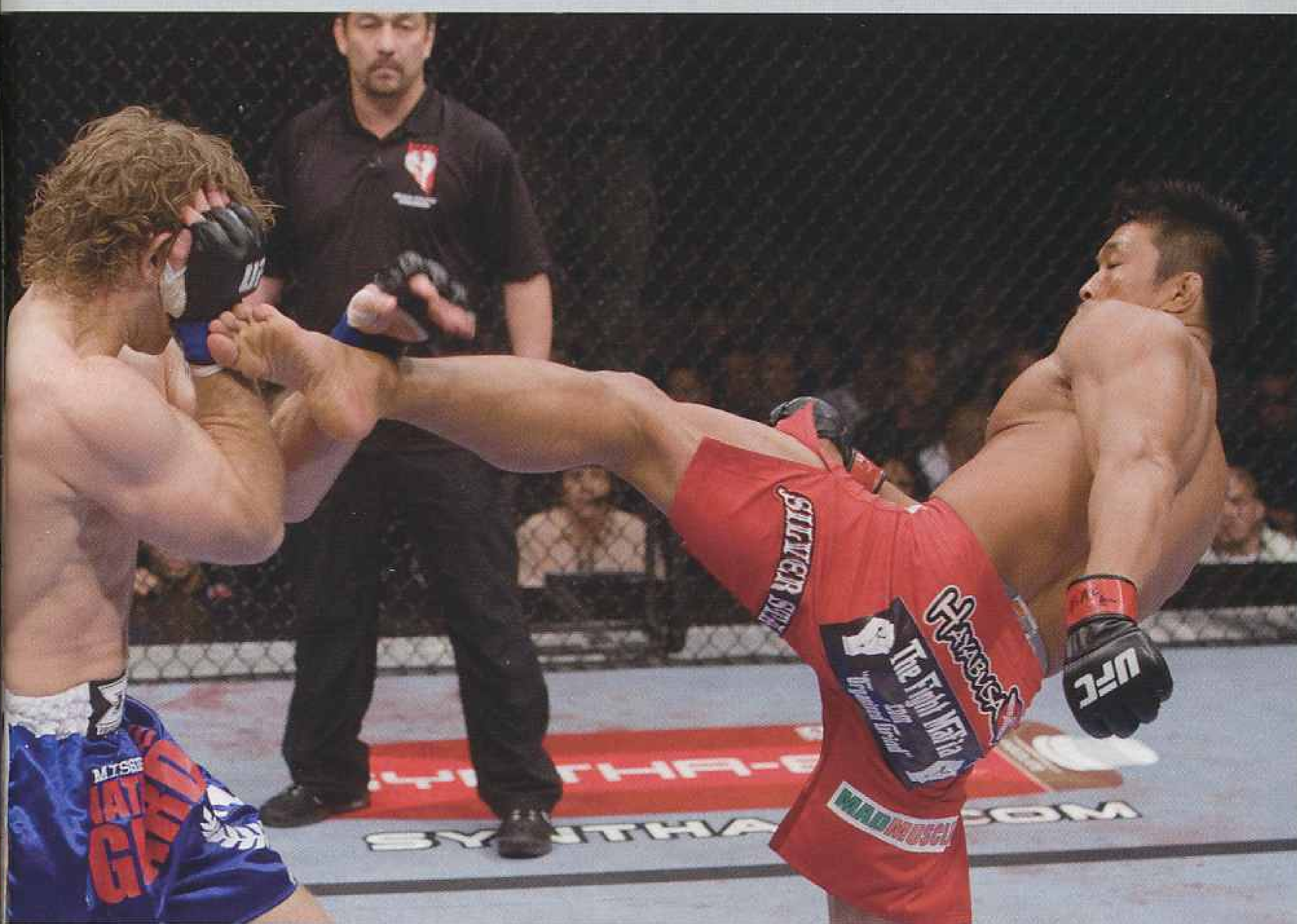
銀 あぁ、それは凄くあると思う。やっぱり地元の人間じゃなくても、アメリカ人とカナダ人じゃそんなに見た目とかも変わらないじゃん？（笑）。

金 確かに（笑）。

銀 格闘技にかぎらずスポーツっていうのは言葉がいらないエンターテインメントではあるけど、やっぱり発信する言葉が違うと、本腰入れて進出するのには難しい部分は出てくるだろうね。でも、日本進出を考えてなければ五味を取るってこともないと思うんだよ。噂レベルだけど、ちゃんと〝いい値段〟で契約したって聞くしね。

金 要は秋山成勲にしろ、海外戦略のためだけに取ってるわけじゃないけれど、その可能性も含まれてる、と。

銀 そうそう。でも、ほかの国でやった大会を見たらわかるけど、そもそも海外進出のためだけの選手と、その後もレギュラー契約するっていうのはそんなにないんだ



今回のオーストラリア大会でデミアン・マイア戦のオファーを断り、かつて日本でそうであったように「これぞ魔王!」というべき別格感をまき散らす秋山。UFCにとっては日本だけでなく韓国でも注目を集める貴重な人材だ!

よね。今回のオーストラリアだったらクリストファー・ヘイズマンやエルビス・シノシックなんかがご当地ファイターだけど、進出するために一回使うだけであって。そういう意味では日本人ファイターとは複数の試合契約が基本だから、それだけ日本には力を入れようとしてるのかもしれない。ただ、ダナは「アジアで重要だと考えているのは中国、韓国、そして日本だ」って言ってるんだよ。要は日本はアジアの中でも3番目っていう（笑）。

金 日本より韓国のほうがプライオリティが高いのは、ケーブルテレビでUFCを流してるからってことなんじゃないかな？ さっきの話じゃないけど、韓国ではMMA＝UFCになってるっていうか。まぁ、中国に関しては単純に人口が多いからってことなんだろうけど。

銀 実際、最近のUFCの会場には中国のマスコミも来てるからね。その中国マスコミってウエブサイトなんだけど「中国ならネットで一億人は観る」とか言ってるんだよ。さすがにそんなわけないだろって感じでダナも苦笑いしてたけど（笑）。

金 中国進出は面倒くさそうだな～。日本進出と同じくらい大変かもしれない（笑）。そういえばダナはよく日本進出に関して「毎回妨害がある」って言ってるけど、あれはどのことを言ってるのかね？ というか、ダナが一番いろんな団体の妨害してる（笑）。

銀 まぁ、なんにしろUFCは日本に進出したいことは進出したいんだよ。たとえば、年に2回くらい日本でできたら、大会を回していくのも凄く楽になるだろうから。だって本国のラスベガスは大会のやりすぎで、チケットが売れなくなってきてるって話だし。

金 そういう一面もあるんだね。たとえば日本進出の布石として、五味が出場するUFNをゴールデンタイムで流すって報道も一部であったけど、ありえるのかな？

銀 プライムタイムかもしれないけど、ありえると思うよ。逆に深夜でやっても、あまり意味がないとは思ってるかもしれない。ダナはもし進出するとしたら凄いカードを組むつもりみたいだよ。これは日本のファンにはうれしいことだけれど、日本の格闘技業界にとっては脅威になるよね。

金 ノゲイラvsブロック・レスナーとか実現したら凄いよな～。

銀 ホント、プロレス・スターウォーズのアメリカ軍が夢のカードがズラリで来ちゃうみたいなね（笑）。

金 それは観たい！

銀 たとえば、今回の初開催となったオーストラリア大会でも、ギャラが高いPRIDEファイターをズラッと揃えたでしょ？ やっぱり一発目は確実にインパクトを残そうってことだから。

WECのPPVが成功したら軽量級も本場はアメリカになるかも

金　なるほどね。普通のUFCファイターよりミルコやノゲイラ、ヴァンダレイのほうが知名度もあるしね。

銀　だから旧PRIDEファイターをインターナショナルマーケットの切り札として使おうって思惑はあるんだろうね。ドイツで初開催のときもヴァンダレイとミルコを投入したし。で、ヨーロッパ戦略のために、もう一度ミルコをDREAMから引っぱったりさ。そういう意味では五味や秋山と契約したのもアジア戦略の一環だよね。さらに日本進出するからにはレスナーをはじめ、本土のスーパースターをブチ込むことも考えてるよ、と。

金　凄いな〜、さすが勢いのあるところは。選手の説得でカード発表が遅れてる団体とは違う（笑）。

銀　ビジネスとしてわかりやすいよね。海外進出では一番いいものを投じて、一気に火をつけていくっていう。アブダビ大会でもタイトルマッチを二つ組むけど、そんなの本国でもなかなかやらないことだから。まぁ、ズッファの株を売却したアブダビ王子への向き合いっていう意味合いもあるんだろうけど（笑）。

金　なんかいまの話を聞いてると、日本とはスケールが違いすぎるね。パワー的には100対1どころか1000対1に思えてきた（笑）。だって、日本進出も「できたらいいね」くらいの話であって、それは小さな車輪なわけじゃない？　それが脱輪してもUFCがコケるわけじゃないし、ほかにも車輪がいくらでもあるわけで。

銀　やっぱり資金力があるのは「最初は損をしてもいい」っていうスタンスでいられるのが大きいよね。先行投資っていうか。

金　資金力もそうだし、発想とかの面でも日本との差がつきすぎた感じがするね。

銀　だからほかのビジネスと一緒なんだよ。国内の需要の頭打ちをある程度予測して、海外で稼ごうっていうような。で、UFCはまだまだ好調のときに海外進出して成功してる、と。



現在、WECで活躍している日本人ファイターといえば水垣偉弥。09年4月には初参戦ながら、ミゲール・トーレスとのバンタム級タイトルマッチに抜擢された。このほかにもWECには高谷裕之や前田吉朗らが参戦している。

金　確かに。PRIDEがそうだったけど、やっぱり本丸が好調じゃないときに海外に打って出るのはヤバいよね。本丸捨てて闘うっていうのは負け戦だよ。

銀　日本進出で具体的に言えば、武道館レベルの会場を集客できるんであれば、ダナも打って出てもいいって思ってるんじゃないかな。オーストラリアとかイギリスの会場規模もそのぐらいだから。それは日本人からすれば楽しみでもあり脅威でもあるんだけど。

金　脅威ってことでいえば、WECが4月24日の大会で初めてPPVに進出するっていうのも見逃せないよね。それが成功すれば、いまは日本で活躍している軽量級の選手たちもズッファのターゲットになってくるから。

銀　そうだね。いまは軽量級も日本の最後の聖域みたいなところがあるけど、そこも本場がアメリカになっちゃう恐れも出てくる。

金　だからWECのPPVの結果うんぬんで、けっこう日本マット界の情勢も変わってくると思うなぁ。

銀　WECはラテンマーケット開拓という意味合いもあるんだよね。UFCは白人のある程度お金を持ってる層をターゲットにしてるんだけど、セカンドブランドであるWECは、別の層を対象にしてチケット代やPPV代金もリーズナブルにすると言われている。

金　そうやって、大衆層も確保しようとしているんだ。

銀　それで軽量級がアメリカで金になり始めたら、一気に勝負しにいく可能性はあるよね。PRIDEが絶好調のときの初期の『武士道』っていうか、「まだそんなに儲かってないけど、いまのうちはいいや」みたいなさ。五味みたいのが出てくるのを待ってるというか。

金　ちなみにそのWECと同じ日に、ストライクフォースもやるって話もあるんだよね。

銀　WECはPPVやるわ、ストライクフォースは4大ネットワークのCBSで地上波放映が始まるわって、海の向こうでもの凄いことが起こってるんだよ。

金　ヤバいな〜、日本が単なる島国というか取り残されてる気がしてきた（笑）。

銀　さらにおもしろいのが、4月のWECの開催地がストライクフォースの本拠地に程近いサクラメントなんだよね。で、ストライクフォースはストライクフォースで、その日はズッファの本拠地であるラスベガスに乗り込んで開催を狙っているという（笑）。

金　でもあれは頭いいよ。WECの日程にぶつければ、UFCに裏番組をぶつけられて妨害されることもないし（笑）。あえて敵陣に飛び込むというか、台風の目の中が安全だっていうことだよね。そういうスケールの大きい駆け引きも含めて、日本は乗り遅れてるよね。

銀　「まだテレビが決まらないので大会スケジュールが出ません」みたいなレベルじゃまずいよ（笑）。

金　う〜ん、とにかくUFCが日本に進出したら、マット界にとんでもない大激震が起こりそうだな。

【10年2月某日／都内・某所にて収録】



3.31『UFN21』で
難敵ケニー・フロリアンと激突!

UFCでやれんのか?

2.6『UFC109』マンダレイベイ・イベントセンター

UFCの会場でファイター&関係者に

Takanori Gomi

について聞いてみました!

紆余曲折ありながらも3.31『UFN』でケニー・フロリアン相手にUFCデビューが決まった五味隆典。
PRIDE時代はライト級絶対王者として世界にその名を轟かせるも、ここ最近は思うような試合ができていないのも事実。
そこで今回『UFC109』が開催されたラスベガスの会場でファイター&関係者に現在のGOMIについて直撃してみました!

取材／堀江ガンツ　構成／阿修羅チョロ　試合写真　乾晋也　通訳&写真協力／AKA Fumihiko Ishii

ファイター&関係者が見たTakanori Gomi

Dan Henderson
ダン・ヘンダーソン
（ストライクフォース・ミドル級ファイター）



❶ゴミがライト級に参戦すれば、UFCの同階級がますます熱くなるだろうし、これまで以上に、いいマッチメイクが組めるんじゃないかな。オレはゴミのアグレッシブなファイトスタイルが大好きなので、ぜひ勝ち上がってBJペンに挑戦してほしいと思っている。PRIDEで実力を見せてくれたようにUFCでも成功すると信じてるよ。
❷ゴミのほうに勝機があると思う。ケニーはグラップリングだけでなくストライキングもいいものを持っているし、すべての面で穴がないファイターだけど、ゴミにはテイクダウンディフェンスや、遠くまで届くパワフルで素晴らしいストライキングがあるからね。それにゴミというファイターが経験豊富なオールラウンドなファイターということを忘れちゃいけないよ。

Renzo Gracie
ヘンゾ・グレイシー
（UFCウェルター級ファイター）

❶ゴミがUFCでデビューするって聞いたけど、とてもエキサイティングなことだね。彼は自分のスタイルをしっかりと持ってるし、タフなファイターで才能もたくさん持ち合わせてるからホントに楽しみなんだ。彼のスタイルはUFCにマッチすると思うし、絶対に成功するよ。
❷素晴らしい試合になるのは間違いないね!　ケニーは自分のジムに何度も来てて一緒にトレーニングをしたこともあるんだ。ゴミはとてもストロングだし、ケニーは凄いテクニシャンなので、いい試合展開になるんじゃないかな。ゴミがBJとのタイトル戦を視野に入れているのであれば、ケニーとの対戦はとてもよいスタートになると思う。ここ最近はあまりいい結果が出せていないみたいだけど、ゴミのようにファイターとして長いあいだ試合をしてたら、あるとき不振になるのはしょうがないことさ。まあ、ゴミがファイターとして以前の強い気持ちを取り戻すことができたらUFCでも絶対にいい結果を残せるはずだよ。いまから試合を観るのが待ち遠しいね。



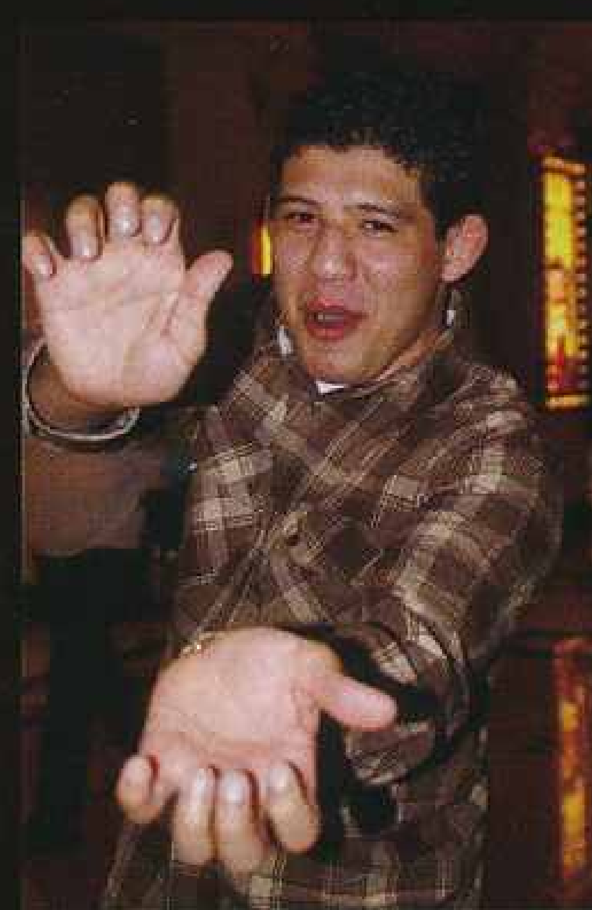
Urijah Faber
ユライア・フェイバー
（WECフェザー級ファイター）

❶ついにゴミがUFCと契約したんだ?　それはナイス!　ゴミなら間違いなく成功するよ。ゴミのファイトスタイルはまさにアメリカのファンが求めているものだからね。それにハードパンチャーで打たれ強いアゴを持っているし、レスリングも優れていて、どんな状態でも対応できるスキルがある、とてもエキサイティングなトータルファイターだと思ってるんだ。
❷スタンドでのパンチングの攻防になればゴミのほうがハードパンチャーだから優位に試合を運べると思うけど、ケニーはとてもテクニカルだからね。どっちが勝つかというのはわからないけど、かなりの接戦になることは間違いないだろうね。



Gilbert Melendez
ギルバート・メレンデス
（ストライクフォース・ライト級チャンピオン）

❶ゴミはUFCにかぎらず、PRIDEで実証しているとおり、どこのプロモーションでも成功する可能性を秘めているファイターだよ。問題はどれだけハードなトレーニングに耐え、心の底から成功したいっていうモチベーションを持てるかどうかだろうね。ボク自身はゴミがUFCで成功することを楽しみにしているし、またどのように成功するのかを見てみたいんだ。
❷お互いにとってタフなマッチアップになったけど、ゴミに有利のように思うんだ。なぜかというとゴミのほうがストロンガーだし、重いパンチを持ってるし、落ち着いて試合を運べるスマートなファイターだからね。テイクダウンから爆弾のようなパウンドを落として試合が終わる可能性もあるんじゃないかな。とにかくゴミがデビュー戦に向けて準備がしっかりとできていれば、仮に本来の93パーセント程度の仕上がりでもケニーを破壊できると思うよ。ただし、充分な準備ができていない場合は、ここ数試合のような内容になってしまうだろうし、ケニーにKOされてしまう可能性もあると思う。自分の試合について?　周りがアオキとの対戦を騒いでくれているけど、それが本当であると信じたいし、実現したら最高さ。アオキは対戦者として最高のファイターだし、自分自身のレベルを証明するためにも世界でトップ3と言われているアオキと試合できたら光栄だし、その夢を実現させたいね。ストライクフォースでもDREAMでもボクはかまわない。このカードが実現することを祈っているんだ。



Eddie Bravo
エディ・ブラボー
（10th Planet柔術主宰、弁護士&ミュージシャン）



❶オレはゴミの大ファンの一人としてUFCで成功することを祈ってるよ。あの強いハートで、いつもエキサイティングなファイトで我々を魅了してくれたファイターだからね。
❷えっ、UFCデビュー戦の相手がケニーなの?　それはいくらゴミといえどもタフなデビュー戦となってしまったね。試合予想は非常に難しいけど、エキサイティングなファイトになることだけは間違いないよ。まあ、どっちが勝つかはフィフティ・フィフティだね。ちょうどコインの裏表で勝敗を決めるようなもんだよ。ケニーとのスタンド勝負は危険なので、ゴミが勝つにはテイクダウンしてトップのポジションでコントロールすることが大事だろうね。ケニーのスタンド技術はホントに素晴らしいんだけど、ゴミもビッグショットを持っているから何が起こってもおかしくないよ。いずれにしても、勝敗のカギはゴミがケニーからテイクダウンを取ることだと思うね。

Phil Baroni
フィル・バローニ
（UFCウェルター級ファイター）



❶PRIDEと『武士道』で活躍してたファイターはゴミにかぎらずUFCでも成功するチャンスは高いんだよ。インターネットのサイトとかでは「UFCはゴミを過大評価している」って書いてあったり、UFCと契約したことを快く思ってないヤツらもいるけど、そいつらを黙らせるためにもベストのパフォーマンスを見せてくれることを楽しみにしているよ。
❷ケニーとの試合はベリータフでグッドファイトになるだろうね。ケニーはゴミが対戦したことのある選手の中だとルイス・アゼレードに近いタイプだと思う。でも、ゴミはアゼレードに2回勝ってるから、ケニーにも勝つチャンスは大きいと思うよ。

❶五味隆典はUFCで成功すると思いますか?　❷五味vsフロリアン戦はどう予想しますか?

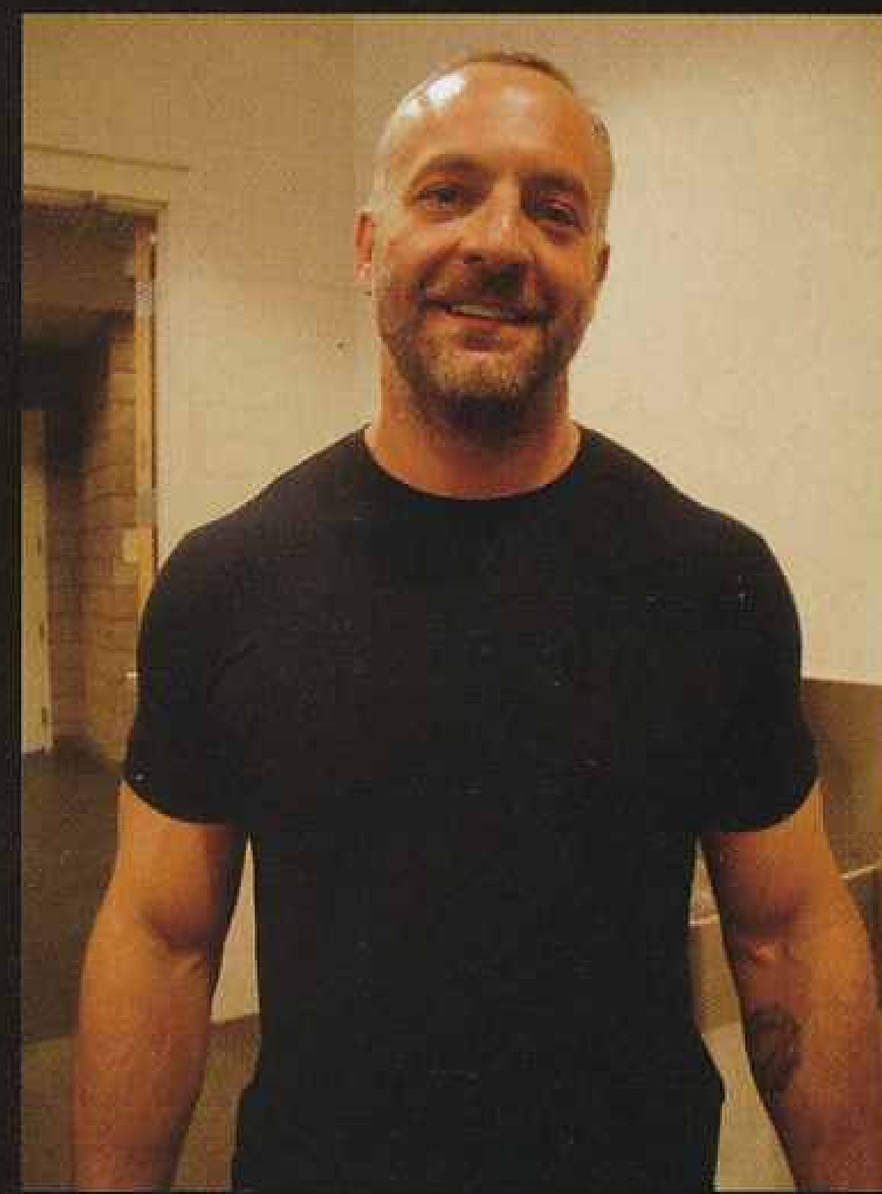
Jose Aldo
ジョゼ・アルド
（WECフェザー級チャンピオン）

❶成功するも失敗するも、すべてはゴミ次第だろうね。PRIDEのときのゴミであれば間違いなく成功すると思うよ。
❷UFCデビュー戦がケニーとなんて凄いタフな試合だよね。でも、ゴミはグレートファイターだから、ちゃんと試合に向け充実したトレーニングをしてくればケニーにも勝つチャンスはいくらでもあるよ。



Lorenzo Fertitta
ロレンゾ・フェティータ
（UFCオーナー）

❶ゴミと契約するまでに長い時間がかかったから、やっと契約がまとまって本当にうれしく思っているんだ。ゴミのことはPRIDE以前からのファンで、ほとんどの試合をビデオで観ているし、大のお気に入りファイターの一人だからね。なんといってもアグレッシブでタフなファイトスタイルが魅力的で大好きなんだよ。私は間違いなくゴミはUFCで成功すると思っているし、そうなると信じてるんだ。私だけではなく、アメリカのファンはファイターの国籍やどこから来ているかなんて、まったく気にしていない。オクタゴンでハードでタフでエキサイティングなファイトを見せてくれるファイターが大好きなだけさ。ゴミのファイトスタイルは間違いなくアメリカのファンに受け入れられると思うよ。ヴァンダレイがいい例だよ。彼は凄い人気者だし、みんなに愛されてるからね。
❷なぜ、デビュー戦がケニーになったかって？　ゴミはそのレベルにいるということだよ。彼は世界でベストのファイターたちと試合をしてきて、1位に君臨していた男だよ。UFCに来るならベストのファイターたちと試合をしなくては意味がないし、ケニーとの試合はベストマッチアップだと考えているんだ。レベルの低いファイターとのカードを組んだらゴミに失礼だし、その実力をリスペクトしているからこそUFCを代表するケニー・フロリアンとのカードになったんだよ。ケニーとの試合はとてもエキサイティングになると思うし、結果はともかく、ゴミには自分のレベルをアメリカのファンの前でも証明してほしいね。



Matt Lindland
マット・リンドランド
（ストライクフォース・ミドル級ファイター）



❶彼はグレートファイターだから、UFCでも成功することを祈ってるよ。PRIDEがなくなったいま、アメリカに来てエキサイティングな試合をみんなに見せてもらいたいし、PRIDEでの実績を証明してくれるとオレは信じている。
❷最初の相手がケニーなんて、それは本当にタフなデビュー戦となってしまったね。ケニーは少し前にBJペンのタイトルにも挑戦した実力のあるファイターで、結果は残念だったけど復帰戦になったグイダ戦で、その強さを証明しているからね。ただ、BJは完全に違ったレベルに存在してるファイターだから、BJ戦でのケニーは参考にならないと思う（笑）。いまでもタイトルコンテンダーの一人と言えるケニーとの試合は厳しいものになるだろうね。同時にゴミが勝てば一気にタイトルコンテンダーの仲間入りということも言えるだろうから、よいチャンスなのかもしれないけどね。
　ゴミが勝つには強いハートで、アグレッシブに攻め続けること。強いパンチを出しながらプレッシャーをかけ、テイクダウンを狙っていくこと。テイクダウンできたら上のポジションをキープし、ケニーのサブミッションに付き合わずグラウンド&パウンドで仕留める。それこそがゴミのベストのファイトスタイルじゃないのかい？

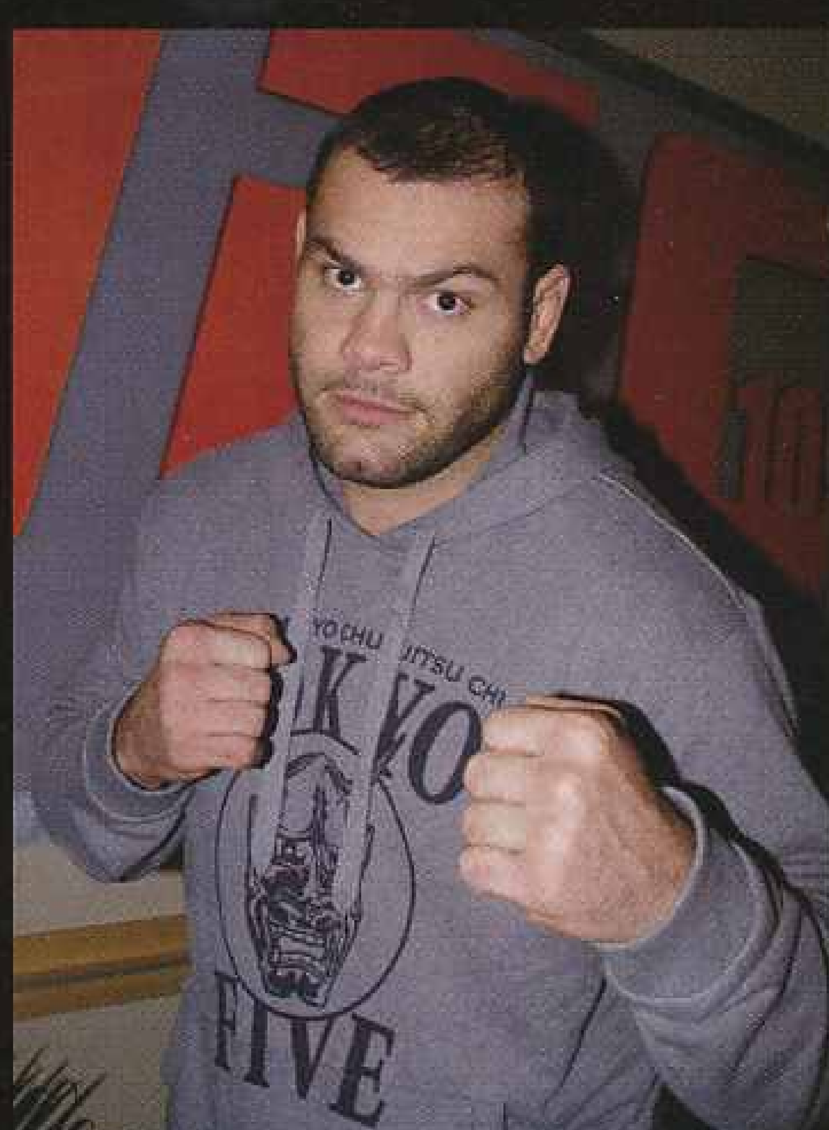
Tyson Griffin
タイソン・グリフィン
（UFCライト級ファイター）

❶ゴミは素晴らしいスキルを持っているからね。ストライキング、レスリングとオールラウンドのファイターで経験も豊富だし間違いなく成功すると思うよ。UFCにとっても大切な資産になりえるんじゃないかな。
❷ゴミはパワーのあるストライキングを打ち込めるし、レスリングのテクニックもケニーに比べて勝っていると思うので、ゴミが勝つ可能性はかなり高いと思う。二人の試合を観るのがいまから待ち遠しいよ。



Gabriel Gonzaga
ガブリエル・ゴンザガ
（UFCヘビー級ファイター）

❶ゴミはパワーパンチを繰り出すボクシングスタイルを持ったエキサイティングで、同時にちょっとファニーなところもあるライト級最高のファイターの一人だね。UFCでも間違いなくハイレベルの闘いを見せてくれるだろうね。ただし、BJペンはもっとハイレベルにいるだろうから、ゴミがどこまで彼に近づけるかが楽しみだよ。
❷ケニーにとってはタイトルに再挑戦するためにも絶対に落とせないカードなので、デビュー戦を飾りたいゴミとはエキサイティングな試合になることは間違いないよ。ゴミの課題はこの試合のためにどのようなトレーニングができているかだろうね。もし昔のゴミのスタイルに戻っているならば充分にケニーに勝つチャンスはあると思う。

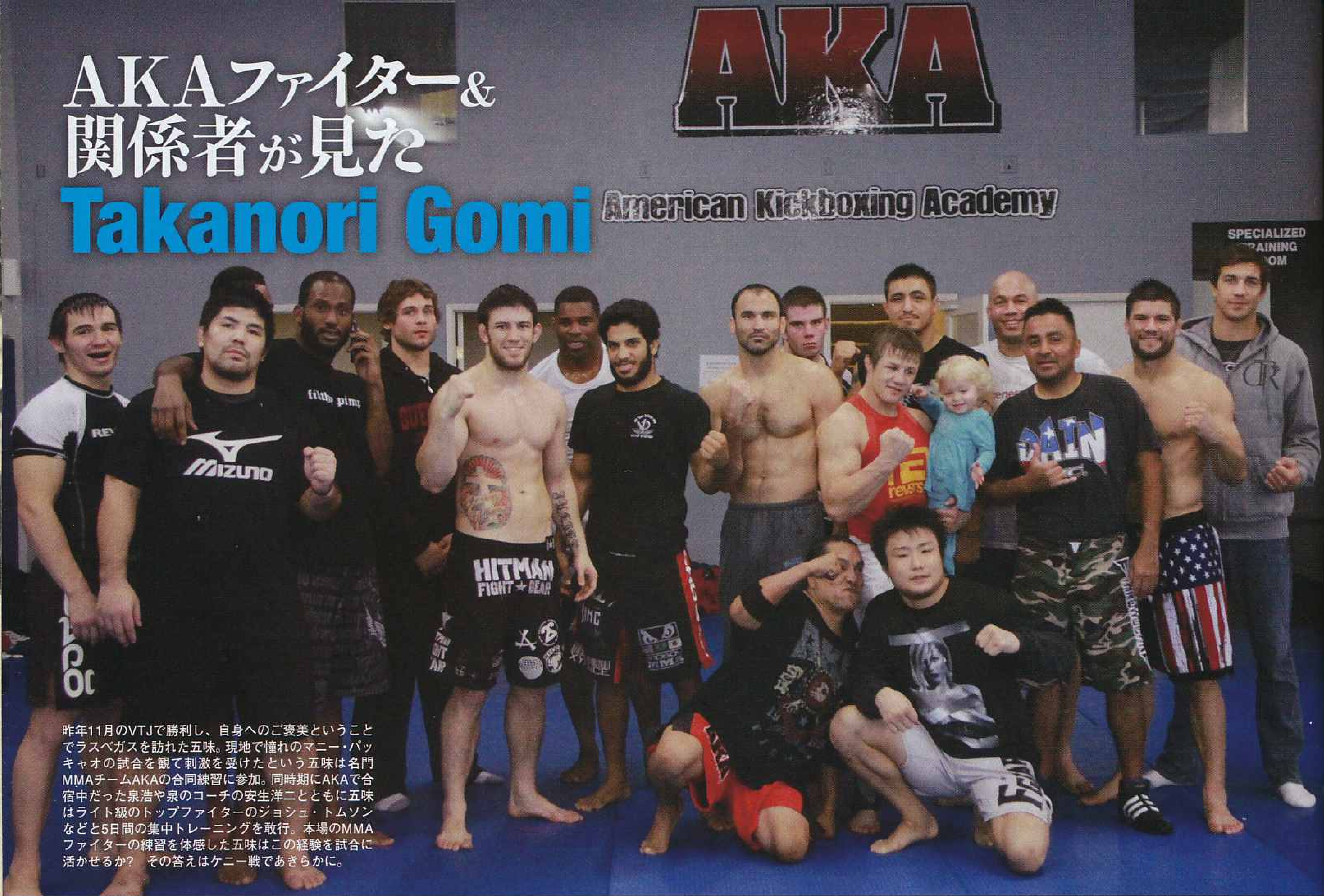


Rafael Cordeiro
ハファエル・コルデイロ
（元シュートボクセ・トレーナー）

❶ゴミはUFCでも成功すると思うよ。彼は日本人の心を持っていて、絶対に試合をあきらめないファイターだし、いままでに世界のトップクラスと対戦してそれを証明してきたからね。強い精神と肉体を持ってオクタゴンに入ったら間違いなく成功するはずさ。私もシュートボクセ時代は彼を倒すために何人ものベストファイターを送り込んだけど、結局倒すことはできなかったからね（笑）。
❷今度の試合でゴミが勝つには、PRIDE当時の頃の精神面に戻って、最高のコンディショニングを取り戻すことが重要だろうね。それができたら同じ階級のファイターたち全員を倒すことができるんじゃないかな。とくに彼の右のパンチは一階級上のクラスのパワーを持ってるんだよ。その一発が入ればケニーだけでなく、対戦相手は驚く間もなく倒れてしまうだろうね。



AKAファイター&関係者が見た Takanori Gomi



昨年11月のVTJで勝利し、自身へのご褒美ということでラスベガスを訪れた五味。現地で憧れのマニー・パッキャオの試合を観て刺激を受けたという五味は名門MMAチームAKAの合同練習に参加。同時期にAKAで合宿中だった泉浩や泉のコーチの安生洋二とともに五味はライト級のトップファイターのジョシュ・トムソンなどと5日間の集中トレーニングを敢行。本場のMMAファイターの練習を体感した五味はこの経験を試合に活かせるか？　その答えはケニー戦であきらかに。

Bob Cook
ボブ・クック
（AKA MMAヘッドコーチ／元UFCファイター）

❶成功できると信じているよ。UFCに出ることでモチベーションはあるだろうし、ハードトレーニングをして、いいコンディションができれば問題なく成功できると思う。

❷ケニーが相手というのはゴミにとって、とてもよいチャレンジになると思う。ゴミはきちんとトレーニングを積んでくればケニーとの対戦に備えられるだろうが、ケニーがゴミのパワーに勝てる準備ができるかが疑問だからね。そういう意味では、ゴミが勝つとしたら“パワーパンチング”になると思うよ。もしゴミのトレーナーをやったらどういう戦略を立てるかって？　コンディショニング、コンディショニング、コンディショニング！　とにかくコンディショニングだね（笑）。ゴミみたいなパワーパンチを放つと相当のエネルギーが消費されるから、パワーパンチでゲームをコントロールするためにも、コンディショニングが最も重要な要素となるんだよ。3ラウンドをフルパワーでパワーパンチを放てるコンディショニングで試合に挑むことが一番大切だと思うよ。



Huitzi
ウイッツィー
（AKA MMAボクシングコーチ）



❶ゴミが11月にAKAにトレーニングに来たときにミットを持ったんだけど、素晴らしいパワーを持っている、とてもスマートなファイターという印象を持ったんだ。あのパワーをもっとうまく使いこなせるようになったら間違いなくUFCのトップを狙えるし、成功すると思うよ。

❷ゴミはAKAに来たときはコンディショニングができてなかったけど、どのようなメニューで試合の準備をしているかも、試合のカギを握ると思う。試合はゴミのパワーがどう炸裂するかによるだろうけど、間違いなくエキサイティングな試合になるだろうから、いまから試合を観るのが楽しみだね。

David Camarillo
デビッド・カマリロ
（AKAグラップリングコーチ、柔道／柔術黒帯）

❶ゴミの話をする前に日本のファンのために私の友人でもあるケニー・フロリアンとはどういうファイターなのか説明しておこう。最初に断っておくけど、ケニーのことを知るには、まずBJペン戦での敗北は忘れないといけない。BJはMMA史上ライト級最強のファイターでまったく別のカテゴリーにいる存在だからね（笑）。ホントのケニーが知りたいなら、BJ戦以外、ショーン・シャーク戦から先日のクレイ・グイダ戦までの約10試合を観てほしい。レスリング、スタンド、グラップリングなど、ケニーはいろんなタイプのファイターと対戦してるのに試合のたびに内容がよくなってきてるのがわかるはずだよ。そういうファイターというのは誰と対戦しても非常に危険であるということが言えるんだよ。もちろん、ケニー同様、ゴミが危険なファイターということもよく知ってるよ。ゴミのパワーはスタンドだけじゃなくグラウンドでも、どのポジションになっても脅威だと思う。11月にゴミがAKAに来たときは試合をするようなコンディションじゃなかったけど、“モンスター・ゴミ”はケニーとの試合のときに現われるんじゃないかな。ファイトシェープのときにね（笑）。そういった状況を取り戻せたら、ゴミはUFCでも必ず成功すると思うよ。ただし、デビュー戦にかぎっては、ケニーが相手なので“成功”や“失敗”ということをどのように定義するかだろうけどね。

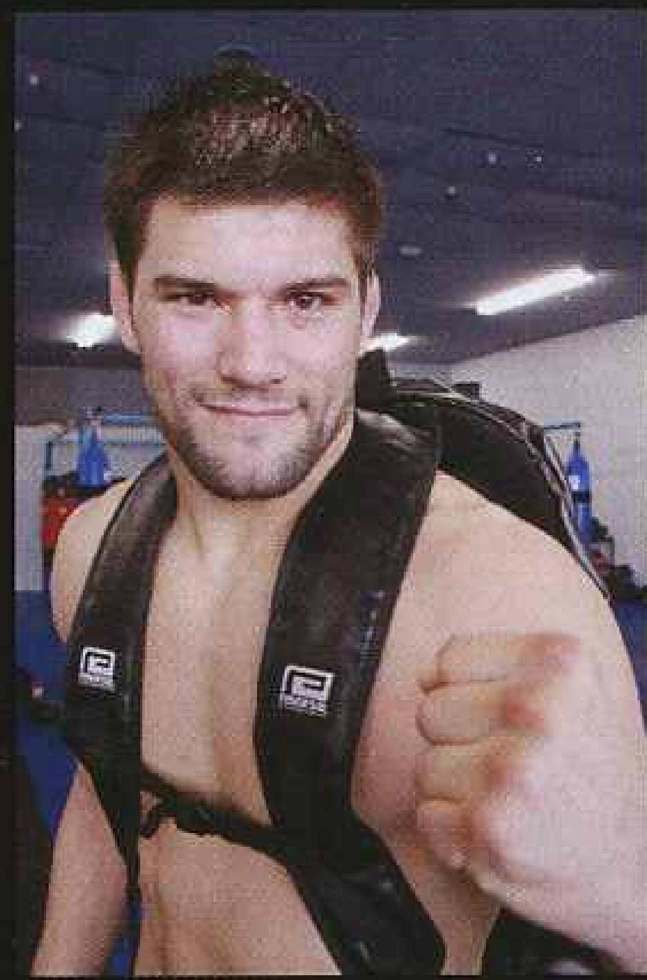
❷“パワー”のモンスター・ゴミと“テクニック”のモンスターのケニーがスタンドでもグラウンドでもお互いの持ち味を出した試合展開になると思う。ゴミがPRIDE当時以上の気持ちでこの試合に臨んできたら本当にエキサイティングでファンを熱狂させる試合になるだろうね。ゴミが勝つにはパワーを使って常にプレッシャーをかけ、彼が持つハンドスキルをタイミングよく使うことができれば、パンチでケニーをマットに沈める可能性は高いだろう。そのためにはゴミにとって試合を見据えたトレーニングキャンプは必要だと思うよ。とくにグラウンドを重点にトレーニングすることだね。



❶五味隆典はUFCで成功すると思いますか？　❷五味vsフロリアン戦はどう予想しますか？

Josh Thomson
ジョシュ・トムソン
（AKA所属 ストライクフォース・ライト級ファイター）

❶ゴミが成功するためにもトレーニングのメニューを見直して少しだけ変えることを進めるね。いまのUFCではレスリングをバックグラウンドに持ったストレートパンチャーというだけでは通用しないので、もっとオールラウンドなファイターになるトレーニングが必要だと思う。UFCやストライクフォースのファイターはみんなグラウンドゲームに優れているし、グラウンドでサブミッションを極められないようにするためにもグラウンドのトレーニングを積むことを避けちゃダメだよ。ただ、問題は日本にそのレベルでのグラップリングのスキルを持った練習パートナーがいるかどうかだろうね。ゴミとは去年11月にAKAで一緒に練習するチャンスがあって、スタンドやグラウンドでもトップにいるかぎりはゲームを支配できているんだけど、いったんボトムになったら逆にコントロールされてしまいサブミッションで極められてしまうという流れになってしまうんだ。それを修正するためにもトップレベルの柔術のパートナーやコーチを持つことが絶対に必要となってくると思う。



❷もしケニーがグラウンドでトップを取れば勝つだろうし、スタンドであれば同等のレベルだと思うので、どちらがハードパンチを打ち込めるかにかかってくるだろうね。ゴミが勝つには常にスタンドで追い込み続け、ケニーのパンチや技を封じるようにすることだね。BJペンが見せてくれた闘い方がベストだと思う。プレッシャーをかけ続けケニーのミスパンチに合わせたカウンターのビッグパンチで仕留めるのという流れになると思う。逆にケニーが勝つにはBJペン戦の敗戦から学んだことをどこまで修正してこれるかにかかってるだろうね。

Josh Koscheck
ジョシュ・コスチェック
（AKA所属 UFCウェルター級ファイター）

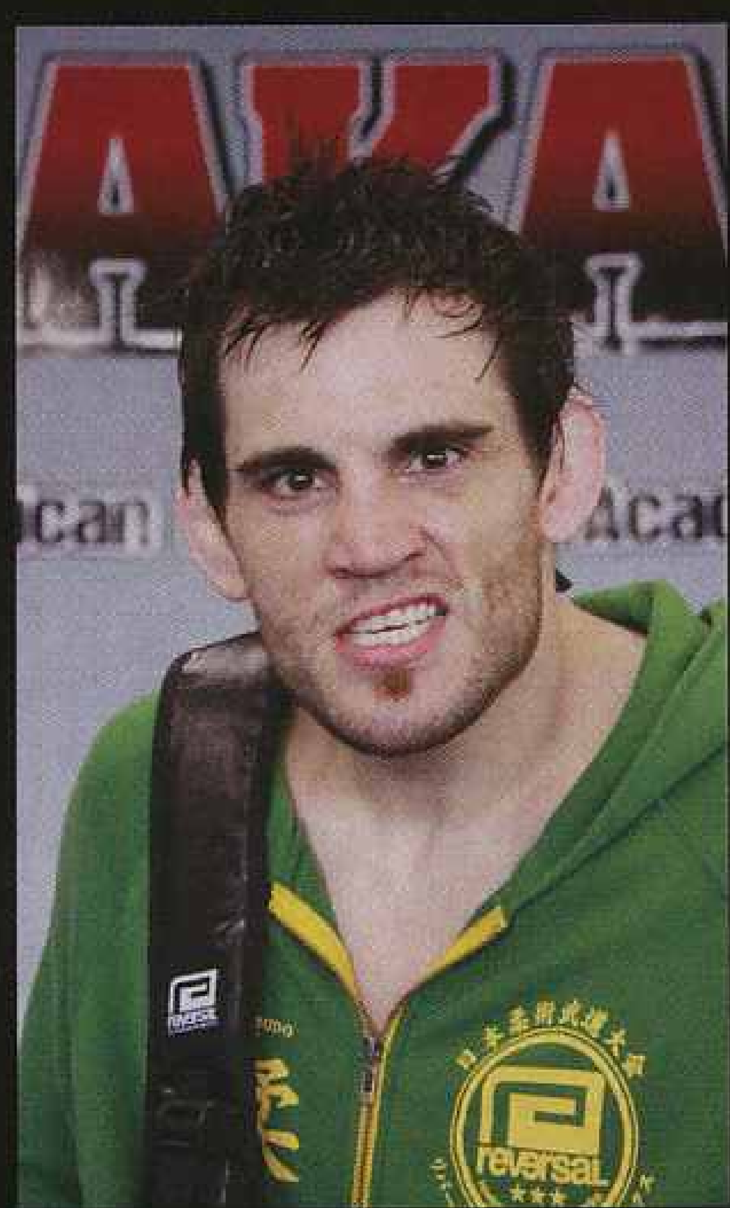
❶何？　ゴミがUFCでセッ◯スできるかって？　あ〜、セッ◯スじゃなくてサクセスね。おまえら、またアホなことを聞いてきたんじゃないかってビックリしたよ（笑）。ゴミがAKAに来たときチームメイトのジャスティン・ウィルコックスとのスパーをちょっとだけ見たけど、とくにスタンドでのプレッシャーのかけ方には素晴らしいものがあったね。もちろん、UFCでも成功できるとオレは思うよ。



❷ケニー・フロリアンが相手なんて"ノー・ジョーク、ゴミにとっては厳しいUFCデビュー戦となってしまったね。まあ、とにかくどんな試合になるか楽しみにしてようぜ！

Jon Fitch
ジョン・フィッチ
（AKA所属 UFCウェルター級ファイター）

❶もちろん成功すると信じてるよ。AKAに来て一緒に練習したときは試合をできるようなコンディションじゃなかったけど、彼はスクラッピー（けんか腰）なファイターで素晴らしい才能があり、ハードパンチャーで打たれ強いアゴを持っているからね。彼が来ることによってUFCのライト級の層も厚くなるし、試合を観るのを楽しみにしているんだ。



❷UFCはゴミに簡単な道のりを与えてくれないね（苦笑）。ゴミは強いパンチとハートを持ってるけど、ケニーもスーパーなテクニックを持ったファイターだからね。まあでも、ゴミにとっては今後、再戦となるBJペンとのタイトル挑戦を目指すうえでレベルを見きわめるためにもケニーと対戦することはいいテストとなるだろうね。予想なんてできないけど、とにかく試合を観るのがいまから楽しみだよ。

Christian Wellisch
クリスチャン・ウェリッシュ
（AKA所属 元UFCヘビー&ライトヘビー級ファイター、弁護士）

❶ゴミの持っているファイターとしての才能を考えたら間違いなく成功すると思うよ。UFCにとってもライト級の層が厚くなって、よりエキサイティングなカードが組みやすくなったと言えるだろうね。数試合後にタイトルへ挑戦できるような活躍を期待しているよ。昨年、AKAに来てくれたときにトレーニングする姿を見てるんで、いつも以上に彼の試合を観るのを楽しみにしてるんだ。



❷相手のケニーは強豪だけど、ゴミにとっては今回の試合はアメリカの市場で自分自身を証明するチャンスだから、いい試合をしてくれると思うよ。勝敗の行方は過去にPRIDEで見せてくれた"ファイアーボール"のゴミか、ここ2〜3年のゴミなのか、どっちのゴミを見せてくれるかにかかっているだろうね。

Mike Swick
マイク・スウィック
（AKA所属 UFCウェルター級ファイター）

❶ゴミがUFCで成功するのは明確なことだよ。彼は素晴らしい才能を持ったファイターで、大好きなファイターの一人なんだ。彼の試合を観られることをいまからとても楽しみにしているしね。

❷ケニー・フロリアン戦というのはゴミにとって間違いなくタフすぎるテストだよね。ケニーはオールラウンドなテクニシャンで、ゴミはハードヒッターだから、お互いの持ち味をどう活かせるかが試合のカギになるだろうね。ゴミにとっては持っている才能を証明すると同時にUFCでどのレベルなのかを確認することになるだろうから、非常にエキサイティングな試合が期待できると思うよ。



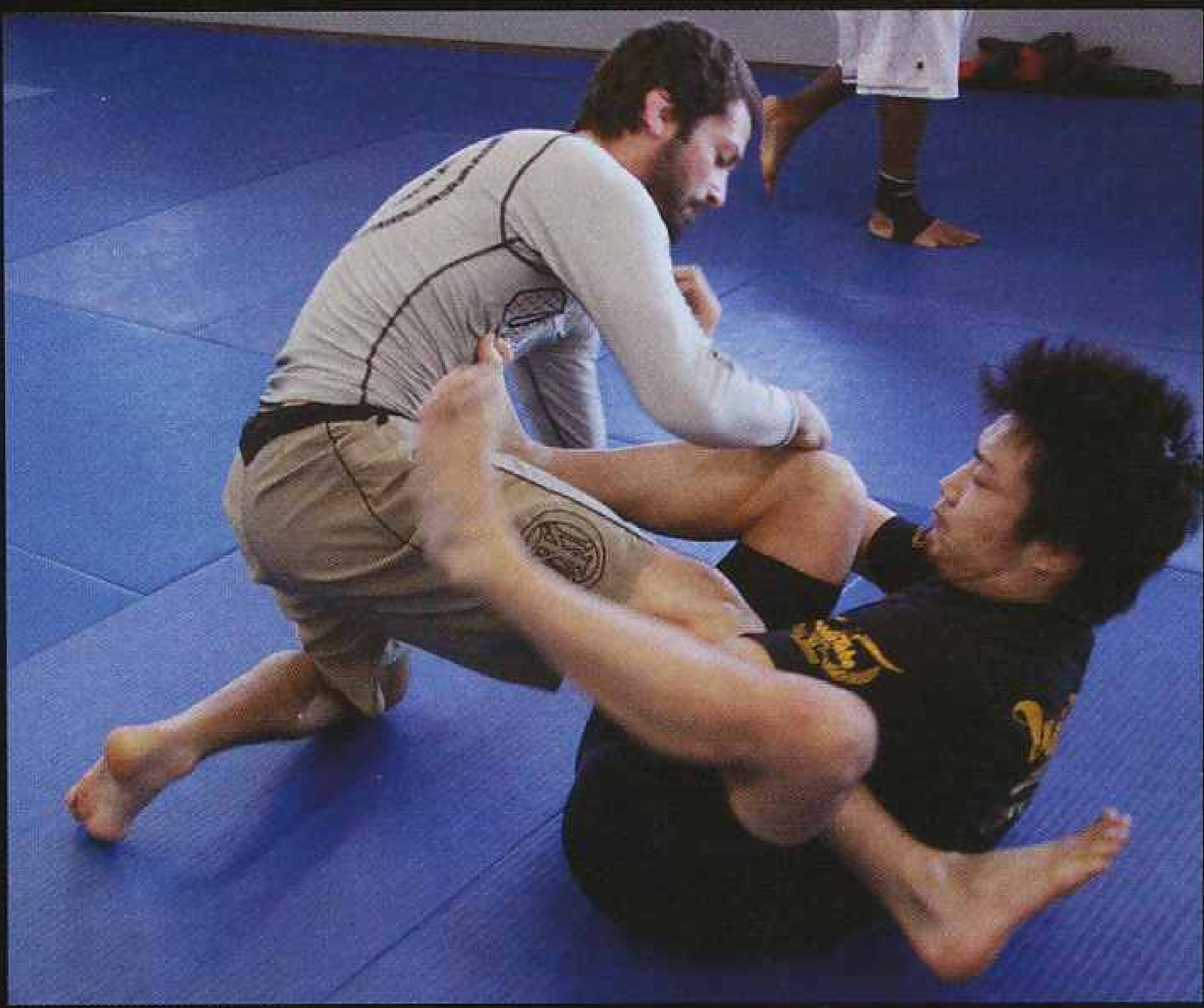
Justin Wilcox
ジャスティン・ウィルコックス
（AKA所属 ストライクフォース・ライト級ファイター）

❶もちろん成功すると思うよ！　ゴミはレスリングのバッググラウンドを持っていて、タフだからね。"グラインダー（潰し屋）"っていう言葉が似合うファイターだと思う。彼は自分と同じレスリング出身だから、大好きだし応援もしているんだ。レスラーはどんな状況になろうとも勝利への道を見つけ出すんだよ。ゴミは間違いなくUFCで成功するための道を見つけられるはずだよ。このあいだAKAに来たとき一緒に練習もしたけど、常に相手にプレッシャーかけ続けるのは、まさに"ファイアーボール・キッド"そのものだと感じたよ（笑）。オールラウンドで、とくにスタンドのテクニックが素晴らしく、グッドレスラーであるという印象が強かったね。



❷UFCの デビュー戦としてはケニーという相手はとてもよい選択だと思う。いままでのケニーの試合を見ると、対レスラーはよいところが出せないケースが多いように感じるんだ。UFCに多くのハイクオリティなトップレスラーもいるからね。たとえばフランク・エドガーやグレイ・メイナードなんかとやったら、ゴミは苦戦するんじゃないかな。おそらくショーン・シャークなんかも手強い相手になると思う。ケニーもトップファイターではあるけど、しいて言えばレスラーを苦手にしているところもあると感じるので、ゴミが勝つにはレスリングのバッググラウンドを有効に使ってペースを作っていくことが重要になると思う。スタンドからテイクダウンし、ヘビーハンドでパウンドを打ち込み体力を消耗させていくという流れが有効になるんじゃないかな。ケニーとしてはテイクダウンを取られないこと、また距離をうまく取り、絶対にゴミの射程距離に入らないことがカギになるだろうね。ゴミは素晴らしい経験を持ったオールラウンドのファイターだからね、ゴミが勝つと予想するよ。

アメリカMMAメディアが見たTakanori Gomi

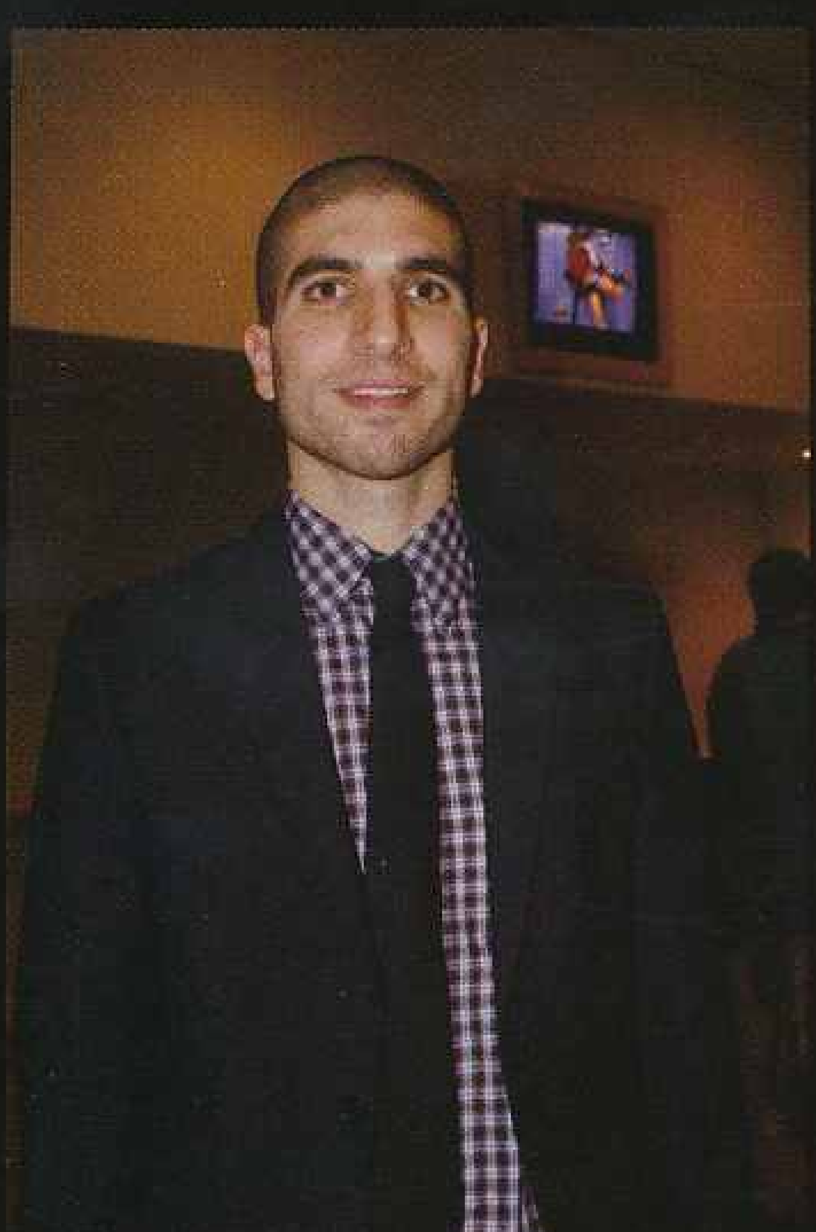


Ariel Helwani

アリエル・ヘルワニ記者
（MMA Fan House）

❶いままでPRIDEのトップファイターたちはUFCでいい結果を残してないのが現実だよね。ゴミはPRIDEで活躍したあと『戦極』で内容の悪い敗戦が続いたりとキャリアの分岐点にきているところだと思うんだ。いまのゴミがPRIDEの頃と同じゴミなのかどうかも疑問だし、またUFCのデビュー戦の相手としてケニー・フロリアンがベストなのかどうかもね。ケニーは一番最近の試合では素晴らしい内容でグイダに勝っているし、スタンド、グラウンドとどれをとっても素晴らしかった。それにケージで試合することにも慣れている。ゴミはデビュー戦で初めてのケージになるわけだし、成功というのが勝敗だとすると、ケニーとの試合は相当タフなものとなるだろうね。ケニーはどういう選手かって？　ケニーのことを知りたければ絶対にBJペンとの試合を観てはいけないよ。あれは本来のケニーの姿ではなかったと思う。もちろん、BJペンのレベルが飛び抜けているという事実もあるけど、おそらく初めてのタイトル挑戦でナーバスになっていただろうし、ゲームプランも最悪だった。試合の途中でそのゲームプランが間違っているって気がついても、それを変えられなかったんだよ。なので、本当のケニーを知りたいならジョー・ローゾン、ジョー・スティーブンソン、クレイ・グイダらとの試合を観ればケニーの"フィニッシャー"としての極めの強さを見ることができるはずだよ。ケニーは勝った試合のほとんどがサブミッションでの一本勝ちという、とにかく極めの強いファイターなんだ。

❷ケニーはグイダとの試合でストライキングができることを証明しただろう？　おそらくリーチもゴミよりも長いと思うんだ。グラウンドではケニーのテクニックが勝るだろうから、ゴミは足を使って自分の距離を取りながらアグレッシブにスタンドでの攻撃を仕掛けていく必要があると思う。ケージが初めてだということも含めて、とにかく昔のゴミのように自信を持って試合に挑むことが大切だと思う。UFCデビュー戦の相手がケニーになったということはゴミにとってはケージに慣れてないということからも正しい選択だと思うよ。というのは、ケニーはタフだけど、勝てば一気にタイトル挑戦のコンテンダーの一人となるわけだからね。それにゴミがUFCに参戦するのにランキングの低いファイターと試合したって意味がないだろう？　仮にゴミが負けたとしてもUFCでランキング2位のケニーが相手ということで勝敗よりもその内容自体が評価されると思うしね。問題は、もし日本のファンがケニーの実力を知らないのであれば、敗れることによって「ゴミは終わってしまった」と思われてしまうことかな。まあ、それぐらいケニーは素晴らしいファイターだってことだよ。



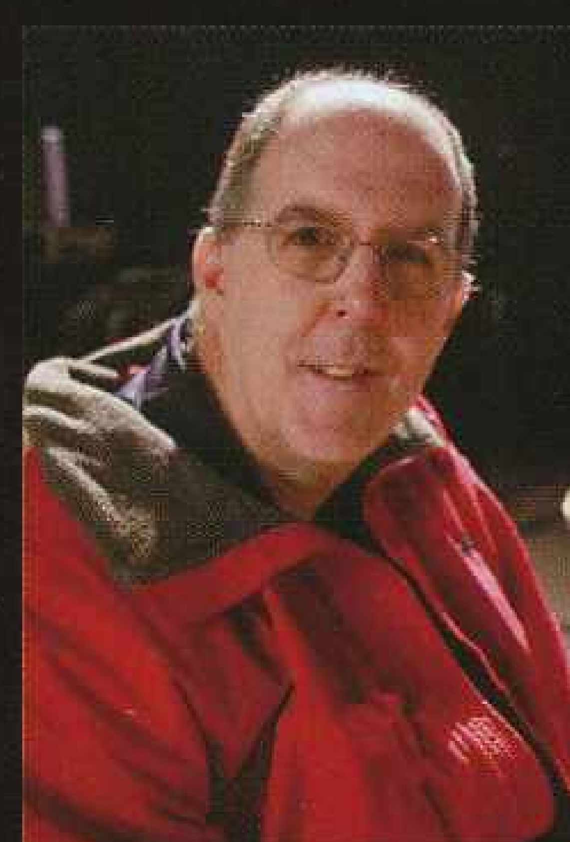
kevin Lole

ケビン・ロール記者
（Yahoo! Sports）

❶ゴミはヴァンダレイと同じような状況だと思うんだ。パワーファイターで、世界最強を相手にタフな試合を数多くこなしてきた。PRIDEという当時、世界最大の舞台で"ファイアーボール"という愛称で日本のファンのアイコンとなっていたし、その期待とプレッシャーの中で結果を残してきた。今回はもしかすると彼のキャリアの終着駅として考えてるんじゃないかい？　UFCという現在、世界最大の舞台に参戦することで、PRIDE時代の"ファイアーボール"をよみがえらせようと充分な準備をしてくると思うんだ。チャレンジャーだという精神があるかぎり間違いなくUFCで成功すると思う。それに彼のファイトスタイルはヴァンダレイがそうだったようにアメリカのファンをも惹きつけるものがあるからね。ただ、今回のゴミの対戦相手のケニーの一般的な評価が低すぎるんじゃない？　本当に彼は素晴らしいオールラウンドのファイターなんだよ。みんなBJペンとの試合を観て評価してるんだろうけど、BJがどれだけ飛び抜けてるファイターかって知っているだろう？　BJとの試合内容だって、ほかのファイターと比べたらよかったと思うんだ。ゴミにとってはタフなデビュー戦となったけど、もしケニーに勝ったらUFCのライト級でトップ戦線で闘っていけることを意味するよね。今回はメインで試合が組まれたけど、負けてしまったら、いちファイターとして勝利を築きあげて再度トップに這い上がっていかなければならないだろうね。


❷試合はスタンドでの闘いになるだろうね。ゴミはUFCデビューということで、いろいろな面からプレッシャーがかかってくると思う。だからケニーは逆にゴミの自信のあるスタンドでまずは様子を見ながらプレッシャーをかけてくるような展開になるんじゃないかな。キックを交えて、チャンスがあればテイクダウンを取りにいくと思う。ゴミがスタントでこようとしたらケニーはグラウンドへ、逆にゴミがグラウンドへきたらスタンドにするとか、とにかく相手を戸惑わせてバランスを崩すようにして、ここがチャンスだと思ったときに極めにいくだろうね。

いまUFCのライト級はBJペンが飛び抜けているけど、その下にもたくさんタフなファイターたちがいるからね。次にBJにチャレンジするフランク・エドガー、グレイ・メイナードなど強豪も多いけど、ケニーを倒したら間違いなくゴミもその仲間入りをするということだよ。今回のマッチメイクはゴミが自信のあるスタンドで勝負できるという点で"レスラー"であるメイナードのほうが"ミックスト・マーシャルアーティスト"であるケニーよりも相性がよかったように思うよ。"レスラー"の攻めはある程度想像できるけど、"ミックスト・マーシャルアーティスト"であるケニーはボクシング、ムエタイ、柔術、それにレスリングもすべてがこなせるから自分の強い点を殺されてしまうんじゃないかと思うんだ。ゴミは初めてのオクタゴンという影響はあるかって？　これはばかりはファイターによって異なるからなんとも言えないね。ヒョードルはまったく戸惑いもなくリングでの闘いと変わらなかったからね。まあゴミもオクタゴンでの試合に向けた準備をしてくるだろうから問題はゴミ自身がどう受け止めるかだと思うね。





❶五味隆典はUFCで成功すると思いますか？　❷五味vsフロリアン戦はどう予想しますか？



3.31『UFN21』、五味隆典UFCデビュー戦の相手は
超実力派コンプリートファイターだ!!

Kenny Florian

ケニー・フロリアン

「タカノリ・ゴミは憧れの存在だった。でも、いまはボクがすべての面で上回っていることを証明するよ」

コイツが五味隆典のデビュー戦の相手だ! 誰もが口を揃えて「初戦から厳しい相手」と評される、ケニー・フロリアン。BJペンには完敗しているが、打撃も寝技も穴がないオールラウンダー。五味はこの難敵をどう打ち破るのか!?

聞き手/堀江ガンツ　通訳/石井史彦　試合写真/Josh Hedges(UFC)

——ついに五味隆典戦が正式決定しましたが、いまの気持ちを聞かせてください。

ケンフロ　最高の気分だよ! ボクも彼もお互い危険でエキサイティングなファイター同士だからね。素晴らしい試合になることは間違いない。

——この試合が決まる1ヵ月前から、五味戦に備えたトレーニングをスタートしていたというのは本当ですか?

ケンフロ　〝五味戦に備えた〟トレーニングというのは間違いだね。まだこの時点でもゴミとの試合に特化したトレーニングはしていないんだけど、3月31日に最高のパフォーマンスができるように、休みも取らずに常に練習しているんだ。このほうがコンスタントに自分の技術を向上できるし、同時に武器となるものも増やせることができるんだ。

——五味選手の印象を聞かせてください。

ケンフロ　一言で言えば、素晴らしい才能を持った完成されたMMAファイターだね。自分の中ではレジェンドの一人として評価しているんだ。そういう偉大なファイターと対戦できることを光栄に思っているよ。

——五味選手は5年前、PRIDEライト級王者として頂点に立ちましたが、ここ2~3年はあまりいいファイトができていません。ここ数年の五味選手のファイトをどう思いますか?

ケンフロ　PRIDE時代のゴミのファイトはほとんど観ているけど、正直なところ、最近の試合のことは知らないんだ。焦らなくても、もうすぐ本当のゴミをケージの中で見ることになると思うけど、いままで以上にタフなファイターになってUFCに参戦してくると予想しているよ。

——では、五味選手の試合ビデオもまだ


TAPOUT

観てないんですか？

ケンフロ　これからコーチと一緒に観ることになるだろうけど、あまり自分では観ないで、作戦や分析はコーチに任せて、自分が何をしたらいいかだけ聞くつもりなんだ。あまり先入観にとらわれたくないからね。

——五味選手はこれまで、マーカス・アウレリオ、ニック・ディアス、北岡悟に一本負けを喫していて（ディアスはのちにノーコンテスト）、グラップラーを苦手にしている感があります。サブミッションのスペシャリストでもあるあなたは、この点で有利だと思いますか？

ケンフロ　あくまでも可能性として自分にアドバンテージがあるかもしれないけど、実際に試合の行なわれる夜にならないとそのことは確認できないね。さっきの試合ビデオの件もそうだけど、ボクはどの部分にアドバンテージがあるとか、試合まではまったく考えないようにしているんだ。試合になったら瞬間瞬間で、どんな局面になっても優位に立てるようにね。そのために、ストライキング、レスリング、柔術とすべての面でハードなトレーニングを行なっているんだ。

——すべての面で上回ろう、と。

ケンフロ　実際、いまのボクはすべての面でゴミを上回っていると思うんだ。でも、それが本当なのかどうかは試合をやってみないと誰もわからないことだからね。今度の試合で、それを証明するつもりさ。

——では、あらためてプロフィール的なことを教えてください。

ケンフロ　子どもの頃に空手を始めたのがマーシャルアーツとの出会いで、20歳のときに柔術を始めたんだ。それから柔術やサブミッション・レスリングのトーナメントに出場するようになって、28歳のときにMMAの世界に入ったんだよ。

——そのときプロのMMAファイターになろうと思ったんですか？

ケンフロ　いや、MMAファイターになろうなんて、考えたこともなかったんだよ。いつも言ってるんだけど、「MMAが自分を見つけた」とね。ミックスド・マーシャルアーツはすべてが美しくチャレンジング。毎日のトレーニングの積み重ねや考え方が関連してくることが魅力的なんだ。

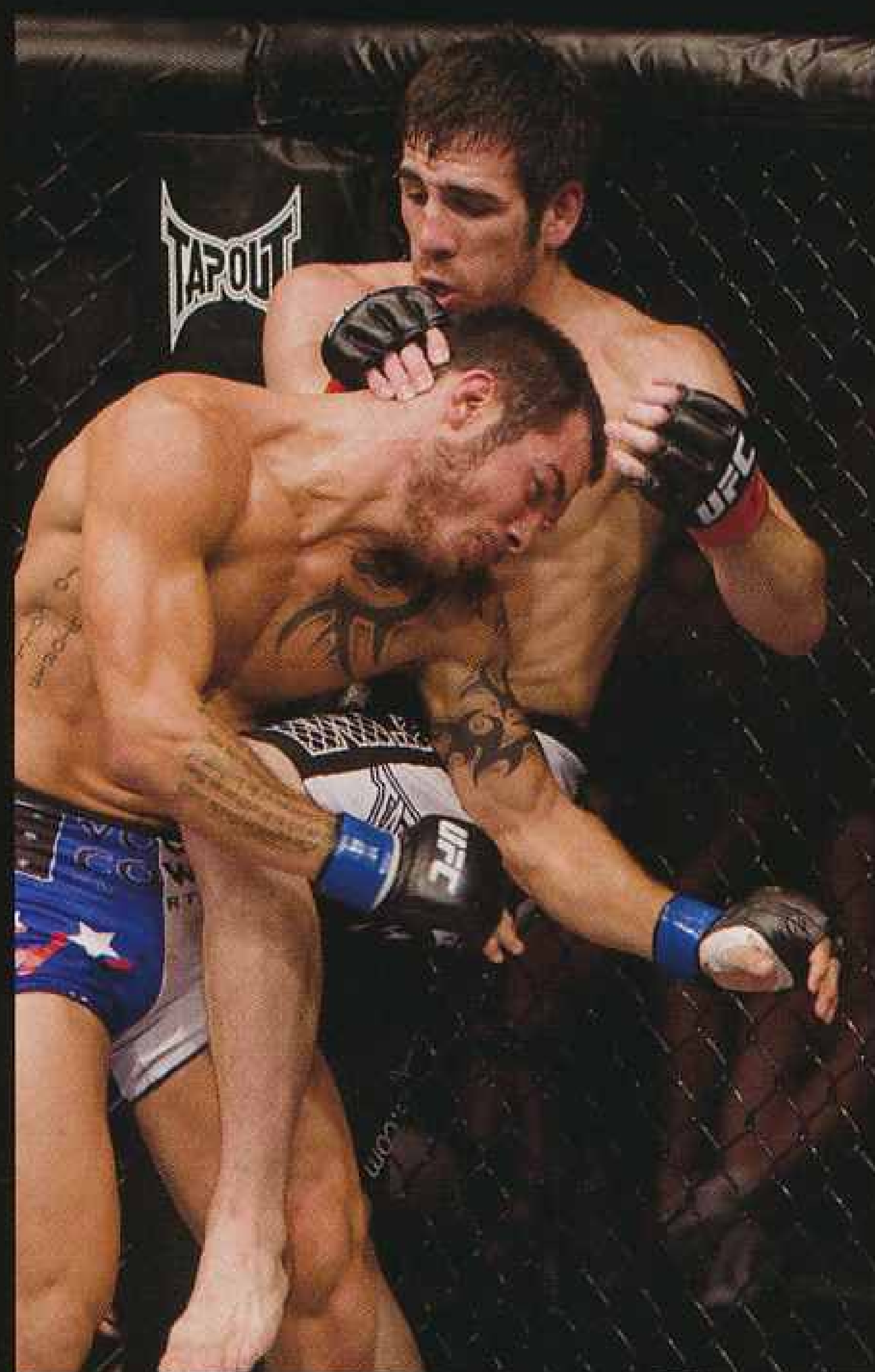
——誰かのファンだったりしたことは？

ケンフロ　すべての偉大なるファイターたちを尊敬しているけど、「ファン」と言われたら、間違いなくグレイシーファミリーだね。彼らは大きなインスピレーションを与え続けてくれてるんだ。

——年齢的にデビューが遅かった気がしますが、MMAデビュー以前は何をしていましたか？

ケンフロ　大企業のファイナンス関係のプロジェクトに関係する、翻訳サービスの仕事に従事してたんだ。

——立派な仕事ですねえ。





ブラジリアン柔術黒帯の腕前を持ちながら、抜群のストライキング能力を持つフロリアン。「打撃でもフロリアンが上」と評価する関係者もいる。ぶっ飛ばせ、五味!!

ボクはPRIDEのファンだった。観るのが本当に楽しみだったよ

ケンフロ　そうかい？（笑）。

——プロのMMAファイターに専念するきっかけとなったのは『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』への出場だったと思いますが、『TUF』出場はどういった経緯で決まったんですか？

ケンフロ　地元ボストンでMMAイベントに参加してたんだけど、偶然にもダナ・ホワイトが自分の対戦相手を『TUF1』にスカウトするために、会場に来ていたんだ。そしたら試合後、ダナから『TUF1に出ないか？』って誘われたんだよ。

——対戦相手をスカウトに来たのに、ケニー選手もスカウトされたわけですか。

ケンフロ　そういうことになるね。

——その『TUF』出場時、あなたはすでに28歳でしたが、もしUFCとの契約が結べなかったときは、MMAをあきらめる選択肢もありましたか？

ケンフロ　もちろん、そのときにMMAを辞めるという選択肢もあったろうけど、実際にどうなったか想像するのは困難だよ。間違いなく言えることは、もしあのときUFCと契約できなかったとしても、自分がマーシャルアーツのトレーニングは続けていただろう、ということ。プロであろうがなんであろうが、マーシャルアーツは自分の情熱であり、人生そのものなんだ。

——あなたが『TUF』に出場する前ぐらいから、PRIDEは全盛期を迎えていましたが、同時のPRIDEについては、どのように思っていましたか？

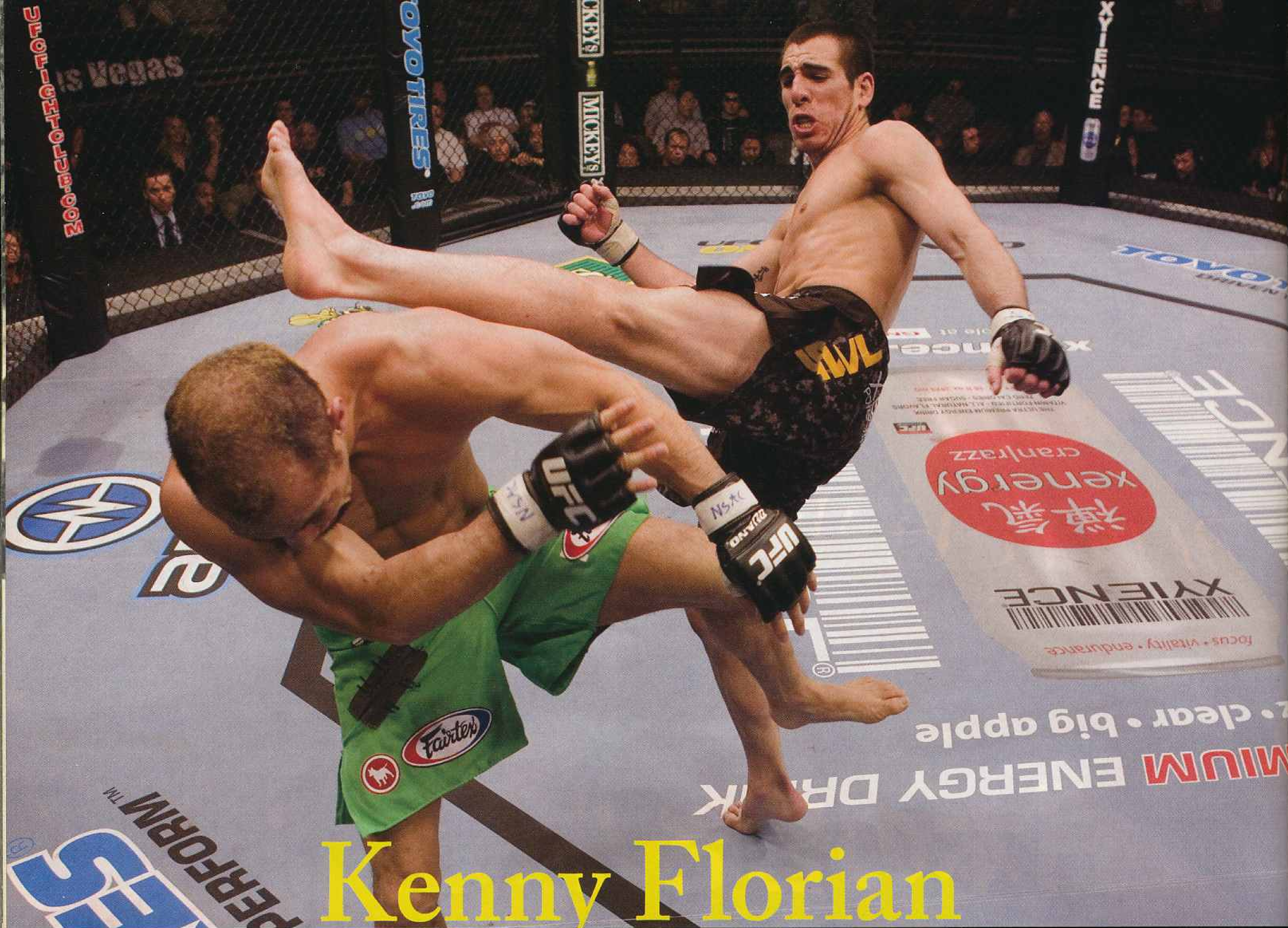
ケンフロ　ボクはPRIDEの大ファンだったんだ。世界中の偉大なファイターが一堂に揃って、毎回、巨大で素晴らしいイベントを行なっていた。それを観るのが本当に楽しみだったんだ。

——では、当時もしPRIDEからオファーが来ていたら、『TUF』ではなくPRIDEに出ていたと思いますか？

ケンフロ　いや、それはまったく無理な話だよ。その当時のボクは、まだ基本的なテクニックすら身につけていなくて、『TUF1』のショーに参加できるかどうかもあやしいレベルでしかなかったんだ。ましてや世界最強の男たちが集まるPRIDEに参戦できるような、プロフェッショナルの域には全然達してなかったんだよ。

——では、そのPRIDEで頂点に立った五味選手というのは、雲の上の存在でしたか？

ケンフロ　当然だよ。当時の彼は世界一



Kenny Florian

で、ボクはまだルーキーだったわけだからね。その5年後に、彼と闘う日が来るなんて、夢にも思わなかったよ。

——五味選手は5年前に世界ナンバーワンでしたけど、5年前のMMAと、いまのMMAではレベルが違うという自負はありませんか?

ケンフロ　もちろん、MMAはここ数年でどんどん進化している。でも、一度でも世界ナンバーワンだったということは、それだけで充分重い意味を持っているよ。ゴミはまだ若いし、かつて世界ナンバーワンになったということは、世界一になれる力を有しているとも言えるからね。ただし、MMAは常に進化しているから、ボクはMMAの発展をリードしていく一人でありたいと思っているんだ。

——日本ではここ数年、五味選手に代わるライト級のトップとして、青木真也選手が台頭してきていますが、彼のことはどのように評価していますか?

ケンフロ　本当にエクセレントなファイターで、いま世界でベストのファイターだと評価してる。同じファイターとして、また彼のファンの一人としてね。チャンスがあったら一緒に練習したいし、いつかお互いの技術の交換ができる日が来ることを祈っているよ。

——青木選手が大晦日に廣田瑞人選手と対戦した試合はご覧になりましたか?

ケンフロ　試合は観ていないんだけど、何があったかは周りから聞いたよ。おそらく感情的になって興奮しすぎたんだろうね。人は皆、間違いを犯すんだから、これを機に、人間としてもファイターとしてもさらに成長することを祈ろうよ。それだけだね。

——では、あなたにとって今回の五味隆典戦は、再びBJペンの王座に挑戦するきっかけになると思いますか?

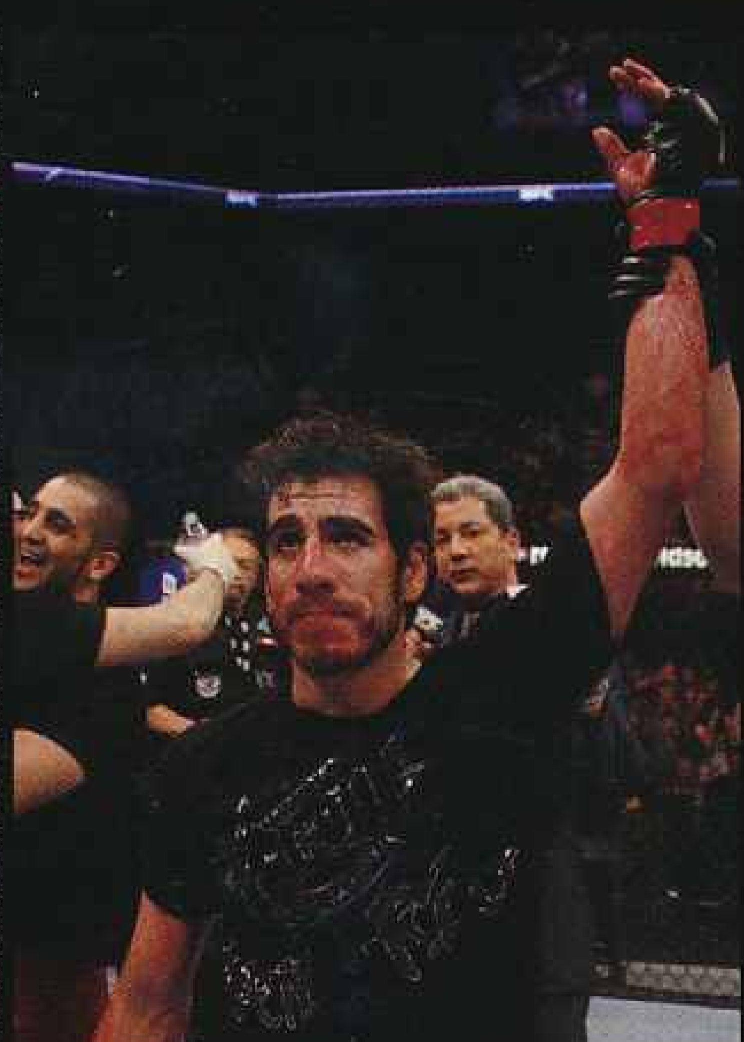
ケンフロ　タイトルマッチが組まれるかどうかは、UFC次第だからなんとも言えないけど、一つ言えることは、タカノリ・ゴミに勝たなければ次はない、ということだからね。王座挑戦の可能性をつかむためにも、いまは五味戦だけにフォーカスしているんだ。いまはタカノリ・ゴミという偉大なファイターと対戦することによって、自分の存在を証明できることに感謝しているよ。

——では、いまの目標を教えてください。


ケンフロ　ボクはまだ、ファイターとしては何も達成していないと思っているんだけど、キャリアを終え、その過去を振り返ったとき、自分にプライドが持てるようにしたいんだ。だから、自分にとっての真のゴールは、継続的にマーシャルアーツを学び、自分なりの技術を完成させ同時にそれを進展させていくことだね。これは自分の人生を通じて求め続けるものだと思っているよ。

——3・31『UFN』での五味隆典戦、素晴らしい試合を期待してます!

【10年2月8日/電話取材にて収録】



KENNY FLORIAN■米国マサチューセッツ州出身。決して泣いてるわけではない。生まれつきの表情である。柔術黒帯。16戦14勝2敗、勝利のうち8試合が一本勝ちだが、打撃の評価も高いUFCライト級ナンバー2ファイター。178センチ、70キロ。



日本の皆さん、とにかく UFCを観よう!!

～UFCを10倍楽しむ方法を考える夕べ～

かつて日本にはPRIDEという“世界最高峰のリング”がございました。
いまやその舞台は海を渡り、UFCに移り変わったのでございますが、いかんせん異国の出来事。
どれだけ盛り上がってもいまだ知らぬ存ぜぬというファンも少なくない模様。
でもそれじゃあまりにもったいない！　どうすればUFCを楽しめるのか？　さぁ、みんなで考えよ～！

構成／ジャン斉藤　写真／Josh Hedges（UFC）



総合格闘技の歴史を10年早めた男こと、ウェルター級絶対王者のGSP。掛け値なしに凄いのはわかるのだが、日本ではなかなかその存在がブレイクしていないのが現状だ。

――いまや〝世界最高峰の舞台〟の座に君臨しているUFCですが、日本市場ではそれほど人気獲得に至ってないと思うんです。今回のUFC特集号を読めば、新しい格闘技文化としてもっともっと日本に受け入れられていってもおかしくないんですが……。そこで今日はUFCにお詳しい3人に、斬新なUFCの見方を読者に提示していただきたいなあ、と。

橋本 ハードルを上げるなよ、おい（笑）。

――（無視して）まずボクの立場を説明すると、UFCなら松林さんに話を聞いたほうがおもしろいと思ってるんですよ。いや、つまらないと言ってるわけじゃないですけど（笑）、そこまでアグレッシブじゃないというか。

橋本 完全に編集長タイプだねぇ。オレの場合はWOWOW中継のチェックは欠かさないけど、そんなに「アメリカ万歳‼」ってわけじゃない感じだね。

ターヤン ボクはPRIDE全盛の頃からUFCのほうがおもしろそうだってことで観てたんですよ。

橋本 それは珍しいですねぇ（笑）。

松林 俺はWOWOWのUFC中継はずっと観てたよ。リングスが消滅してもWOWOWを解約しなかったのはUFCが観られたからだからね。で、UFC中継がなくなった途端に解約して、一昨年の夏に再開したタイミングでまた再加入して。

――それに加えて、松林さんは日本で一番現地観戦している〝変態〟ですよね。

松林 いやあ、高島学氏のほうが断然多いんじゃない？

――あれは、海外MMAがメインの仕事だからじゃないですか（笑）。で、まずお聞きしたいのは、日本におけるUFC人気の現状なんですけど。

ターヤン 日本のファンがあまりUFCのほうに向いてないということは、つまりUFCが「PRIDEの代替にはならなかった」というところがあるわけですよね。

橋本 そうですよねぇ。PRIDE消滅以降、格闘技を観なくなった人が多かったこともありますし。まずファンの総数というか分母が減っている。

松林 まあ、そもそも日本にはPRIDEという超人気イベントがあったわけだから、その印象が強すぎるよね。

橋本 やっぱり、日本ではもともとPRIDEが人気度で言うと100までいってたわけだよね。で、UFCっていまでも50もいってないわけでしょ。

――まあ、『DREAM』や『SRC』も50どころじゃないんですけどね（笑）。

松林 アメリカに関して言えば、ここのところの大会を見ると去年夏の『UFC100』がピークだったという感じもするよね。そのあとはアメリカ国内に限定すると、ちょっと落ちている感がある。

橋本 そうですね。最近はタイトルマッチのカード編成とか「もうすぐ手詰まりになるんじゃないの？」って感じがしますし。まあ、それはチャンピオンが強すぎるからなんですけど。

松林 そのせいで最近のアメリカ国内の会場はほんのちょっと空席があったりするから。まあ、そんなに目立たない程度だけど。

ターヤン それと、いまのUFCってメチャクチャ興行数が多い影響もあるんですよ。ブレイク前は2～3ヵ月に一度くらいの開催だったのに、いまは月に1回、多いときで2回。そこに『UFN』があって、リアリティショーの『ジ・アルティメットファイター』（TUF）も放送してて。

――よく知らない読者のために説明すると、UFCの本大会は毎回『PRIDE男祭り』をやってるようなもんで、『UFN』は『HERO'S』、さらに『ジ・アルティメットファイター』という『格闘王子』が放送されていて、おまけに『WEC』という『PRIDE武士道』もやってる、と。

橋本 スッゲエよなあ（笑）。だから飽和状態ではあるよね。ほかにも毎週、いろんな局で情報番組をやってるわけでしょ。

ターヤン ただ、アメリカのファンって、いまはサイクルがうまく回ってるから義務感で観ている人が多いと思うんですよ。だからちょっとスケジュールが空いたら一気に引いちゃう可能性は高いんじゃないか、と。本質的に盛り上がってるのは別にして、カジュアルなファンっていまは毎月やってるから自分の生活にUFCが組み込まれてるんですね。

――かつてはPRIDEもそんな感じでしたよね。PRIDEと『武士道』のどちらかが毎月あって。いまの日本はWOWOWでしか観られない環境だから、どうしても習慣にはなりづらいのかなあ。

座談会出席者

高橋ターヤン
本誌携帯サイトでUSAコラム絶賛連載中。『映画秘宝』でも執筆するフリーライター。PRIDE全盛期の頃から「UFCのほうがおもしろい」というスタンスだった。熱狂度Aクラス。

松林貴
うまいものとおもしろいものがある場所にフラリと現われる本誌編集次長。自費で渡米、チケットを購入して観戦することも。日本人で一番UFCにお金を使っている男。熱狂度Aクラス。

橋本宗洋
本誌携帯サイトで格闘技コラムを絶賛連載中のフリーライター。周辺情報やWOWOW中継は欠かさずチェックするが、「アメリカ万歳！」というわけではない。熱狂度Bクラス。

ジャン斉藤（司会）
本誌編集長。ダナ・ホワイトの〝ジャイアン〟キャラ計画を推し進めた男だが、UFCへの注目はWOWOW加入を嫁の反対で断念する程度でしかない。よって熱狂度はDクラス。

日本の皆さん、とにかくUFCを観よう!!

橋本　それにWOWOWって、コンテンツ作りがMMA初心者向けでしょ。実況解説が毎回その選手の基本プロフィールの説明しかしてない。ありがたいときもあるけど、それだけだとUFC全体の物語が見えてこないよなぁ、と。

松林　それだけだと、いい意味でのキャラクター作りはできないよね。「外国人の顔は全部同じに見える」みたいな人もいるだろうから、そういう人だとさらに物語は見えないだろうね。

橋本　そうなんですよ、キャラクターが全然練れてないんですよ。たとえば（マーク・）コールマンの熱血オヤジっぷりであるとかにしても。

――それは要するに〝WOWOWにはTBSが足りない〟ってことですか?

橋本　足りないよねぇ。逆にTBSのほうはやりすぎなんだけど（笑）、WOWOWはTBS的なものは足りなすぎると言っていいくらい。

ターヤン　やっぱり、UFCファイターって基本的にみんな同じ格好をしてますしね。ファイトスタイルも画一化されてるから、日本人からすればちょっと見分けがつかないかもしれないですよね。

橋本　それと全体的なハンデってことでいえば、日本だとカード発表会見があり、公開練習があり、計量があって本番を迎えるわけでしょ。で、メディアに選手のインタビューが載るし、ブログで選手の本音を読むみたいな作業もあったりする。そうやってファンは「焚かれて」いくわけじゃないですか。UFCはいまの日本ではそういった「焚き」がほぼなされないままだから、事前の期待感が煽れていない現状があるよね。

――「あ、UFCがあったんだね」って感じで。

松林　でも、オフィシャルHPでは日々最新情報を流しているし、大会前のプレスカンファレンスとか前日計量の様子とかも動画で配信していて、能動的でありさえすれば楽しむための材料はいくらでも提供されてるんだけどね。

橋本　ああ、そうか。じゃあニュースの幅とか深さの問題なのかなぁ。オレが提案したいのは、UFCをもっとおもしろく観るための方法の一つとして『kamipro』の駐在員をアメリカに置くってことなんですよ。『kamipro』的なUFCの見方をもっと充実させていくっていう。

松林　でも、仮に『kamipro』がUFCの機関誌的な役割をしても、そんなに広がらない感じもするんだけどなあ。

橋本　広がらないですかねぇ?　毎号のようにアメリカからガンツがテキストを送ったりして、『kamipro』の血が入ってるだけでだいぶ違うと思うんですけどね。たとえば、こないだランディ（・クートゥアー）とコールマンの試合後に、コールマンとティト（・オーティス）の中指騒動が起きたじゃないですか。あの事件を掘り下げるメディアは必要だし、『kamipro』的な鼻の利き方はあったほうがおもしろいですよね。

――そういう意味でいえば、キース・ジャーディンなんかのプロフィールもけっこうおもしろいんですよね。彼の試合内容はほぼ覚えてないけど（笑）。

ターヤン　なんといっても賞金稼ぎの炭鉱夫ですからね（笑）。だから現在の日本におけるUFCの報道って一面的すぎるんですよね。ホントにWOWOWの解説以上のものが何もない。「この選手はこういうキャリアで、こういう相手と闘ってきて、こういうスタイルなんですよ。で、そいつとこいつが闘った。以上!」というだけですから、広がりようがない。

――でも、さっき橋本さんが言った〝『kamipro』的な鼻の利き方〟って、UFCが日本でちゃんと報道されているうえじゃないとキツいですよね。たとえばジェフ・モンソンのアナーキストぶりはおもしろいけども、多くの人間はまずジェフ・モンソンに興味がないっていう。

ターヤン　「ジェフ・モンソン」って書いてあった時点でクリックしない、と。

橋本　ってことは、本流としての報道のされ方さえ日本にはないってこと?

――なくないですか?

松林　よくよく考えるとさ、いまのUFCって5階級に分かれていて、それも興行を追うごとに各階級のストーリーが動いているわけじゃないうえに、各階級のチャンピオンが試合するのは3~4ヵ月にいっぺんでしょ。知り合いの格闘技好きの人が「いまからだと追いつかないからUFCは観ない」って言っていたんだけど、確かに凄くわかりにくい世界になっているよね。

橋本　それと健康的なほどに新陳代謝がありますからね。トップファイターが次々に入れ替わるから、物語を追っていくのは大変かもしれないですよね。

――いきなりジュニーオール・ドス・サントスとか言われてもピンとこないですよ。なんか「強いんだろうなあ……」って感じしかしない。

ターヤン　それ、名前の感じだけじゃないですか（笑）。でも、UFCってダナ・ホワイトでもジョー・シルバでもそうなんですけど、「コイツの物語を作ってやろう」って意識はあんまりないですよね。「こいつとこいつをいま闘わせたらおもしろいんじゃないの?」って、なんのてらいもなくマッチメイクするじゃないですか。

橋本　そうっすよね。たとえばかつてのティト・オーティズとチャック・リデル、そしてダナのあいだには強いストーリーがあったわけですよね。ダナ・ホワイトが社長になったUFCで、あの二人が闘うっていうのは凄い意味があることだったんですけど、それを掘り下げる感じじゃなかった。「おまえもやってないだろ」って言われたら、そのとおりなんだけども。

松林　アメリカ人の観客がそういう人間ドラマに対して、あんまり積極的にアプローチしないっていうのはあるよね。それよりもピザ片手にビールをガブ飲みしながら「ぶっ殺せ!」みたいな。実際に会場もそんな感じだし（笑）。



UFCには多くの日本人ファイターが参戦しているが、そのトップ戦線には食い込めているかというと……。彼らのさらなる活躍が、UFCの日本国内人気が拡大する鍵になる?

UFCの本国での盛り上がりぶりはPRIDEのどころの騒ぎじゃない

――でも、ダナにもへんなこだわりというか、個人のホビー感覚は見えますよね。ヒョードル獲得なんてまさしく個人の満足だけというか、意地だけだと思うし（笑）。

ターヤン　そこはもう完全にダナがPRIDEのファンで、日本格闘技から植えつけられている部分が自然と出てきてるんでしょうね。

橋本　だって『UFC100』のファンエキスポのイベントとしてグラップリングマッチがあったんだけど、日本からわざわざ佐藤ルミナを呼ぶんだよ？（笑）。UFCの首脳陣、みんなルミナのこと大好きだから。

ターヤン　佐藤ルミナの試合を首脳陣がみんな並んで観てるっていう。しかもPRIDEのTシャツを着て。ファンサービスじゃなくて自分サービス（笑）。

橋本　もちろんPRIDEファイターを獲得するってことは、新顔がほしいって意味が一番なんでしょうけど。

松林　まあ、いろいろと細かいけど、ちょっとガマンしてしばらく観るとおもしろくなると思うんだけどな、UFCって（笑）。

ターヤン　いろんな人に話を聞いてると、UFCを観るってことは耐性が必要なんですよ。で、やっぱり他人から話を聞いてたほうがおもしろく聞こえるんですよね。

――青木真也のUFCコラムもメチャクチャおもしろいですもんね。

橋本　青木のコラムはUFCの幻想を高めるよね。

ターヤン　最近でいえば、ジョン・フィッチの「クローズガードはもう終わった」っていう発言もロマンがありますよね。青木真也とデミアン・マイアの二人以外の注釈つきですけども。

橋本　確かにロマンありますよね～。だからさっき、「『kamipro』のアメリカ駐在員を作るべきだ」って言いましたけど、かつての『格闘技通信』の安西（伸一）さんは、グレイシー柔術の現地駐在員くらいの勢いだったでしょ。で、安西さんが日本に帰ったときも、弟の俊哉さんが取材したりネタを拾ったりして。その結果、ホイス・グレイシーの「兄は僕の10倍強い」っていう名言が生まれたりするわけですよ。あの発言があったことで、ヒクソンが「試合も観たことないセコンドについている松崎しげるみたいな兄貴」だけで終わらなかった（笑）。それをいまやれるメディアは『kamipro』しかないと思うんだよね。

――あの～、ウチはそれどころじゃないんですけど（苦笑）。



もはや現地ではメジャースポーツと肩を並べるほどのPPV購入件数を誇るUFC。そのリングサイドにもさまざまな有名人の姿が。あ、ジャネット・ジャクソンだ！

橋本　いやあ、やるべきだよ。ダナのジャイアンキャラを確立したのだって『kamipro』でしょ。べつにオレも『kamipro』だけにこだわるわけじゃないけどさ（笑）。やっぱキャラクターづけ、ファイトスタイルを明確に出すキャッチコピーは必要だってことですよ。

――……あ、一番大事なこと忘れてた！「日本で興行やれ！」って話ですよ、UFCは。

橋本　いやいや、オレは日本大会開催にはあんまりうなずけなくて。なぜかいうと、海外でやってるからこそ幻想が高まるってこともあるはずだから。サッカーのチャンピオンズリーグ公式戦を日本でやっても、やっぱり「なんか違うな」ってなるでしょ。わざわざ現地に行くからいいんだっていう。

ターヤン　それがトヨタカップクラスのイベントだったら、まだわかるんですけどね。

――まあ、いまUFCが日本で興行をやっても客席は埋まらないんだろうなっていう気はしますよね。

ターヤン　埋まらないでしょうねぇ。だって最盛期のPRIDEを観ていて、格闘技を離れた人に「今回はノゲイラとヴァンダレイとミルコが一緒に出るんだよ」って言って、はたして来てくれるかっていったら難しいような……。

橋本　「あ～、まだやってたんだ」って言われるのが関の山かあ。

――でも、そういった浮動層を取り込まないといけないじゃないですか。それには「おもしろいことやってんだな」っていう雰囲気が重要だと思うんです。いまのUFCって、「おもしろい」んですけど、「おもしろそう」という雰囲気がそんなに出てないのが凄く悔しいんですよね。

ターヤン　そこはアメリカでどれだけ盛り上がってるのかっていうのがうまく伝わってないっていうのもあるでしょうね。ホントに政治とか文化とかいろんなところに侵食してるんですけど。

――それは65ページからのターヤンさんの書いたコラムを読めば凄くわかるんですけどね。

松林　アメリカでの盛り上がりぶりは全盛期のPRIDEどころの騒ぎじゃないんだけどね。そういえばつい最近、UFCのオフィシャルジムがオープンしたんだけど、オープン初日に4000人が会員になったって話だよね。

――4000人!!（笑）。

ターヤン　ジムのオープニングセレモニーに7000人の一般客が来て、4000人が加入したという。

松林　で、ダナが会員に言ったセリフが「オクタゴンで待ってるぜ！」らしいからね（笑）。

橋本　凄い世界になってますよねぇ。しかもコンビニに行ったらエナジードリンクの広告になってる、サプリメントの広告になってる、スポーツ雑誌を見ても誰かしらファイターが載ってる。最近は映画にも出始めたり。そういう感じだからね、アメリカ格闘技の盛り上がりぶりって。

ターヤン　これは有名な話ですけど、ダナがニューヨーク滞在時にツイッターで「オレはいまから『ピンクベリー（フローズンヨーグルトのチェーン店）』に行くぜ。来た人には観戦チケットをあげるよ」とつぶやいたら、ワーッと客が集まって。でも、そのチケットって、次々回ロサンゼルス大会のチケットなんです。それでもみんな「行く、行く!!」って言ってるんですよね（笑）。

「実力主義だから素晴らしい」は大切だけど、そればかりじゃ広がらない

橋本　東海岸の人間が西海岸のイベントに（笑）。そうすると、UFCで一番大事なのはミーハー報道っていうか、ミーハー人気かな。魔裟斗じゃないけど。ヘンな話、いまの海外MMA報道って、映画雑誌にたとえると『キネマ旬報』と『映画芸術』しかない感じがして。

——マニアックすぎる、と。

橋本　で、『kamipro』が『映画秘宝』だとするじゃん。そういう意味ではやっぱり『ロードショー』がないんだよ。

松林　あるいは『スクリーン』とかね（笑）。

橋本　ジャッキー・チェンのピンナップが毎号ついてくるような（笑）。そういうファン向けのメディアがない。

ターヤン　もっとオクタゴンガールに寄ったっていいし、もっとミーハーな感じのインタビューとかあっていいですよね。やっぱり『映画秘宝』って、実際に映画を観るところまで読者を連れていけてない気がするんですよ。本を読んだだけでその映画を観た気になって、そのウンチクだけを消費しつくしちゃうんですよね。

——そんなことを言ったら、ウチだって似たようなもんだし（笑）。

橋本　『kamipro』でイベントを煽ってもチケットは売れないのか（笑）。

——影響がなくはないですけども。ただ、某大手団体関係者に「記事になっても売れない！」とか嫌みを言われたことがあるんですよ。さすがに「あなたの団体に誰も興味はないし、あなたのセンスがないからだよ！」と言えませんでしたけど（笑）。でもまあ、極端なことを言いますと、UFCを観なくていいから、まずは興味を持ってほしいですけどね。

ターヤン　でも、格闘技を好きな人ってみんな、UFCは心のどっかに引っかかってるわけじゃないですか。その人たちを競技の中心にまで連れていくきっかけが何か必要なんですよね。それをUFCっていう大きな枠にくくってもダメだし、いま参戦している日本人ファイターでもダメだし、元PRIDE勢を観るってわけでもダメだし、じゃなんなんだつったら、……なんなんでしょうね（笑）。



オクタゴンでの闘い以外にも、いろんな魅力がテンコ盛りのUFC。さまざまなファンの目を、さまざまな意味で引きつけて離さない要素はあるはずなのだ（写真はあくまでイメージ画像です）。

松林　そもそも日本の格闘技ファンに、絶対的な実力至上主義な世界に目を向けさせることは難しいような気がするんだけどね。

——日本人の場合は浪花節が重要ですから。

橋本　だからやっぱり「実力主義だから素晴らしい」とか、「レベルが高いから素晴らしい」ってことは大切ではあるけど、そればかりじゃ広がらないよね。

ターヤン　それに結局、UFCは『ジ・アルティメットファイター』というリアリティショーがあったからこそ、ここまで成長を遂げたわけですよね。仲悪そうな選手をまとめて一つの家に放り込んで、ケンカさせたり酒を飲ませたりして、一般視聴者に「あ、こいつとあいつが試合をするの？　おもしろいじゃん」って興味を引かせてUFCに誘導したわけですから。

——もともとアメリカでも競技性が導火線になったわけではない。

ターヤン　メインがあるからサブが活きてくる効果があるんで、みんなが『映画秘宝』とか『kamipro』じゃダメなんですよね。

橋本　「パウンドを打つときに股関節をしっかり殺しているのが凄い」っていうのもありながら、コールマンが離婚生活を語ったっていいし、チャック・リデルが新作映画について語ったっていいし、切り口はもっとあるからね。

——競技性だけじゃなくて、文化として広める必要があるんですね。

ターヤン　ただ、アメリカと比較すると、お金を使って観るもんだっていうハードルが日本人にはキツいかもしれない。

——え～、しみったれた話が出ましたけど（笑）。

ターヤン　すみません（笑）。マジメな話、まず金を払わなければ、端っこに座ることもできないのは、日本人にはちょっと厳しいと思いますよ。

橋本　ネットPPVでも観られるんですけどね。

ターヤン　観られますね。ただ、そこまでして観たい欲求までまだ至ってないという。それは若年層の海外旅行離れとか、そういう経済状況ともけっこう密接に絡んでると思いますよ。

松林　ネットPPV自体もクレジットカード決済だから、その時点で未成年がかなり切り捨てられちゃうもんなあ。

橋本　オレはアメリカへの憧れじゃないけど、洋楽を聴いて、ハリウッド映画を観て、っていう自分の「育ち」の延長線上にUFCがあるっていう部分もあるからさ。だから海外取材は無闇にワクワクするんだよね。でも、そう考えると、いまの若いファンには「国内旅行でよくね？」みたいなムードはあるかもしれないね。

松林　さらにいまの若い人は車には乗らない、タバコは吸わない、酒は飲まない、旅行にも行かない……。間接税の納税率が低いっていう状況だから。

橋本　っていう状況も、UFCが思ったほど日本でブレイクしないことに絡んでるのかなあ。

——「お金を使わない」（笑）。いいのか、そんなオチで。

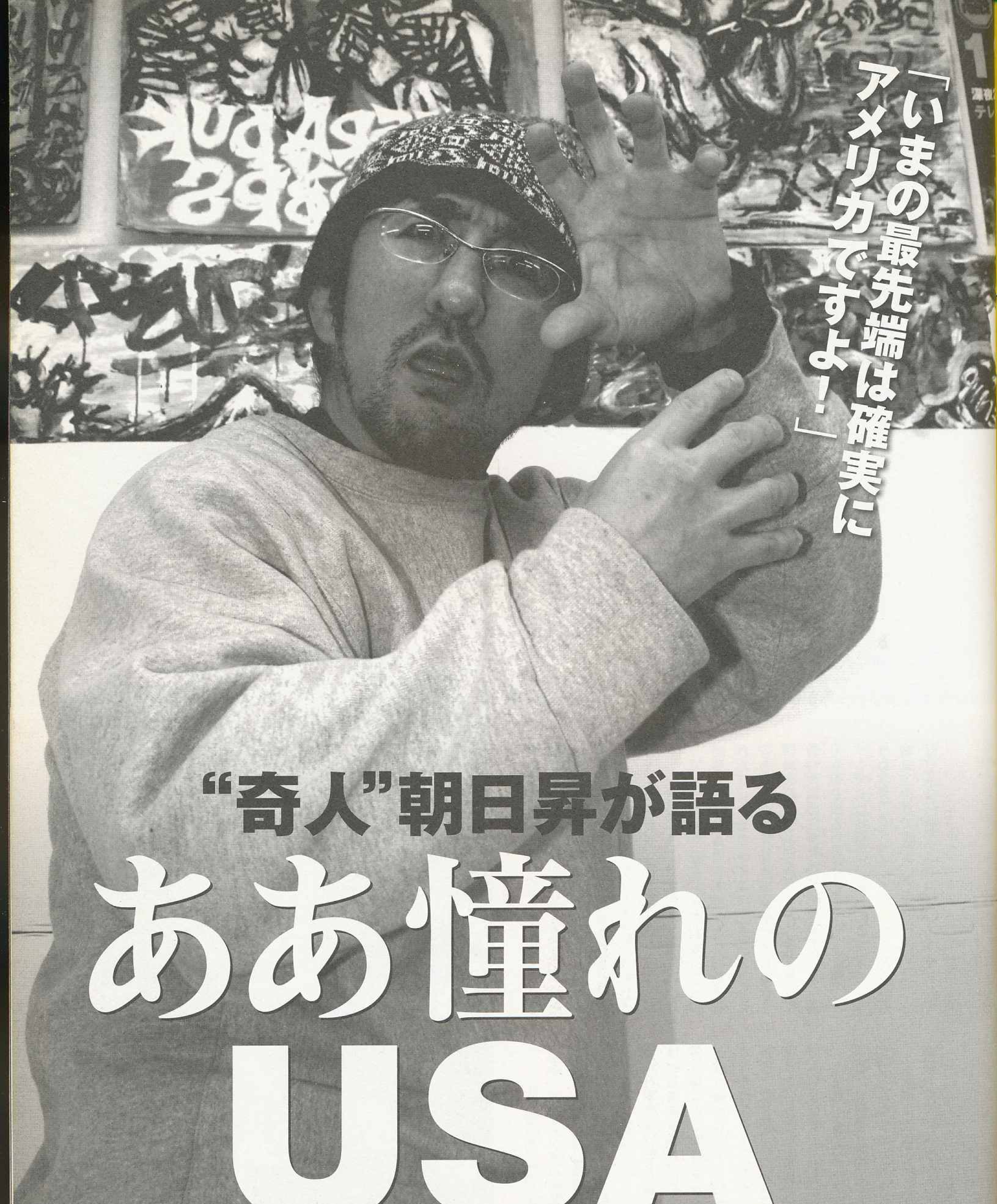
ターヤン　いやあ、あながち間違ってはないと思いますよ。だってアメリカのUFCファンの平均年収は700万円ですからね。

——……さ、早く帰って仕事でもしますか！

【10年2月某日／都内・エンタープレインにて収録】

日本の皆さん、とにかくUFCを観よう!!

「いまの最先端は確実にアメリカですよ！」



“奇人”朝日昇が語る

ああ憧れのUSA

「北米カブレで何が悪い!」とばかりにご登場いただくのは、かつて佐藤ルミナらとともに修斗四天王と呼ばれ、MMA黎明期に活躍した朝日昇。現在はセコンドとして渡米機会のある朝日が、アメリカのスケールのデカさを激語り!　現地で“奇人”が目の当たりにした“最先端”の世界とは?

聞き手／橋本宗洋　構成／鈴木佑　写真／Josh Hedges（UFC）、タイコウクニヨシ

——今日は朝日さんに〝アメリカ〟をテーマにいろいろとおうかがいしたいと思います。

朝日　いや、僕がいまさら誌面に出るのもへんなんですけどね。

——ただ、朝日さんは吉田善行選手のセコンドで何度もUFCを観てますから、その実感を教えていただければな、と。日本にいると気づかないことも多いと思うんですよ。

朝日　まあ、向こうがベストだとは言わないし、日本の選手がダメだなんて全然思わないんですけど、観もしないで何か言うのはヤバイっすよね。日本にいると、無駄にプライドが捨てられない人も多いじゃないですか。そういうのはヤバイですよ。

——やっぱり、世界に先駆けて総合格闘技を始めた修斗があったり、PRIDEが世界最高峰だった時代もありますから、「日本がナンバーワンじゃなければ」という意識の人はいますよね。

朝日　そこなんですよ！　日本人って歳を取ると、昔の価値観に凝り固まって、いまとか将来を見ようとしないんですよね。すぐ「昔はああだった、こうだった」って言うじゃないですか。でも、もうそんな時代じゃないんですけどね。いま、最先端は確実にアメリカなんですよ。それ観ないであーだこーだ言ったってしゃあないじゃないっすか。僕がいつも思うのは、感性は若い人のほうがジジイのより上だから、歳食ったら凝り固まった固定観念みたいなヤツをぶっ壊して、より先に行かなきゃならないなって。いますからね、「このオッサンたち、化石か？」ってのが。でも人間って進歩するもんだから。新しいものをどんどん観て、取り入れていかないと。

——そういう意味でも、今回の特集ではUFCとかアメリカ格闘技というものを、もっと身近に感じてほしいなっていう狙いがあるんですよ。

朝日　自然にそうなっていくと思うんですけどね。野球もそうだったじゃないですか。僕は昔、野球をやってて、メジャーリーグも好きだったんですよ。昔はメジャーリーグ好きなんて少なかったけど、野茂（英雄）がメジャー行ったら、みんな気づいてくれましたよね。格闘技もそうなると思いますよ。

——「こんなに魅力的な世界があるのか」と。

朝日　日本の野球界、僕の小さいときとは全然変わっちゃいました（笑）。サッカーだってそうですよね。

——日本のチームを応援しつつ、CSとかケーブルテレビでメジャーリーグやチャンピオンズリーグを観るのが普通ですよね。

朝日　普通そうなりますよね。オリンピックもそうですけど、知らない競技だって一流のものを観たら「これメチャクチャすげぇな！」ってなりますもん。単純に「こいつらアホか!?」ってくらい凄いじゃないですか。「こんなの、日本人は永遠に勝てないだろ！」って（笑）。

——凄いものを観て「凄い！」と思うのに、国の違いは関係ないはずですからね。

朝日　ショーなんかでもそうですよ。セコンドでラスベガスに行ったときに、シルク・ドゥ・ソレイユのショーを観たんですけど、とにかく凄いんですよね。ワケわかんないんだけど、とにかく凄い。

——一流のショーであることだけは伝わってくるという（笑）。

朝日　そうなんですよ。あんなの見せられたら、「日本ヤバイよ」って思いますよ。「ミュージカルにSMAP出してる場合じゃねぇだろ」って（笑）。とくに子どもとか、若い人は感性が敏感だから、どんどん一流のものを観といたほうがいいですよ。

——それは格闘技にも言えることでしょうね、きっと。

朝日　そうですよ。あんな『○○○○○○』なんか観たって、ねぇ。中学卒業して、まだ不良ってどういうことだよ？（笑）。もっと一流を観たほうがいいですよ。それプラス、競技者として勝ちたいんだったら、「どうやって勝つか」を真剣に考えなきゃ。

——日本では、UFCが「世界最高峰」「一競技として確立されている」っていう意見はよく聞くんですけど、それ以外にも、たとえば一つのショーとして観てもおもしろかったりしますよね。

朝日　UFCって、昔はプロペラ機でしか行けないような田舎でやってたんですよ。でもいまは都会でやってるし、とにかくその土地の一番大きいアリーナでやるんですよ。「こりゃ時代が変わったぞ！」って実感しますよね。

——まずは規模が変わってきてる、と。

朝日　で、計量なんかでも、ファンが50

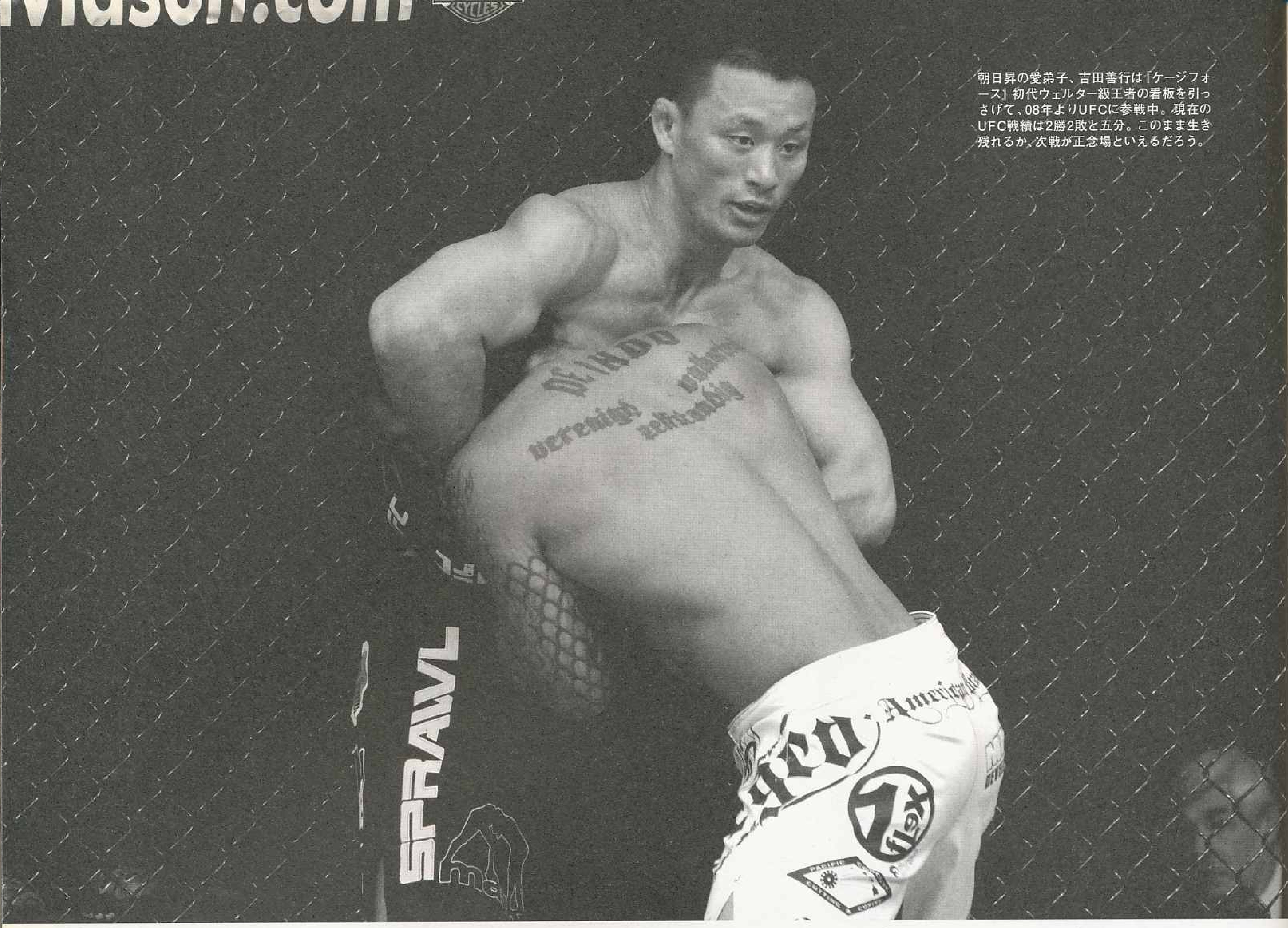
若い人は感性が敏感だから一流のものをどんどん観といたほうがいい

〝奇人〟朝日昇が語る

ああ憧れのUSA



UFC恒例なのが大会前日に行なわれる公開計量。人気ファイターの登場時には、ファンから「試合が待ちきれない!!」とばかりに大歓声が上がる。さらにランペイジvsシウバのようにあわや乱闘の騒ぎになれば、試合への注目度も一気に倍増!



朝日昇の愛弟子、吉田善行は『ケージフォース』初代ウェルター級王者の看板を引っさげて、08年よりUFCに参戦中。現在のUFC戦績は2勝2敗と五分。このまま生き残れるか、次戦が正念場といえるだろう。

吉田もアメリカだとサイン攻めですよ。日本では全然人気ないんだけど（笑）

00人とか来てガンガン盛り上がってるんですよね。「なんだこれ⁉」って。「こういう光景、昔マイク・タイソンの試合で観たよな」っていう（笑）。

――タイソンの試合と同じような光景が、総合格闘技で行なわれてるんですもんね。

朝日　ああいうの見てると、一般の人たちの感性にもUFCが引っかかってるんだろうなって感じますよね。そりゃあベースボールやバスケットボールに比べればまだまだなんでしょうけど、確実に伝わってますよ。

――カジュアルな楽しみ方ができているというか。

朝日　たぶん、それが世界的な現象なんじゃないですかね。たとえばフィリピンに行っても、テレビつけると「あ、宇野（薫）くんの試合やっとるわ」って。何気なく観ることができますからね。

――「テレビで観るスポーツ」としてあたりまえになってるのかもしれないですよね。

朝日　こないだも中村（〝アイアン〟浩士）と韓国に行ったんですよ。なんかやったんだかやらなかったんだかワケわかんない大会だったんですけど（笑）。そのときだって、吉田は韓国のファンに声かけられてましたからね。

――顔が知られてるんですねぇ。

朝日　で、「次は誰とやるんだ?」って聞かれて「アンソニー・ジョンソンだ」って答えたら「おお、そうか。ジョンソンってのはこういうファイトスタイルで……」って細かく教えてくれるんですよ（笑）。

――吉田選手どころかアンソニー・ジョンソンも知ってた、と（笑）。

朝日　だから日本だけエアポケットみたいになっちゃってるんですよね。吉田といえば、アメリカでは計量終わったら10メートル歩くのに20分くらいかかりますしね。サイン攻めで。

――ファイターがホテルを歩いてたりすると大変みたいですね。

朝日　「コイツ、日本では全然人気ないんだけどなぁ」って（笑）。会場の盛り上がりも凄いですよね。1万5000人規模のクラブって感じですよ。とにかくワーワー騒いでて、その途中でいきなり照明と音楽が変わって試合が始まる感じで。

――日本みたいな完成されたパッケージじゃなく、観客それぞれが勝手に楽しんでる感じがします。

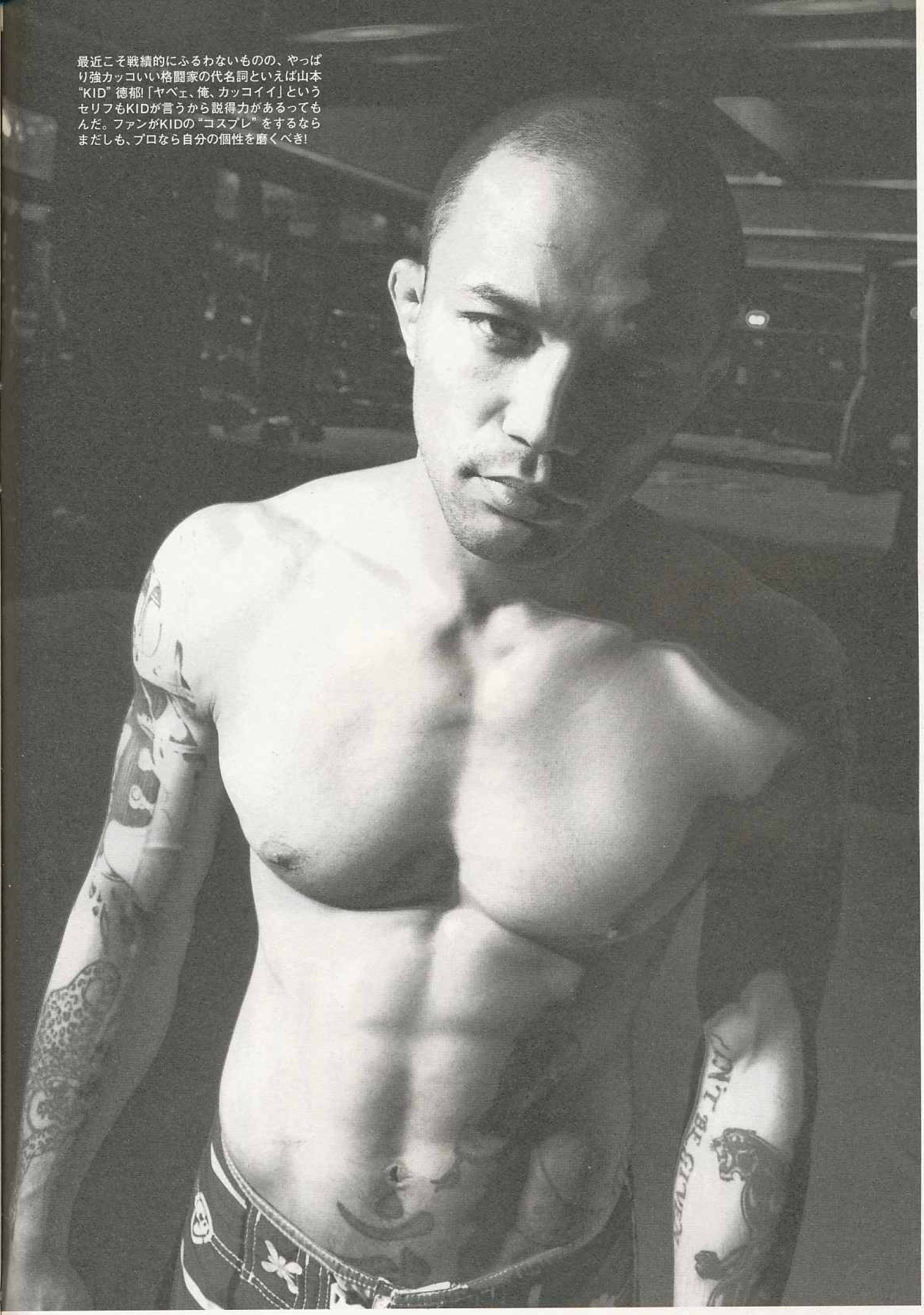
朝日　もちろん文化の違いもあるでしょうけどね。あとカジノ！　スポーツにも賭けられるじゃないですか。

――ああ、スポーツブックのコーナーがありますね。

朝日　ラスベガスのカジノで、UFCがヤンキースとかマンチェスター・ユナイテッドの試合と一緒に賭けの対象になってるじゃないですか。「ありゃりゃりゃりゃ……」って感じですよ。「これ、俺がやってたのと同じような競技だよな?」って（笑）。

――初期修斗から何万光年進んだんだって世界ですよね。時代は変わるなってい

う。
朝日　いや、もうね。「こんなことになっちゃってんのかよ。よかった、俺、早く辞めといて」って思いましたもん（笑）。
――クククク！　なんでですか（笑）。
朝日　いやもうね、凄い世界になってますよ。あれは日本人も味わっといたほうがいいです、絶対。
――さっきシルク・ドゥ・ソレイユの話をされてましたけど、朝日さん、セコンドでアメリカに行かれたときには、よくショーとか観に行かれるんですか？
朝日　ああ、もう年がら年中行ってますよ。
――セコンドでも、そういう時間はあるもんなんですね。
朝日　選手には、しかるべきときだけついてればいいんで。選手にしても、俺みたいなのがずっとついてたらイヤだろうから（笑）。だから、僕はホテルも別のときが多いですし、逆に「俺といると気ぃ使っちゃうだろ？」って思ってます。



最近こそ戦績的にふるわないものの、やっぱり強カッコいい格闘家の代名詞といえば山本"KID"徳郁!「ヤベェ、俺、カッコイイ」というセリフもKIDが言うから説得力があるってもんだ。ファンがKIDの"コスプレ"をするならまだしも、プロなら自分の個性を磨くべき!

いまはロンパン穿いてスミ入れて「みんなノリフミじゃねぇか!?」って

――むしろ、選手をリラックスさせておくのも指導者の仕事というか。
朝日　そう思ってます。選手に対しては、それがいいと思いますね。いい環境といいモチベーションを与えて、そのうえで邪魔をしないっていうのが選手に対する接し方ですね。
――なるほど。
朝日　僕が思うには、選手を育てるのと一般会員に教えるのって別ものなんですよ。全然、次元が違いますからね。
――初心者に基本を教えるのと、プロ選手を勝たせるのとでは求められる資質も違うでしょうしね。
朝日　そこが曖昧な部分はありますよね。一般会員に教えながら、世界で勝てるプロを生み出すのって容易じゃないと思いますよ。そういう部分で、日本はもっと大人のシステムを作っていかないと世界では勝てない。だってあんな、BJ（ペン）みたいなバケモンがいるんですから。まだ歴史が浅いからしょうがないけど、これから真剣に考えていかないと。「これ、どうやって勝つんだよ!?」って話じゃないですか。
――アメリカは練習環境も凄いでしょうしね。
朝日　クレバーなコーチが生まれてきているように思います。日本だと、野球でも過去に有名だった選手じゃないと監督になれない傾向に見えますよね。でもアメリカとかヨーロッパでは、現役時代の実績がなくても、監督として有名になった人がいっぱいいますよね。

アメリカ来たらせっかくやからハンバーガやピザを食べないと

――スター監督がいますね。

朝日　で、そういう人は稼げるし。優秀な選手を育てるには優秀な指導者がまず必要なんですけど、優秀な指導者が出てくるためには、その人にもお金が降りてくるシステムが必要なんですよね。そのへんも変えていかないと。

――なんだかんだ、お金は大事ですよね。

朝日　だって男ですよ!?　金の亡者になれってことじゃなく、自分の腕を磨いて、その腕を買ってもらって、腕一本で稼ぐ。こんなんあたりまえじゃないですか。

――「プロ」って感じがしますよね。

朝日　ガキの頃、ジャイアンツの柴田（勲）さんの家に行ったことがあるんですけど、目黒の超豪邸ですよ。そんでお年玉もらったりして。「カッコええ～！」ってなりますよね。そういう意味では、日本の格闘技は選手もスタッフの方も皆頑張ってるんですけど、業界として未成熟ですよね。イチローを見たら、子どもは野球選手に憧れるし、親もやらせたいって思うじゃないですか。だけど格闘技はねぇ。

――憧れませんかね？（笑）。

朝日　だって、あいかわらずケンカ自慢かバイト自慢ばっかりでしょ。それか減量自慢。減量はするのがあたりまえで、偉くないんだって！　そんなの誰が憧れるんだって話ですよ。

――逆に言うと、ＵＦＣは「憧れの世界」になってきてる感じですか。

朝日　そうでしょうね。だから世界中からトップ選手が集まってくるし。優秀なアスリートがどんどん総合をやるようになってきてますよね。そりゃあやりますよね、だって稼げるんだもん。

――昔、マーク・コールマンもレスリングだけでは食えないからＵＦＣに出たらしいですよね。

朝日　そういう選手は、これからもっと増えるんじゃないですか。ＷＥＣにも、ＮＣＡＡ（全米学生レスリング選手権）で何連覇したとか、そういうヤツが出てますからね。野球もそうですけど、これはもうどうにもなんないですよ。その現実をしっかり見ないと。

――朝日さんは昔からメジャーリーグが好きだったりするので、アメリカ格闘技にもなじみやすかったのかもしれないですね。

朝日　いや、ただひねくれてるだけですよ。なんでも横目で見るクセがあるから。それにしても日本って、「みんながいいって言うからいいんだと思う」って感性が強すぎないですか？

――ああ、そういう傾向はありますね。

朝日　ファッションでも音楽でも、もっと「自分はこれがいいと思った」って直感を大事にするべきだと思うんですよね。僕なんか、音楽はいまだに木村カエラとかジュディマリを聴いて喜んでる。「だって脳みそがハッピーになるから」って。それでいいんですよ。格闘技だってそうで、直感でやったほうがうまくいくことって多いんですよね。

――自分がいる場所の常識に縛られることはない、と。

“奇人”朝日昇が語る

ああ憧れのUSA

朝日　なんかいま、ロンパン穿いてスミ（タトゥー）入れてハゲ（坊主）にしてっていうヤツが多くないっすか？　「みんなノリフミ（山本“ＫＩＤ”徳郁）じゃねぇか!?」って（笑）。もっと自分の感覚を信じてやれば、おもしろいことができると思うんですけどね。その感覚を磨くためにも、外に出てみたほうがいいですよ。海外に行くと、逆に日本の凄さもわかるし。

――海外に行って、自分が日本人であることに自覚的になる人は多いですよね。

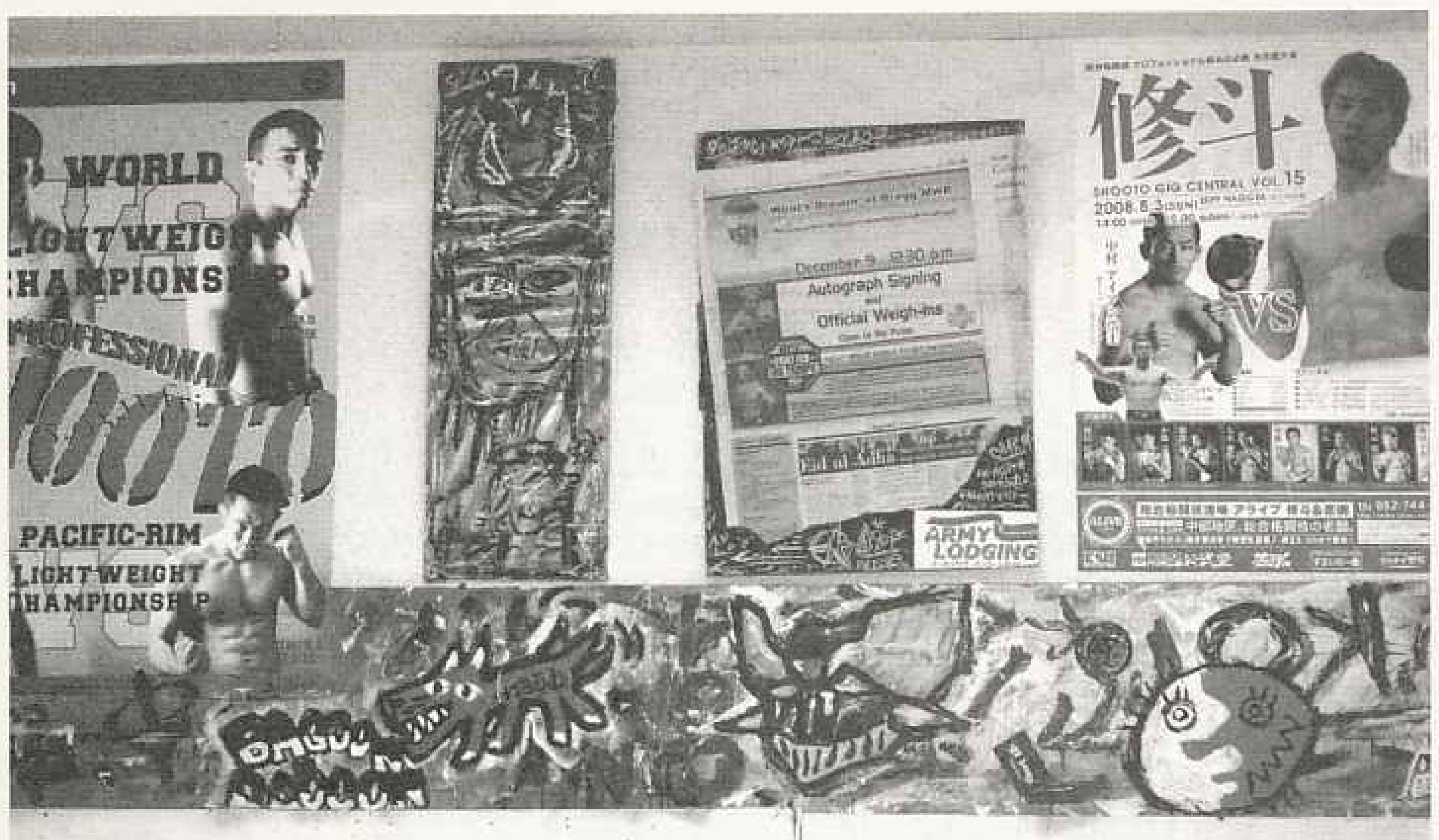
朝日　だって、昔の日本なんて凄いですよ!?　着物にチョンマゲって、ほかのどこにもない凄い文化じゃないですか。

――確かに凄いですよね（笑）。

朝日　だから、ホント若い人には海外に行ってほしいですよ。ただし、デューティーフリーには行くな！（笑）。

――デューティーフリーは万国共通でおもしろくないですね。

朝日　どこがおもしろいんだって思いますよ。それより、地元の人間と遊んだり、地元の人間が行く店で買い物したほうが楽しいですよ。「ここどこ？」みたいな。昔、エンセン（井上）の試合でアメリカ行ったときに、安西さん（元『格闘技通信』編集部員）も一緒だったんですけど「和食食べたい」「中華がいい」って。「なんでアメリカでそんなもん食うんだ!?」ってみんなに怒られてた（笑）。まあ、胃はエライことになりますが、アメリカ来たらハンバーガーやピザ食べたい。せっかくやから。そうすると、日本の食べ物がいかに繊細かもわかるし。アメリカの食べ物なんて、あれケチャップとマスタードの味しかしないっすか



現在はイラストレーターとしても活動している朝日。ジムの壁には修斗のポスターと一緒に朝日直筆のアメリカンテイスト（?）あふれるポップなイラストが!「ジムの子どもに絵を描かせるんですけど、子どもの感性って凄いですよ。見てると凄く勉強になりますもん」（朝日）。



これぞUSサイズ！　ハンバーガー一つとっても日本と比べてバカデカい国、それがアメリカ。米と味噌汁の国から来た人間にとっては、カルチャーショックを受けること請け合いだ。「大雑把で油っこいんだけど、やっぱ向こうで食べると味わい深く感じるんですよ」（朝日）

らね（笑）。でも、凄いもんは凄いじゃないですか。それは見ればわかるんですよね。

――それこそメジャーリーグとか。

朝日　アトランタに行ったときは、球場を発見して大興奮しましたもん。

――あ、試合を観にいかれましたか。

朝日　もう……すべてがカッコよくて、3時間立ち上がれなかったですよ。まずね、イスからしてカッコいい。

――メジャーリーグはイスもカッコいい！（笑）。

朝日　なんかビンテージっぽい感じで、ブレーブスのロゴが書いてあって。「家でもこれに座りてぇ！」って思いましたよ。「野球場」じゃなくて「ボールパーク」って感じで楽しいんですよね。イニングごとにイベントがあったり、あと7回になると『Take Me Out to the Ball Game』をみんなで歌って。僕、以前携帯の着信音にしてたんですよね。もうたまらんかったです！

――ホントに大興奮ですね（笑）。

朝日　一緒に行った人は大迷惑ですけど（笑）。応援の仕方も、ランナーがいるときといないときでは違うんですよね。で、ピッチャーがセットポジションに入ったら声は出さない。

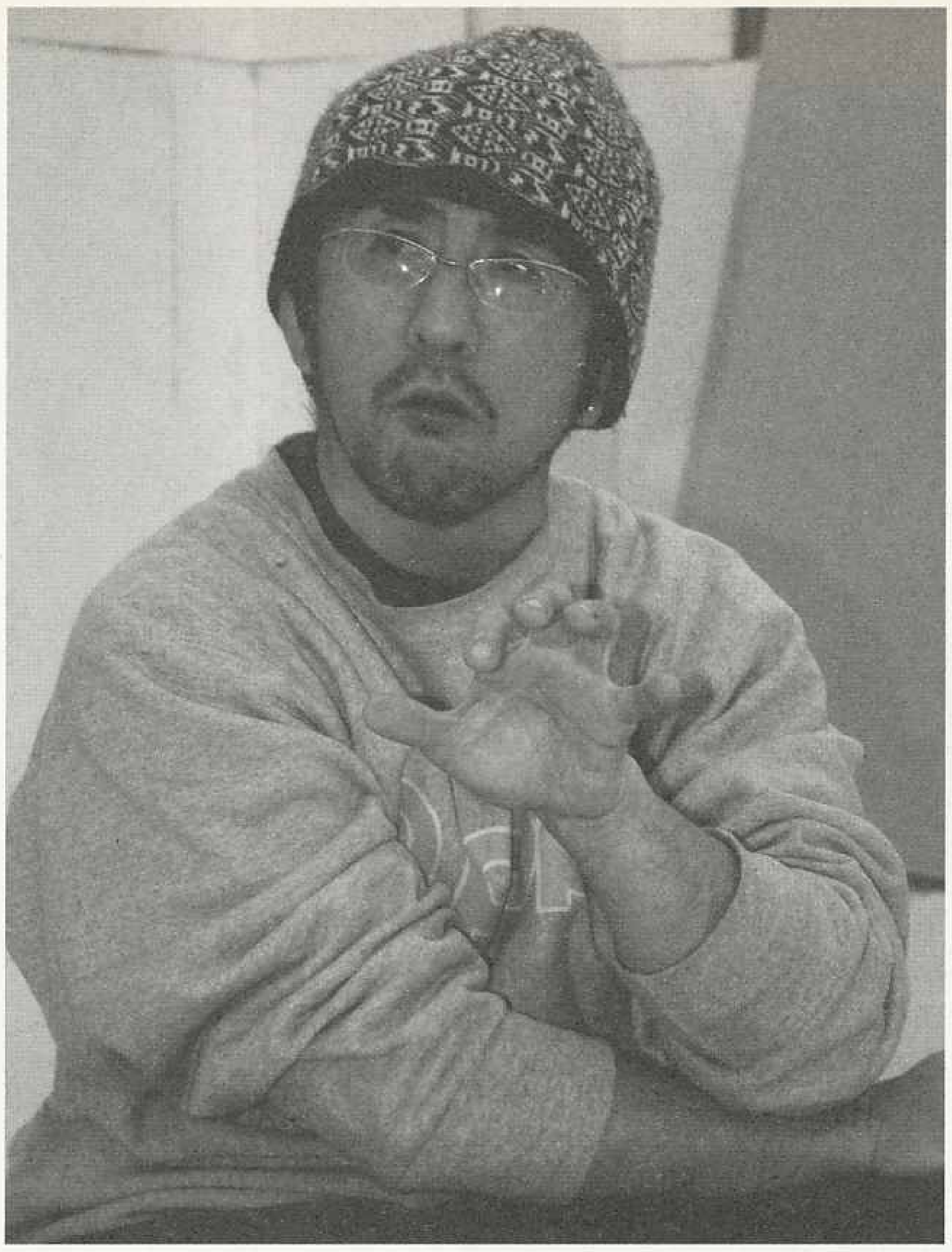
――競技の邪魔はしない、と。

朝日　タイミングがわかってるんですよね。そういうのも「いいなぁ」って。ブレーブスって、斧のおもちゃみたいなの持って応援するじゃないですか。

――トマホークチョップっていう、名物になってる応援がありますね。

朝日　あれ、僕も思わず買いましたもん。もうね、すべてが凄かった。「あぁ、これが小学生の頃から観たかったんだよ……」って。それでもう3時間立てなくなっちゃった。

――朝日さんは子ども時代からメジャーリーグのグッズを買ったりしてたんですよね。



あさひ・のぼる■1968年1月5日、神奈川県出身。第3代修斗世界ライト級王者。修斗四天王の一人として、90年代のMMA黎明期に活躍。現在は格闘家を引退、ジムで後進の指導にあたるかたわら、A-popの名前でデザイナーとしても活動中。朝日画伯のイラストも見られる東京イエローマンズHPはこちら→http://www.tacox.jp/

“奇人”朝日昇が語る

ああ憧れのUSA

メジャーリーグはすべてがカッコよくて3時間立ち上がれなかったです

朝日　飯田橋に店があって、住んでる横浜から行ってましたよ。ユニフォームがほしかったんですけど「2万円か……」って。で、マグネットとかエンゼルスのキャップ買ったりして。メジャーリーグって、なんかカッコいいんですよね。ロゴのデザインとかもいいじゃないですか。

――日本とは違う雰囲気ですよね。

朝日　それがいいんですよね。僕、絵も好きなんで、デザイナーとしてメジャーリーグ機構で雇ってもらいたいとか考えてましたもん。アメリカの雑誌の中で絵描きたいなとも。ポスターとかも、アメリカとかヨーロッパのデザインはカッコいいんですよね。前、4代目タイガー（マスク）がイギリスのお土産にプロレスのポスターを買ってきてくれたんですけど、それがジャズクラブに貼ってあるような感じでカッコいいんですよ。部屋に貼れる感じで。

――どんなジャンルでも「カッコいい」「楽しい」っていうのは重要ですよね。

朝日　日本の格闘技のポスターなんかねぇ。「こんなん貼れるか！」ってのばっかりじゃないですか（笑）。スポーツイベントってグッズ収入も大事じゃないですか。で、そのためにはファンがほしくなるようなものを作るべきですよね。だから僕、修斗のプロデューサーだった頃に「みんなが着れるようなTシャツを作らにゃいかん」と思ってましたから。

――修斗のTシャツブームの原点は朝日さんでしたか。

朝日　その頃はもっと若かったし、オッサン文化を壊したかったんですよね。「オッサンの感覚でやってるものは、みんなぶっ壊してやる！」って。時代は動いてるのに、オッサンが昔の感覚でやってたってしゃあないんですよ。

――時代の動きということでいうと、これからはUFCに憧れて格闘技を始める若い世代も増えるんでしょうね。

朝日　あ、もういますよ。こないだ見学に来た15歳の子に「誰のファンなの？」って聞いたら「BJペンです」って（笑）。そんな時代が来てるんですよ。ジムでも、UWFを知らない選手がいますしね。「じゃあ長州力って知ってる？」って聞いたら「長州小力ですか？」って（笑）。

――そういう時代なんでしょうね（笑）。

朝日　それでいいんですよ。僕の現役時代を覚えててくれる人がいるのはうれしいしありがたいけど、いつまでもそれじゃダメですからね。「朝日さんって格闘技の選手だったんですか？」って言われるぐらいでいいんですよ。もうそういう時代なんだから。

――昔を振り返るよりいまを見ろ、と。

朝日　そう。いまの最先端を観るんだったら絶対アメリカですよ。ファンの人にもマスコミの人にも、とにかく観てほしいですね。とにかくカッコいいし楽しい、凄いってもんを観といたほうがいいですよ。

【10年2月9日／都内・東京イエローマンズにて収録】

kamipro books 驚ガク！ 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ！ 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男



秋山成勲なのか
チュ・ソンフンなのか――。

2006年12月31日大晦日『Dynamite!!』秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションである。

B6変型判 264ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画



ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年――世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘！ さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録！

B6変型判 292ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

新日本プロレス学習帳



"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発！

★鈴木みのる＆獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉＆金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー＆関係者のインタビューが一冊に！ これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり！

B6変型判 320ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

八百長★野郎



ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載！

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考！ "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る！

B6変型判 296ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

生前追悼 ターザン山本！



え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証！

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る！

B6変型判 304ページ
定価＝1,470円（本体1,400円＋税）

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇



プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣★金原弘光★真樹日佐夫★三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り！

B6変型判 304ページ
定価＝1,890円（本体1,800円＋税）

U.W.F.変態新書



ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐！

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本！★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か？（菊地成孔スペシャルインタビュー）★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す！

B6変型判 296ページ
定価＝1,680円（本隊1,600円＋税）

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1



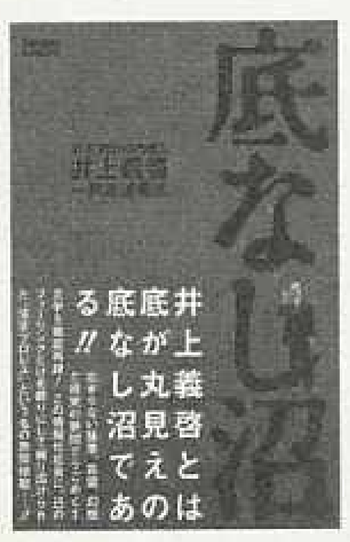
吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最還傑作！

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価＝1,890円（本体1,800円＋税）

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本



井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である――!!

★『週刊ファイト』＆『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本＆吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録！

B6変型判 312ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集



破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★折鶴兄弟 ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん！ みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録！

B6変型判 304ページ
定価＝1,890円（本体1,800円＋税）

enterbrain 発行／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）
発売／株式会社角川グループパブリッシング
［エンターブレイン総合サイト］http://www.enterbrain.co.jp/

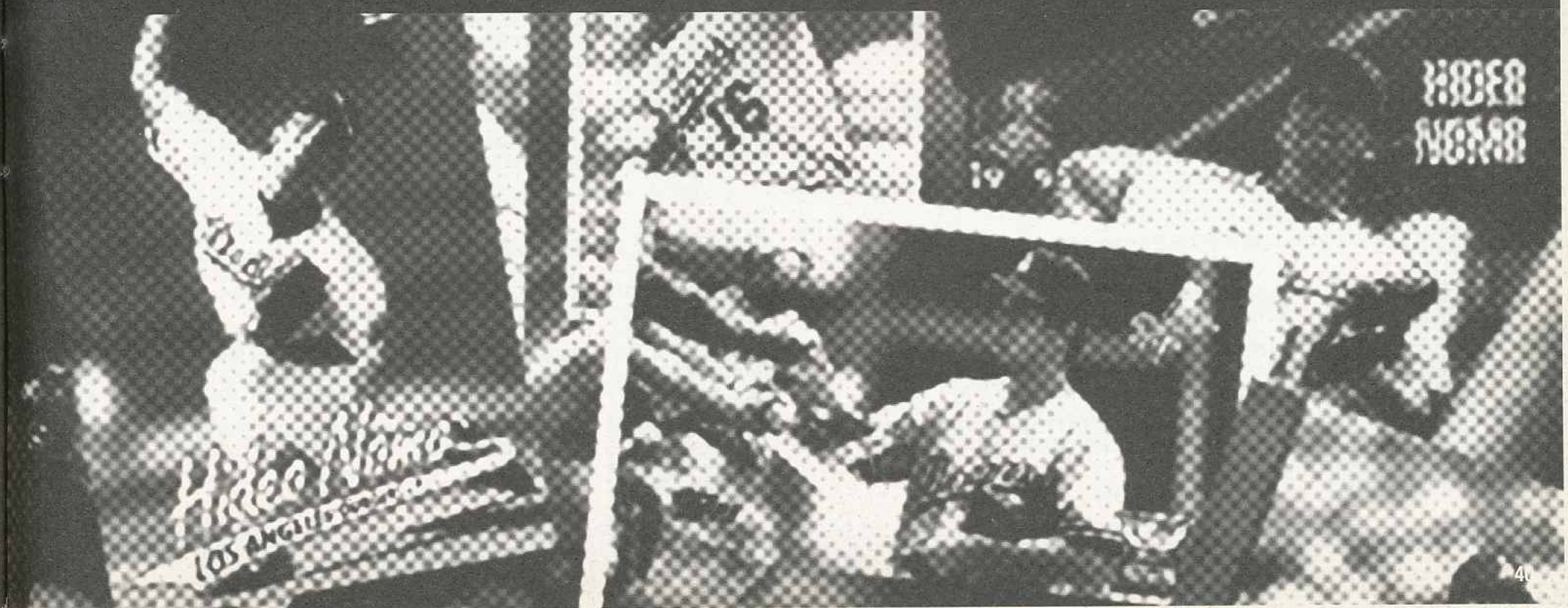


いま、アメリカ行きは日本マット界の“ロマン”なのか？

野茂英雄から考える 日本人格闘家のメジャー挑戦

日本人格闘家の中で“野茂英雄”は現われるのか!? 日本人ファイターのUFC挑戦はもはや珍しいことではないが、
他ジャンルながらメジャー挑戦の先駆け的存在である野茂英雄ほどのインパクトを残した選手はまだ誕生していない。
はたしてこれから先、“野茂”のような活躍を見せる日本人ファイターは誕生するのか？
野茂の例から見る格闘技界の課題とこれからを検証した。

文／橋本宗洋



日本人格闘家がUFCと契約したというニュースを目にするたび、僕は野茂英雄のことを思い出す。単純に〝メジャーリーグ挑戦〟ということからの発想でしかないのだが、そこには現在のMMAを考えるうえでのヒントもありそうな気がする。

「野茂みたいな格闘家って、まだいないんじゃないか」

「野茂みたいな格闘家が出てきたら、この世界の〝日米関係〟は劇的に変化するんじゃないか」

そんなふうに、つい考えてしまうのだ。

ロサンゼルス・ドジャースに入団する以前、日本球界にいた頃も、野茂はまぎれもなく最高峰の投手だった。トルネード投法から繰り出される豪速球とフォークボールは、文字どおり旋風を巻き起こした。

近鉄バファローズ入団1年目の1990年、彼は勝利数、勝率、奪三振、防御率と、救援部門以外の投手タイトルを総ナメにし、MVP、新人王、沢村賞も受賞する。シーズン奪三振率10・99、1試合17奪三振は当時のプロ野球新記録だった。それから93年まで、4年連続で最多勝を記録。通算1000奪三振はプロ野球最速記録である。

日本球界の頂点にいた野茂が〝スキャンダル〟の主役となってしまったのは、入団5年目のシーズンを終えた94年の暮れから95年の初めにかけてのことだった。複数年契約と代理人交渉を認められなかった彼は、メジャーリーグ移籍への道を選んだのである。

前例のない選択、ネガティブに言うなら〝掟破り〟に、マスコミは大バッシングを展開した。協約違反である事前交渉が取り沙汰され、「裏切り者」「どうせ通用しない」といった論調が幅をきかせていく。当時の日本プロ野球コミッショナーは、全球団に「第2の野茂を出すな」と通達したという。

ところが、いざドジャース入団が決まり開幕を迎えると、うって変わって〝野茂フィーバー〟が始まった。前年度はケガで不調に終わったものの、日本で最高の投手がメジャーリーグに挑戦するのだ。そこにロマンを感じない者などいなかった。

ましてや彼は、単に〝日本から追われた〟わけではなかった。アマチュア時代にソウル五輪で銀メダルを獲得、キューバの強打者たちと真っ向から渡り合った野茂にとっては〝世界〟こそが基準だったのだ。メジャー移籍は、必然と言ってよかった。

そして野茂は、凄まじいばかりの期待に完璧に応え、不安視する声を見事なまでに封じてみせた。13勝6敗、防御率2・54という成績で、奪三振王（236）と新人王のタイトルを獲得してみせたのだ。

オールスター戦には先発で出場。この活躍ぶりに、数ヵ月前に野茂を批判したコミッショナーは「日本人として誇りに思う」とコメント。おそろしいほどの手の平返しだった。

だが、野茂は「日本人の誇り」では収まらなかった。メジャーリーグの誇り、希望の象徴でもあったのだ。彼がドジャース入りする前年、メジャーリーグは労使交渉のもつれから選手会がストライキを決行していた。メジャーリーグでの労使交渉のもつれとは、言い換えれば〝金持ち同士のケンカ〟である。ファンは球団にも選手にも愛想をつかし、ベースボールの人気はガタ落ちになった。

そこへ、野茂が登場したのである。バファローズ時代の彼の年棒は、1億4000万円だったという。それに対して、ドジャースとのマイナー契約で得たのは980万円。年棒が14分の1に下がっても、アメリカでプレーすることを選んだのだ。そんな男の活躍に、アメリカの野球ファンは喝采を惜しまなかった。

野茂が野球界に与えたようなインパクトはまだない

もちろん、野茂のメジャーリーグでの経歴すべてが順風満帆だったわけではない。ケガに苦しみ、のべ8球団でプレー。手術とリハビリでシーズンを棒に振ったことも、アメリカのチームと契約できずにベネズエラでプレーしたこともあった。

何度も所属チームを変える〝ジャーニーマン〟としての選手生活を送りながら、彼は2008年の引退表明まで、日米通算で201の勝利と3122の奪三振を積み上げたのだ。どんな苦境にも、彼は表情を変えることなくプレーを続けた。作家ロバート・ホワイティングは、野茂のことを『アメリカ人が賞賛するタイプの男』だと書いている。

『孤高のアウトサイダーであり、口数が少なく、どんな挑戦にもひるまない。決してあきらめず、常にベストを尽くす男。ジョン・ウェインやクリント・イーストウッドが、映画の中でそういう男を演じている』（『Number』714号）

日本国内で図抜けた成績を挙げ、批判にさらされても〝自分がやりたいこと〟をやるために最高の選手たちが集まる舞台に移籍する。どんな苦境にもクールかつタフな態度を貫き、外国の地で〝お客さん〟としてではない評価を獲得する――。そんな、野茂のような日本人格闘家は、いまだに出現していないのではないか。

たとえば髙阪剛には、日本にリングスという所属団体があった。アメリカでの活躍ぶりで言えば岡見勇信だが、彼は日本での実績が乏しい。佐藤ルミナをKOし、修斗のタイトルを防衛した直後にUFC登場をはたした宇野薫はかなり野茂に近い存在だったが、当時の日本にはPRIDEがあったため、UFCが〝メジャーリーグ〟として認識されていなかった。現在、宇野は再びUFCに参戦しているが、青木真也に敗れ、川尻達也戦が実現しないままだから「DREAMから戦線離脱してしまった」というイメージも拭いがたい。

PRIDE活動休止後、いち早くUFCに参戦した郷野聡寛と長南亮は、残念ながら結果を残すことができなかった。そして五味隆典は現役最後のチャレンジといった趣で、「どうしてもUFCじゃなければ」という選択には思えない。

もちろん、彼らの勇気と実力に疑う余地はない。ただ、野茂が野球界に与えたようなインパクトを残した日本人格闘家は、まだ存在しないのだ。日本格闘技界は〝野茂以前〟の状態にあると言っていい。

もし野茂のような格闘家が登場すれば、UFC参戦は、いま以上に純粋なロマン、つまり強さを追い求めた結果としての自然な流れとして捉えられるようになるはずだ。イチローや松井秀喜、松坂大輔のように、全盛期に積極的な選択としてUFCと契約する選手が大量に出てくる。日本の球団に対してドラフト指名を見送ってほしいという文書を送付した田澤純一のように、最初から日本でプロになる気のない格闘家が出てくるかもしれない。

当然、そこには人材の海外流出という問題がある。とはいえ、格闘技の世界における〝精神的国境〟が取り払われる瞬間を見たいという気持ちも、僕の中には確かにあるのだ。



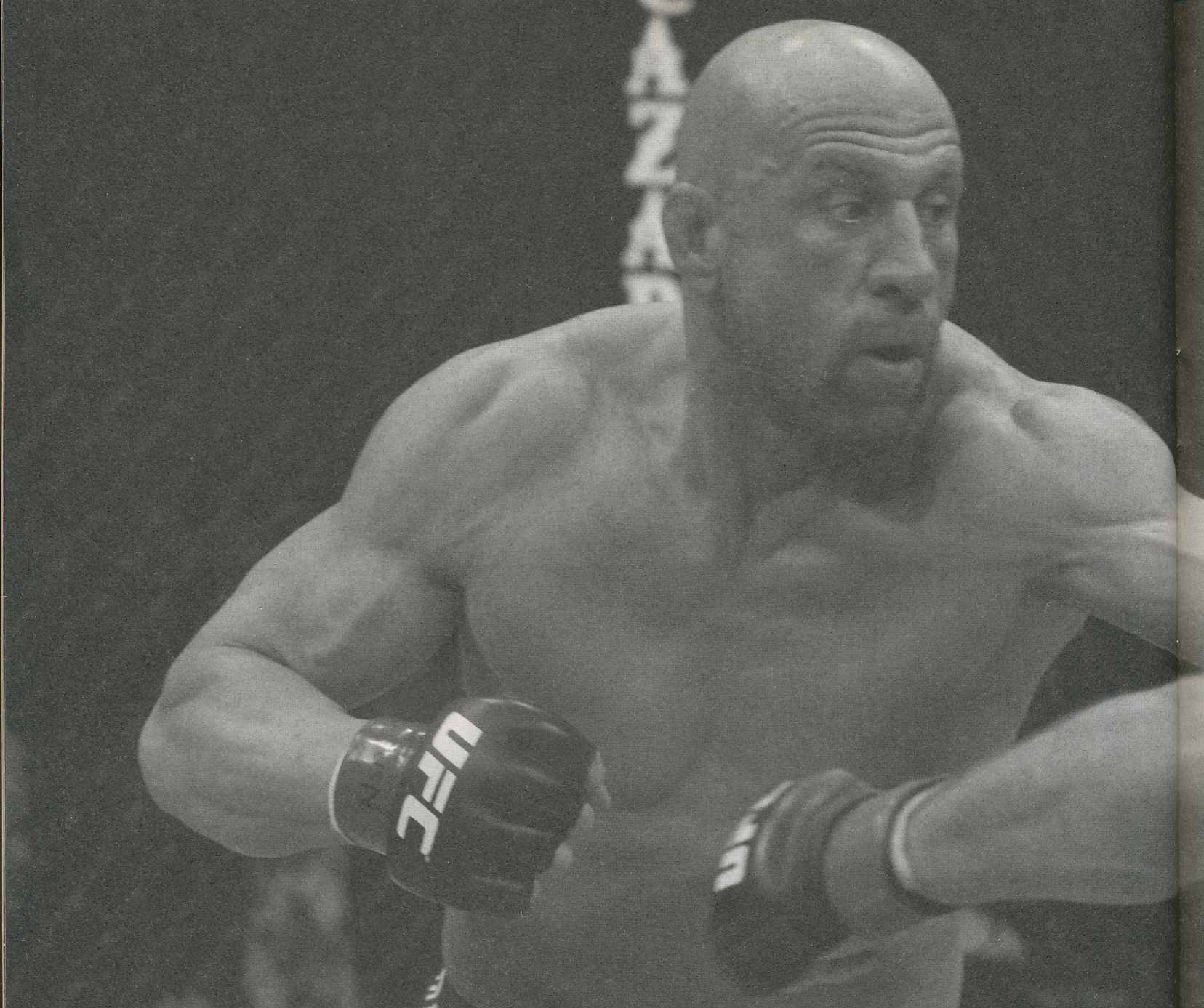
リングに己のすべてを叩きつける熱血オヤジの壮絶半生——

マーク・コールマン 不屈の生き様



2.6『UFC109』において、ランディ・クートゥアーとの
UFC史上初の"殿堂入りファイター"同士の一戦に臨んだコールマン。
45歳のリビングレジェンドはなぜ闘い続けるのか?
そこには一人の不器用で無骨な男の人間ドラマがあった——。

文／橋本宗洋　構成／鈴木佑　撮影／Josh Hedge（UFC）、乾晋也



マーク・コールマンが残した実績は、誰がどう見ても超一流と言えるものだ。レスリング（フリースタイル）の世界選手権で準優勝し、バルセロナ五輪では7位。その実績が認められ、故郷であるオハイオ州のレスリング殿堂入りもはたしているというコールマン。

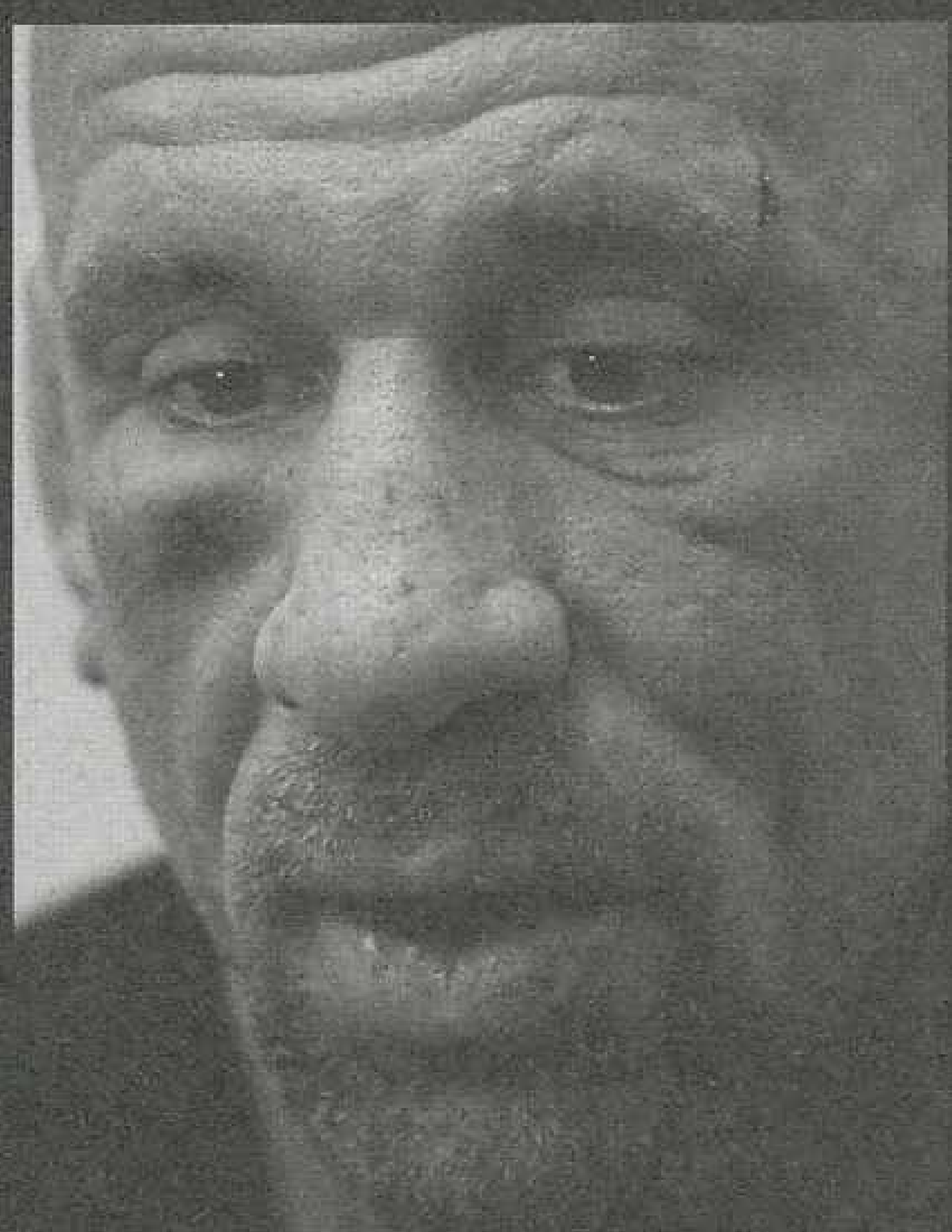
1996年、UFCに参戦すると、卓越したテイクダウン能力と強烈なパウンドでトーナメントを制覇。1997年にはダン・スバーンとの王座決定戦に勝利し、UFC世界ヘビー級タイトルを獲得している。

1999年からはPRIDEに主戦場を変え、2000年の『PRIDE GP』で優勝。その後〝世界最高峰〟の舞台だったPRIDEでアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ミルコ・クロコップ、エメリヤーエンコ・ヒョードルらと激闘を展開した。PRIDEアメリカ初進出となる2006年10月のラスベガス大会では、ヒョードルの対戦相手としてメインイベントに登場してもいる。

そして2008年にUFCの殿堂入りをはたすと、PRIDEにかわって〝世界最高峰〟の戦場になっていたオクタゴンへの復帰を宣言。2009年1月のマウリシオ・ショーグン戦ではTKO負けを喫したものの、試合終了寸前まで粘りぬき、この大会のファイト・オブ・ザ・ナイト（ベストバウト）を受賞している。

UFC復帰2戦目の相手はステファン・ボナー。UFCがブレイクするきっかけとなったリアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター』出身者であるボナーは、いわばUFC新世代である。そんな選手と、初期UFCの看板選手だったコールマンによる新旧対決と









［10.2.6『UFC109』］

◯ランディ・クートゥアー vs マーク・コールマン×

（2R 1分9秒 裸絞め）

コールマンは約13年ぶりのUFCメイン登場。1R中盤からクートゥアーがパンチ、金網際のテクニックで戦局を優位に進めると、2Rにはグラウンドでマウントを奪取し強烈なパウンド。それを嫌がるコールマンが背を向けたところで、チョークを極めたクートゥアー。鉄人がオクタゴンでの経験の差を見せつけて、コールマンから完勝を収めた。

いうわけだ。そして、この時代を感じさせるカードは、コールマンの判定勝ちに終わる。

〝旧〟の必死の頑張りが〝新〟を食う。この試合で残したインパクトにより、コールマンは『UFC109』のメインイベント出場のオファーを受けることになった。対戦相手はランディ・クートゥアー。MMAのリビングレジェンド対決である。

こうしてコールマンのキャリアを簡単に振り返ってみると、文句のつけようがない。スポーツエリートであり、不屈の闘志で闘い続ける大ベテラン。タックルで相手を倒し、パウンドでダメージを与えるというシンプルにして効果的な戦法も、コールマンの活躍によって認知された部分が大きいのではないか。そう考えると、コールマンは〝偉人〟と言ってもいい。

だが、それはあくまでも表面上の話だ。もう少しだけコールマンの人生を掘り下げてみると、そこには単なるスポーツエリートでも、きれいごとだけの〝偉人〟でもない姿が見えてくる。あまりにも人間くさい、一人の中年男の貌が浮かび上がってくるのだ。

そもそもの話をすれば、コールマンがプロになったのはレスリングだけでは生活できなかったからだ。PRIDEでの髙田延彦戦も、言ってみれば生活のための試合だったのだろう。生きていくため、食っていくためなら、彼はプロレスのリングにも上がった。それも〝格闘スタイル〟の試合だけでなく『ハッスル』にも。

同時に彼は、何度となく評価を地に落としながら、そのたびによみがえってきた。UFCで連敗し、PRIDEで髙田

に敗れ、しかし翌年には『PRIDE GP』優勝。決勝戦でイゴール・ボブチャンチンを倒した瞬間、思いきり飛び跳ね、さらにはリングを降りて観客と抱き合って喜びを爆発させた。

コールマンは、ラスベガスでのヒョードル戦に、両親と娘二人を招待している。生真面目なアメリカ人記者からは幼い子どもに殴り合いを見せることを非難するような質問も飛んだが、コールマンの気持ちはあくまでも熱く、純粋だった。離婚したため娘たちと離れて暮らしていた彼にとっては、闘う姿を見せることだけが父親としての存在証明だったのだ。

「いまの私の人生は、子どもたちのためにある。それに両親はずっと私をサポートしてくれた。こうしてまたアメリカに戻ってきて、子どもたちと両親の前で試合ができるなんて。言葉にならないよ……」

試合を前にした公開練習で、コールマンはそう言って涙を流した。

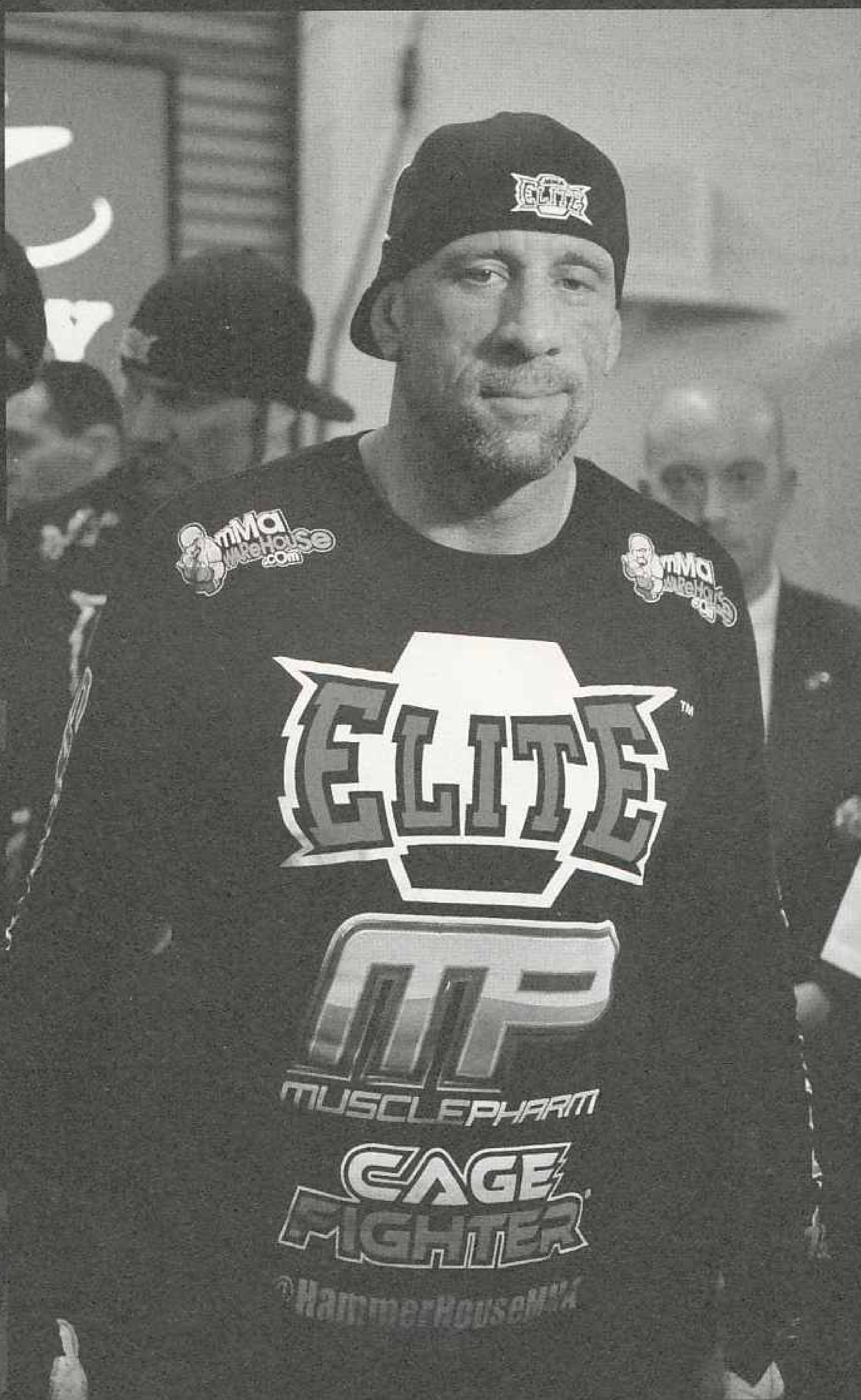
UFC復帰2戦目のボナー戦でも、彼のモチベーションは娘たちだった。弟分であるフィル・バローニは、試合後にコールマンの"闘う理由"を明かしている。

「(マークの)前のワイフは娘に『あなたたちの父親はダメな男だ』って教えてるんで、マークは娘に嫌われるのが寂しくて仕方がないんだ。だから、マークはそれを見返すためにも絶対に勝たなきゃならなかった」

バローニによれば、コールマンは試合に勝った直後、ロッカールームから娘たちに電話をしたそうだ。そしてこう伝えたという。

「俺はルーザーじゃない。お父さん、勝ったぞ！」

選手生活をどう締めくくるのか――それはコールマンにしか決められない



コールマンにとって、格闘技は単に勝ち負けを競うスポーツではない。ただ金を稼ぐだけの手段でもない。全人生、全人格を懸けて挑む闘いなのだ。闘いと人生はイコールなのだと言ってもいい。そして、彼はそのことを隠そうとしない。全力で闘い、全力で笑い、全力で泣き、己の人生を観る者すべてに叩きつける。

「ショーグン戦に負けているから、マークはボナー戦にも負ければ契約を切られる可能性があった。でも、ヤツはサラリーマン経験を送ったことがないから、9時から5時までの仕事ができない男なんだ」

バローニはそう語っている。試合前の練習でも「ノーモア9 to 5！」という檄を飛ばし続けたそうだ。

そういう男が、格闘技を奪われたらどうなってしまうのだろうか。クートゥア戦で、コールマンは一方的な展開の末に敗れ去った。試合後、ダナ・ホワイトはコールマンに引退勧告ととれるコメントを残し、実際、彼をリードした。だが……。

クートゥアーの裸絞めにも、コールマンはタップしなかった。失神してレフェリーがストップするまで、試合をあきらめなかったのである。客席から罵声を浴びせたティト・オーティズには、生中継のインタビュー中にもかかわらず「FUCK！」と応戦した。枯れた様子などどこにもない。熱くなったら止められない。それがコールマンという男なのだ。

選手生活をどう締めくくるのかも、コールマン自身にしか決められないのである。これまでの人生が、そうだったように。

シークはスペシャルな男さ。彼のこのスポーツへの情熱がMMAを巨大化させる



——ヘンゾ・グレイシー

UFC、アブダビ進出の陰にこの男あり!
ヘンゾ兄貴が4.10『UFC112』出陣!!

RENZO GRACIE

ヘンゾ・グレイシー

「アブダビ王子との関係を話そう」

格闘技をこよなく愛し、『アブダビコンバット』の主宰者として知られる、UAEアブダビのシーク・タハヌーン王子。その王子が持つ投資会社フラッシュ・エンターテインメント社が先頃、UFCの株を10パーセント取得。ビジネスパートナーとなったことが発表された。このUFCとオイルマネーの強力合体実現に関わったと言われるヘンゾ・グレイシーに、シーク王子との関係について聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫、Josh Hedges（UFC）　通訳／石井史彦

——ヘンゾさん、待望のUFC初参戦が決まったいまの気持ちを聞かせてください！

ヘンゾ　ついにUFCと契約したよ、最高の気分さ。〝手遅れ〟になる前に契約できたんだからね（笑）。

——手遅れって（笑）。

ヘンゾ　自分の年齢のことはしっかり認識しているからね（笑）。でも、自分としてはまだまだできると思っている。すでにトレーニングも始めて、ウェルター級で試合をするために13キロも減量したんだよ。とにかく試合をすることが待ち遠しくてしょうがないんだ。

——UFC参戦はいつ頃から考えていたんですか？

ヘンゾ　UFC参戦は以前からボクにとって目標であり、やらなくてはいけない課題の一つだとは思っていたけど、現実問題として考えたのはちょうど3カ月前なんだ。アブダビに行ったとき、ロレンゾ（・フェティータ＝UFCオーナー）とダナ（・ホワイト＝UFC代表）と会ってね。彼らに「試合をしないかい？」って言われて、素晴らしいアイデアだと思い契約の話を進めたんだよ。そして、すぐにUFC参戦のためのハードトレーニングを始めたんだ。

——レジェンドとして名声があり、コーチとしての手腕もすでに高く評価されているあなたが、42歳にしてUFCに初出場しようと思ったのはなぜなんでしょうか？

ヘンゾ　ボクはこのスポーツに情熱を傾けているし、そもそも闘うことが大好きなんだよ。また、MMA崇拝者の一人として、このスポーツのスタンダードをファミリーに語り継いでいきたいんだ。自分が試合に出ることによって、子どもたちや若い世代のグレイシーが実際に試合を観ることになるだろうし、それによってMMAに



興味を持たせる動機作りをしたいんだ。

——新たなグレイシー戦士を生み出すための動機にしたい、と。

ヘンゾ　また一人のファイターとしては、このスポーツには年齢の影響が絶対ではないということも証明したいし、自分を信じて鍛錬し続けるかぎり、いくつになってもできるということをわかってほしいんだ。昔は「体重差は関係ない」ということをグレイシーが証明してきたけど、「年齢も関係ない」ということをボクは証明したいんだ。〝インポッシブル・イズ・ナッシング〟ということさ。

——では今回、UFC参戦が決まるまでの経緯を詳しく教えてください。

ヘンゾ　ロレンゾとダナに、「ぜひUFCに参戦してくれ」って懇願されたんだ。そのときは約2年半ほど試合のためのトレーニングはしてなかったんだけど、いいチャンスだと思ってすぐに「それはいいアイデアだ」と答えて、その場で参戦することを決意したんだよ。

——即決ですか。ちなみにUFCとは何試合契約なんですか？

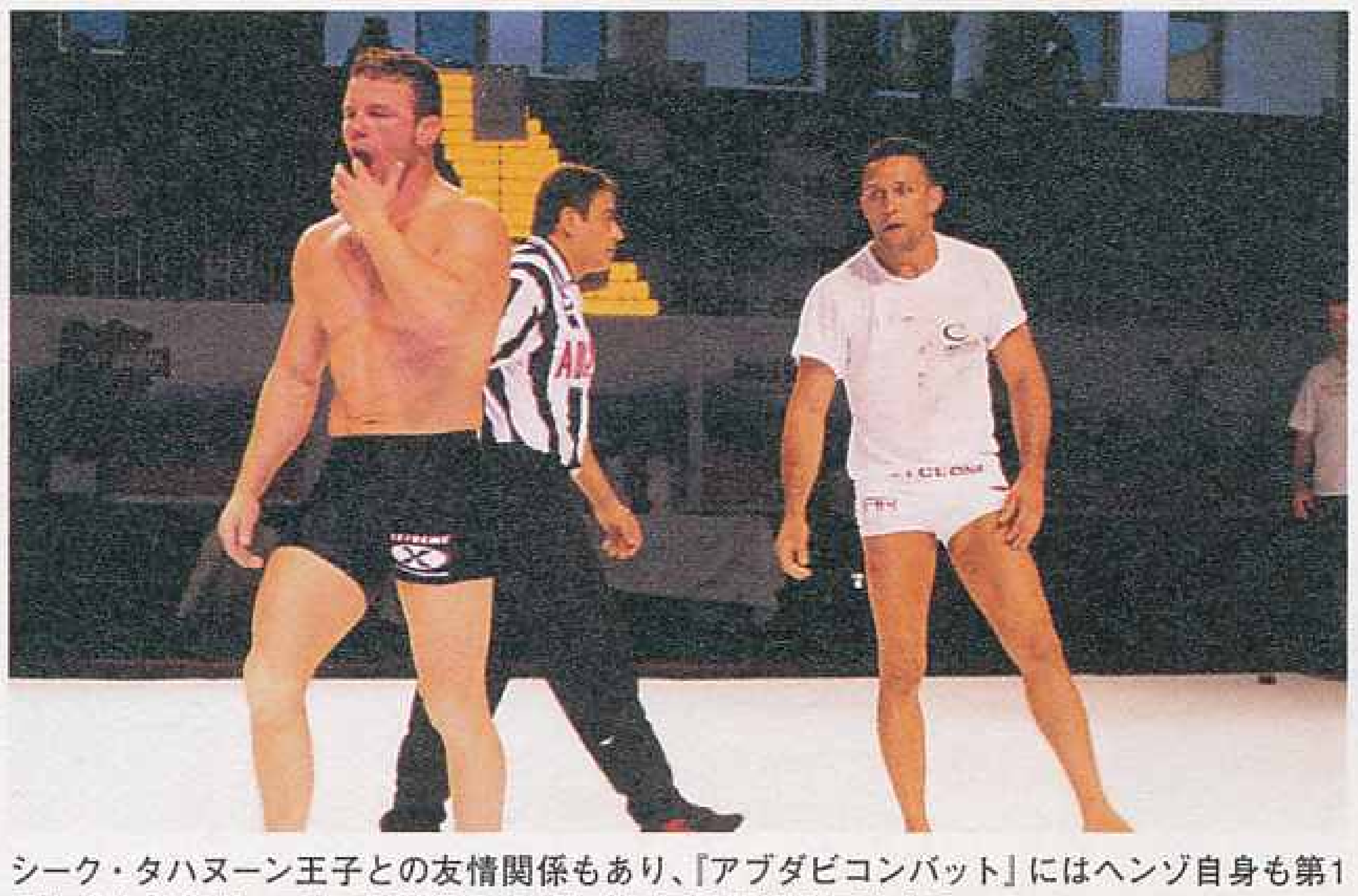
ヘンゾ　UFCからのオファーは3試合だったんだけど、6試合にしてもらった。

——6試合！　それはずいぶん長いですね。

ヘンゾ　ボクが「6試合やりたい」と言ったら、彼らに笑われたけどね、「信じられない」って（笑）。でも、さっきも言ったとおり年齢は関係ないと思ってるし、「やる」と決めたら、自分自身としても腰を据えて〝戦士〟に戻るために希望したんだ。

——そして最初の対戦相手がマット・ヒューズに決まりましたけど、ヒューズはかつてホイス・グレイシーに完勝した選手です。UFCデビュー戦でその彼と対戦するのは、あなたやグレイシーファミリーにとって大きな意味がありますか？

シーク王子がボクの道場で柔術を習い始めてから親友となり、もう14年以上の付き合いになるよ



シーク・タハヌーン王子との友情関係もあり、『アブダビコンバット』にはヘンゾ自身も第1回大会から出場。77kg未満級の第1回、第3回の優勝者でもある。



06年5月、じつに12年ぶりにUFCに出場したホイスだったが、マット・ヒューズに何もできずTKO負け。今回のヘンゾvsヒューズはグレイシー一族にとってのリベンジマッチか。

ヘンゾ　ホイスの試合はともかく、契約の条件として「ベストのファイターとタフなファイトを組んでくれ」と言っておいたんだ。その中の一人がヒューズだった。

——マット・ヒューズ戦はあなたが希望したのでしょうか？

ヘンゾ　そのとおり。その願いをデビュー戦で組んでくれたので、驚くと同時に感謝している。このカードが決定したとき、心が燃え上がるのを確かに感じて、現役の戦士に戻ったことを実感したんだ。

——今回参戦するウェルター級で現在世界最強のGSPに、近い将来チャレンジしたい気持ちはありますか？

ヘンゾ　最強のファイターにチャレンジしたいとはいつも思っているけど、GSPは一緒に練習するパートナーの一人なので、できれば避けたいね。

——あ、そういえばGSPはあなたの生徒でもあったんですね。

ヘンゾ　もう生徒ではなく、最強のトレーニング仲間だけどね（笑）。でも、ボクのゴールはベルトではなく、タフな相手といい試合をたくさんすることだから、その延長でタイトルに挑戦したいとは思っているよ。

——UFC初出場がアブダビ大会になったのは、やはりあなたとアブダビのシーク・タハヌーン王子との友情が元になっていますか？

ヘンゾ　とくにそれだけが理由じゃなくて、すべての面で条件が重なってそうなったんだと思う。UFCと契約した時点ではデビュー戦が、いつどこで行なわれるなんて話はしなかったからね。ただ、4月にアブダビでUFCが開催されると決まったとき、自分のタイミング的にもベストだったんで、アブダビでデビュー戦を行なうことになったんだよ。

——今回、シーク・タハヌーン王子の会社、フラッシュ・エンターテインメント社がUFCの株を取得し、パートナーシップを結ぶきっかけの一つにあなたが関わったと報じられていますが、どのような関わり方をしたんですか？

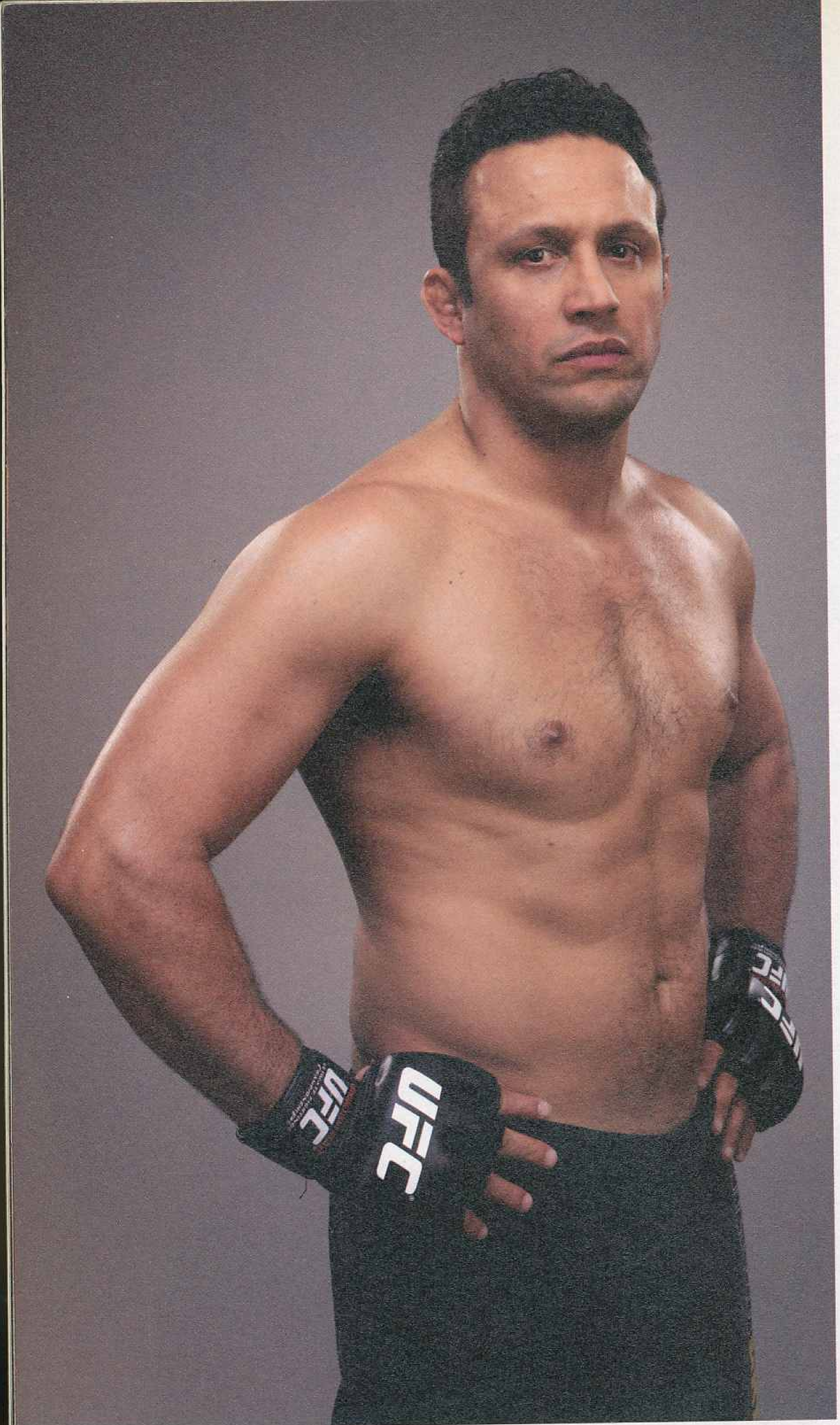
ヘンゾ　周りのみんなは、ボクがUFCとフラッシュ・エンターテインメント社を結びつけたと思っている人が多いようだけど、具体的に関わったということではないんだ。ただし、シークとボクの関係があったからこそ、フラッシュ・エンターテインメント社がUFCの株の取得に動いたことは否定できないかもしれないね。

——今回、フラッシュ・エンターテインメント社がUFCの株の10パーセントを取得したことで、UFCやMMA業界にはどんな利点、また今後の展開が考えられますか？

ヘンゾ　世界最大の投資会社の一つであるフラッシュ・エンターテインメント社の力を借りて、今後の世界展開への大きな第一歩を踏み出したことは間違いないだろうね。シークはこのスポーツを愛しているし、彼の情熱がMMAをより大きくするであろうと思う。また、UFCのような素晴らしい会社が世界展開ができることを楽しみにしてるんだ。そしてボク自身もまた日本で試合ができることを祈っている。契約した6試合の内、1試合は日本でできたら最高だね。

——ところで、あなたとシーク王子の友情はどういったところからスタートしたのでしょうか？

ヘンゾ　彼がニューヨークに留学してい



RENZO GRACIE■1967年3月11日、ブラジル出身。ブラジリアン柔術の創始者、カーロス・グレイシーの次男ホブソン・グレイシーの息子。95年に『ワールドコンバットチャンピオンシップ』で優勝し、その後、グレイシー一族の中で最も精力的にMMAで活躍している。178cm、77kg。

たとき、ボクのアカデミーに来て柔術を習い始めたことがきっかけなんだ。それから友情関係を築き、もう14年以上の付き合いになるんだ。ボク自身、彼の母国であるUAEのアブダビにも何度も行っているよ。

——シーク王子はいまでも柔術をやっているんですか?

ヘンゾ　もちろんさ。事実、2週間前にアブダビを訪問した際、一緒にトレーニングしたばかりだよ。シークはブラックベルトだからね。

——えっ!? 黒帯取得が難しいことで知られるヘンゾ・グレイシー柔術の黒帯なんですか?

ヘンゾ　そう。シークはとてもタフでテクニカルなブラックベルトだからね。

——王子は大変なリッチマンとしても知られていますが、これまでどんなプレゼントをもらいましたか? 以前、誕生日に車が届いていた話をしてもらいましたが。

ヘンゾ　あの車をもらったときは本当に驚かされたよ。誕生日の朝に電話がかかってきて、言われるままにドアを開けたら、玄関前にBMW X5が停まっていて……「誕生日プレゼントです。気に入ってもらえるかな?」って言われたんだからね(笑)。

RENZO GRACIE

——BMW X5って、気に入るどころじゃないですよ!(笑)。

ヘンゾ　そのほかに時計をもらったり、貴金属をもらったり、お金そのものをもらったりもしたけど、一番重要なのはシークとのフレンドシップなんだ。彼は本当に特別な存在だからね。お金とかモノをあげたりもらったりするのとは比べ物にならないほど、そのフレンドシップには価値があるんだ。

——フレンドシップはどんなにお金を出しても買えないものですからね。

ヘンゾ　そのとおり! そしてシークも同じように、友情を一番大事にしてくれているんだ。

——でも、アラブの王族と友だち付き合いをするっていうのは、凄く気を使いませんか?

ヘンゾ　もちろん、それなりに気は使うけど、二人でいるときは出生は関係ない。一人の人間としての親友同士でしかないんだよ。お互いのことをよく話すし、彼からのアドバイスは自分のモチベーションにつながるしね。もし、シークに会って話す機会があったら、ボクが何を言っているのか理解してもらえると思う。彼は本当にスペシャルな男なんだ。

——でも、かつてリオデジャネイロで知らない人はいないほどの不良のトップだったあなたが、王族と親友になるとは素晴らしいですね(笑)。

ヘンゾ　友情関係に出生は関係ないんだ。そして、それを引き合わせてくれたのが、一族が守り続けたこの素晴らしい柔術なんだよ。柔術とは、人生を良い方向に導いてくれるスポーツなんだ。

——では、かつてリオにあった伝説の〝ヘンゾビーチ〟(不良時代のヘンゾがサーフインをする際、独占していたビーチ)は、いまアブダビにあったりするんでしょうか?(笑)。

ヘンゾ　ハハハハハ(苦笑)。残念ながらアブダビに〝ヘンゾビーチ〟はないね。昔と違っていまボクは、みんなにビーチを使ってほしいと思っているから、いまボクが独占する〝ヘンゾビーチ〟は自宅のバスルームだけさ(笑)。

——ヘンゾビーチ伝説は昔の話、というわけですね。では、アブダビでのUFCデビュー戦、期待しています!

【10年2月5日/米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】


c ♥
on Girl!
UFC
ULTIMATE FIGHTING
CHAMPIONSHIP

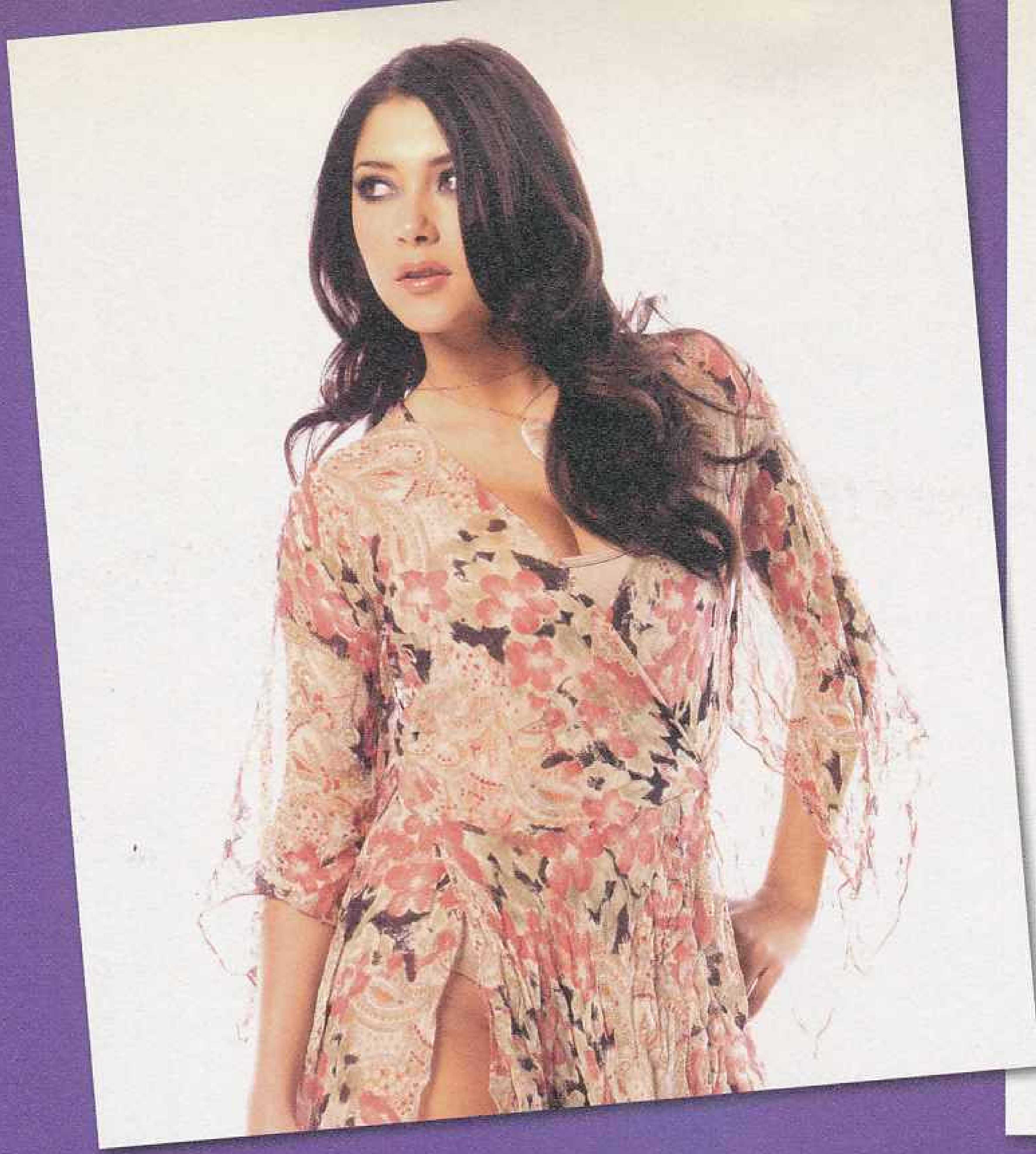


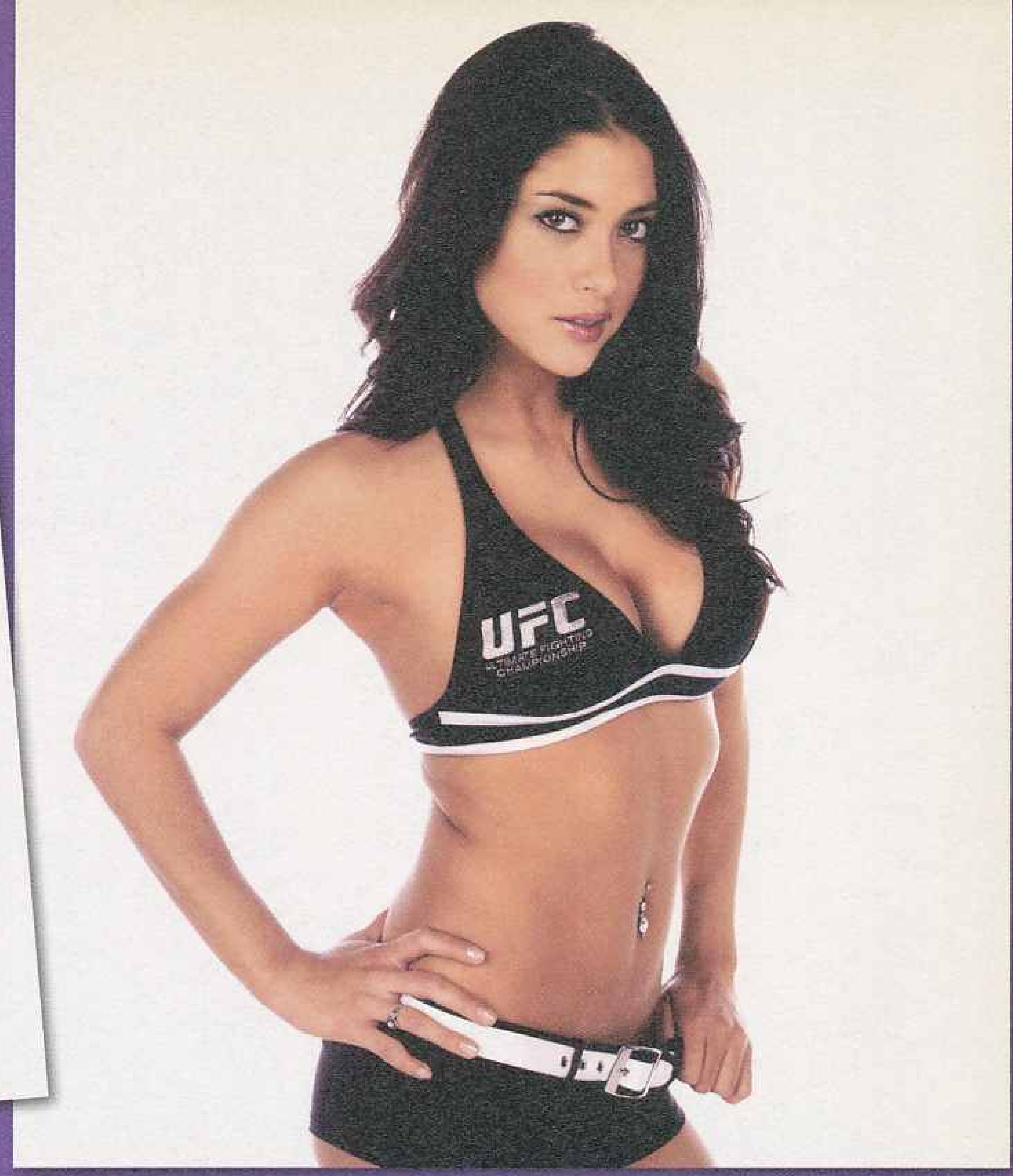
明石家さんまも
大注目!

We... Octagon

UFCの世界最高峰っぷりはオクタゴンの中だけじゃない!
なんと、明石家さんまも画面にかじりついて観ているというオクタゴンガールも
またサイコーなのである(ちなみに明石家さんまのお気に入りの
ローガン・スタントンは“引退”。……残念!)。今回はそのうちの一人、
エキゾチックなアリアニーさんにお話を聞けたのでぜひチェックせよ!

聞き手/堀江ガンツ　写真/Josh Hedges(UFC)





—ボクたち、日本から来たジャーナリストなんですが、アナタにインタビューさせてもらってもいいですか？

アリアニー　オッケーよ！　アリアニーって呼んで。

—ありがとうございます！　ＵＦＣは毎大会チェックしてるんですが、アリアニーさんはもうずいぶん長いことオクタゴンガールをやってますよね？

アリアニー　ええ、そうよ。もう3年か4年ぐらいになるかしら。たしか、デビューしたのはハードロックホテル＆カジノだったわ。そのとき初めてＭＭＡを観たの。もう超エキサイティングだったからよく覚えてる。

—へ～。でも、その口ぶりだともともとＭＭＡに興味があったってわけではないみたいですね。

アリアニー　じつはそうなの。友だちと一緒に観たことがあった程度で、ＭＭＡがどんなスポーツなのか、正直よくわからなかった。

—じゃあ、オクタゴンガールに応募したのもたまたまだったんですか？

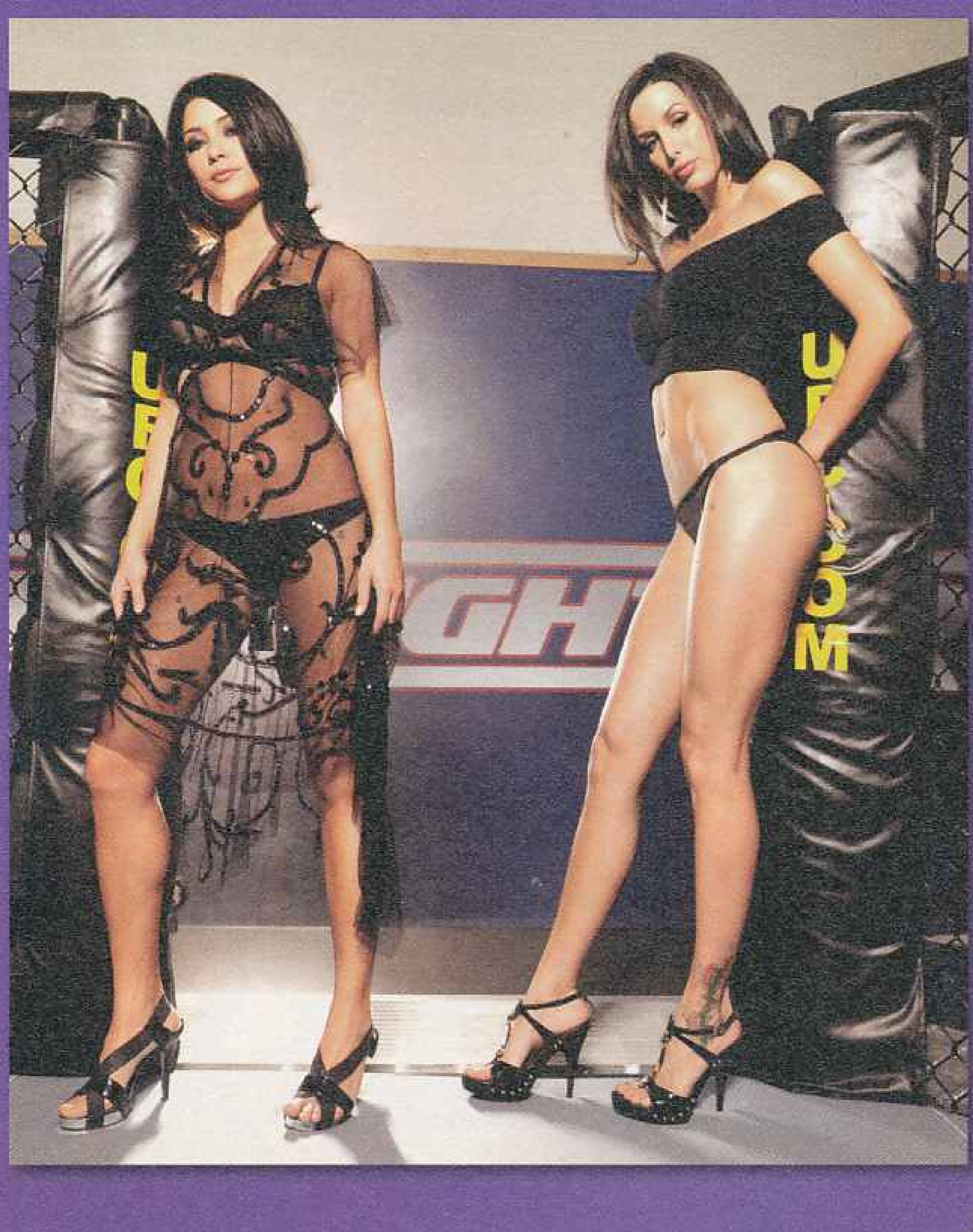
アリアニー　たまたまっていうか、ＵＦＣがキャスティングのオーディションをやるってことだったから、所属事務所から強く勧められて参加したの。当日はだいたい30人ぐらい集まったんだけど、そこからダナやロレンゾがインタビューしてくれて私を選んでくれたのよ。

—それは凄くラッキーでしたねえ。

アリアニー　ええ。それに、ＵＦＣを観るようになって、じつは私自身トレーニングをするようになったの。もちろんエクササイズを目的としたものだけどね。でも、ムエタイやボクシングの練習も取り入れてるから、凄くおもしろいわ。

—それは素晴らしい。じゃあ、いまではもうすっかりオクタゴンガールとして胸を張れるぐらいＵＦＣに没頭してるってことですね。

アリアニー　もちろんよ。いまではもうこの仕事のすべてが楽しくてしょうがないわ。いろんな会場で大会があるから、私もいろんなところに旅行できるし、なによりオクタゴンサイドで試合を観戦できるから、こんな幸せなことはないわ。





We ♥ Octagon Girl!



アリアニー・セレステ

[身長/体重] 165cm/50.0kg
[趣味] 歌うこと、トレーニング、ショッピング
[好きな食べもの] チキン、パスタ
[好きなタイプ] おもしろくて野心家で賢い人



キャンドラ・パウエル（写真右）
［身長/体重］163cm/47.6kg
［趣味］ジャズダンス、テニス
［好きな食べもの］なんでも好きだけど、とくにお寿司が好き
［好きなタイプ］個性的で笑顔がステキなおもしろい人



――それは凄い特等席です！　ちなみに、お気に入りの選手もいるんですか？

アリアニー　ウフフフ。いるわよ。一番好きなファイターはなんと言ってもアンデウソン・シウバね。

――おお〜。アンデウソンはもの凄くラッキボーイです！

アリアニー　そう言ってもらえると私もうれしいわ。だって、アンデウソンってどんな厳しい試合でも、すんなり勝っちゃうじゃない。まるでなんの努力もせずに才能だけで勝ってるみたい。それにチャンピオンなのにファンキーで全然偉ぶらないし、みんなに優しくておちゃめなところが好きなの。なんか「地に足がついてる」って感じなのよ。

――うーん、まったくベタボメじゃないですか。ちなみに、アリアニーさんはオクタゴンガール以外にも忙しそうですが、けっこうな売れっ子なんですね。

アリアニー　売れっ子ってほどでもないけど、イベントのモデルとか、テレビのホスティングなんかもやってるわね。どれも好きな仕事だけど、やっぱりオクタゴンガールはサイコーよ。

――その調子だと、オクタゴンに上がってるときは相当気分がいいんでしょうね。

アリアニー　そうね。もちろんときどき不安になることもあるけど、凄く刺激的だし、いつもワクワクして上がってるわ。

――そう言ってもらえると、ダナもアリアニーさんを選んだかいがありますねえ。

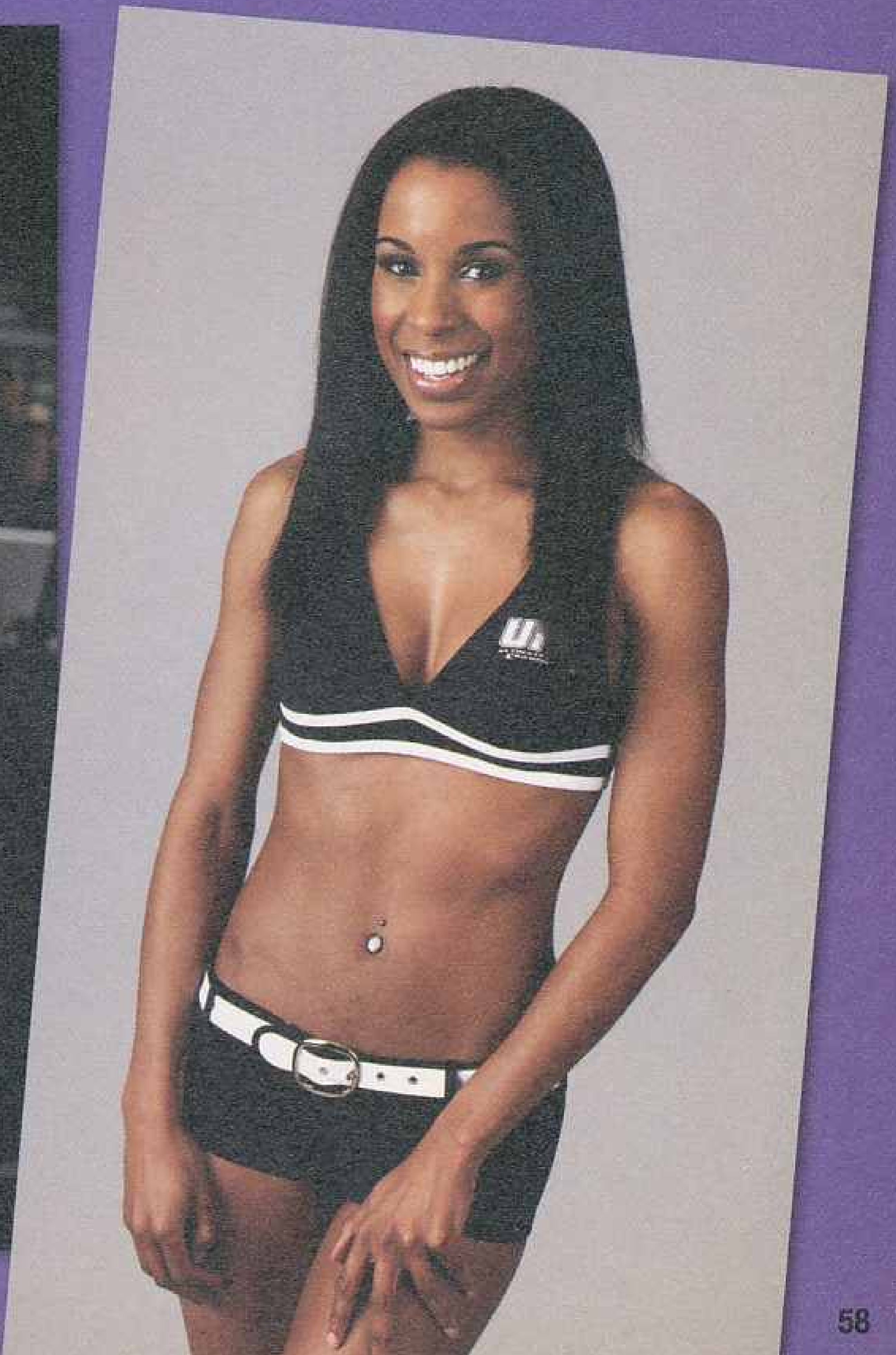
アリアニー　ダナにはもちろん感謝してる。それにダナって凄くスマートだし、とってもステキなボスだからね。

――あら、ダナも幸せ者ですねえ。じゃあ、最後に日本のファンに向けて一言いただけますか？

アリアニー　もちろん。ハロー、ジャパン！　日本に行けることを楽しみにしているわ。その日までUFCと、それから私のツイッター（http://twitter.com/AriannyCeleste）もぜひチェックしててね！

【10年2月6日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】





We ♥ Octagon Girl!



UFC FIGHTER

NEXT 10

次にくるのはコイツらだ！

次から次へと強豪ファイターが出現する“世界最高峰のリング”UFC。
ここでは次代のオクタゴンを背負う昇り調子のファイター10人を紹介！ WHO'S NEXT?

文／高橋ターヤン　構成／鈴木佑　写真／Josh Hedge（UFC）



CAIN VELASQUEZ

ケイン・ヴェラスケス

ヘビー級　【アメリカ出身】
1982年7月28日生まれ　185cm／109kg

『UFC110』でアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラと激突するメキシコ系アメリカ人。レスリングのオールアメリカン選手で、MMAに転向後アメリカン・キックボクシング・アカデミーに所属してトータルファイターとしての道を歩んでいる。ヴェラスケスの強みは、やはり抜群のレスリング力。そしてKO級のパンチをもらっても即座に回復するアゴの強さと、無尽蔵のスタミナだろう。執筆時点では7戦無敗。唯一の判定勝利となったチーク・コンゴ戦も圧倒的な内容だった。今後ヘビー級のトップをうかがう若き実力者だ。

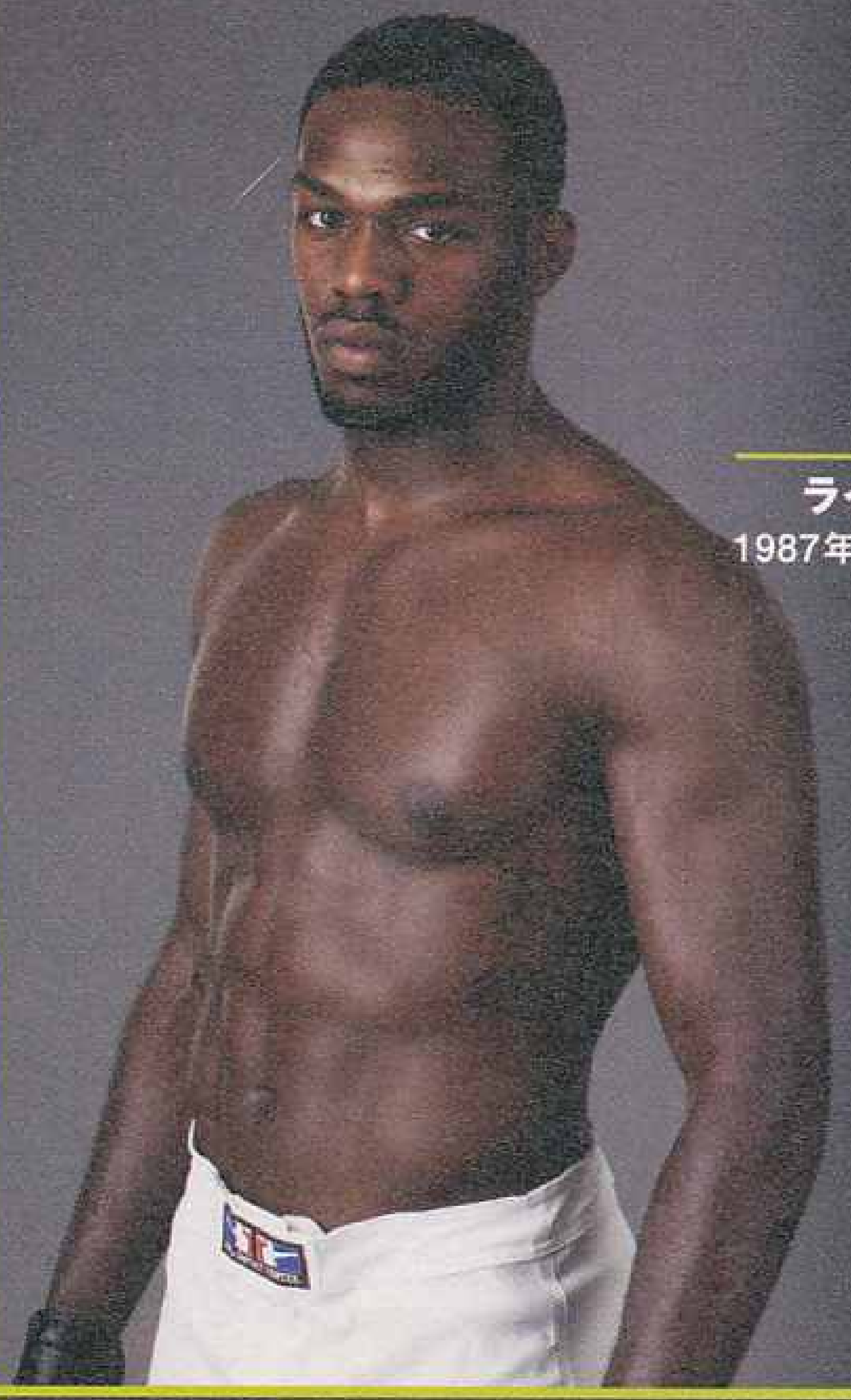


JUNIOR DOS SANTOS

ジュニオール・ドス・サントス

ヘビー級　【ブラジル出身】
1984年1月30日生まれ　193cm／108kg

ミルコ・クロコップの心を折った、UFC新世代KOマシーン。各地を放浪後にバイーア州にたどり着き、そこで柔術を習い始める。しかし途中から始めたボクシングで才能が一気に開花。キックボクシングでは18戦無敗の記録を誇る。MMAではローカル大会で7戦したあと、UFCと契約。いきなりファブリシオ・ヴェウドゥムをKOして注目を浴びた。そしてミルコの復帰戦の相手を務め、スタンドで圧倒。一躍ヘビー級のトップコンテンダーに躍り出た。アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラを敬愛し、現在はチームノゲイラに所属している。



JON JONES

ジョン・ジョーンズ

ライトヘビー級　【アメリカ出身】
1987年7月19日生まれ　193cm／93kg

UFCに旋風を巻き起こし続けているライトヘビー級の超新星。高校時代からレスリングを始め、2005年にはニューヨーク州王者に。翌年はコミュニティカレッジに進みそこでは全国制覇を成し遂げている。コミカレ卒業後、すぐにプロMMA選手としてデビュー。以後、ほぼ毎週試合をするという驚異的なペースで経験を積み、6連勝したあとUFCと契約。その後も快進撃を続けるが、『TUF10』ファイナルでのマット・ハミル戦で、KO寸前に追い込みながらも垂直のヒジを落としたために反則負け。まだデビュー2年未満の22歳である。



ROY NELSON

ロイ・ネルソン

ヘビー級　【アメリカ出身】
1976年6月20日生まれ　183cm／120kg

いまはなきIFLのヘビー級王者。すでに34歳だが、紆余曲折を経て『ジ・アルティメット・ファイター』第10シーズンに参加。キンボ・スライスを早々に退場させ、停滞気味だった第10シーズンを盛り上げ続けて優勝を飾った。ビール腹をさすりながら勝利をアピールする、全米のデブたちの希望の星。しかしグラップリング大会ではフランク・ミアを破る殊勲を上げるなど、外見に似合わず寝技に優れ、ヘンゾ・グレイシーから柔術黒帯を授与されている。現在の所属はケン・シャムロックのライオンズ・デン。



MARK MUNOZ

マーク・ムニョス

ミドル級　【アメリカ出身】
1978年2月9日生まれ　183cm／93kg

混迷をきわめるUFCミドル級第二戦線で、徐々に頭角を現わしているのがムニョスだ。横須賀の米軍基地でフィリピン系の両親の息子として生まれたムニョスは、レスリングでカリフォルニア州王者、続いてオールアメリカンレスラーとなったあと、MMAに転向。ローカル大会の経験を経てWECに参戦。WECミドル級のUFCへの統合によってUFCと契約した。初戦はマット・ハミルに遅れをとったが、その後は二連勝中。打撃の得意なレスラーとして、そしてUFCが狙うフィリピン大会の目玉として期待される存在だ。

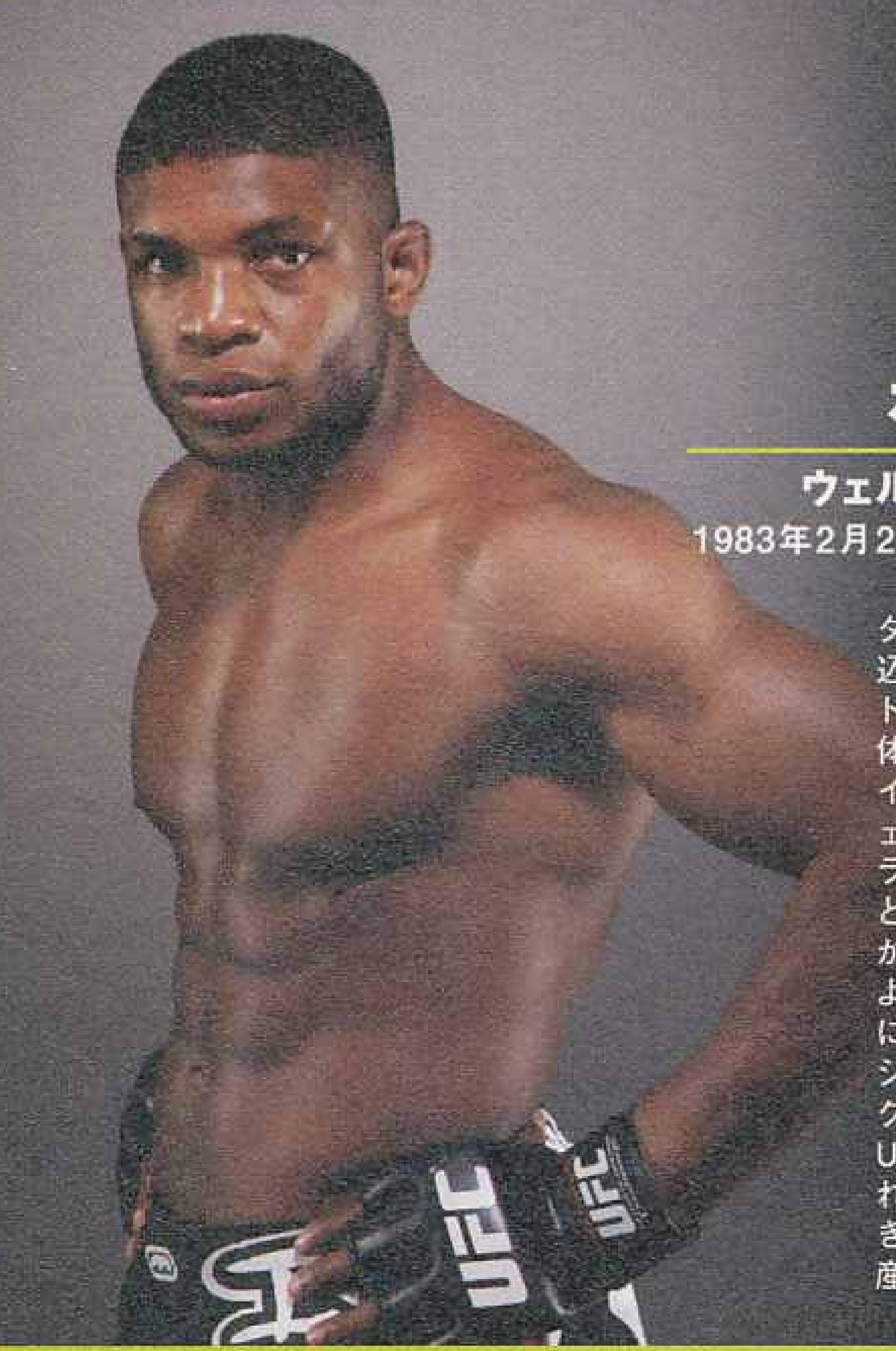


DEMIAN MAIA

デミアン・マイア

ミドル級　【ブラジル出身】
1977年11月6日生まれ　183cm／84kg

いわずとしれた柔術セレブ。3度の柔術オリンピック優勝、パンナム選手権優勝、アブダビコンバット優勝という輝かしい実績を引っさげてUFCに参戦。5試合連続一本勝ちというありえない快挙を成し遂げ、そのうちサブミッション・オブ・ザ・ナイトを4回受賞している。ネイサン・マーコート戦では出会いがしらのKO負けを喫したが、ダン・ミラー戦で勝利を収めてミドル級王座戦にこぎ着けた。レスリング&ボクシングが全盛のUFCで、柔術技で敵を仕留める特異なファイターとして世界の注目を集める存在だ。

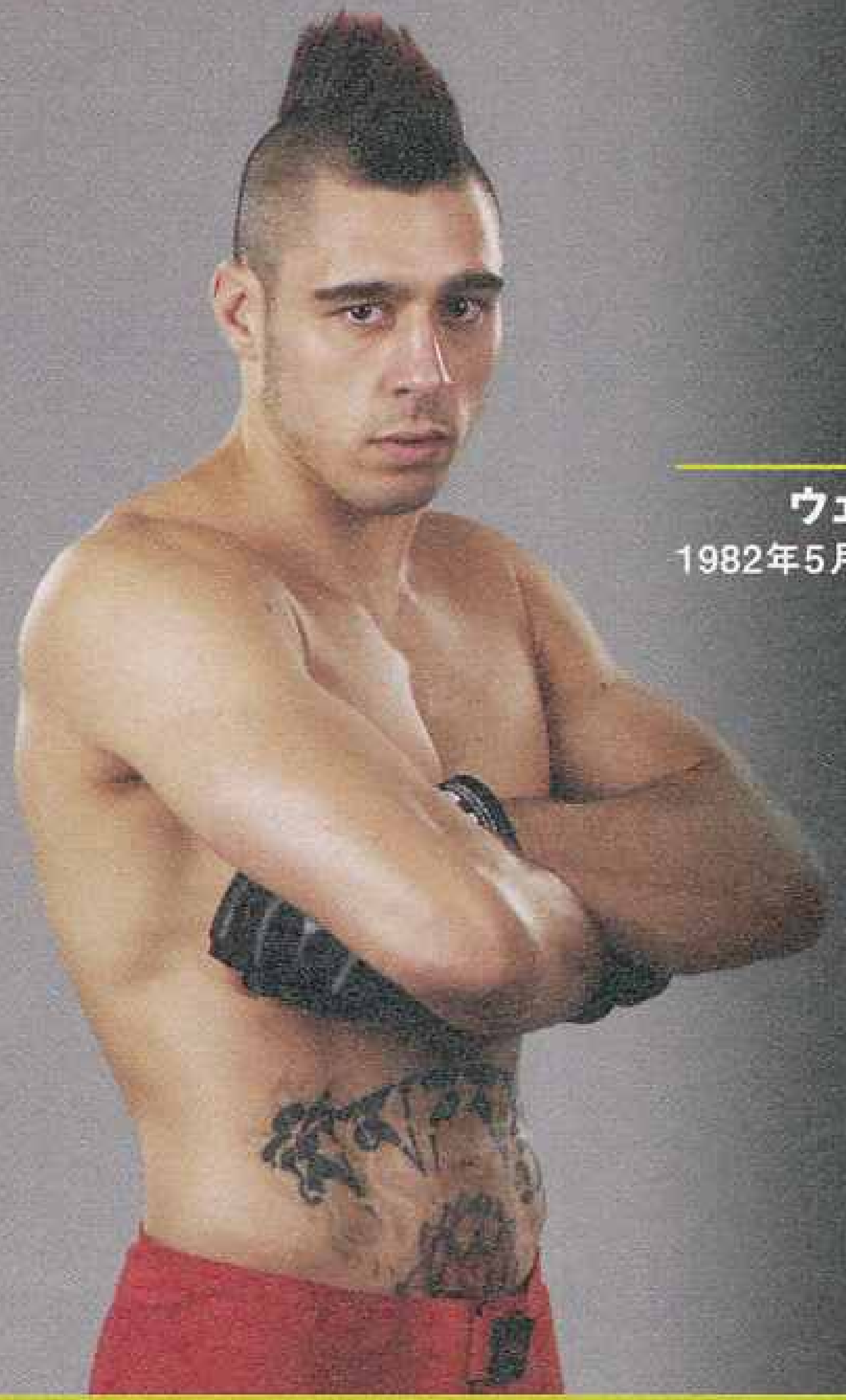


PAUL DALEY

ポール・デイリー

ウェルター級　【イギリス出身】
1983年2月21日生まれ　175cm／74kg

ダン・ハーディの盟友で、空手仕込みの打撃でKOの山を築くハードパンチャー。イギリスの老舗団体ケージレイジ生え抜きのファイターとして、ケージレイジ・ウェルター級王者に輝く。パンクラスへの来日経験もあり、このときは北岡悟に秒殺されているが、その後ケージレイジの買収によってエリートXCに参戦。さらにエリートXC崩壊で『アフリクション』に移籍し、その『アフリクション』も崩壊したため念願のUFCとの契約に至ったという流れ者人生を歩む。UFCでは強烈きわまりない1ラウンドKOを量産する注目株となっている。

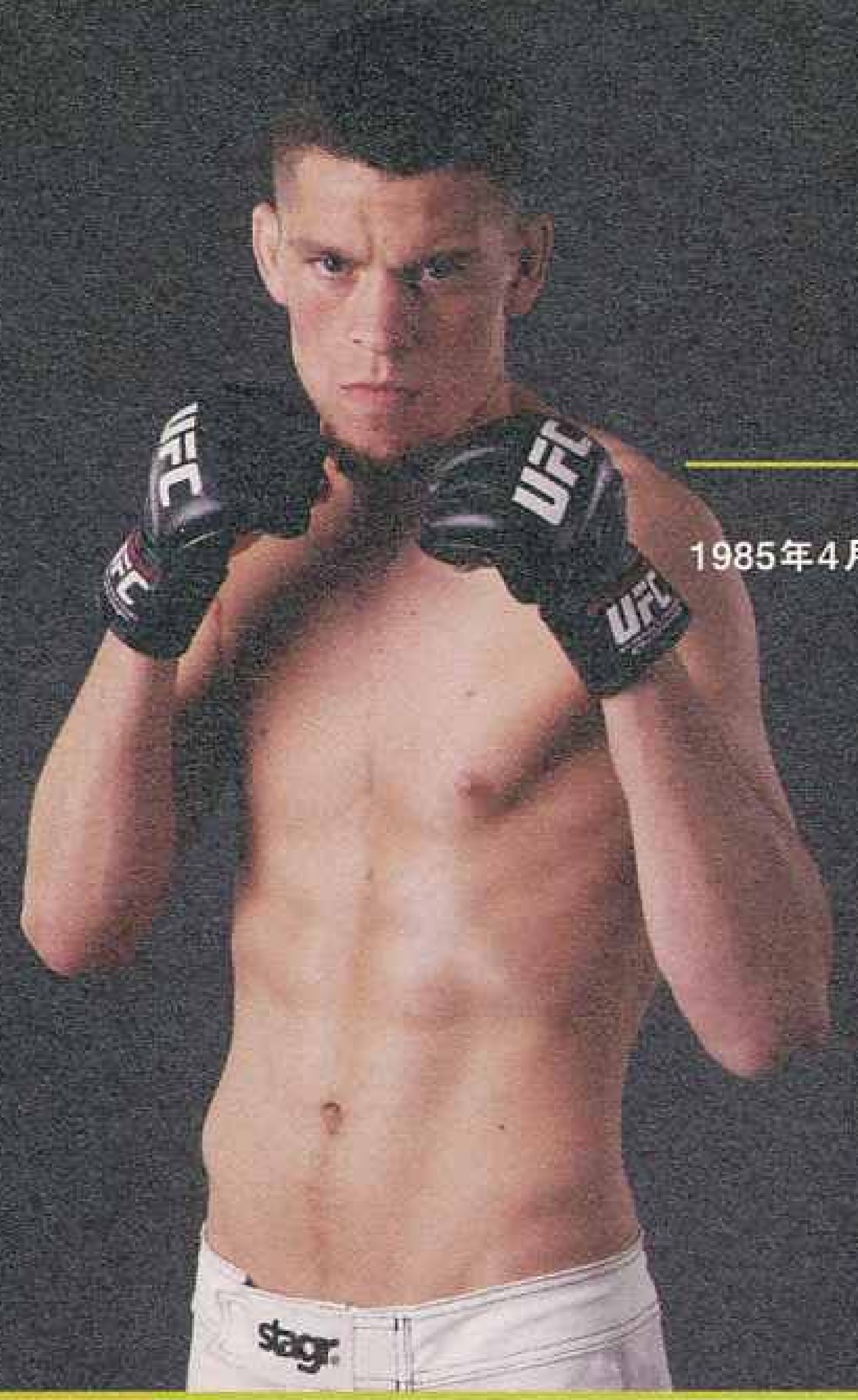


DAN HARDY

ダン・ハーディ

ウェルター級　【イギリス出身】
1982年5月17日生まれ　183cm／77kg

マイケル・ビスピンと並ぶ、UFCが誇る人気イギリス人ファイター。イギリスのローカル大会で経験を積み、日本のケージフォースに参戦。ウェルター級トーナメントで猛威をふるったあとにUFCに参戦。初戦で郷野聡寛を破り、現在UFC４連勝中。敵の攻撃をはね返す頑強なアゴを持ち、スタンドの打撃で対戦相手を追い詰める。ダメージをあらわにしないため、僅差の判定をモノにすることが非常に多い。またジ・アウトローというあだ名が示すように悪童キャラで人気が爆発しており、絶対王者のジョルジュ・サンピエールとの対戦を控えている。

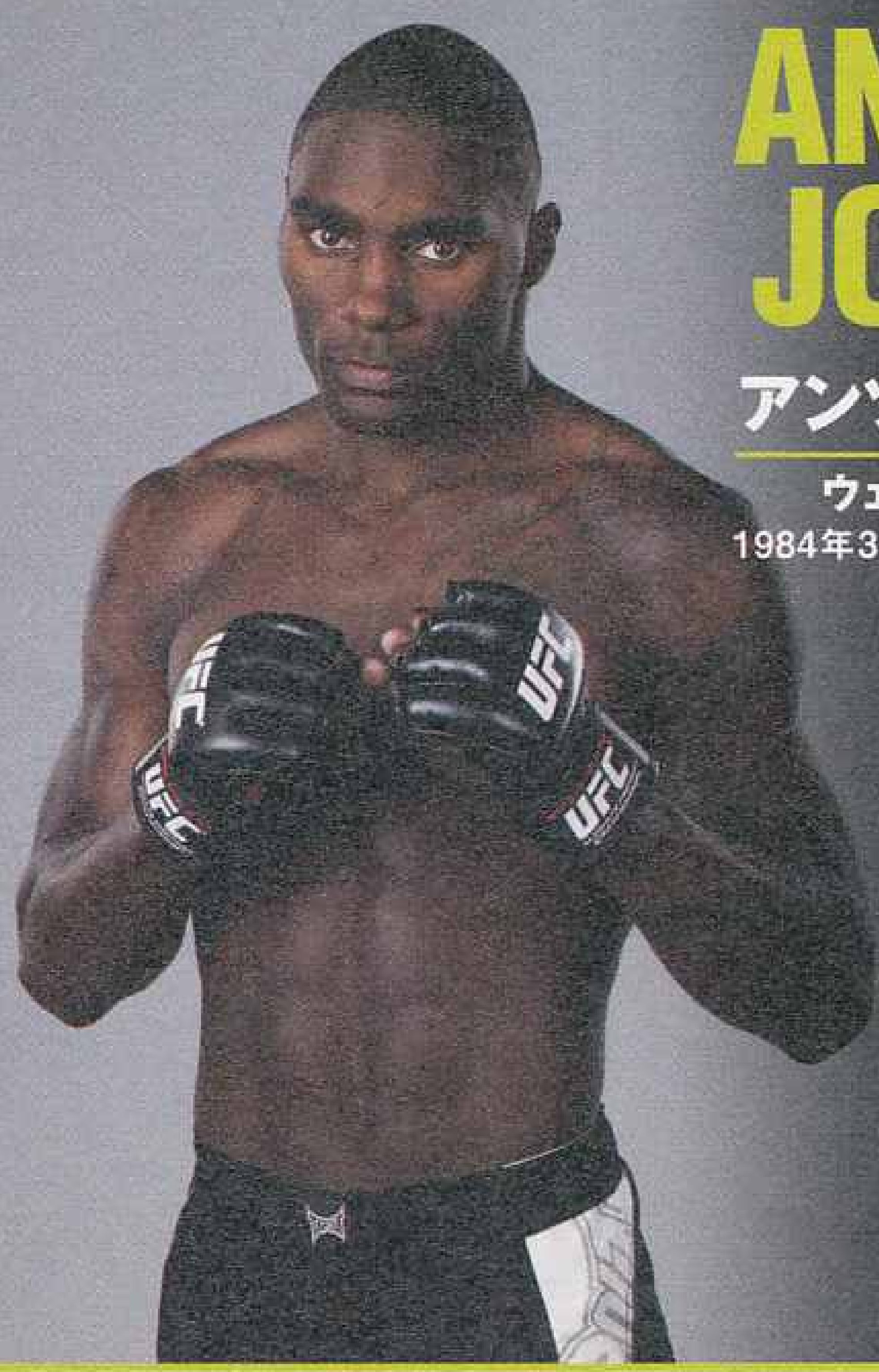


NATE DIAZ

ネイト・ディアズ

ライト級　【アメリカ出身】
1985年4月16日生まれ　183cm／70kg

ストライクフォースで暴れまくる悪童ニック・ディアズの実弟。パンクラスへの参戦経験もある（大石幸史に判定負け）が、『TUF』第5シーズンに参加して才能が開花。見事、優勝を飾ってUFCとの契約をゲット。UFC参戦後は黒星が目立つようになってきたが、ほとんどは僅差のスプリット判定負けばかりで、その実力が疑われたことはない。兄と同じく悪童キャラで売っている人気者であり、ヒールとして対戦相手との煽りもバッチリ。ただ減量苦からウェルター級転向を示唆している。



ANTHONY JOHNSON

アンソニー・ジョンソン

ウェルター級　【アメリカ出身】
1984年3月6日生まれ　188cm／77kg

レスリング出身者でありながら、嵐のような打撃で目下UFCウェルター級で売り出し中の新鋭。トレーニングによって徐々に肉体が巨大化しており、デビュー当初は70kgで闘っていたが、ウェルター級に転向。現在は計量オーバーの常習となりつつあり、77kgでも厳しいのかもしれない。技術を上回る爆発的な身体能力で、短期決戦をモノにする闘い方が特徴的。逆に長期戦になると根負けする場合が多く、ジョシュ・コズチェック戦はまさにそんな感じだった。だが克服すべき弱点は明確であり、今後の成長が期待されるファイターだ。

“世界最高峰”でしのぎを削るサムライたち

UFC日本人ファイター名鑑

PRIDE消滅以降、世界中の猛者が最強を目指して集う“実力測定所”となったUFC。強さだけが正義であるこの場所で、さまざまな国々のファイターが激闘を繰り広げている。ここでは海を渡ってMMAのメジャーリーグに殴り込みをかけた日本人たちを紹介!

文/高崎計三　構成/鈴木佑　写真/Josh Hedge(UFC)



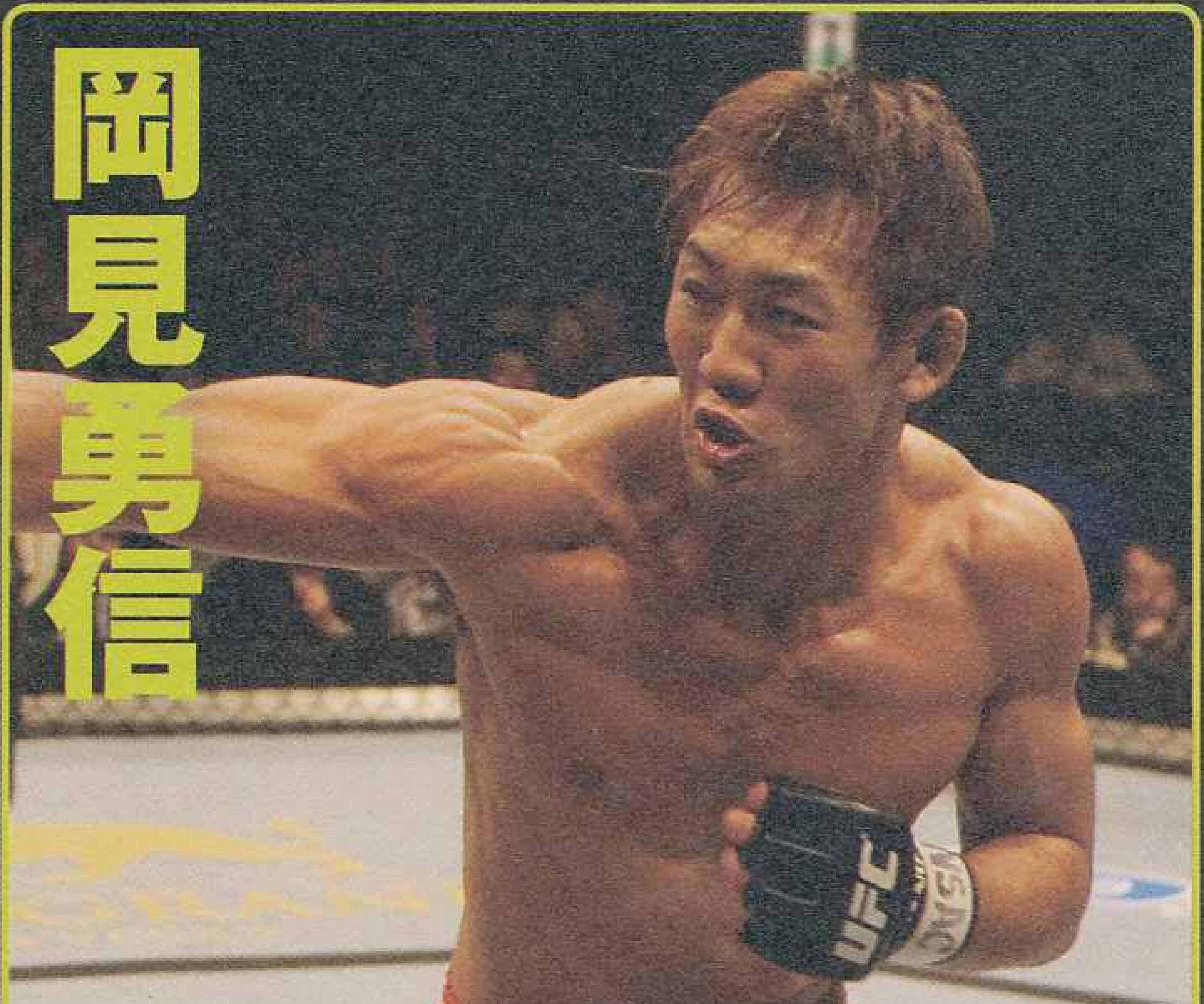
五味隆典

GOMI TAKANORI

ライト級

173cm/70kg　3.31「UFC Fight Night」に初参戦

これまで何度も噂に上ってきた五味のUFC参戦がついに正式決定した。PRIDE崩壊時にも視察はしていたものの、最終的に「戦極」を選んだ五味。09年1月に北岡悟に敗れ、自身のプロキャリアの残りがそう長くないことを自覚しての「最後の挑戦」なのだろう。……と思いきや、「最初は軽いチャレンジのつもりだった」なんてコメントを発してしまうあたりはさすが!ともあれ、“いまの”UFCに、“いまの”五味が挑戦するというのは非常に興味深いこと。どんな闘いを見せるのか、はたしてBJペンまでたどり着くのか、興味はつきない。



岡見勇信

OKAMI YUSHIN

ミドル級

188cm/84kg　UFC戦績9戦7勝2敗

本稿執筆時点で7勝2敗。日本人選手のほとんどが思うようになかなか勝ち星を挙げられないUFCで、デビューからいきなり4連勝を飾った岡見の実力にアメリカ国内での評価も高く、メジャースポーツ誌「スポーツ・イラストレーテッド」にも取り上げられた。188cmの長身と、バランスがよく穴のないファイトスタイルは玄人受けも充分。同階級に秋山成勲も参戦してきたが、狙い続けているタイトルマッチは譲るわけにはいかない。そもそも、これだけ勝っているのだからもう組まれて然るべきなのだが……。岡見の晴れ舞台はいったいいつになるのか?



秋山成勲

AKIYAMA YOSHIHIRO

ミドル級

177cm/84kg　UFC戦績1戦1勝

HERO'Sのリングで“何かと”活躍したのち、DREAMでは強敵と対戦していなかったことから「お茶濁し」などとも揶揄されたが、やたらと騒がしい日本はオサラバとばかりにUFC参戦。デビュー戦では中堅どころのアラン・ベルチャーと一進一退の大激戦を演じ、スプリット判定で勝利はものにしたが眼窩底骨折による欠場を余儀なくされることになった。群雄割拠のミドル級では岡見のあとを追うことになるが、さっそく「SEXYAMA」なる異名をつけられるほどのキャラクター、そして在米コリアン向けビジネスの切り札としても期待は大きい。



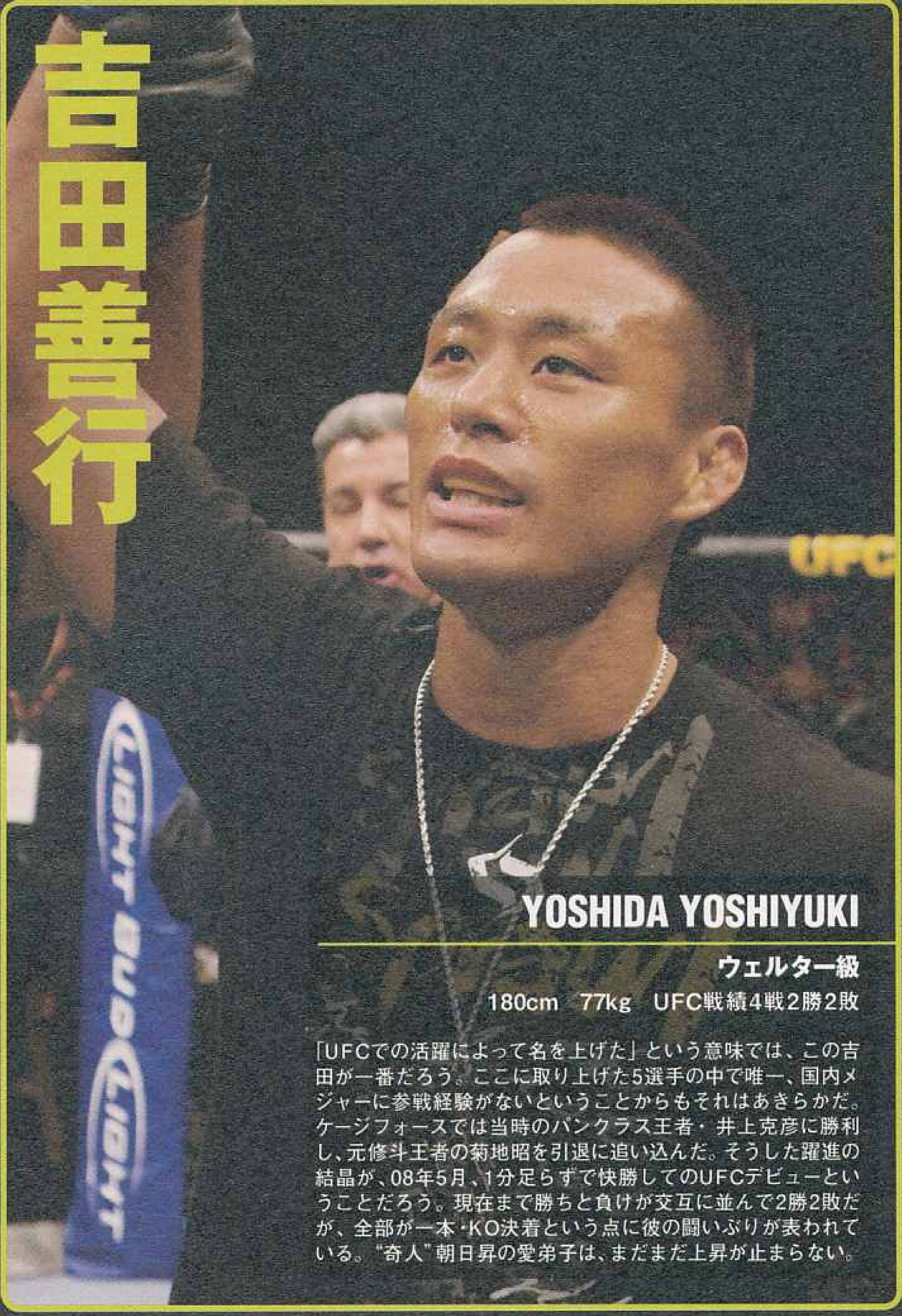
宇野薫

UNO CAOL

ライト級

177cm／84kg　UFC戦績9戦3勝4敗2分

佐藤ルミナに勝利して得た修斗ウェルター級王座を返上して、宇野がUFCに戦場を求めたのが01年2月。初戦でいきなりジェンス・パルヴァーとバンタム級王座決定戦という破格の扱いだった。その後、たどり着いたBJペンとのライト級王座決定戦でドロー、次戦でエルメス・フランカに敗れ、一度は国内イベントに復帰。UFCでも「レジェンド」になりかけていた宇野だが、09年、フリー転向して再挑戦を決行。まだ勝ち星を挙げられないが、そのあくなきチャレンジには多くのファン、関係者が注目している。五味戦、ペンとの再戦は実現するか?



吉田善行

YOSHIDA YOSHIYUKI

ウェルター級

180cm　77kg　UFC戦績4戦2勝2敗

「UFCでの活躍によって名を上げた」という意味では、この吉田が一番だろう。ここに取り上げた5選手の中で唯一、国内メジャーに参戦経験がないということからもそれはあきらかだ。ケージフォースでは当時のパンクラス王者・井上克彦に勝利し、元修斗王者の菊地昭を引退に追い込んだ。そうした躍進の結晶が、08年5月、1分足らずで快勝してのUFCデビューということだろう。現在まで勝ちと負けが交互に並んで2勝2敗だが、全部が一本・KO決着という点に彼の闘いぶりが表われている。"奇人"朝日昇の愛弟子は、まだまだ上昇が止まらない。

意外なファイターも参戦！
メジャーの門を叩いた日本人

UFCも歴史を積み重ねているだけに、少し振り返るだけでも意外な日本人選手が多く参戦している。なので、ちょっとだけ振り返ってみる。

これまで、日本国外で開催されたUFCの大会に参戦した日本人選手は、全部で23人。これはUFNを合わせた数字で、このうちUFNのみに参戦したのは、佐々木有生一人だけである。

2001年1月に大会の運営母体がSEGからZUFFAに移っているが、それ以前のみ参戦していたのが、市原海樹、北尾光司、髙橋義生の3人。髙阪剛、近藤有己の二人はかろうじてZUFFA体制時代にも引っかかっている。だから「ZUFFA体制のUFC参戦選手」は最終的に20人ということになる。

このページで大きく取り上げた5人以外で最も試合数が多いのは弘中邦佳と長南亮。アメリカ参戦が話題になった長南はともかく、弘中が郷野より多いというのは意外に思われるファンも多いかもしれない。郷野が3試合なのに対し、弘中と長南は4試合だ。

弘中は06年10月の初参戦時、2戦目の岡見勇信がプレリミナリーカード（前座試合）だったにもかかわらず、本戦に組み込まれていた。さらに07年4月のUFNではプレリミナリーで唯一PPV中継されるなど、何かと好待遇を受けている。

長南や郷野が話題になったのは、彼らがPRIDEの活動休止を受けてUFCに主戦場を移したからだ。PRIDEに代わってUFCが世界最高峰の舞台となった時期だった。その意味では中村和裕、小見川道大らの吉田道場勢も同じ状況だった。


ZUFFA体制以降、1戦だけしか参戦していない選手は前述の佐々木有生を含めて5人。秋山成勲はこれから増えるだろうが、ほかは桜井"マッハ"速人、大石幸史、国原継悟という顔触れだ。大石はパンクラスが「UFCとの関係を強化した。これからパンクラスの選手を定期参戦させる」と、わざわざ記者会見までして発表しての出場第1号だったのだが、後続はなし。あの発表はいったいなんだったのだろうか?

そして、気になるのが「国原継悟」という選手。05年10月の『UFC55』に出場してマーシオ・ペジパーノ・クルスに負けているのだが、アメリカでプロデビューしてKOTCなどに参戦、UFCまでこぎ着けたという経歴の持ち主。日本でプロの試合を経験せずにUFCに上がったのは国原がいまのところ最初で最後だ。

なお、五味、宇野、岡見と日本人が3人も出ることで今回のUFNが話題となっているが、じつは07年4月の『UFN9』はこれを超える4人の日本人が出場していた。弘中、小谷直之、中村K太郎、三島☆ド根性ノ助という顔触れで、ちなみにこの中で白星は弘中だけだった。



いまや日本フェザー級戦線のキーパーソンである小見川は、07～08年にUFCに二度参戦。マット・ワイマンとチアゴ・タパレスに判定負けを喫している。ちなみにリング上で「クソッタレ!」とは言っていない。

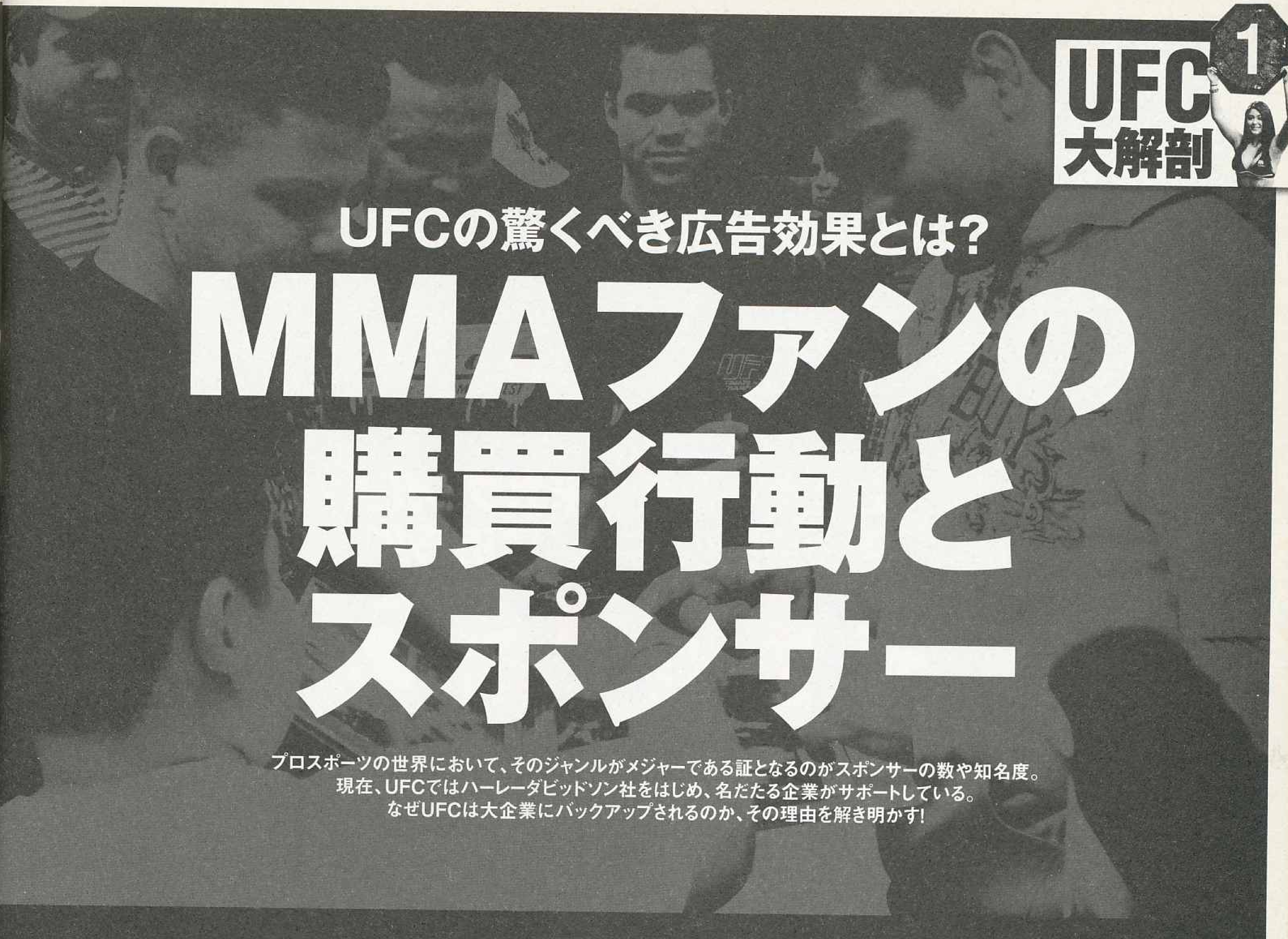


これでキミも北米カブレ!!
巨大帝国の"いま"に迫る!!

UFC大解剖

"世界最高峰のリング"として、絶え間なくその規模を拡大し続けるUFC。
この未曾有の繁栄の鍵はいったいどこにあるのか? そしてMMA巨大帝国が直面している問題とは?
ここではさまざまなキーワードからUFCを徹底考察! Let's get it on!!

文／高橋ターヤン　構成／鈴木佑　写真／Josh Hedge（UFC）



UFCの驚くべき広告効果とは?

MMAファンの購買行動とスポンサー

プロスポーツの世界において、そのジャンルがメジャーである証となるのがスポンサーの数や知名度。現在、UFCではハーレーダビッドソン社をはじめ、名だたる企業がサポートしている。なぜUFCは大企業にバックアップされるのか、その理由を解き明かす!

『ジ・アルティメット・ファイター(TUF)』から始まったUFCの快進撃は、一興行あたり平均3億円のゲート収入と、30~40万件のPPV販売実績(20億円程度)という二本の収益柱に、もう一本の巨大な柱を立てることに成功した。広告収入だ。

それまでのUFCでは、ズッファ体制になってから海外の酒造メーカーなどの広告がオクタゴンセンターに登場した程度で、オクタゴンポールの広告はなんとWOWOWという有様だった。つまりアメリカ人が見てもなんの購買行動にも結びつかないような広告しかなかったということだ。しかし『TUF』後にUFCのPPV販売が急増。それに伴なって露出の増えたUFCに広告を出すメーカーが一気に増えている。

まずUFCブレイク当初は、スポーツ・サプリメントのザイエンス社やMMAアパレルのTAP OUT社など、UFCのムーブメントがそのまま自社の売り上げに直結する、ある意味UFCと共存関係にある会社の広告が増加。当然、これらMMA関連会社との蜜月は現在に至るまで続いている。

さらにUFCブームが瞬間最大風速的なものでないことがわかると、今度はUFCのファン層をダイレクトに狙った商品を販売している会社の広告が目立ってくる。その中でも最大級のものはハーレーダビッドソン社とアンハイザー・ブッシュ社との提携だろう。

いまさら説明するまでもないだろうが、ハーレーダビッドソン社は1903年創立のオートバイメーカーで、アメリカでのオートバイ販売でダントツのトップシェアを誇り、大排気量の無骨なオートバイを生産し続けるアメリカを代表するメーカー。そしてアンハイザー・ブッシュ社は1852年創業のビール会社で、バドワイザーブランドのビールで世界トップクラスのシェアを誇る大会社だ。両社とも、我々日本人からしても「アメリカ合衆国」を象徴するブランドであることは言を待たない(アメリカのオートバイはハーレーであり、アメリカのビールはバドワイザーなのだ)。

そして前述のザイエンス社やTAP OUT社と違ってハーレーダビッドソン社とアンハイザー・ブッシュ社との提携は、UFCにメジャースポーツやテレビ番組と同等の価値があり、しかもUFCのファン層が自社製品の購買層と合致しているということを認められたということである。日本ではPRIDEやK—1が多くの大企業のスポンサードを受けていたこともあって、日本人にとってはそれほ



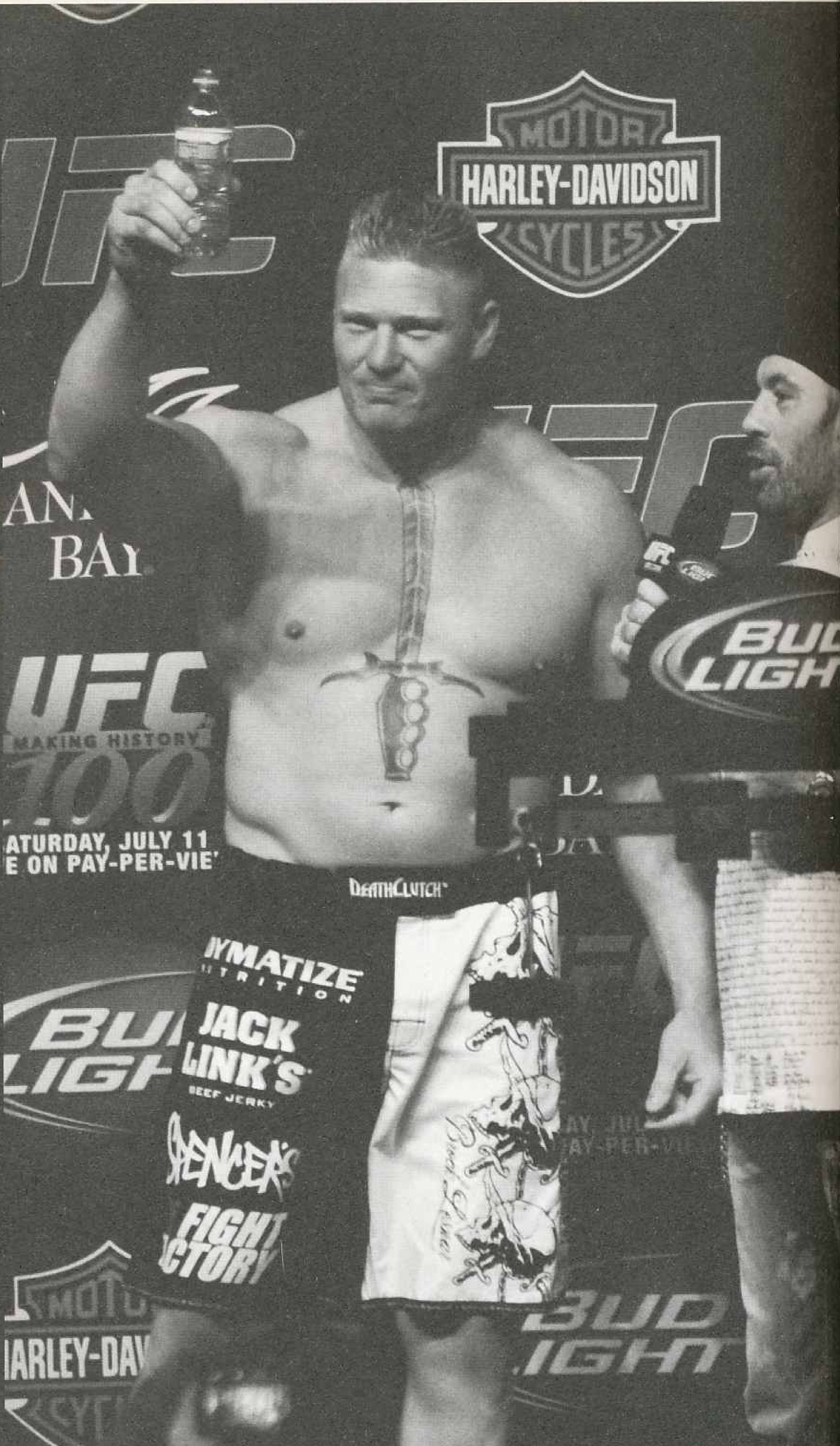
本文中にあるように、UFCの観客席を見渡すとその客層が20～30歳代の白人男性が多くを占めるのがわかる。けっして安くはないUFCのチケット、まさに格闘セレブ(死語?)が勢揃い!?

アメリカで新興スポーツに大企業のバックアップがつくことは並大抵ではない

ど大きなことではないと思われるかもしれないが、メジャースポーツとマイナースポーツのあいだに天と地ほどの落差が存在しているアメリカで、新興スポーツに大企業のバックアップがつくということは並大抵のことではないのだ。

では、なぜハーレーダビッドソン社やアンハイザー・ブッシュ社はUFCをスポンサードしたのだろうか? 現在、アメリカでは日本と同じく若者の既存嗜好品離れが進んでいる。ハーレーは中年以上の白人アメリカ人しか乗らなくなったし、ビールといえばバドワイザーという時代もすでに過去のものとなっている。そこで両社にとっては、自社の最大のターゲットである、20~30歳代の中産階級白人男性へのアピールが急務となっている。そこで目をつけたのが、20~30歳代の中産階級白人男性によって人気が支えられているという、まさに目的に合致したUFCだったのだ。そしてUFCのファンの購買行動を調査すると、そこには大企業にとってよだれが出るほどの広告効果がある層が眠っていることがわかるのだ。

アメリカのスポーツマーケティング調査会社の調査によると、パソコンを新規に購入しようとしているMMAファンは、一般のアメリカ人の1・8倍。iPodなどのMP3プレーヤーは1・4倍、CS放送システムは1・7倍、HDDレコーダーは2・3倍、さらに新型ゲーム機に至っては2・6倍という、驚くべき数値を示している。もちろん調査によって結果に微妙に差は出るだろうが、それでもアメリカのMMAファンはこの未曾有の経済危機の中でも、一般的なアメリカ人より旺盛な購買意欲を持っている層であることは間違いないのだ。



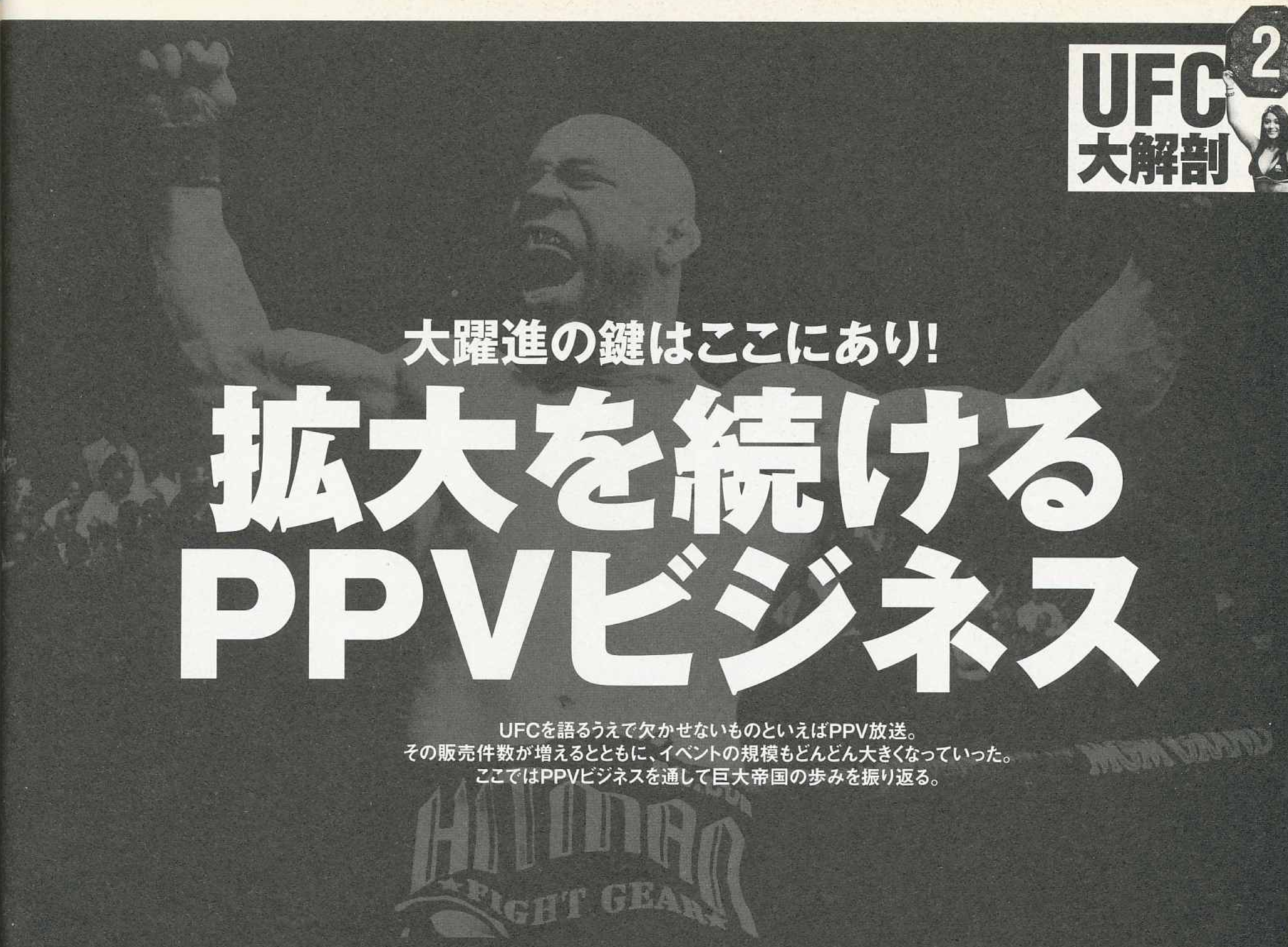
レスナーの背後にはハーレーダビッドソン社とバドライトのロゴが。ちなみにレスナーはかつて「バドワイザーは何もくれなかったから、家に帰ってクアーズライト(バドワイザーのライバル会社)を飲む」と発言、物議を醸したことも。

またその調査では、現在新車購入を予定しているアメリカ人の15パーセントはMMAのファンであり、MMAファンはオンラインでの株式投資を好み、平均的なアメリカ人よりも収入が高い世帯(年収700万円程度)であるとの調査結果を出している。

現時点でUFCは、ハーレーダビッドソン社とアンハイザー・ブッシュ社との提携に満足している状態ではあるが、つまりこれは、クライスラー社のような自動車メーカーや(フォードはすでにベラトールをスポンサード中)、ソニーやマイクロソフトのようなゲーム機メーカー、ゼネラル・エレクトリック社やブラックベリーで有名なリサーチ・イン・モーション社のような家電メーカーまでが、潜在的なUFC広告出稿候補企業となりえていることの証明なのだ。

さらにUFCというコンバットスポーツを好む層に自社商品を売り込みたい企業は製造業だけではない。たとえばUFCが毎月開催されていることを活かし、バイオレンスシーンの多いアクション映画(最近だと『ランボー 最後の戦場』『バンコック・デンジャラス』など)や、暴力描写の多いアクションゲーム(『コール・オブ・デューティ』など)は、UFCのPPVでテレビスポットを流すのはあたりまえになっている。

こうしてUFCがブームになり、広告効果が高まる。広告効果が高まると新たな企業のスポンサードを受け、UFCの露出はさらに大きくなって新たなUFCファンが増える。そしてUFCはさらにブームとなるというサイクルは、まだまだ拡大し続けている。UFCと企業の蜜月は、まだ始まったばかりなのだ。



大躍進の鍵はここにあり!

拡大を続けるPPVビジネス

UFCを語るうえで欠かせないものといえばPPV放送。その販売件数が増えるとともに、イベントの規模もどんどん大きくなっていった。ここではPPVビジネスを通して巨大帝国の歩みを振り返る。

ＵＦＣと切っても切り離せないのがペイ・パー・ビュー放送（以下、ＰＰＶ）だ。ＵＦＣは記念すべき第1回大会から大きな話題を振りまき、大量のＰＰＶを売り上げている。ＵＦＣはその勃興からＰＰＶを前提とした大会を開催してきたのだ。もちろんケーブルテレビでのＰＰＶ放送を行なっていない期間もあるのだが、これはＵＦＣが自らＰＰＶをやめたのではなく、あまりにも暴力的な内容であるため、のちに大統領候補となるジョン・マケイン上院議員による強烈なバッシング運動によって撤退せざるをえなかったという面が強かったのだ（『ＵＦＣ1』のＰＰＶ実績が想像以上に売れたために、ボクシング業界をはじめとする既存のコンバットスポーツが危機感を感じて、大のボクシングファンであるマケインを動かしたとも言われる）。

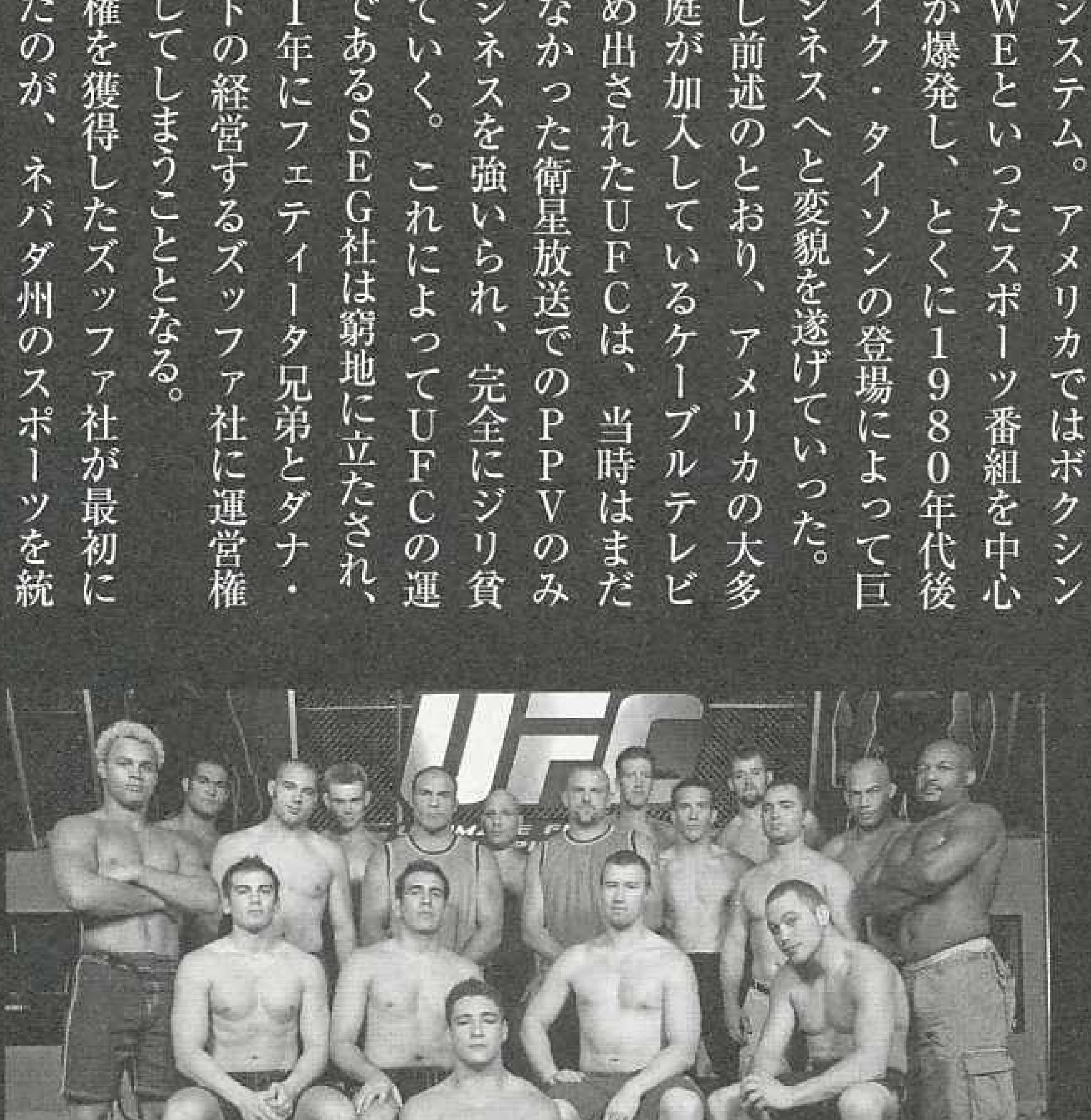
そもそもＰＰＶは、１９８０年代に始まったお金を払って特定の特別番組が観られるシステム。アメリカではボクシングやＷＷＥといったスポーツ番組を中心に人気が爆発し、とくに１９８０年代後半のマイク・タイソンの登場によって巨大なビジネスへと変貌を遂げていった。

しかし前述のとおり、アメリカの大多数の家庭が加入しているケーブルテレビから閉め出されたＵＦＣは、当時はまだ主流でなかった衛星放送でのＰＰＶのみでのビジネスを強いられ、完全にジリ貧になっていく。これによってＵＦＣの運営会社であるＳＥＧ社は窮地に立たされ、２００１年にフェティータ兄弟とダナ・ホワイトの経営するズッファ社に運営権を売却してしまうこととなる。

運営権を獲得したズッファ社が最初に行なったのが、ネバダ州のスポーツを統括するアスレチック・コミッションに、ＭＭＡを正式なスポーツとして認めてもらうこと、そしてケーブルテレビでのＰＰＶの復活だった。前者はネバダ州アスレチック・コミッションの理事を務めていたフェティータ兄弟の働きかけで現実のものとなり、後者はコミッションにスポーツであることが認められさえすれば、話はとんとん拍子に進んでいった。

こうしてＵＦＣがズッファ体制になったその年のうちに、ケーブルテレビでのＰＰＶ放送が復活。ＵＦＣはかつて想定していたビジネスモデルで、新たな船出をしたのだ。

しかしスポーツとして認可されてＰＰＶが可能になったにもかかわらず、当初のＰＰＶ販売件数は5万件程度と振るわなかった。話題性だけで『ＵＦＣ1』が10万件を、『ＵＦＣ5』が26万件を売った勢いを継続できず、長いあいだ海のものと



UFCの一つのターニングポイントとなった『TUF』。この格闘技をドラマ化した番組に視聴者は感情移入。『TUF』はUFC躍進の大きな役割をはたした。『TUF』出身者にはラシャド・エバンスやマイケル・ビスピンなど、UFCの第一線で活躍するファイターも少なくない。

も山のものともわからない暴力ショーのレッテルを貼られ続けたUFCの認知度は、地に堕ちていたのだ。

しかし2005年、ベーシックチャンネル（ケーブルテレビ契約時に基本料金で視聴可能なチャンネル）であるスパイクTVで開始された、『ジ・アルティメット・ファイター（以下、TUF）』が大ヒット。『TUF』はラスベガスの豪邸に個性豊かなファイターが集められ、約1ヵ月間生活をともにしながら、UFCとの本契約を目指すリアリティ番組。この番組で、自分たちと同じように笑い、悩み、怒る等身大のファイターに共感した全米の若者が、UFCに興味を持ちだしたのだ。

そして『TUF』でコーチを務めたチャ



UFCにおけるPPV購入数で最高値を記録した『UFC100』。そのメインではレスナーとフランク・ミアがUFC世界ヘビー級統一タイトルマッチで対戦。レスナーが2RにパウンドでTKO、王座初防衛をはたした。

PPV件数の増加によって メジャースポーツと肩を並べたUFC

ック・リデルとランディ・クートゥアーが激突する『UFC52』では、それまで5万件程度だったPPV契約件数が、一気に30万件まで跳ね上がったのだ。

35ドルのPPVが30万件売れたのだから、これだけで10億円以上の売り上げであり、ズッファ社の取り分が半分だったとしても、一夜にして5億円の収入となったのである。

さらに『TUF』最初のスター選手であるフォレスト・グリフィンと、UFC生え抜きの人気選手であるティト・オーティズの対戦をメインに据えた『UFC59』では、PPV単価を40ドルに値上げしたにもかかわらず40万件を超える件数を売り上げ、続く『UFC60』では、当時のウェルター級王者のマット・ヒューズと、UFCの殿堂入りレジェンドであるホイス・グレイシーが激突。この大会では60万件を突破し、次の『UFC61』では、『TUF』第3シーズンのコーチ対決であるティトvsケン・シャムロックが組まれ75万件を売り上げた。もう完全に倍々ゲーム状態である。

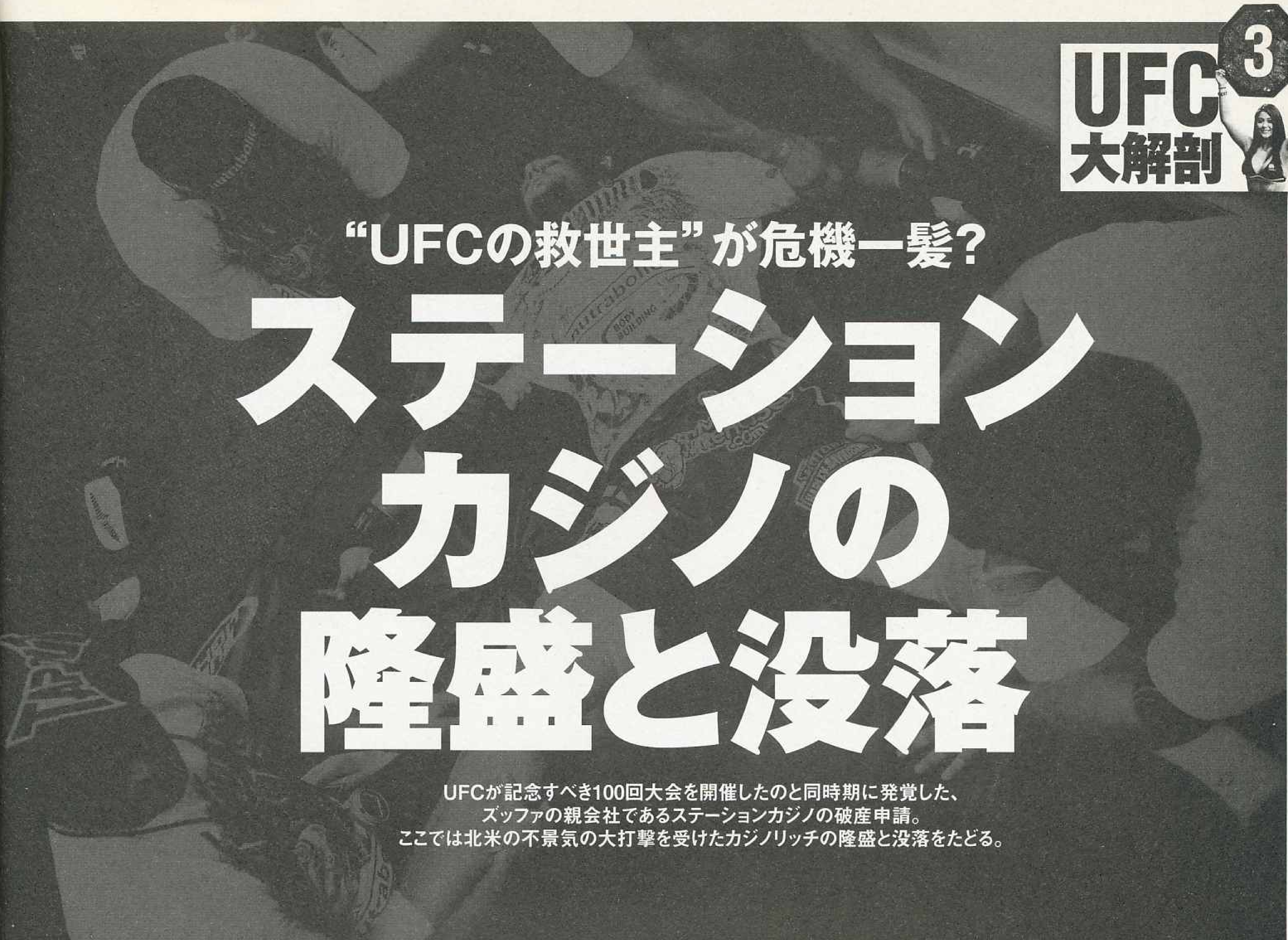
さらにその年の年末にはUFC初のニューイヤー大会である『UFC66』が開催され、かつてのチームメイトであり、UFCが誇る人気選手のリデルvsティトが実現。この大会でついに100万件の大台を突破することに成功したのだ。

ここに至ってUFCは、ボクシングなどのメジャースポーツと肩を並べたと言っていいだろう。かつてUFCの勢いを恐れ、政治家を使ってまでその活動を妨害しようとしたボクシング業界の動きは正しかったのだ。

過去データをさかのぼると、ボクシングの売上件数が減少するにしたがって、UFCの売上件数が増加しているのがよくわかる。現在UFCは1イベントあたり40万件前後を売り上げるが、ボクシングは30万件程度になっており、ボクシングは完全にUFCに凌駕されてしまったと言っていいだろう（もちろんフロイド・メイウェザー・ジュニアvsオスカー・デ・ラ・ホーヤのように240万件という前代未聞の売上記録もあるが、これは例外中の例外）。

そしてUFCはWWEのスーパースターだったブロック・レスナーを手に入れ、レスナーvsクートゥアーというキラーカードで、またも100万件を突破。さらに『TUF』第1シーズン優勝者のグリフィンと、第2シーズン優勝者のラシャド・エバンスの対戦をメインイベントに据えた『UFC92』では120万件、そして昨年行なわれた『UFC100』ではついに170万件という凄まじい記録を打ちたてるに至ったのだ（45ドル×170万件＝76億円！）。

UFCのPPV売り上げは、いまがピークという見方もある。しかし過去のUFCのPPV売り上げの遷移を見ると、人気スターの登場で売り上げの上限は高くなり続けている。あらたなスターが登場すれば、さらなる大記録を更新する可



“UFCの救世主”が危機一髪?

ステーションカジノの隆盛と没落

UFCが記念すべき100回大会を開催したのと同時期に発覚した、ズッファの親会社であるステーションカジノの破産申請。ここでは北米の不景気の大打撃を受けたカジノリッチの隆盛と没落をたどる。

現在のUFCの隆盛は、ラスベガスのカジノリッチの気まぐれから始まった。

ファミリービジネスであるカジノ経営を行っていたフランク&ロレンゾのフェティータ兄弟は、ロレンゾの幼なじみであるダナ・ホワイトが持ち込んだ格闘技イベントUFCの購入話に興味を示した。当時ダナは、ダナ・ホワイト・エンタープライズという弱小ボクシングジムの経営者だったが、マネージメント選手にチャック・リデルやティト・オーティズといった街の喧嘩屋のような男たちを抱えて怪しげな商売をしている男だった。柔術に魅せられ、PRIDEの大ファンであったフェティータ兄弟は、UFCが柔術をアメリカに知らしめた老舗団体であることを熟知しており、その将来性うんぬんよりも、単なる個人の趣味のために、当時の運営会社であるSEGから2億円でUFCの運営権および、それに付随するすべての権利を獲得したのだ。本稿ではUFCの救世主であるステーションカジノについて、あらためておさらいしてみたい。

ステーションカジノのスタートは、ラスベガス郊外のローカルカジノであった。フェティータ兄弟の父フランク・フェティータ二世は、1976年にビンゴパレスというカジノをオープン(このカジノはパレスステーションと改名し、のちにO・J・シンプソンによる武装強盗事件の舞台となる)。ラスベガスがカジノの街として発展したのは戦後すぐの1950年代からなので、かなり後発のカジノということになる。パレスステーションはいわゆるダウンタウンやストリップ通りの観光客向けの巨大カジノではなく、地元や近隣州の、週末に車を使って遊びに来る一般客をメインターゲットにしたカジノで、フランク二世は地道にこのカジノを経営していた。

そして1980年代からは、ネバダ州によるカジノ運営者を厳格に選別するゲーミングライセンス交付の徹底によって、それまでラスベガスにはびこっていたマフィアを一掃。

おりからの好景気に乗って、ラスベガスは一躍投機ビジネスのターゲットとなっていき、ニューヨークやピラミッドなどをかたどった巨大なテーマホテルが次々と建設され、ラスベガスはギャンブルの街から、家族で楽しめる巨大なリゾート地へと変化していくことになる。

そんな巨大カジノ建設ラッシュの中で、フランク二世からステーションカジノの経営を任されたフェティータ兄弟は、1993年にステーションカジノの株式を公開。ボウルダーステーション、テキサス



かつてPRIDEのラスベガス大会開催に尽力し、“PRIDEのアメリカの父”とも言われたエド・フィッシュマンは、カジノ界の大物フィクサー。カジノリッチがMMAにかかわるのは、客を誘致するための有力コンテンツになると目してるからだろう。

ステーション、サンセットステーションなど、郊外を中心に15軒の新たなカジノを次々と建設していく。徹底した地元民の囲い込み戦略が功を奏してそのいずれもが大成功を収め、ラスベガスの郊外はすべてステーションカジノと言ってもいいような状況となっていく。

そして株式上場を取り消して、ステーションカジノの経営権をあらためてフェティータ一族のものとして多大な役員報酬を受け取り、経済誌『フォーブス』では世界の億万長者として特集されるなど、フェティータ兄弟はラスベガスカジノ界のスーパーセレブとして全世界にその名を知られる存在になっていくことになる。

しかしラスベガス制覇の切り札として投入する大規模カジノ、レッドロックを建設中に事態は急変する。ステーションカジノは好景気を背景に多額の資金を借り入れ、続々とカジノホテルを建設していたのだが、2007年のサブプライムローンによる金融不安、2008年9月のリーマンショックによる世界的な大不況によって、資金繰りが一気に悪化したのだ。好景気時に高い利率で大量の借り入れを行ない、バブルそのものなド派手な資金運用を行なっていたステーションカジノは、この経済危機の余波をモロに受けることになる。

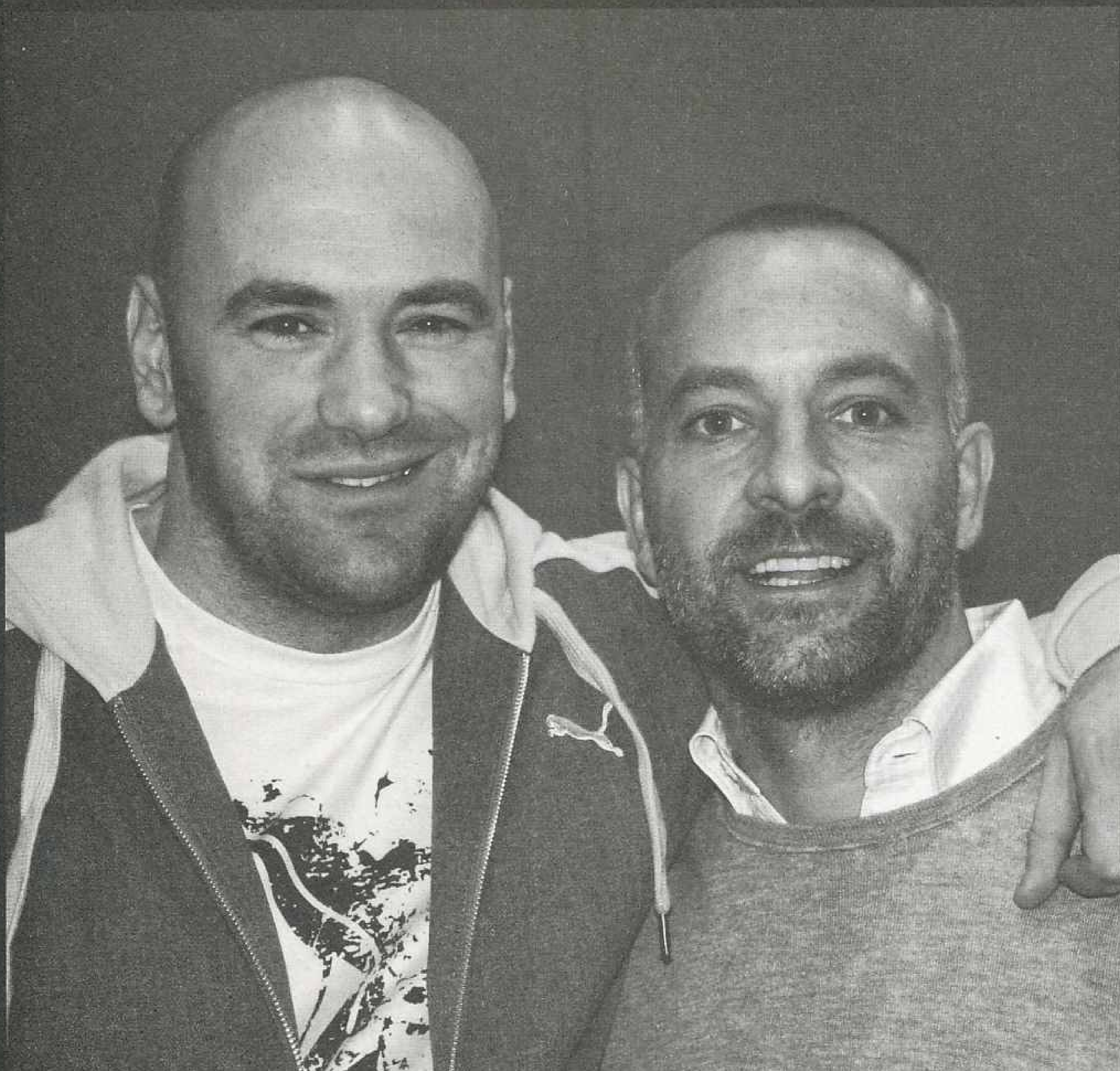
まだ本業のカジノにたくさんの客が来ればいいのだが、経済危機の影響の少ない外国からの観光客ではなく、地元民をメインターゲットにしてきたステーションカジノは、北米の不景気の打撃を真っ先に受けてしまう。カジノマシーンの稼働率は30～40パーセントに落ち込み、中規模カジノの多角展開を図ってきただけに、集中的なテコ入れも不可能。ステーションカジノの経営は完全に手詰まりになってしまったのだ。

破産寸前のステーションカジノは、2009年5月と6月に二度の負債の返還期限延長を行なったものの、ついに7月28日に連邦倒産法第11章による破産を申請。負債額は65億ドルだった（この直後の8月にはフランク二世が心臓病で亡くなっている）。

現時点で、ステーションカジノは破産を申請したが、倒産したわけではない。連邦倒産法第11章は、日本の民事再生法のようなものであり、あくまでも再建を目指した破産を目的としている。ステーションカジノの経営する各カジノはいまだに稼動を続けており、先行きは真っ暗というわけではない。しかし一度失なった信用を取り戻すのは、並大抵の努力では追いつかないことは間違いない。

そして皮肉なことに、フェティータ兄弟の道楽として買ったUFCは、ステーションカジノが破産を申請しようとしていたこの時期に100回目の記念大会を開催。ここでMMAのある種の到達点ともいえる170万件を超えるPPVを販売し、ゲート収入だけで5億円を売り上げるという前人未到の記録を打ち立てている。

ステーションカジノの破産申請は あくまでも再建を目指したものだが……

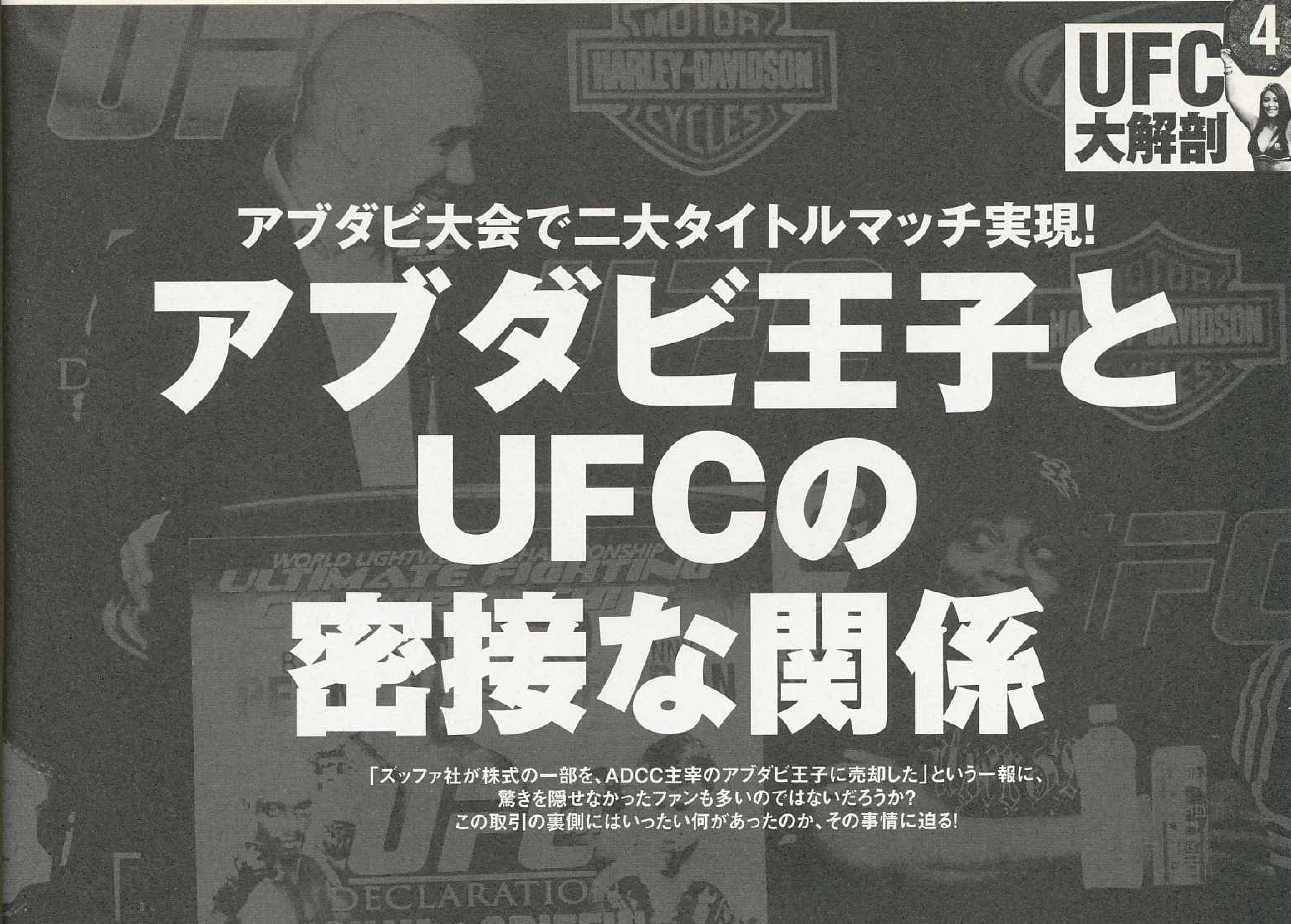








01年にフェティータ兄弟が買収するまで、UFCはアスレチック・コミッションの力が強い州では興行が行なえなかったが、ボクシング業界と結びつきの強いズッファ社は、そのコネを使ってMMAのオフィシャルルールを制定。そこからカジノの街・ラスベガスのホテルでも興業を行なえるようになったのだが……。



アブダビ大会で二大タイトルマッチ実現!

アブダビ王子とUFCの密接な関係

「ズッファ社が株式の一部を、ADCC主宰のアブダビ王子に売却した」という一報に、
驚きを隠せなかったファンも多いのではないだろうか?
この取引の裏側にはいったい何があったのか、その事情に迫る!

業界の盟主、唯一無二のメジャー団体であるＵＦＣ。大会ごとにゲート収入は数億円、ＰＰＶを40万件売り上げるＵＦＣは、名目上とはいえ親会社であるステーションカジノと経営を切り離したことによって、順風満帆な経営を行なって我が世の春を謳歌していると思われていた。

それゆえに２００９年１月９日に飛び込んできた、「ＵＦＣ運営会社であるズッファ社の株式の一部を、アブダビの王子に売却」というニュースは世界を驚愕させた。このニュースは続報によって、ズッファ社の株がアブダビの国営企業であるフラッシュ・エンターテインメント社に売却されたという事実が確認され、１月12日にはＵＦＣの公式サイトで正式発表、ダナ・ホワイト代表もコメントを出すに至った。

一般読者にとってはアブダビと格闘技というと、グラップリングの世界一を決めるアブダビ・コンバット・クラブ世界サブミッション・レスリング選手権（ＡＤＣＣ）というイメージ程度なのではないだろうか?　本稿では、改めてアブダビとはどんな国なのか、そしてズッファ社株をアブダビに売却した事情について推察してみたい。

アブダビ首長国はサウジアラビアの東、ペルシャ湾に臨む立地にあるアラブ首長国連邦（ＵＡＥ）の構成国家の一つ。ＵＡＥはほかにドバイ、シャールジャ、アジュマーンといった７つの首長国（首長はイスラム世界の君主の意）からなる連邦国家で、ＵＡＥ全体の内、国土の80パーセント、国内総生産の50パーセントがアブダビであることからわかるように、ＵＡＥの主導権はアブダビが握っている。一般的には「政治のアブダビ、経済のドバイ」と言われているが、実際には政治権力、経済基盤ともアブダビが抜きん出ている。とくにドバイショックと呼ばれる２００９年11月の金融危機によって、アブダビの発言力はさらに高まっている状態だ。

そんなアブダビは王家であるナヒヤーン家が建国した国家であり、現在に至るまでナヒヤーン家が首長を務め続ける立憲君主国家である。イギリスの保護国であった建国当初は、ラクダの飼育や漁業程度しか産業がなかったが、１９５８年に油田が発見されてからは、ザーイド・ビン＝スルターン・アール＝ナヒヤーン大統領のもとで一気に経済が活性化。現在に至る繁栄を誇っている。

アブダビ経済の特徴としては、ほかの中東諸国と違ってＧＤＰに石油輸出が占める割合が40パーセント程度と低く、中東における金融、流通、観光の拠点となる

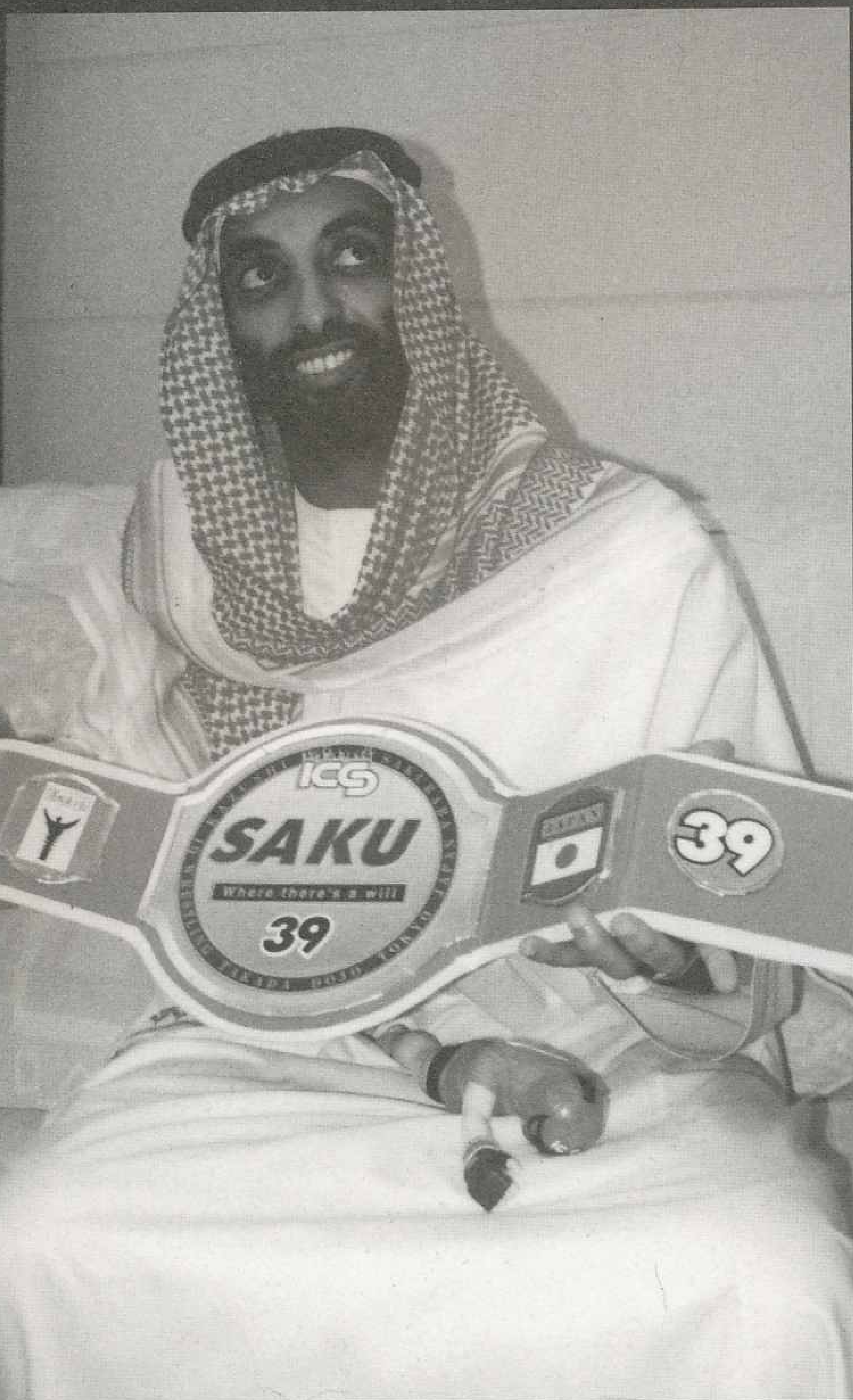


UFCとアブダビ王子の橋渡し役をはたしたヘンゾは、ファンのことをフレンドと呼ぶ、グレイシー一族きってのナイスガイ。ADCCでは98年と00年に77kg級未満で優勝を飾っている。

べく国家運営が行なわれている点だ。それゆえ、石油価格の上下による影響の少ない、安定した経済活動が行なわれており、その莫大な資金の多くが国営企業（＝ナヒヤーン家の私企業）によって運用されている。そして現在ナヒヤーン家の総資産は数十兆円と言われており、その巨大な資産を世界的な政治、経済、文化、スポーツ事業の支援に利用しているのだ。

　そんなナヒヤーン家の王子で、ザーイド・ビン＝スルターン・アール＝ナヒヤーンの十二男であるシーク・タヌハーン・ヴィン・ザイード王子は、1993年のUFC第1回大会でのホイス・グレイシーの闘いに魅せられて、ヘンゾ・グレイシーの道場に入門。ヘンゾはそのもの静かな小男がアブダビの王子であることを知らず、ジムの掃除までさせていたという。真面目に修行に打ち込むシーク王子は、いまでは柔術黒帯を取得。そして豊富な個人資産でADCCを開催。ADCCは2年に一回開催される世界最高峰のサブミッショントーナメントとして現在に至っている。

　そしてUFCとPRIDEの大ファンであるシーク王子を、好調に見えながら資金繰りが悪化していたUFCと出会わせたのはヘンゾだった。自身の道場に入門して以来、シーク王子と個人的関係を強め、現在では年に数回アブダビに渡るなど、シーク王子の個人的なビジネスパートナーとなっているヘンゾは、昨年ロレンゾ・フェティータとダナ・ホワイトをシーク王子に紹介する。この時点でズッファ株売却話が出ていたと言われており、それにともなって2010年春のUFCアブダビ大会の開催が決定したのだ。さらにこの大会ではBJペンとアンデウソン・シウバという、二人のUFC王者のタイトルマッチが行なわれることも決定。大会数の増えたUFCで、一大会で複数のタイトルマッチが行なわれるのは異例中の異例。



大の桜庭ファンとしても知られるシーク王子。世界中からトップファイターを集めたADCCも、当初の運営費用は王子の個人資産でまかなわれていたというからビックリ! ちなみに我らが菊田早苗さんは01年に88kg級未満級で優勝されてます。

ズッファのアブダビ王子への株売却はUFCにとってネガティブな話ではない

　また、オーストラリアで開催する『UFC110』も、アメリカでプライムタイムに放送するために現地時間の朝10時から開催するほどアメリカでのPPV放送をメインに考えるUFCが、アブダビ大会だけは現地時間の夜9時開始。つまりアメリカでは午後1時からの放送という特別な配慮もされている点も異常である（アメリカではスポーツ番組は夜観るものとなっている）。それほどUFCはシーク王子の顔を立ててアブダビ大会を成功させようとしているのだ。

　またMMAファイターとしてのレベルは相当低いホーレス・グレイシー（ヘンゾの弟子）が『UFC109』に出場できたのも、ファイターとして半引退状態であるヘンゾ自身がUFCのアブダビ大会に出場できるのも、ヘンゾが今回のズッファ株売却ではたした役割に対する謝礼、もしくはシーク王子の強い希望という意味が含まれているのは想像に難くない。

　ただ今回のズッファ株売却はUFCにとってネガティブな話ではない。莫大な売り上げを誇るUFCといえども、世界進出時の多額の借り入れ金の返済を迫られている状態で、アブダビの巨大な資金力をバックにできることは何にも代えがたいメリットだろう。ビジネス的にも、投資家や銀行からも好判断として迎えられるニュースだ。そして今回の提携は資金面だけでなく、UFCがこれから進出のメインターゲットとして考えている中東、インド、東南アジアや中国といった巨大マーケットでの活動実績のあるフラッシュ・エンターテインメント社と提携できたのは大きなメリットとなるのだ。

　もちろん、これまでダナが独裁体制を敷いてきたズッファに、どのような変化が起きるのか不安点もなくはない。しかしそれでも世界制覇を狙うUFCにとって、この決断は大きな転換点となるはずだ。



ニューヨーク州がMMA解禁を検討中!?

MMA反対派とUFC闘争の歴史

いまやボクシングを凌駕するほどの人気を博しているUFC。
しかし新興スポーツであるがゆえに、世間に認知されるまでには長い闘いがあった。
ここではUFCが現在のように大衆に受け入れられるまでの歴史を振り返る。

ＭＭＡという新興スポーツは、常に世間の偏見と闘ってきた。

それはまるでキリストが自身の教えを迫害され続けたように、ＭＭＡという新たな価値観は一般的に受け入れられるものではなかった。そしてアメリカにおいては、ＭＭＡ＝ＵＦＣだ。ＵＦＣの歴史は、ＵＦＣに反対する人々との闘いの歴史でもある。

鳴り物入りで始まったＵＦＣは、世界中から集まった猛者たちが金網に押し込まれ、なんでもありの闘いを繰り広げる、衝撃以外の何物でもないコンテンツであった。倒れた相手を失神するまで殴り続け、拳だけでなく、ヒジも蹴りもヒザもなんでもありの闘いは、伝統的にボクシングを好むアメリカの人々に嫌悪感を植えつけた。しかしもともとＵＦＣは、そういった圧倒的な暴力に対して、セルフディフェンスとしての柔術の素晴らしさを伝えるために始まったものだった。

それを体現したのがホイス・グレイシーで、一発のパンチも出さないまま、自分の何倍もの大きさを誇る力自慢たちを次々に組み伏せたホイスは、世界中の格闘技関係者に程度の差こそあれ影響をおよぼすに至っていたのだ。

だがそういった「格闘技的視点」を持たぬ人々にとって、ＵＦＣで展開される闘いは人間に悪影響を与えかねない、徹底的に唾棄すべきものである。圧倒的な暴力への訴求力は、悪魔の誘惑そのものであった。それはつまり、ＵＦＣが持つ人間の根源的な欲求に働きかける力を、図らずも認めていることを示している。

まずＵＦＣに反応したのは、既得権益を侵されることを恐れたボクシング業界であった。おりしもマイク・タイソンらによってボクシング人気が大きく盛り上がっていた時代であったが、同じファイトビジネスであるボクシング業界は、ＵＦＣのおもしろさを直感的に理解したのだ。さっそく大のボクシングファンである共和党上院議員のジョン・マケイン（2008年大統領選の共和党候補）を動かして、反ＵＦＣキャンペーンを開始する。

マケインたちはＵＦＣの暴力性、それを見世物にする不健全性を徹底的に糾弾。それによってアメリカ各州のアスレチック・コミッションはＵＦＣへの興行認可を出さなくなり、主収入源であったケーブルテレビでのＰＰＶ放送も行なえなくなってしまった。

ＵＦＣはアスレチック・コミッションの規制の弱い州や、各州に存在するインディアン自治区のカジノ（自治区独自法によってアメリカの各種法律の適用外）で細々と活動せざるをえなくなっていく。



93年にコロラド州で開催された『UFC』第1回大会。当時無名のホイス・グレイシーが、ケン・シャムロックやジェラルド・ゴルドーをくだして優勝。反則は目潰しと噛みつき・金的攻撃のみというバイオレンスなルールは、世界の格闘技ファンに衝撃を与えた。

最初にUFCに反応したのは既得権益の侵害を恐れたボクシング業界だった

　時は移ろい、元ネバダ州アスレチック・コミッション理事であるロレンゾ・フェティータをオーナーに迎えた新生UFCは、早速ルールを整備してアスレチック・コミッションの認可を受ける正統なスポーツとしてUFCを定義（実際にはMMAは早くからあらゆる格闘技を学ばねば勝てないハイレベルなスポーツとなっていたが）。アメリカ各地でUFCが開催できるように、各州の議会へのロビー活動と、アスレチック・コミッションへの働きかけを行なった。そんな中でダナ・ホワイトとリッチ・フランクリンは、アメリカで最も視聴率の高いニュースショーである『ザ・オライリー・ファクター』に出演。保守派の論客であるオライリーは、当然反MMAの急先鋒（というかオライリーは革新的な何かをすべて批判するが）。番組ではオライリーがなんの裏づけもない諸説をもって、MMAの危険性を徹底的に糾弾。元高校教師のフランクリンが、指摘されたアマチュア時代の危険な経験に対して論理的に反論すると、オライリーは矛先をダナに向ける。最初はにこやかに応じていたダナだったが、「ボクシングでさえこんなに危険なのだからMMAはもっと危険だ」という主張に、ダナはいらだった様子で反論（危うくFワードも言いそうになった）。しかし結局、番組はオライリーが言いたいことだけを言って強制的に終了されてしまった。

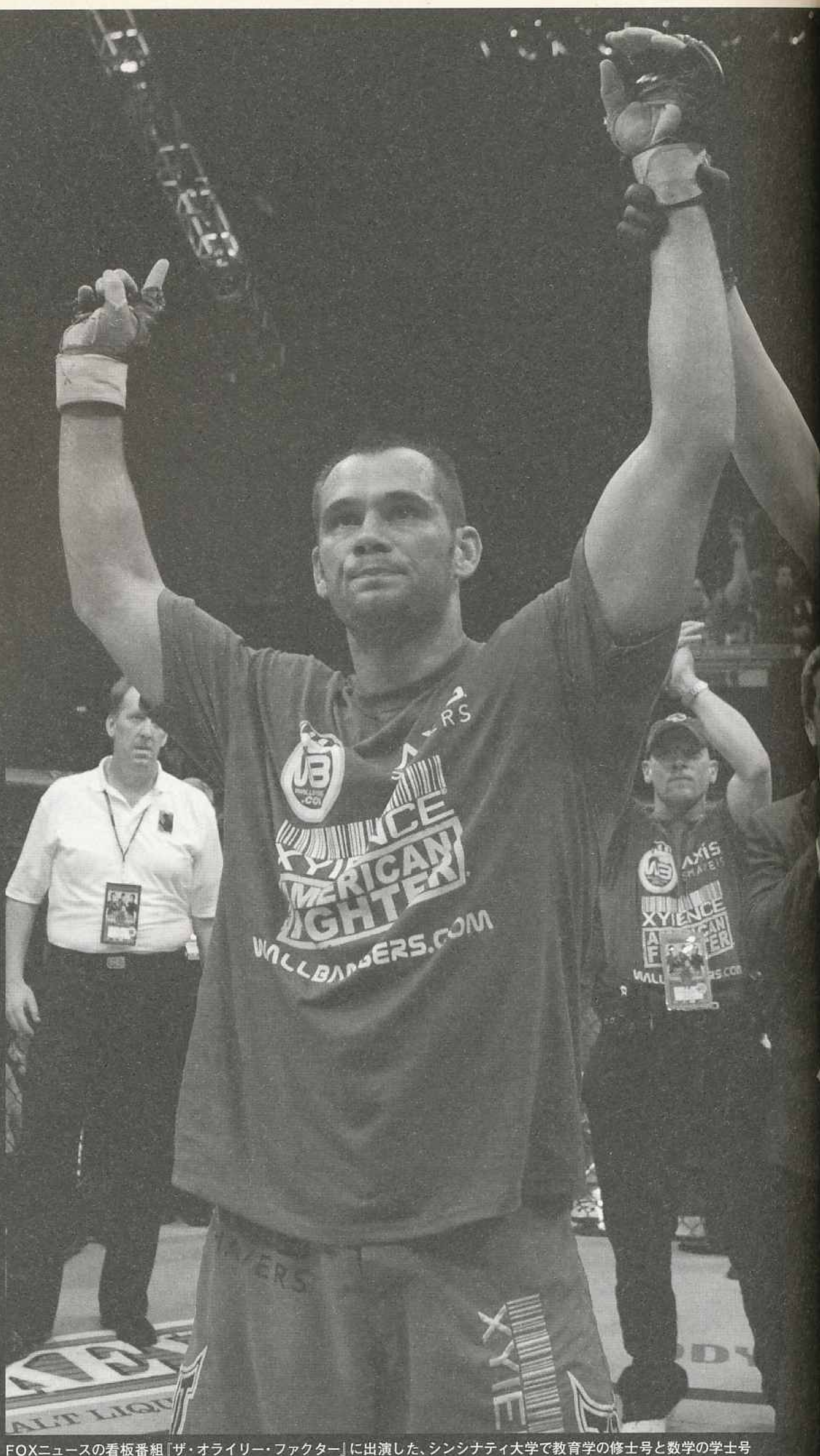
　このようにアメリカの反対派は自分の価値観に基づいた主張と、自分の主張を補完する都合のいい調査結果をもってMMAを批判し続ける。しかしいまやUFCは100万件以上のPPVを売り上げ、年間数十万人のファンを動員するビッグイベントとなった。大衆はすでにUFCという価値観を、生活の中に受け入れつつあるのだ。

　そしてそんなUFCが、いまだに打ち破れずにいる壁がニューヨークだ。UFCは何度もニューヨーク議会にロビー活動を行ない、そのたびにその分厚い壁に阻まれてきた。

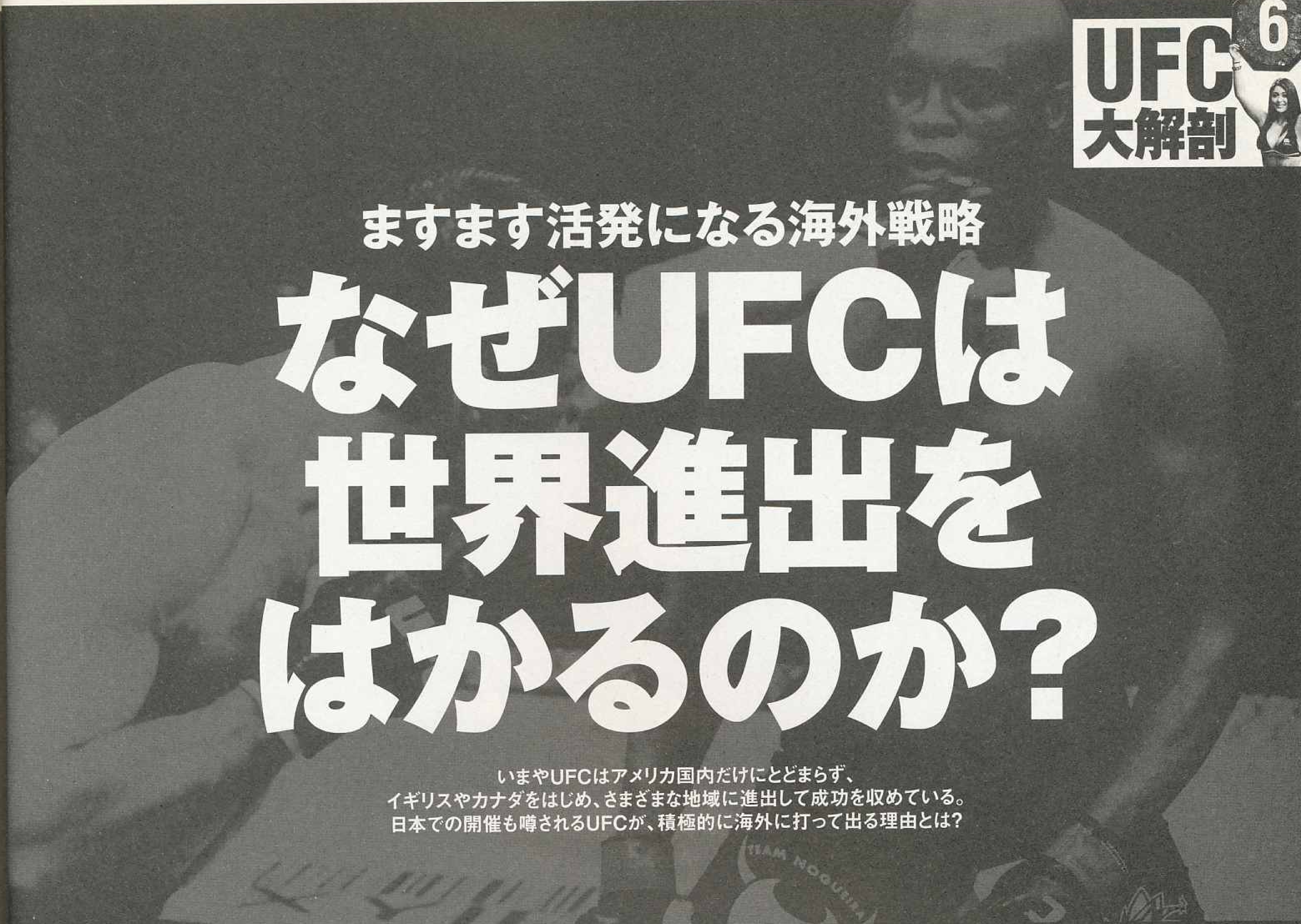
　ボブ・ライリー議員をはじめとするMMA反対派のニューヨーク州議会議員は、MMAの危険性だけでなく、MMAイベントの開催が州の経済のためにならない（UFCのPPV収益への課税はネバダ州が独占している）ことを強調。徹底的な反対運動を行っている。

　しかし史上最悪の不況の中で、ニューヨーク州知事のデビッド・パターソン知事は、州経済再建案の一つとしてMMAの解禁を検討しているという（これに対してライリー議員は、ネバダルールではなく修斗ルールに近いルールの採用を求めているらしい）。これによってUFCの悲願であったマジソン・スクエア・ガーデンでの開催も夢ではなくなってきている。

　とにかく反MMA最後の牙城であるニューヨークの切り崩しにめどがついたUFCが次に狙うのは、アメリカのどこかの州ではなくヨーロッパだ。ヨーロッパでも、初期UFCの影響からMMAを法律で禁止する国が多い。しかしすでにUFCは各国への働きかけを開始していると見られ、長年MMAを禁止してきたフランスでは一昨年MMAが解禁された。UFCに反対する者は引きも切らないが、UFCは世界を制覇するまで彼らと闘い続けることになるだろう。



FOXニュースの看板番組『ザ・オライリー・ファクター』に出演した、シンシナティ大学で教育学の修士号と数学の学士号を取得している頭脳派、リッチ・フランクリン。ちなみに03年のイノキボンバイエに来日、LYOTOに敗北を喫している。



ますます活発になる海外戦略

なぜUFCは世界進出をはかるのか？

いまやUFCはアメリカ国内だけにとどまらず、
イギリスやカナダをはじめ、さまざまな地域に進出して成功を収めている。
日本での開催も噂されるUFCが、積極的に海外に打って出る理由とは？

ズッファ社はわずか5年で、UFCをアメリカでも指折りの人気スポーツへと変貌させた。

UFCの隆盛はズッファ社に莫大な利益をもたらし、後続のIFL、エリートXC、アフリクションといった団体はUFCと張り合うためにさまざまな仕掛けを試みたが、どの団体も完膚なきまでに叩きのめされてしまった。最大のライバルであったPRIDEは、アメリカではまったく勝負にならなかったし、いまでもストライクフォースという高いポテンシャルを持つ強敵もいるが、いまだメジャー化の過程で発生する混乱から抜け出せていない。つまりUFCは、現時点でアメリカで唯一無二の存在なのだ。

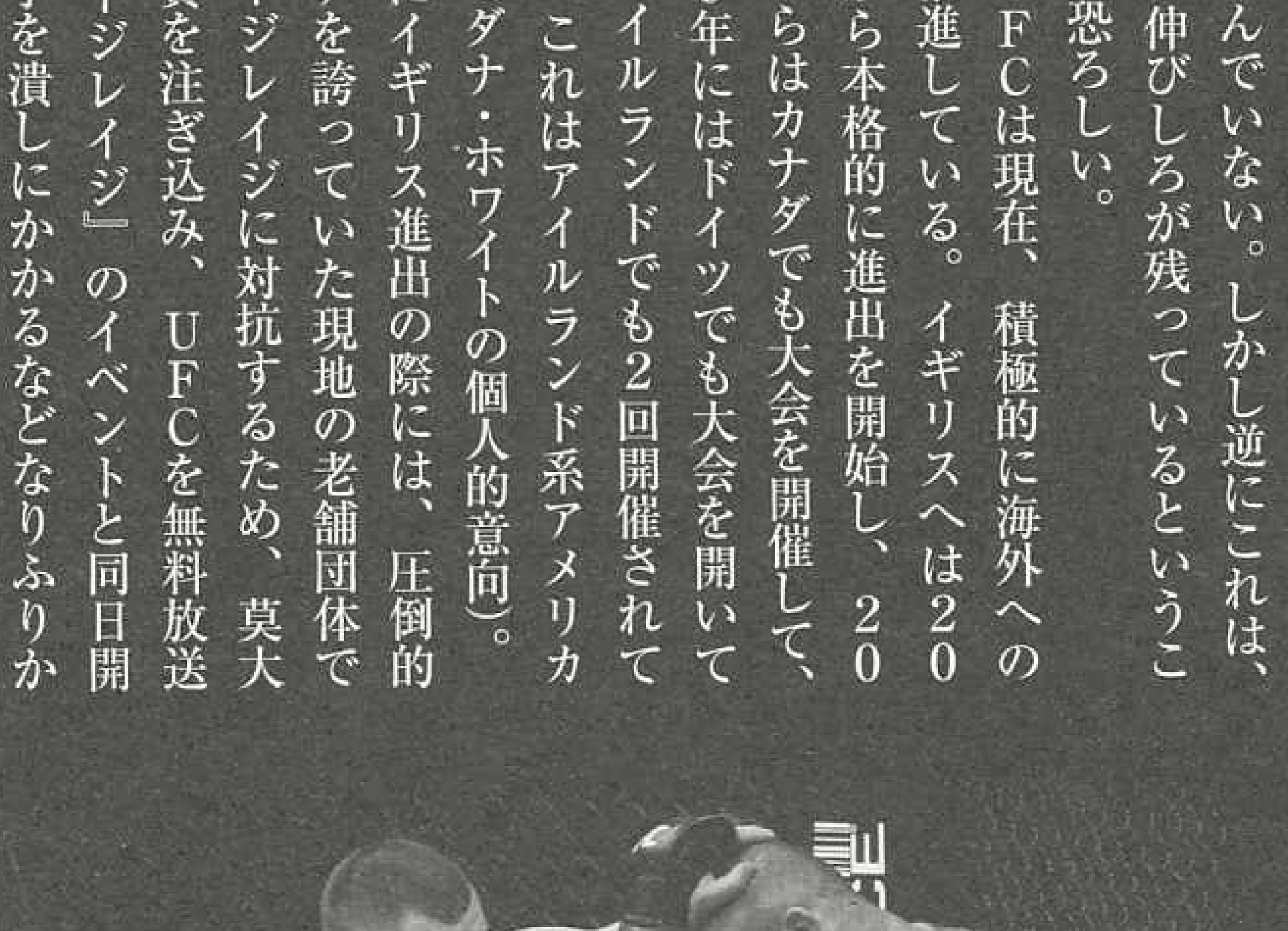
しかもこれほどまでに巨大化したUFCであっても、まだまだアメリカではマイナースポーツの域を脱していない。ベースボールやアメリカンフットボールに比べれば、市場規模もファンの数もまったくおよんでいない。しかし逆にこれは、まだまだ伸びしろが残っているということだから恐ろしい。

だがUFCは現在、積極的に海外への進出を推進している。イギリスへは2007年から本格的に進出を開始し、2008年からはカナダでも大会を開催して、2009年にはドイツでも大会を開いている（アイルランドでも2回開催されているが、これはアイルランド系アメリカ人であるダナ・ホワイトの個人的意向）。

とくにイギリス進出の際には、圧倒的なシェアを誇っていた現地の老舗団体であるケージレイジに対抗するため、莫大な広告費を注ぎ込み、UFCを無料放送し、『ケージレイジ』のイベントと同日開催で相手を潰しにかかるなどなりふりかまわぬ物量作戦によってようやく定着させることに成功している（このときの借入金によって、UFCはいまもなお相当苦しめられていると言われている）。

それにしても、アメリカだけでも充分以上の収益を上げているにもかかわらず、なぜUFCはリスクを背負ってまで世界へ進出をはかるのだろうか？

理由の一つとして考えられるのは、アメリカ人が持つ文化的なコンプレックス、もしくはそれに反発した覇権主義的な性格だろう。200年しか歴史がなく、他国に比べて文化的成熟度に劣るアメリカは、それに対するコンプレックスがDNAにすり込まれてており、それゆえに自国の文化の優位性を他国に知らしめようとするというものだ。これはメジャーリーグの決勝を「ワールドシリーズ」と言ったり、NASCARのようなアメリカ独自のモータスポーツが発展したりと、や



ドイツで開催された『UFC99』にはミルコが1年9ヵ月ぶりに参戦。ヨーロッパ出身で知名度とともに人気も高いミルコ。PRIDE時代の輝きは影を潜めているものの、UFCの欧州戦略には欠かせないファイターだ。

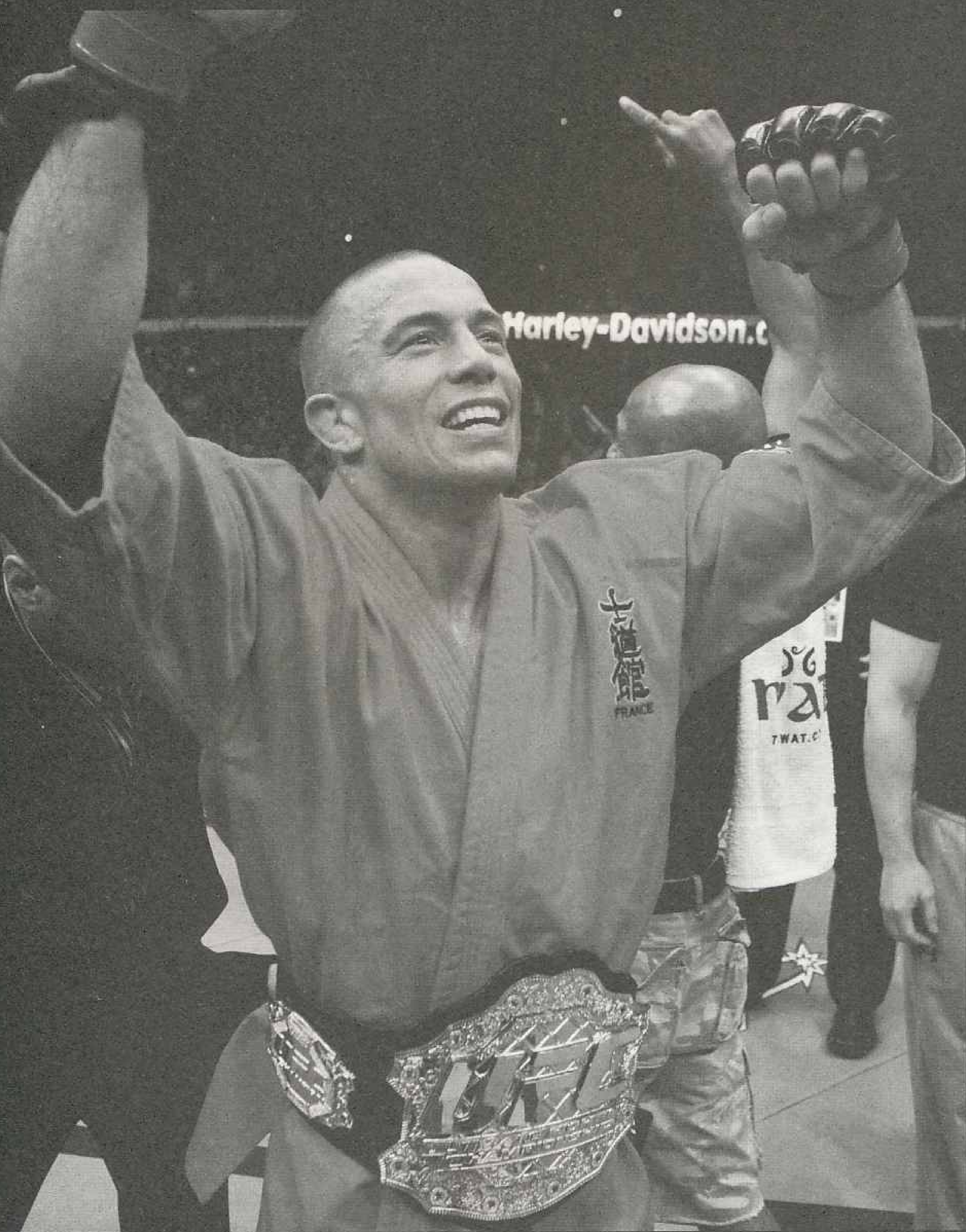
やもすると内向きになりがちなものであるが、逆にハリウッド映画のようにアメリカ独自の発展をとげた文化が世界を制覇した例もある。

そしてもう一つの理由として考えられるのが、いずれ訪れるアメリカでの発展の限界、そこにズッファ首脳陣が気づいたという点だ。

世界最大の経済規模を誇るアメリカとはいえ巨大化には限界がある。北米のMMAは単一企業による独占市場であるがゆえに、ズッファの発展が止まれば即座にMMAの衰退につながることになる。ほかのメジャースポーツのように、チームごとに親会社や後援都市があり、親会社の景気が悪くなれば、次の好調な企業に売却というスタイルをとるわけにはいかない。つまりズッファは市場規模を拡大し続けなければならないのだ。そしてズッファは、UFCがアメリカで拡大できる市場規模の最大値、それを知ってしまったのではないだろうか。人気は最大値（ピーク）に達してしまえば、あとは落ちていくだけである。ズッファとしてはそれだけは避けなければならないのだ。とくにアメリカで100年に一度と言われる不況が始まったことによって、その危惧は決定的になった。

そこでまず同じ英語圏であるイギリスに進出、採算度外視で露出を増やした結果、いまイギリスではUFCはサッカーを別格としたそのほかのスポーツの中ではトップクラスの人気スポーツとなっている。続いて昨年はドイツ大会も実施。ダナはフランス、スペイン、イタリアでの開催も示唆しており、ヨーロッパ制覇は最優先事項となっている。しかしもともと英語圏ではなく、キックボクシング人気が高くて、アメリカ発の文化に対するアレルギーがあるヨーロッパ諸国への進出は、なかなか難しいとの見方もあるので予断を許さない。

またMMAに対する規制が厳しい隣国



カナダのスポーツサイト『sportsnet.ca』が制定する「08年カナディアン・アスリート・オブ・ザ・イヤー」で、ほかのジャンルの選手をおさえてMMAから初の受賞者となったGSP。まさに「オラが町のスーパースター」だ!

UFCは生きるために生息場所の拡大を続ける回遊魚のようなものかもしれない

カナダでは、ジョルジュ・サンピエールという絶対王者の出身地であるケベック州モントリオールを中心に順調に実績を重ねており、アメリカと密接な関係にあるカナダのアスレチック・コミッションへの働きかけも徐々に功を奏していると言われている。同じく英語圏で、不況の影響をほとんど受けなかったオーストラリアも、2010年に初開催された『UFC110』のチケットが1時間もかからずに完売するなど、好調な出足を見せている。

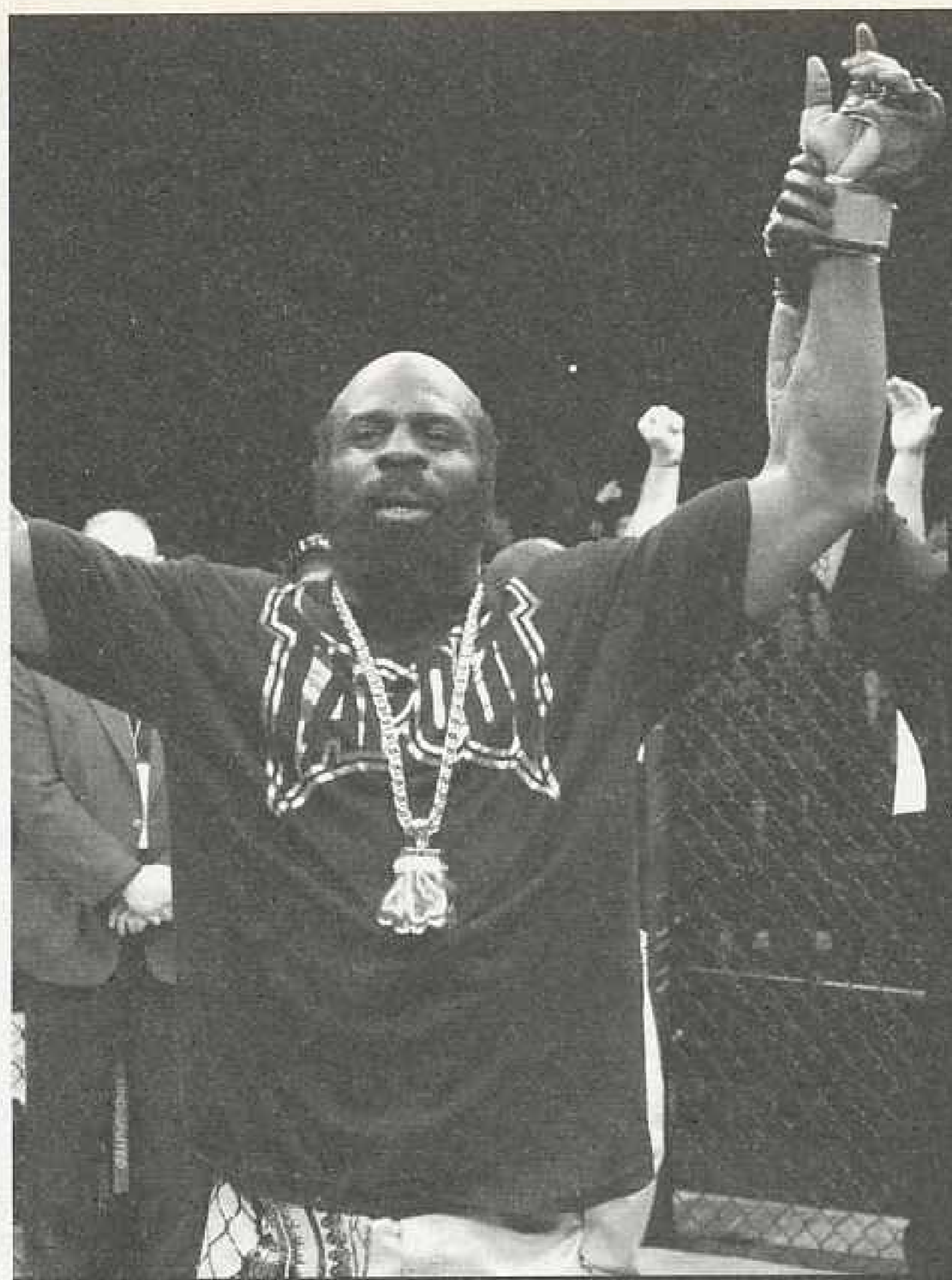
そして中国、インド、ブラジル、ロシアといったいわゆるBRICs諸国も、UFCが狙いを定めているメインターゲットだ。バーリ・トゥード発祥の地で、多くのブラジル人ファイターを生み出しているブラジルは問題なく進出が成功すると思われるが、既存の反UFC勢力が大きいロシアは後回しにされるだろう。そしてコンバットスポーツ未開の地である中国とインドは、今後数年で数億人の優良中産階級が生まれると見られており、この地域でMMAを根づかせるのはUFCの至上命題であろう。早速中国へは、中国最大級のポータルサイトであるSohu.comと提携。公称20億人が利用しているポータルサイトであるSohuでの動画配信は、UFCにとっては大きな追い風となるであろう。

また上海でアート・オブ・ウォーというMMAイベントを後援しているムハンマド・ヴィン・ザイード王子が、ズッファ社の株を購入したシーク・タヌハーン・ヴィン・ザイード王子の兄である点も、中国の進出には助けになるのではないだろうか。

UFCは生きるために生息場所を拡大し続ける回遊魚のようなものかもしれない。現時点でUFCの世界進出が成功するのか否かはわからないが、我々は歴史の証人としてその姿を見ることができるのである。

CM出演は商品価値のものさし

一般企業の広告塔No.1は誰だ?



なんでも最近、アメリカではUFCファイターを起用したCMが増えてるそうな。
それだけ一般にもUFCが浸透している証しといえるだろう。
しかし、そんな彼らが束になってもかなわない商品価値のファイターが実在した!?

アメリカではUFCの大ブームによって、UFCファイターの商品価値はきわめて高くなっている。それによって、UFCファイターをCMに起用する企業も増加の一途をたどっている。ここではUFCファイターのCMについて語ってみたい。

アメリカという国は国土が広く、各州の独立精神が旺盛であることもあって、地元都市単位のローカルテレビ局が多数存在している。当然そのチャンネルではその町のニュースや生活情報番組が放送されており、そこで放送されるCMは、オラが町のカーショップだったり、スポーツ用品ショップのようなものばかり。そんなCMには地元の有名人として、UFCファイターも多く登場している。

たとえば全米的な人気を誇るチャック・リデルはMGスポーツ・サプリメンツというサプリメントショップのCMで、有名ポルノ俳優のロン・ジェレミーにボコボコにされるという、MMAファンが観たら卒倒しそうな役を演じている。また元ライトヘビー級王者で映画俳優としても活躍するクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンは、アメリカ西部でチェーン展開中のOTMファイトショップという、日本でいうところのイサミみたいなお店のCMに出演。ほかに『TUF』出身の人気者フォレスト・グリフィンもJ&Jヘルスフーズというサプリ屋さんのCMに登場。これらのCMは、ローカルCM特有の激安CMばかり。しかしこれらのショップはファイターへの個人的なサポートを行なっている場合も多いので、ファイター自身もサービスで出てあげているということのようだ。

そして次に多いのが、ちょっとメジャーになって特定業種向けメーカのCMへの出演。マッスル・ドリンクというスポーツドリンクはティト・オーティズを起用し、同じくスポーツドリンクのVOLUMAIZEにはグリフィンが登場。

またスポーツアパレルのCMだと、アフリクションのCMにはジョルジュ・サンピエール、ランディ・クートゥアーが出演。ウォリアー・ウェアにはショーン・シャークが出演している。これらはファイターという仕事から直結したCMである。



アメリカの女子MMAの主役として活躍する美女ファイター、ジーナ・カラーノ。
ジーナが出演するカッコよすぎるペプシのCMは『You Tube』で各自調査!

現時点でスーパーボウルのCMに出演したのはジーナ・カラーノだけ

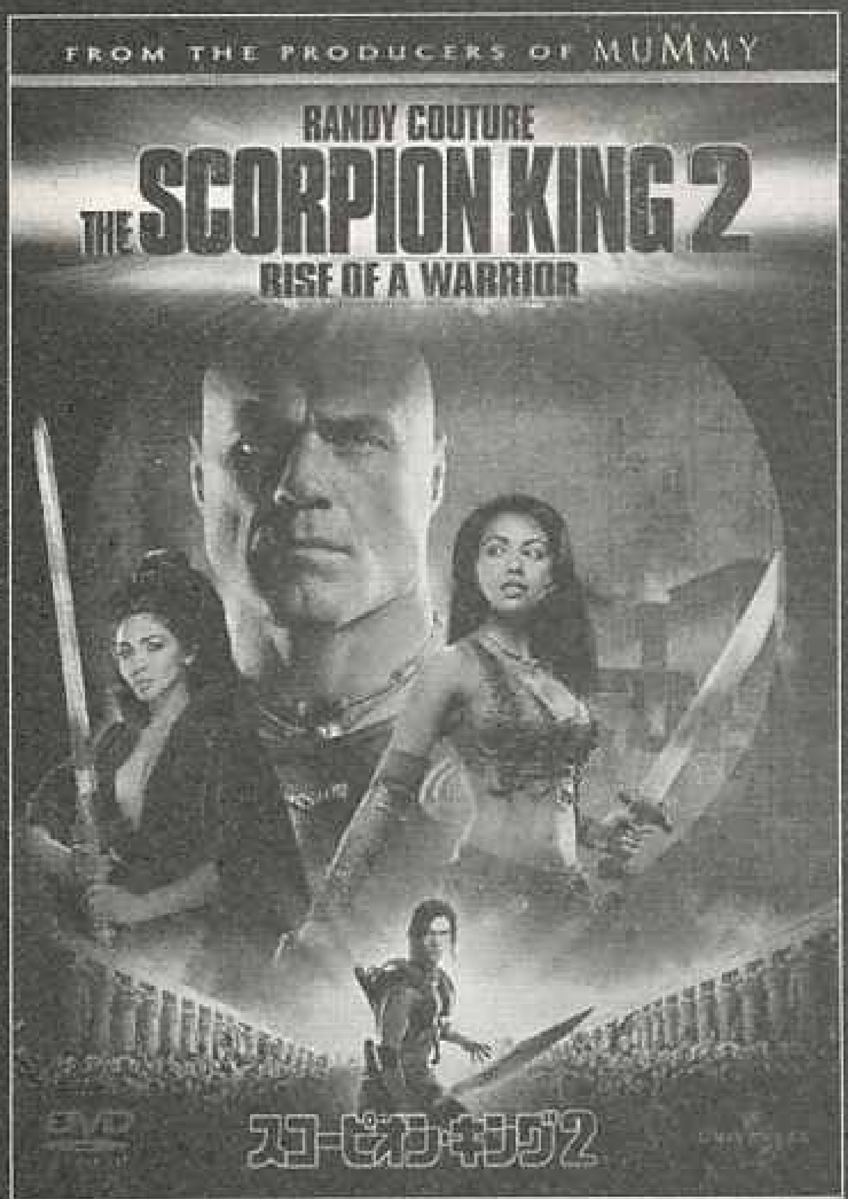
それとは別に、狩猟時の鹿をおびき寄せるフェロモン液のCMに出演中のマット・ヒューズ、ハンティング用匂い消しや、そのものズバリなハンティング用弾丸メーカーのCMに出演するブロック・レスナーなどは、狩猟好きのファイターが自分の趣味と実益を兼ねているようなCM。UFCファイターのパーソナリティがクローズアップされた結果、出演依頼がきた思われるCMも散見されている。

ここまで読んで、「なんだよ、結局マイナーな商品のCMばっかりじゃん」と思われるかもしれないが、いわゆるメジャー商品のCMに出演しているUFCファイターも急増中だ。

たとえばキンボ・スライスはインターネットセキュリティソフトのノートンのCMに出演。何パターンかあるが、どれも衝撃的な結末なのが楽しいのでぜひ観てもらいたいCMだ。またVOLANT社のエンジンマフラーのCMに出演しているのはクートゥアー。ジョルジュ・サンピエールはゲータレードのCMに出演している。そしてきわめつけはラシャド・エバンス。なんとマイクロソフトの反アップルキャンペーンCMである『I'm a PC』でビル・ゲイツと競演。このようにUFCファイターが出演するCMも、徐々にメジャーなものが増えているのだ。

しかし最も多くのアメリカ人がテレビを観る日、スーパーボウルのCMに出演したのは、現時点ではペプシのCMに出演したジーナ・カラーノだけである。UFCファイターが束になってかかっても、ジーナのほうが商品価値は高いってことなのかもしれない。

UFC 大解剖 8



『スコーピオン・キング2』　価格＝1500円（税込）
発売元：ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

目指すはアクションムービースター？

銀幕の世界のMMAファイター

古くはヒクソン・グレイシーやバス・ルッテンなど、格闘家が活躍の場としてスクリーンを目指すのは珍しいことではない。では現在活躍する選手たちはどうなのか？ ファイターたちの映画出演事情を探る

映画出演はファイターにとって数日の拘束で数百万も稼げるおいしい仕事

ズッファ社はUFCブランドを高めるために、ファイターがメディアに出ることを積極的に推進してきた。それによってUFCファイターの、映画というメディアへの進出も日に日に盛んになりつつある。

現時点で、MMAファイターの映画俳優としての需要の90パーセントはUFCファイターである。なぜかといえば、ジーナ・カラーノやカン・リーのような一定層のファンを持つファイターは別にして、非UFCのファイターは驚くほど知名度が低い。そして選手個人としては著名でなくとも、「UFC選手」という看板は、非常に大きな意味を持つ。これこそUFCのブランディング戦略の成果であろう。

映画プロデューサーは、映画製作会社やスポンサーにこう語りかけるのだ。

「いま、若者に流行中のUFCで大人気のファイターが映画出演してくれるんです！」

著名で話題性のある映画俳優は、実拘束数日でも数千万円、下手をしたら数億円のギャラが発生する。しかしUFCのファイターは高くても数百万円だ。映画製作側にしてみれば、これほどコストパフォーマンスのいい客寄せパンダもないだろう。演技ができないって？ スタントマンを殴り倒す役に演技の才能なんていらないのだ。

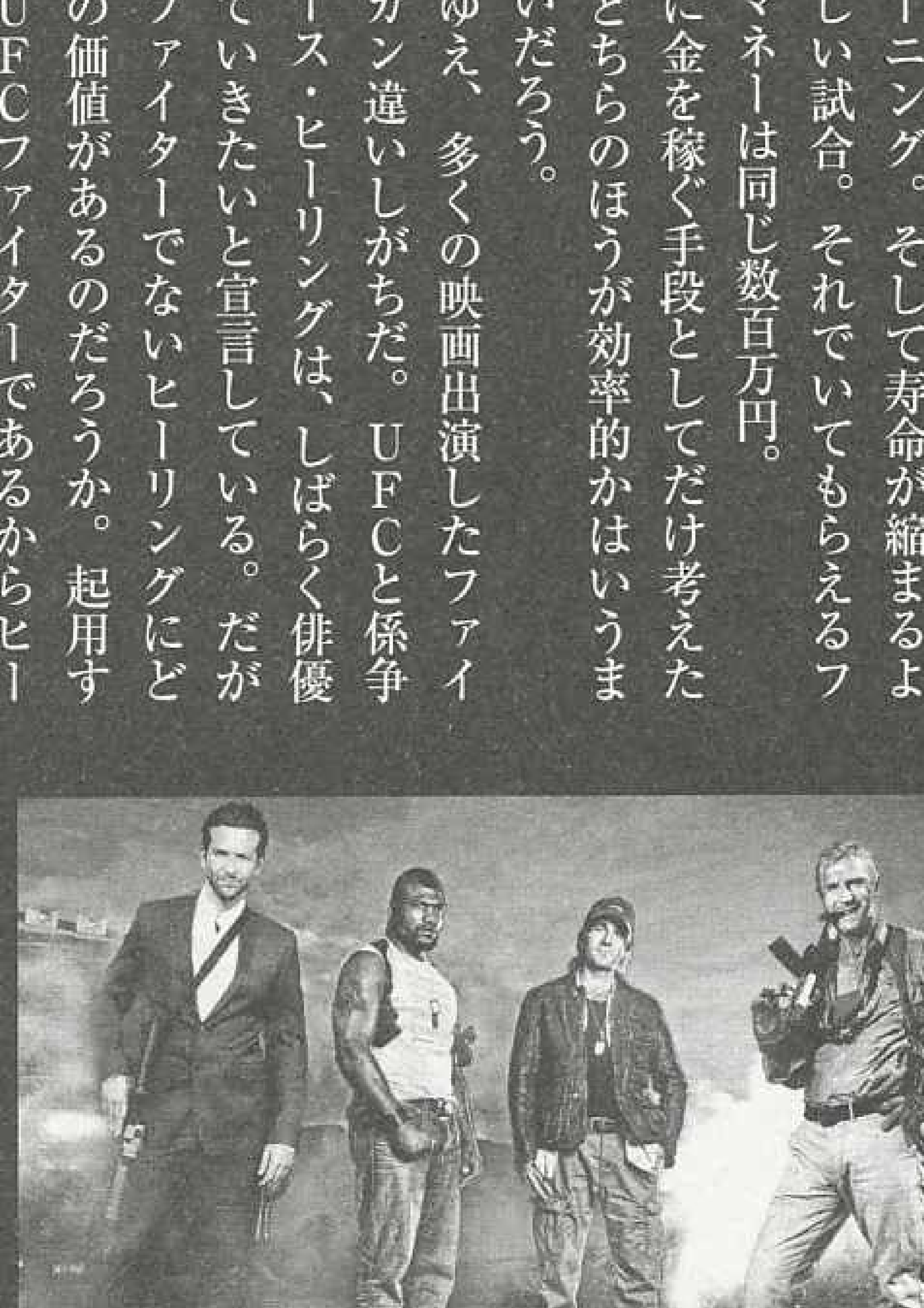
そしてこれはファイターにとっても、映画出演は数日拘束されるだけで数百万円を稼げるおいしい仕事である。考えてもみてほしい。何ヵ月もの血を吐くようなトレーニング。そして寿命が縮まるような厳しい試合。それでいてもらえるファイトマネーは同じ数百万円。

単純に金を稼ぐ手段としてだけ考えた場合、どちらのほうが効率的かはいうまでもないだろう。

それゆえ、多くの映画出演したファイターはカン違いしがちだ。UFCと係争中のヒース・ヒーリングは、しばらく俳優で食っていきたいと宣言している。だがUFCファイターでないヒーリングにどれほどの価値があるのだろうか。起用する側はUFCファイターであるからヒーリングを起用しているのに。

現在、UFCファイターが出演する映画は雨後の筍のように増えている。ポール・ウォーカー主演のコメディアクション『ボビーZ』という映画には、チャック・リデル、ティム・シルビアが出演。MMA大会に出場する柔術家を描いた『レッド・ベルト』にはランディ・クートゥアー、エンセン井上が出演した。

またジェット・リー主演の『ブラック・ダイヤモンド』にはリデル、クートゥアー、ティト・オーティズが出演。そしてそのとき、彼らの取りまとめ役だったヘクター・エヴァンチェリアは自身でも『ネバー・サレンダー』『デス・ウォリアー』といったZ級アクション映画を製作し、BJペン、ジョルジュ・サンピエール、アンデウソン・シウバ、クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンを出演させている。


『特攻野郎Aチーム THE MOVIE』
公開／2010年8月TOHOシネマズ 有楽座ほか全国ロードショー

そんな中、俳優としての適正が認められて、映画に出演するUFCファイターも徐々に増えている。たとえばクートゥアーは『スコーピオン・キング2』に準主役級で出演。今夏公開予定のシルベスター・スタローンの『ジ・エクスペンダブルス』にも出演している。

さらに注目株はランペイジだ。もともと芸達者なランペイジは映画俳優向きの素材だったが、『ミッドナイト・ミート・トレイン』『バッドガイズ』に出演後、オーディションを経て『特攻野郎Aチーム THE MOVIE』に、オリジナルでミスターTが演じたコング役で出演。今夏最大の話題作の一つだけに、これでランペイジの俳優としての評価はおおいに高まる可能性が高い。

こうした本格的に俳優を目指すファイターが、今後もUFCファイターに大きく門戸を開くのかもしれない。しかし俳優への道は、想像以上に厳しいということを認識しなければ、手痛いしっぺ返しを食うことだろう。

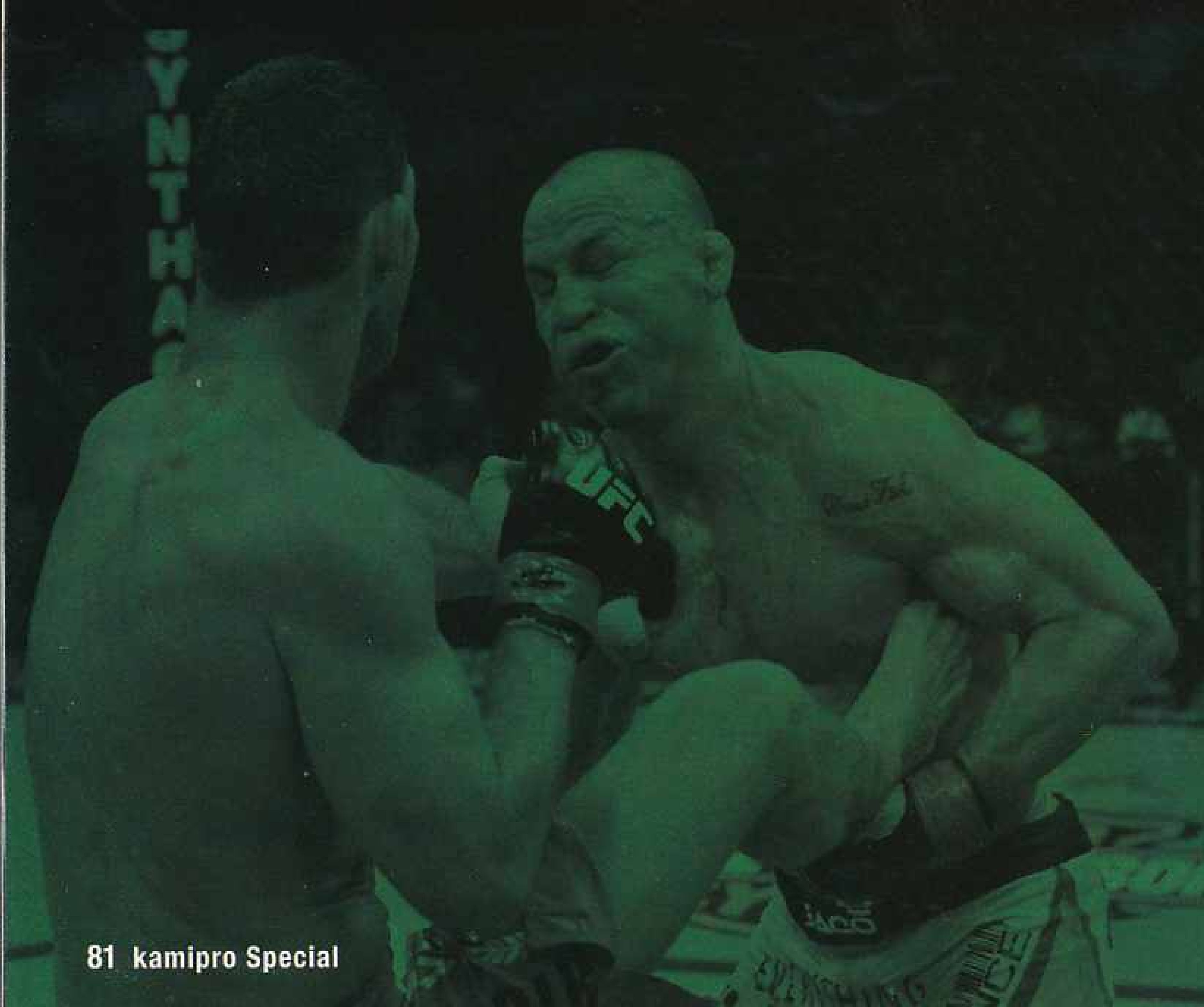
©Josh Hedges (UFC)



UFC初上陸のオーストラリア大会、大炎上!

終わってたまるか!

レジェンドファイターのPRIDE魂は消えず——







コアラもビックリ!?

UFCがオーストラリアに本腰を入れる理由

文／高橋ターヤン　コアラ撮影／阿修羅チョロ

UFCが世界進出の一環として開催した、2・21『UFC110』オーストラリア大会は大成功を収めた。

会場となったエイサー・アリーナに1万7831人の観衆を集め、完全にフルハウス状態の会場は爆発的な盛り上がりを見せていた。それもそのはずで、チケットは発売と同時に猛烈な勢いで売れまくり、発売開始から約1時間で完売。しかも対戦カードに関する正式発表は一切ないまま発売されたにもかかわらず、これほどの売れ行きを見せたのはUFCにとっては前代未聞だろう。

もともとオーストラリア大会の噂は2009年4月の段階であらわになっていた。2010年2月にエイサー・アリーナの予約が行なわれていたからだ。ただこの時点では仮押さえであると思われており、イギリスやアイルランドといった複数の開催地候補の一つと考えられていたのだ。しかし9月にはズッファ社イギリス支部のマーシャル・ゼラズニックが2月のオーストラリア大会開催を正式発表し、10月には正式にシドニーのコンバットスポーツ局に対してエイサー・アリーナでのUFC開催を申請したのだった。

なぜUFCの次なる進出国がオーストラリアだったのかというのは、複数の事情が導き出した結果であると思われる。まずUFCの浸透度の問題。すでに世界170カ国以上で視聴可能な状態にあるため、たいていの国でそれなりの浸透度があると思われているが、我が日本を例に出すまでもなく、UFCは必ずしもその国のマスに訴えるメディアで視聴可能な状態にあるわけではない。その点、イギリス連邦王国の一員たるオーストラリアは、常になんらかの影響を与える本国イギリスでUFCが大ブレイク中ということ、そして英語圏であるためイベントを開催するうえでの課題が非常に少ない点などから、多くのアドバンテージを獲得していた。

またオーストラリアではチャンネル10（オーストラリアで3番目に大きな民間放送局）系テレビ局のONEで、ジョー・ローガンがホストを務める1時間のUFC情報番組『UFC Wired』の無料地上波放送が行なわれており、PPVの放送も行なわれていることから、すでに多くの支持者を集め始めていたのだ（『ジ・アルティメット・ファイター』は放送されていない）。

そして経済的な問題。オーストラリアは2008年から始まった世界的大不況で、最も経済的影響を受けなかった先進国ランキングで1位を獲得している。一時期下がり気味だった個人消費も徐々に回復しているという状態を考えると、いまこの時期にUFCが初のオーストラリア大会を開催するというのは、絶好のタイミングであったと言える。

好況・不況の波が読みづらいほかの初進出国に比べ、オーストラリアを選択したというのはズッファ社の慧眼であろう。

そんな理由で開催が決定したオーストラリア大会には、タイトルマッチこそなかったものの、次々とUFCの主力級選手が投入された。まず正式発表前に、ヴァンダレイ・シウバがビデオブログでオーストラリア大会出場を報告。MMAの魅力を体現するヴァンダレイの出場は、UFCとしてもマストな人選だったのだろう（ドイツ初進出の際もヴァンダレイがメインを務めている）。そして2010年1月に対戦予定だったアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsケイン・ヴェラスケスという次期ヘビー級王座挑戦権をかけた一戦も、ノゲイラの病気によってはからずもオーストラリア大会にスライドされた。

そして日本でのUFCゲームの発表会で、ヴァンダレイと秋山成勲の一戦を発表。さらにこの対戦は撤回され、ヴァンダレイvsマイケル・ビスピンという超ド級の一戦に変更された。またMMA界のスーパースターであるミルコ・クロコップも電撃参戦し、ノゲイラ、ヴァンダレイ、ミルコという、かつてのPRIDEを象徴していたファイターたちが集結する超豪華な大会になっていった。

それだけでなく本大会には、UFCの常連ファイターであるジョー・スティーブンソン、ステファン・ボナー、キース・ジャーディン、ライアン・ベイダーという『TUF』出身の人気ファイターや、ご当地ファイターとしてジョージ・ソティロポロスや、エルビス・シノシックとリングス・オーストラリアのクリストファー・ヘイズマンというご当地有名ファイター対決（大会直前にシノシックのケガで試合はキャンセルされた）が発表されるなど、開催地であるオーストラリアへの充分すぎるほどの目配せの効いたマッチメイクが行なわれている。


そして大会で使用するオクタゴンは、照明などのセット機材とともにアメリカから海輸された。さらに『UFC110』の模様はONEで無料放送され、しかも翌月曜と翌週週末のリピート放送つきという大盤振る舞い。オーストラリアには脅威となる対立イベントがないため、かつてイギリスで行なった絨毯爆撃的な採算度外視のプロモーションを行なう必要がないにもかかわらず、ズッファのこの力の入れようは、本気でオーストラリアに根づくつもりなのだろう。これはUFCがターゲットにする日本、韓国、フィリピン、中国、インドのいずれにも等距離にあるオーストラリアが、今後のアジア進出の拠点として絶好のロケーションにあることを念頭においた戦略なのだろう。

そして注目すべきは、オーストラリアの観客は、アメリカの観客のような大歓声、ヨーロッパの観客のような一体感、そして日本の観客のようなグラウンドゲームへの評価ができる、ファイターにとってもプロモーターにとっても素晴らしい観客だったことだ（おまけに元PRIDEファイターへの大声援から、MMA史の予習復習まで完璧だったと思われる）。大男の殴り合いをバカ騒ぎしながら観るのではなく、MMAを歴史ある競技として観ることのできる成熟した観客の存在は、何にも代えがたい存在だ。

つまりオーストラリアはすべての項目において、UFCが進出する条件を満たす国だったのだ。

今回のオーストラリア大会の大成功に気をよくしたダナ・ホワイトは、毎年一回のオーストラリア大会開催を明言し、シドニーだけでなく現時点でケージでのMMAが禁止されているメルボルン大会、さらにはオーストラリアを舞台にした『TUF』の実施も匂わせている。

オーストラリアは今後のUFC人気を支える、重要な拠点として機能していくことは間違いなさそうである。



Cro Cop

ミルコ・クロコップ

［10.2.21 UFC110 NOGUEIRA vs VELASQUEZ］
オーストラリア・ニューサウスウェールズ州シドニー、エイサー・アリーナ

○ミルコ・クロコップ vs
アンソニー・ペロシュ×
（2R終了時 TKO）

ベン・ロズウェルの急病により、急きょ対戦相手がアンソニー・ペロシュに変更。そのペロシュ相手にミルコはスタンド勝負をかたくなに貫き、2ラウンド、ミルコが初めてインサイドガードの状態になると、強烈なヒジ打ち！　この一発でペロシュは大流血し、3ラウンド開始前に試合はストップに。



『UFC110』アンソニー・ペロシュ戦、強烈すぎるヒジ打ちでひさびさの快勝!

復活と覚悟の証明

ミルコ・クロコップに闘い続ける覚悟を見た!
UFC移籍後、近年はミルコらしい試合が見られなかった感があるが、
『UFC110』オーストラリア大会では見事なヒジ打ちを披露し、ひさびさに快勝。
はたして、この試合の背景には何があったのか?
そしてUFCで闘うことを決意したミルコのこれからとは?

文/橋本宗洋　試合写真/Josh Hedges(UFC)

Mirko C

昨年9月、僕は『kamipro』携帯サイトの連載コラムで〈ミルコ・クロコップの雄々しき終焉〉というタイトルの文章を書いている。『UFC103』で、ミルコがジュニオール・ドス・サントスに敗れた直後のことだ。

あの試合での敗北は、ミルコにとって決定的なものに見えた。入場時にPRIDEのTシャツを着てきた決意と、連勝中の新鋭に敗れたという事実の重みを考えると、ミルコに〝これ以上〟を求めるのは不可能だとしか思えなかったのだ。

しかも、負け方が悪かった。ハイキックをことごとくディフェンスされ、パンチでも相手の前進を止められずにヒザ蹴りを顔面に食らってギブアップ。簡単に言ってしまうと、この試合のミルコはすべてが〝手詰まり〟だった。

そういうミルコの敗北に対して、僕は〝終焉〟という言葉を使った。一時的にDREAMに戦場を変えたこともあったが、彼はUFCでの厳しい闘いで勝つために魂を燃やし続けたのだ。だから、サントス戦で終わりになったとしても、それは惨めなものでは決してなかったと思う。

だがもちろん、これはいちライターの勝



総合の世界で〝手詰まり〟だった彼は本来の自分を必死に磨き直したのだ

手な思いでしかない。ドクターやコミッションが現役続行を禁じた場合以外は、〝死に場所〟を決めるのはあくまでも本人なのだ。

そしてミルコは、生き続けることを選んだ。それはもしかしたら、引退するよりカッコ悪いことかもしれない。

「え、ミルコまだやんの？」

そんな批判も、すぐに想像がつく。それでも彼は、闘う道を選んだのである。

しかもミルコの現役続行は、ただの契約試合消化ではなかった。彼は今回の試合に向けて、あらためて自分を〝掘り下げる〟作業に真剣に取り組んだのだ。

試合前、ミルコはオランダを訪れていた。キックボクシングの名門ボスジムで、イワン・ヒポリットの指導を受けるためである。ヒポリットは現役時代にK―3グランプリを制覇した名選手であり、現在は名伯楽。

言うまでもなく、ミルコは打撃のスペシャリストである。「いまさら打撃を習う必要はないんじゃないか」と疑問に感じる人も少なくないだろう。だが、それこそがいまのミルコに必要なものだったのだ。

自分よりも一時代前の〝レジェンド〟であるヒポリットに教えを請う目的は一つだ。ビッグネームとなった自分を、遠慮なしに鍛えてもらうためである。UFCオフィシャルサイトのレポートによれば、ミルコは連日、ヘビー級のスパーリング・パートナーとボロボロになるまで殴り合い、蹴り合っていたという。おそらくそういう練習は、地元クロアチアでは無理なのだろう。自分をリスペクトする相手ではなく、本気でぶつかってくる相手との練習を彼は求めていたのだ。

ヒポリットは、この記事の中でこう語っている。

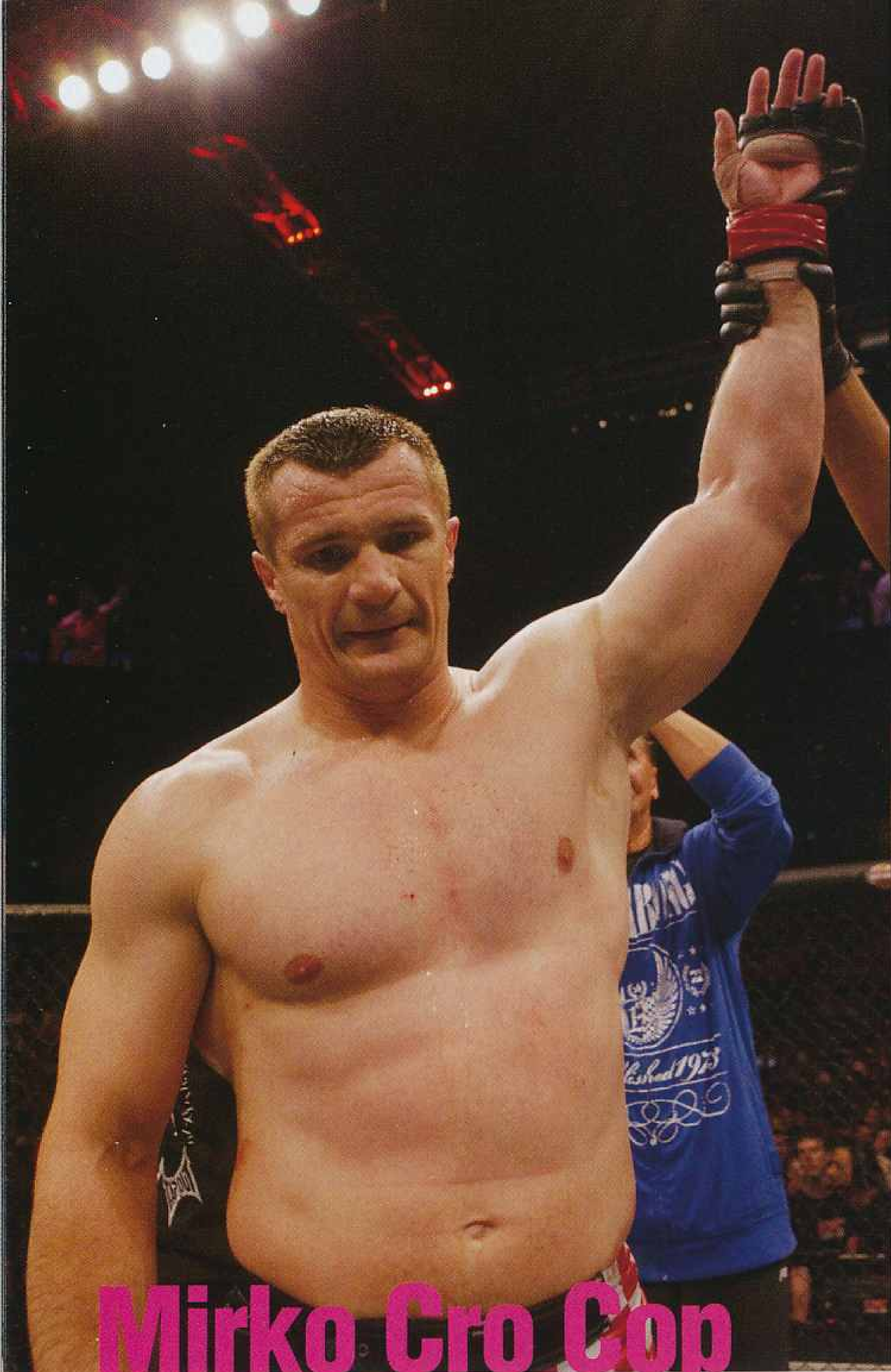
「ここ（ボスジム）では、過去の知名度や地位なんて関係なく、誰でも徹底的にやられる。ミルコもそうだし、たとえノゲイラが来たって同じことになる。でも、ミルコ自身も言っていたけれど、それがいまの彼に必要な環境なんだ」

そして打撃に磨きをかけることは、ミルコにとって自分の〝軸足〟、つまり最大の武器がなんであるかを見つめ直すことでもあったはずだ。

ミルコは総合格闘技デビュー以来、さまざまな武器を身につけてきた。タックルを切る技術。あるいはテイクダウンするテクニック。グラウンドに持ち込まれた場合のガードポジションと立ち上がる術。それにパウンドやサブミッションホールド。K―1ファイターである自分にさまざまな技を付け加えることによって、ミルコは世界トップクラスの総合格闘家となったのだ。

そしていま、総合格闘技の世界で〝手詰まり〟になったからこそ、ミルコは最大の武器、本来の自分をボロボロになりながら磨いたのだろう。

今回の彼の対戦相手は、アンソニー・ペロシュ。もともとはベン・ロズウェルと闘う予定だったが、急病によって急きょ変更





Mirko Cro Cop

になった。ペロシュがUFCに出場するのは約3年ぶり。過去のUFC戦績は2戦して2敗。完全に格下の相手であり、勝負論は薄いと言わざるをえない試合だった。

だが、そういう相手との闘いでも、ミルコは慎重すぎるほど慎重だった。

左回りにステップする相手を追いながら左のパンチと蹴りを繰り出すミルコ。タックルはしっかり切って鉄槌を落とす。しかし、そこから深追いすることは決してなかった。ペロシュが仰向けになってガードポジションから攻防を組み立てようとすると、すぐに離れてスタンドの闘いを要求したのだ。何度も、本当に何度もミルコはその動きを繰り返した。パウンドを連打すれば仕留められるように見える場面でも、徹底して立ち技にこだわったのである。

まるで、総合格闘技に挑戦して間もない頃、K-1 vs 猪木軍やK-1 vs PRIDEの対抗戦に“K-1ファイター代表”として出ていた時期のミルコのようだった。寝技になったら負ける。自分には立ち技の打撃しかない。そういう状況で、必要最小限の武器だけで闘っていた頃の再現に見えた。

よく言えば繊細。悪く言えば臆病。そういう闘い方をミルコがした理由は、想像するかぎり一つしかない。“勝つため”だ。ミルコはとにかく勝ちたかったのだ。そして勝つためには、どんな小さなリスクさえも負いたくなかったのではないか。

その繊細さ、あるいは臆病さを「スケールが小さい」と笑うことは僕にはできない。彼はそうせざるをえないほどに、追い込まれていたのだ。ここで負けたらすべてが終わる。そんな恐怖と向き合いながら試合をしていたのだ。だからオランダに出向いて打撃を磨き、試合でも必要最小限の武器だけでペロシュに勝とうとしたのだろう。

ただし、それだけでは終わらないのもまたミルコである。2ラウンド終盤、“ここまでくれば絶対に負けない”というところまでペロシュにダメージを与えると、ミルコはついにガードの中に入った。そしてすぐさま左のヒジ打ちを叩き込む。一撃で大量出血に追い込まれるペロシュ。ドクターチェックの結果、レフェリーは続行の判断を下したが、続く3ラウンドが始まることはなかった。インターバル中にあらためてチェックが入り、試合続行不能が宣告されたのだ。ミルコにとっては8カ月ぶりの勝利であり、初のヒジ打ちによる勝利だった。

“できてあたりまえ”になっていた打撃という武器を磨き直し、臆病と思えるほど慎重に試合を進めたミルコは、最後に新たな武器を披露した。“ほぼ打撃だけ”の選手から“打撃中心のオールラウンダー”に変化したミルコは、今回の試合で再び“打撃だけ”に戻ったと言えるだろう。ただしそこには、グラウンドでのヒジ打ちが加わっている。選手の成長をサイクルとしてとらえるならば、彼は“2周目”に入ったということだろう。UFC仕様の2週目に。

もちろん、これですべてが安心というわけではない。UFC戦績はまだ3勝3敗、これからさらに強い相手に勝っていかなければならないし、そのためには“2周目としてのオールラウンダー期”に到達する必要がある。ただ一つ言えるのは、ミルコがファイターとして前を向いているということだ。そうでなければ、彼は2周目に入ることすらしなかったはずなのだ。



［10.2.21 UFC110 NOGUEIRA vs VELASQUEZ］
オーストラリア・ニューサウスウェールズ州シドニー、エイサー・アリーナ

◯ヴァンダレイ・シウバ vs マイケル・ビスピン×

（3R終了 判定3-0）

シウバのミドル級転向&整形後初戦の相手は『TUF9』のコーチとして知名度を上げた実力者ビスピン。試合は1Rこそ押される場面もあったシウバだが、2R&3Rと打撃や絞め技でビスピンを攻め込み、フルマークの判定勝利。大会後、ダナ・ホワイト社長はシウバの次の相手として秋山成勲の名前を挙げたが、はたしてどうなる？

lei Silva

ヴァンダレイ・シウバ



ミドル級転向初戦、ビスピンに“フルスイング”の判定勝利!

“元PRIDE王者”の“現役UFCファイター”としての生き様

かつてPRIDEで絶対王者として一時代を築いたシウバだが、07年にUFCへ主戦場を移してからは1勝3敗と精彩を欠いている。そんなシウバは今大会よりライトヘビーからミドルへと階級を落とし、難敵マイケル・ビスピンと対戦。過去の名声をかなぐり捨て、あくまでも“現役UFCファイター”として最高峰の頂を目指す、この男の生き様をとくと見よ!

文／橋本宗洋　試合写真／Josh Hedges（UFC）

ヴァンダレイ・シウバの試合を、ここまで危機感を持って観たのは初めてだったのではないかと思う。

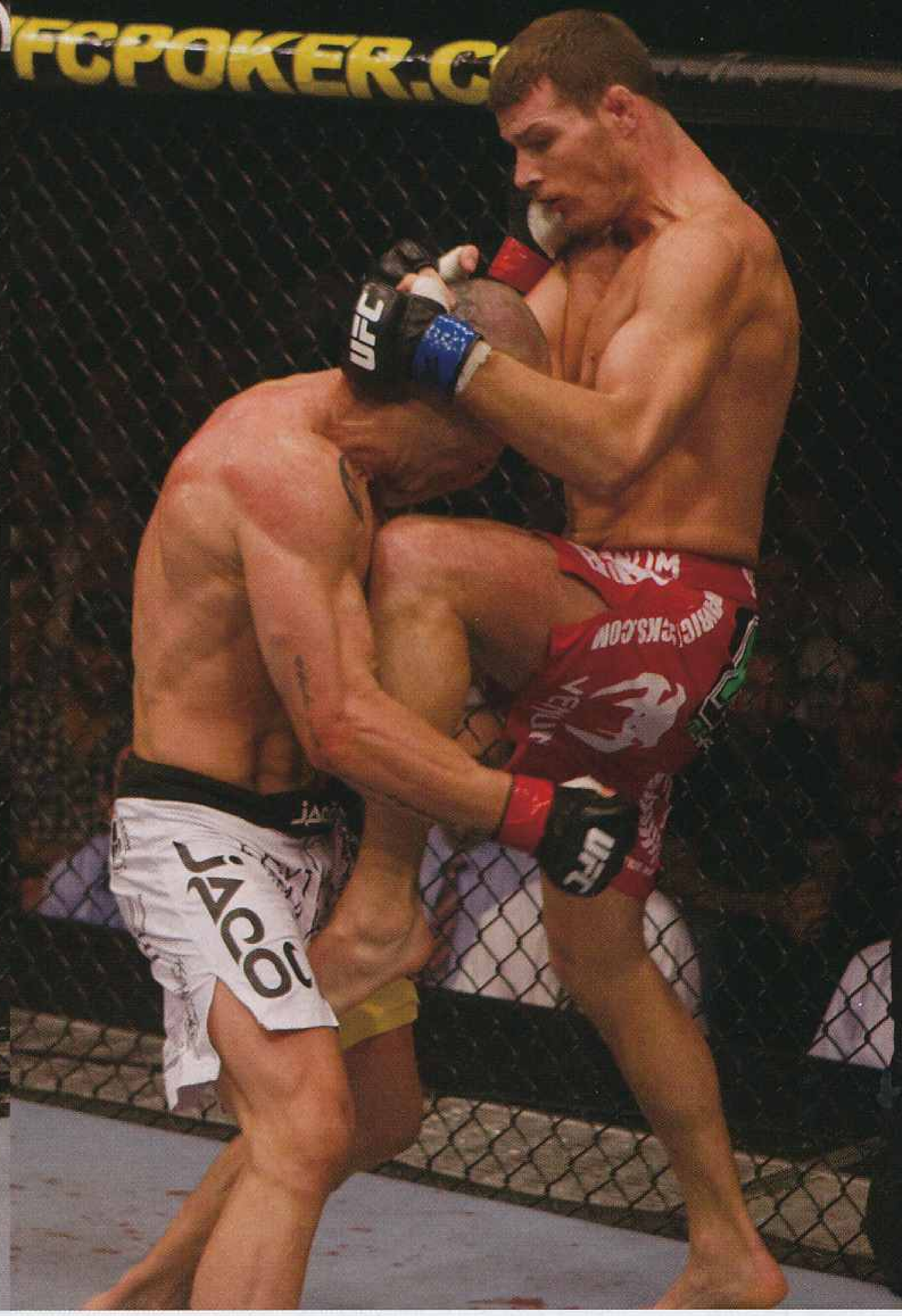
PRIDEからUFCに戦場を移して以降、その戦績は1勝3敗。ライトヘビー級の頂点を目指すどころか、生き残れるかどうかギリギリの瀬戸際だ。前回のリッチ・フランクリン戦も、激しい打ち合いを演じはしたものの判定負け。いくらダナ・ホワイト社長が「ヴァンダレイは何敗しようとリリースはしない」と言ったところで、UFCのヒエラルキーは厳格そのものである。選手としての〝格〟は下がり、そのことによってシウバの魅力は当然のように薄れていってしまう。

だからこそ、この試合は重要だった。彼の闘いを長く観てきた者として、危機感を抱かずにはいられなかった。今回はミドル級に転向しての一戦目（前回のフランクリン戦は転向過程での契約体重マッチだった）である。ここで〝出直し〟に失敗すれば、シウバに未来はないと言ってよかった。

対戦相手はマイケル・ビスピン。シウバよりもUFCでのキャリアは長く、10戦して8勝2敗のレコードを残している。母国イギリスではサッカーなど他のジャンルも含めた中で、スポーツ選手としてトップクラスの人気を誇り、『ジ・アルティメッ

Wanderl





愚直なほど自分らしく闘いながら彼はUFCの頂点を目指し続ける

トファイター（TUF）』のコーチを務めたことも。つまりUFCの中核にいる選手だと言っていい。

そして彼もまた、ミドル級に転向して新たな道を進もうとしている選手だ。つまりミドル級戦線のニューカマー同士による、過酷なサバイバルマッチがシウバvsビスピン戦だった。崖っぷちにいるシウバが出直しをするための〝手頃な相手〟とのお試しマッチ〟などでは決してなかったのだ。

いや、そもそもUFCには〝手頃な相手〟などいないと言っていい。あるいは〝手頃な相手〟ですらビスピンというレベルの高い選手になってしまうのがUFCだと言えばいいのか。とにかく、あらゆる状況からして、安心して観られる試合ではなかったということだ。

シウバは、試合前のインタビューで、いかにもシウバらしくこう語っている。

「ビスピン戦に、とくに重要な意味があるとは思っていない。ただ、初めてのオーストラリア大会で、チケットがソールドアウトしている中で闘うのが楽しみなだけさ。俺は大観衆の中で、プレッシャーがかかる試合をするのが好きだからね」

しかし、日本で衛星中継の映像を観ている身には、とてもそうは思えなかったのである。これはあまりにも重要な試合だった。

オーストラリアの観客に大歓声で迎えられたシウバ。その傍らにはハファエル・コルデイロの姿があった。かつてシュートボクセ・アカデミーでヘッドコーチを務め、シウバのトレーナーも務めた男だ。シウバ自身も「ハファエルは最高のトレーナーだ」と全幅の信頼を置く。

現在、アメリカでジムを構えているコルデイロ。シウバは前回の試合の1ヵ月前から彼とのコンビを復活させ、今回は6ヵ月間トレーニングを続けてきた。それは、ブラジルの地方都市で激しい打撃を身につけ、やがて〝世界最高峰〟の舞台だったPRIDEで頂点をきわめた自分を取り戻すために、どうしても必要なことだったのだろう。

「俺はこの『UFC110』から、またいつもの日々に戻る」

そう語っていたシウバがビスピンとの試合で見せたのは、まさに〝いつもの〟彼の姿だった。

序盤はビスピンの間合いだった。両者の身長は、シウバ180センチに対してビスピン188センチ。シウバのフックは当たらず、ビスピンの右ストレートが当たる遠い距離にシウバは苦しむ。すぐに立ち上がったものの、テイクダウンを許す場面もあった。

だが、1ラウンド後半から、シウバは自分のペースで試合を進めることに成功する。彼のペースとは、すなわち激しい打撃戦にほかならない。大胆なステップで距離を詰めると、左右のフックを強振。ラウンド終了間際には、左右の連打でビスピンを追い詰めた。

続く2ラウンドも圧力をかけ、内股へのローキック。相手の蹴りをキャッチして足払いで転倒させ、さらにフックを見舞



Wanderlei Silva

う。ラウンド終了のホーンに遮られたものの、タックルに合わせたフロントチョークでタップを奪いかけたシーンはこの試合のハイライトだった。渾身の力でビスピンの首を絞め上げるその表情には、シウバの「どうしても勝たなければいけない」という必死さがそのまま表われていた。

1ラウンドはややビスピン有利、2ラウンドはシウバが取った。試合の行方を決める最終3ラウンド、シウバはやはりパンチで攻めていった。インローで相手の体勢を崩し、パンチをもらいながらもカウンターの右フック。ビスピンも前に出てくるが、シウバは引き下がらない。観客に対して声援を要求しながら前に出るシウバ。試合終了が近づくにつれて攻撃は迫力を増し、凄まじいラッシュでビスピンを追い詰める。そして、ついにダウンを奪い、追撃のパウンドを放ったところで試合が終わった。

判定3−0でシウバの勝利。KOではなかったが、フルタイム闘ったからこそ、我々はシウバの現在の実力をしっかりと見ることができた。ビスピンという相手に、苦戦はするが勝つことはできる。それが2010年のシウバの、それ以上でもそれ以下でもない力なのだ。そして勝ったことで、彼はミドル級戦線でもう一歩前に出る権利を得た。

試合が終わると、シウバは思わず目頭を押さえた。やはり、彼にとってもこの試合は重いものだったのだ。

忘れてはいけないのは、彼がそういう試合、つまり勝ち負けが厳しく問われる試合で、あくまでも〝ヴァンダレイ・シウバらしく〟闘ったことだ。強引なフックで前進するファイトスタイルは、まさに愚直。まるで「俺はこうするしかないんだ」と言わんばかりだった。

そして彼は、そういう闘い方でUFCの最前線に生き残ってみせたのだ。時代遅れかもしれないスタイルで、時代の流れとともに前進したのだ。


もちろん、そのための策も講じてあった。パンチ一辺倒にならず、しっかりとローキックも〝散らす〟こと。ラウンド終盤にラッシュをかけ、確実にポイントを奪いながらKOを狙うこと。ただ闇雲にパンチを振るっていたわけではなかったのだ。

また試合前にはアフリクションのジムで出稽古を行ない、レナート・ババルやファブリシオ・ヴェウドゥム、ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーらとスパーリングを行なってもいる。

何より、彼はこの試合でミドル級に転向したのだ。33歳にして、かつてライトヘビー級（PRIDEミドル級）最強だった男が階級を下げるのは、どれだけ勇気がいることか。彼はライトヘビー級のままで〝勝てそうな舞台〟に移るのではなく、ミドル級に落としてまでUFCという最高峰、その頂を目指すことを選んだということだ。

〝かつてのヴァンダレイ・シウバ〟のままであるためには、過去にとらわれてはいけない。自分のやり方を貫くためにも、時代にアジャストしなければならない。そんなパラドックスと、シウバは闘っているのだと言っていいだろう。〝かつてのヴァンダレイ・シウバ〟とは、豪快な打撃のことだけを指すのではない。常に勝ち、頂点にいることが〝かつての姿〟なのだ。だから彼はUFCで闘い、その頂点を目指す。

〝元PRIDE王者〟ではなく、あくまでも〝現役UFCファイター〟。それが、我々がよく知っているヴァンダレイ・シウバの、最も彼らしい姿なのである。



Antonio Rodrigo Nogueira

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

新鋭ヴェラスケスにまさかの失神KO負け——。


沈んだリオの太陽

その瞬間、場内は呆然と静まり返った。
『UFC110』のメインとして行なわれたノゲイラとヴェラスケスの一戦は、
ノゲイラの秒殺KO負けという衝撃の結末に終わった。
唯一、PRIDEとUFCのヘビー級ベルトを巻いたリオの太陽は
このまま沈んでしまうのか? それとも再び日は昇るのか?

文／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

［10.2.21 UFC110 NOGUEIRA vs VELASQUEZ］
オーストラリア・ニューサウスウェールズ州シドニー、エイサー・アリーナ
◯ケイン・ヴェラスケス vs
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×
（1R 2分20秒 KO）

試合序盤からパンチを交錯させる両者。ノゲイラが左ストレートをクリーンヒットさせ、返しの右フックにいったところ、ヴェラスケスの右クロスカウンターがモロに入り柔術マジシャンがダウン! そのままヴェラスケスはパウンドを追撃させてKO勝利。ノゲイラがAKAの新鋭ヴェラスケスにまさかの140秒失神KO負けを喫した。


WARRIOR
SPORTS



ノゲイラはあきらめない男。敗戦を自らの糧にして必ず復活してきた

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ヴァンダレイ・シウバ、ミルコ・クロコップ。〝PRIDEビッグ3〟揃い踏みとなった2・21『UFC110』。

戦績が思わしくないと言われる元PRIDEのスーパースターたちだが、その存在感はいまだに絶大。その中でノゲイラがメインイベントに登場しているというのは、元PRIDEファイターの中で、ノゲイラが最もUFCで結果を残してきたということだ。

しかし、その道のりは平坦なものではない。UFCデビュー戦となったヒース・ヒーリング戦でも、2戦目となったティム・シルビア戦でもダウンを奪われ大苦戦。それでも勝負をあきらめず逆転で2連勝を飾り、UFCヘビー級暫定王座を奪取。

ところが続くフランク・ミア戦では自身初のTKO負けで王座陥落。PRIDEとUFCのルールの違い、リングとオクタゴンの違い、そして長年の激闘で蓄積されたダメージによる打たれ強さの低下。ノゲイラもほかの元PRIDEファイターと同じ苦しみの中で闘っていたのだ。

そして苦しみの中から這い上がり、昨年8月に行なわれたランディ・クートゥアーとのレジェンド対決では逆にダウンを奪っての判定勝ちで、なんとか再浮上。その姿は〝リオの沈まぬ太陽〟と呼ばれたとおりに、水平線ギリギリの輝きを見せていた。

そんなノゲイラが再びUFC王座挑戦に挑むための最後の、そして最大の関門となったのが、今回のケイン・ヴェラスケス戦だ。

ケインは1982年カリフォルニア生まれのメキシコ系アメリカ人で現在27歳。大学時代にレスリングではオールアメリカンに二度選ばれており、高校時代には110勝10敗という驚異的なレコードを残している。

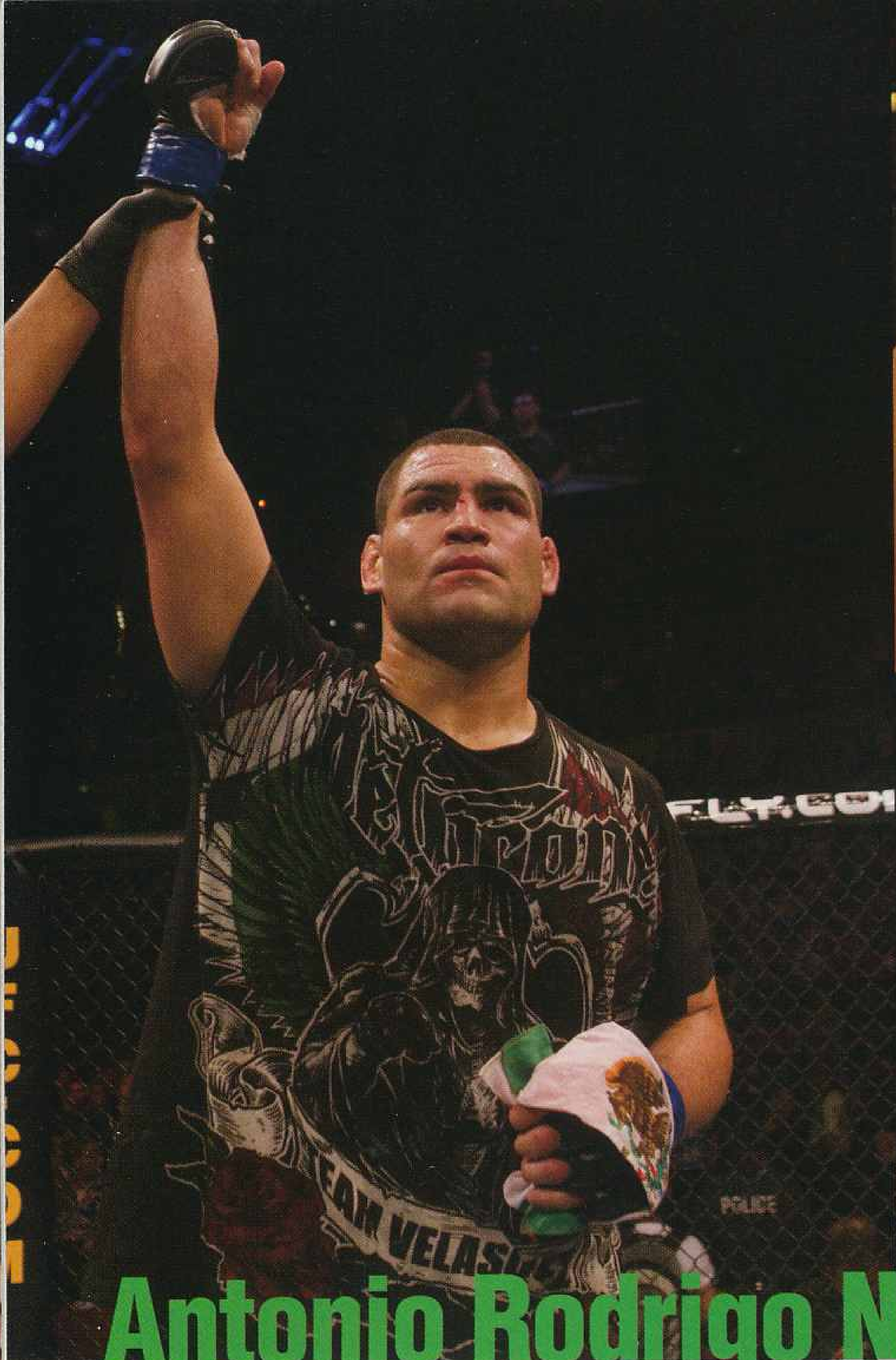
その後、MMAに興味を持ち、同じオールアメリカンレスラー、ジョシュ・コスチェックやジョン・フィッチ、ジョシュ・トムソンなどレスリング出身のトップMMAファイターが所属するAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）に入門。

MMAデビュー後は、3戦目でUFCと契約。ここまでMMA7戦全勝という、次世代の怪物だ。

これまで数々の実績を残したレジェンドであるノゲイラに、成長著しいケインが挑んだこの一戦。ノゲイラの経験とグラウンド技術が勝つか、それともケインの勢いがノゲイラを上回るのか。試合前のカジノのオッズは拮抗しながら、ややノゲイラが有利となっていたが、実際の試合は衝撃的な結末となった。

レスリングの強豪であるケインが相手なだけに、はたしてノゲイラがグラウンドに持ち込めるのか、または打撃でどこまで勝負できるのかがポイントと思われていたが、試合開始してすぐにケインのストライキング能力に驚かされることとなる。

ヘビー級とは思えない素早いパンチ。しかも速いだけでなく、連打で放ち、そこにキックも織り交ぜたコンビネーション







Antonio Rodrigo Nogueira

が素晴らしい。ノゲイラもボクシングには自信を持っているが、この上下に散らすケインのコンビネーションに惑わされ、自分の距離を取ることができない。

それでもノゲイラは左ストレートをヒットさせ、返しの右フックを放とうとしたその瞬間、ケインの強烈な右フックがカウンターでアゴを捕らえ、ノゲイラがダウン！

それでもノゲイラは、これまでダウンしてからの逆転を見せてきたが、ケインはノゲイラがガードポジションに戻す隙を与えずに、強烈かつ正確なパウンドを叩き込みKO。

あのノゲイラが何もできずに完敗を喫してしまった。

PRIDEから見続けてきた者にとっては、ショッキングな結末となってしまったが、これはノゲイラの落日より、ケインの驚くべき成長をたたえたい。

これまでケインは連勝を続け、しかもしっかりとTKO勝ちを収めてきたにもかかわらず、どこか決定力に欠けるように思われてきた。また昨年6月のチーク・コンゴ戦では、レスリング技術、スタミナ、打たれ強さで圧勝ではあったものの、打撃のオフェンス、ディフェンスには課題が残っていた。

それがコンゴ戦から8カ月後であるこの日、ヘビー級屈指のストライキング技術を持つまでに急成長。AKAのオーナーであるハビア・メンデスが「AKAのMMAファイターで唯一、K-1などトップクラスのキックボクシングの試合に出しても通用するのがケイン」と太鼓判を押すまでになったのだから、これは驚くべき変貌ぶりだ。

このケインの大化けぶりを手放しでたたえたのがダナ・ホワイト。

大会後のプレスカンファレンスで、ダナは「いままで最高のケインを見せてくれた。今夜のケインはファンタスティックだ！」と絶賛。

3月の『UFC111』フランク・ミアvsシェーン・カーウィン戦の勝者でほぼ決まっていた時期UFCヘビー級王座への挑戦者が、ケインとなる可能性までも口にした。一気にブロック・レスナー戦に抜擢したいと思わせるほどの勝利だったということだ。


ケインの存在は、UFCの期待も大きい。メキシコ系アメリカ人であるケインは、ラテン市場開拓を旗手としての役割もあるのだ。これまでUFCではロジャー・フエルタ、ディエゴ・サンチェスらがラテンのスーパースターとなるべく期待されていたが、頂点には届かなかった。しかし、いまケインはその可能性をおおいに感じさせる存在になったと言っていいだろう。

新旧世代交代を強く感じさせた今回の一戦。米国格闘技サイト『MMAWEEKLY』では、リック・フレアーの名言である『男になるためには男を倒さなければならない（To be the man, you have to beat the man）』を引用し、「今日のケインはまさに男になった」と報じている。

おそらく今後のUFCヘビー級戦線は、レスナー、ミア、カーウィン、そしてこのケインが中心となっていくだろう。

ただ、ノゲイラはあきらめない男だ。これまでも敗戦を自らの糧として必ず復活してきたのを我々は知っている。

“リオの沈まぬ太陽”アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラは、シドニーの水平線に沈んだ。しかし、闇の中でもノゲイラは、新たな夜明けを信じている。



『UFC110』エルビス・シノシック戦中止の無念を晴らす!!

誰も知らない!?

クリストファー・ヘイズマン 変態座談会

UFC初のオーストラリア大会に緊急事態発生!
なんと、我らがヘイズマンの対戦相手がケガで欠場し、ヘイズマンの試合がなくなったというのだ。
うーん、残念すぎる。……その前に、ヘイズマンって誰かって? まあ、そんな読者のために(というわけでもないけど)、
そして無念の試合中止を食らったヘイズマンが報われるよう『kamipro』がヘイズマンを変態的に語る!

構成/松下ミワ

斉藤 今日は訳あって、クリストファー・ヘイズマン変態座談会をやることになりました。

橋本 なんでヘイズマンなんだよ！ さすがにいきなりすぎるだろ。

ガンツ というか、今日ヘイズマンを座談会で語ってる時点ですでに変態だよね（笑）。

斉藤 簡単に説明すると、もともと『UFC110』でヘイズマンvsエルビス・シノシックという因縁のオーストラリア人対決があったんですけど、残念ながらシノシックのケガで試合が飛んじゃったんですよ。なので、なんだか無性に「ヘイズマン、かわいそうだな……」って気持ちが湧き上がってきて、この座談会をやることになりました。

ガンツ もう俺たちができることといったらヘイズマンを語ることしかないよ。この座談会で少しでもヘイズマンの無念さを晴らそう！

橋本 気持ちはわからんでもないけどねぇ。

ガンツ でもさ、じつはさっきまで『UFC110』を観にWOWOWの放送センターまで行ってたんだけど、そこに元リングス解説者で最近はスケベ声でおなじみのクマクマンボ（熊久保英幸）さんがいたから「何かヘイズマンの思い出あります？」って聞いたら「……ヘイズマンって誰だっけ？」って言ってましたよ（笑）。

橋本 失礼な人だねぇ（笑）。

斉藤 まあ、ヘイズマンにはエッチな要素はないからしょうがない。でも、『kamipro』のツイッターで「リングス変態ファンの皆さん、ヘイズマン情報を教えてください！」ってつぶやいたんですけど、こっちも何一つ具体的な情報はなかったんですよ。

橋本 え？ ホントに一個も来なかったの？

斉藤 「サイドキックが得意な選手だった気がする」というボンヤリした情報はありましたけどね。

橋本 ボンヤリしてんなぁ！

ガンツ しかもそれってヘイズマンが来日したばっかりのときの情報だしね。

じつは、ヘイズマンこそ真のリングスファイターなんだよね

斉藤 では、〝リングス変態〟にズバリうかがいます。ヘイズマンの魅力とは？

ガンツ じつはヘイズマンこそが真のリングスファイターなんだよね。なぜかというと、リングスに参戦してたファイターって、だいたいサンボとかキックボクシングとかアマチュア競技の強豪ばっかりなんだよね。そういうバックボーンを持った強いヤツを集めてイベントをやりましょうということだったんだけど、ヘイズマンのバックボーンってオーストラリアン柔術という不思議な競技なんだよ。

斉藤 オーストラリアン柔術!? なんですか、それ。そんなの聞いたことないですよ。

ガンツ でしょ？ なんか一応柔術なんだけど、ヨーロッパでやってる柔術競技に近い、柔術と柔道のあいだの子みたいな競技なんだよね。道衣を着てやる競技で、柔道よりちょっと禁じ手が少ない、でも当て身もアリという競技で。ただローキックは禁止らしいんだけど。

橋本 あ、だからサイドキックなのか。ローキックがないと間合いが遠くなるし、サイドキックは有効なんだよな。昔の『四角いジャングル』とかに出てきたマーシャルアーツもそうだよね。

ガンツ そして柔術というか柔道の技もあるから得意技はキムラロックなんですよ。だからヘイズマンはアームロックとサイドキックが武器なんだよね。逆に言うとそれしかないんだけど。

斉藤 しかし、そもそもヘイズマンってどうやってリングスと接点を持ったんですかね。

ガンツ もともと総合格闘技というものに興味を持ってやり始めたんだけど、当時オーストラリアには総合格闘技がなかったんだよ。だから唯一総合格闘技をやってる日本に何かのってをたどって来日して、試合に出るだけじゃなくて、総合を身につけるために前田道場に留学までするという。

橋本 その行動力が凄いよねぇ。スポーツとして確立されてないものに「おもしろい」って反応して留学までしちゃうわけだから。いまじゃ考えられないよ。

ガンツ 実際、前田道場に留学して一から総合格闘技を習ったんだけど、道場や試合を通じて技を習って、それをオーストラリアに持ち帰って反復練習してたんだろうね。それである程度の地位までいったんだからホントの意味で純粋にリングスで作られた選手なんだよ。

橋本 ある種、柔道をやってた選手がリングスに入団してリングスで鍛えられたという意味では、TK（髙阪剛）とかと同じ感じなのかな。でも、それよりももっとバックボーンが薄いのか。

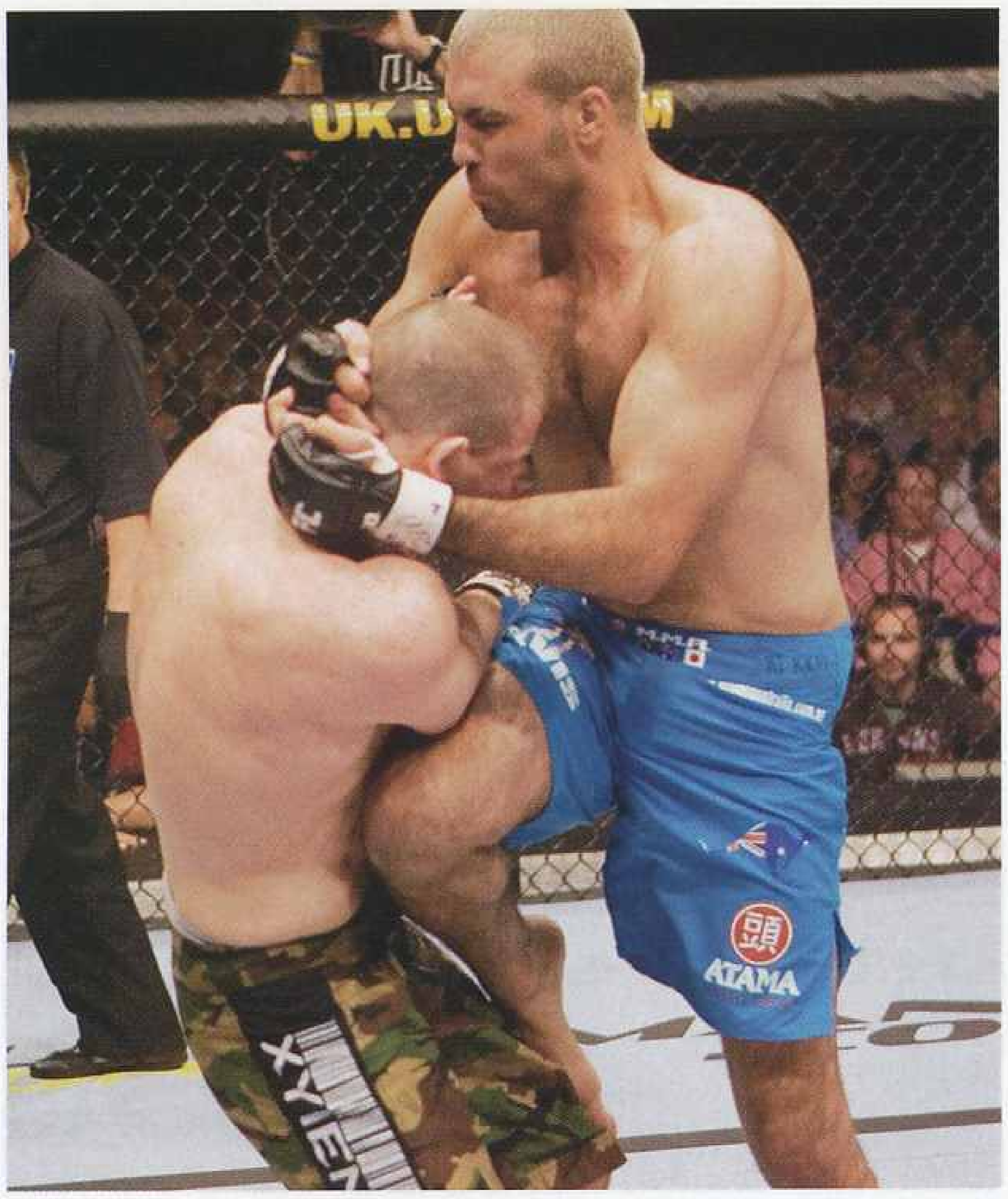
斉藤 当時の本人のインタビューを読み返してみると、前田道場留学時代はけっこうおもしろい話が多いんですよ。

ガンツ 最先端の技術を学びに日本に行ったら、初日にいきなりスクワット1000回、そして鶴見川の土手でアヒル歩きをさせられたという話だからね。

斉藤 なぜか昭和・新日本式のトレーニング（笑）。

ガンツ まず入門といったらそっからなんでしょう。これはもう皿洗いと同じようなもんで。

橋本 皿洗いかあ。ちなみに、新弟子



「シノシックの野郎！（怒）」と、ケガで欠場したシノシックに憤りを隠せない座談会出席者。『UFC110』では因縁のオーストラリア人対決が見られるはずだっただけに、『kamipro』のツイッターにはヘイズマン情報は集まらなかったものの、残念がるファンも多い。

Christopher Haseman

座談会出席者

［司会］ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。ヘイズマンの試合中止を受けて座談会収録を決意。しかし、ツイッターでの情報収集は微妙な反応ばかり!?

堀江ガンツ
本誌・編集部員。変態座談会主宰者であり、その変態道は海外イベントにまで通じている。もちろんヘイズマンについても世界一変態的な知識を持つ。

橋本宗洋
格闘技ライター。『PRIDEはもう忘れろ！』の著者。リングス観たさにWOWOWに加入し、前田道場に留学したヘイズマンには尊敬の念を抱く。

の仕事として定着してるちゃんこ作りもやってたのかなあ。

ガンツ でも、ヘイズマンってちゃんこが嫌いだったんですよ。どうしてもちゃんこが食えなくて、みるみるうちに体重が減っていってしまったという(笑)。

斉藤 前田道場って新弟子は最低でも6杯はおかわりしないといけなかったという話ですけど。ちゃんこがダメなら大変だったろうなあ。

ガンツ なんだろうねえ。あのポン酢の味つけがダメだったんじゃないかなあ。リングスの道場ってたぶん一番多いのは鳥ちゃんこだったと思うんだけど、水炊きでポン酢に大根おろしを入れたタレで食べるというちゃんこだったんだよね。

斉藤 あいかわらず詳しいですねぇ。

ガンツ でもヘイズマンにとってはスープは水だし、ポン酢はすっぱいし、醤油はダメだし、「なんだこれ?」って感じだったのかもね。

橋本 そういう意味ではちょっと時代は前後するかもしれないけど、パンクラスにもオーストラリアからグレゴリー・スミットという道場住み込みで留学しにきた選手がいたじゃない。だからスミットとかヘイズマンは、オーストラリアでは総合格闘技の黎明期を支えたレジェンドなのかもしれないね。

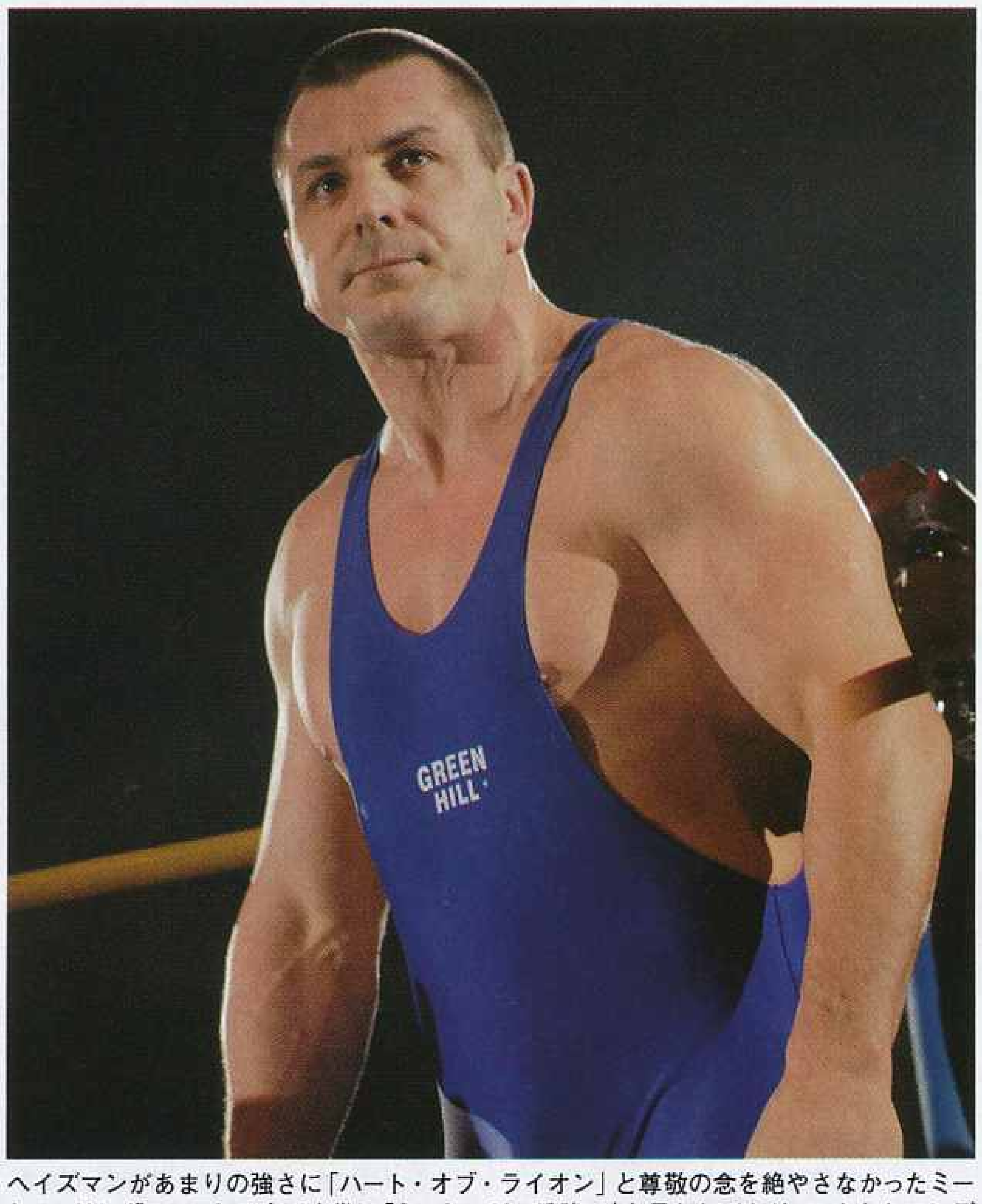
ガンツ だから、そういう留学生はかたちとしては極真の内弟子みたいな感じだったのかもね。

橋本 ああ、ニコラス・ペタスとかと一緒ってことか。でも、やるからには本場で練習したいと言ってやってきたのが街なかから完全に隔離された前田道場だったというのはロマンがあるよ(笑)。

斉藤 ただ、前田道場の練習って金ちゃん(金原弘光)みたいなすでにある程度地位があってリングスに入団した選手にも1000本タックルをさせてたって話ですもんね。

ガンツ 「オレ、キングダムでメインイベントやってたんだけどなあ」ってボヤキながら、前田に「1000本タックルいけ」と言われてた世界だよね。だからリングスの留学生はみんなおもしろいよ。リングスUKのリー・ハスデルもリングス留学後にちゃんとイギリスにある自分のジムにそれを持ち帰って、その"リングス魂"を自分の道場でそのままやろうとしたらみるみるうちに会員がいなくなったという。

斉藤 そりゃそうだ(笑)。



ヘイズマンがあまりの強さに「ハート・オブ・ライオン」と尊敬の念を絶やさなかったミーシャ。リングス・ロシア内でも常に「ミーシャが一番強い」と言われており、いまなおコンディションが変わってないという情報を聞くと、その幻想はまだ続いているのだろう。

ガンツ でも、そういうキツいトレーニングをやってきたというのが、ちゃんとヘイズマンやハスデルなんかの"心のバックボーン"になってたんだろうね。

斉藤 だって、のちにヘイズマンってカカレコを極めてましたもんね。凄いよね、オーストラリアン柔術なのに(笑)。

ガンツ カカレコっていったらアブダビのトップ3常連で寝技のスペシャリストですよ。それがオーストラリアン柔術に極められちゃうんだからね!

橋本 経歴を見ておもしろいのは、ヘイズマンってリングスデビュー戦の相手が(イリューヒン・)ミーシャなんだよね。デビュー戦でミーシャって相当きついじゃない。当時のミーシャって要は「どのくらいの実力

r Haseman

リングスでの厳しい練習が"心のバックボーン"だったんだろうね

か試してやろう」っていうポリスマンだったわけでしょ。

ガンツ 当時のミーシャはアブソリュート大会優勝とかだからねえ。で、ミーシャがなんで凄いかというと、ヤバいヤツが来たらみんなミーシャと試合させるという感じで、日本でいう"安生洋二状態"だったんだよね。そしてどんな試合でも引き受けて、勝っても負けても全力で闘うという。それって本当の実力者じゃないとできないよ。

橋本 バーリ・トゥードを実験的に取り入れたときもまずミーシャだったもんね。そういう試合には全部出てるんだよ。アブソリュートに出て1回目に優勝してて、リングスでもランディ・クートゥアーと闘ってるでしょ?

ガンツ そして最初のブラジル人参戦者であるアジリソン・リマとも闘って、見事にアキレス取ってるんだよ。残念ながら、取ったところでタイムアップになったんだけど。

斉藤 PRIDE時代もさ、ロシアン・トップチームの選手や関係者に「一番強いのは誰だ?」って聞くと、みんな口を揃えてミーシャって言い続けたからね。最後の最後まで言い続けた(笑)。

ガンツ 尊敬されてたんだよね。だからヘイズマンは「一番尊敬する選手はミーシャだ」って言ってるんだよ。「"ハート・オブ・ライオン"というのはミーシャのためにある言葉だ」とか言って、オレもそうでありたいって。

橋本 ああ、ミーシャのポリスマン魂に反応するヘイズマンっていいよね。で、ミーシャと闘ったあとにヘイズマンって前田道場で修行したりトーナメント21に出たりしたんだよね。そのトーナメントで準優勝だったっけ?

ガンツ そう。だからヘイズマンっていわゆるリングスKOK以前の、まだ完全にMMAじゃない時代にいた選手なんだけど、はっきり言ってそんな選手は「そんなヤツ、強いわけないじゃん」って色眼鏡で見られるじゃない。でも、その頃からコツコツ自分の技術を磨いて、KOKになってもちゃんと適応して強くなってるから凄いんだよ。

橋本 そういうリングスマジックがあったんだよな。しかも、アブダビも3位になったし。

ガンツ 強いんだよねえ。オーストラリアン柔術のくせに。

橋本 いや、"くせに"ってことはないだろうけどさ(笑)。

ガンツ で、KOKでのいい話なんだけどさ、ヘイズマンってブラジリアン・トップチームのカーロス・バヘットとKOKでやったんだよね。でもバヘットってまたもの凄く強かったじゃない。当時2メートルぐらいあって手足も長くてさ。で、ヘイズマンが初めてバーリ・トゥードの大会に出たときにバヘットを見て「こん

次はリングス・オーストラリアを名乗ってシノシックを倒してくれ

なヤツに勝てっこねえだろ」って思ってたんだって。それが数年後に対戦することになって、オーストラリアン柔術で勝っちゃったんだから。だから「カーロス・バヘット戦の勝利こそ、オレの努力の結晶だ」って言ってたんだよ。

橋本　そして、リングス最後の試合を闘ったのもヘイズマンですよ。

ガンツ　そう。リングス無差別級トーナメントでヒョードルと決勝戦を闘ってるんだよね。結局、ヒョードルが優勝するんだけど。ちなみに、その試合って何を隠そうロープエスケープありのルールだからね。

橋本　あ、そうなんだ。でも、なんで最後の最後なのにそんなルールになったの？

ガンツ　それはWOWOWさんの「ロープエスケープありの時代のほうが人気があったからルールを元に戻してください」というトンチンカンな提案があったから。〝ルール改悪〟されたらしい（笑）。

橋本　はあ、そんなしょーもないことだったんだ……。

斉藤　でも凄いのが、ヒョードル vs ヘイズマンって1分ちょっとで終わってるんだけど、決着はダウン1回にロープエスケープ2回というポイントアウトですからね。1分間で一方的にやっつけるヒョードルもどうかしてますよ！

ガンツ　あの頃からヒョードルってとんでもなかったよね。ちなみにヒョードルの準決勝の相手は、先ほどの話題に上がったリー・ハスデルなんだけどね。

橋本　ああ、リングスに最後まで残った選手ってなんか味があるんだけど浮かばれない感じがあるなあ。みんな金原弘光チックというか。

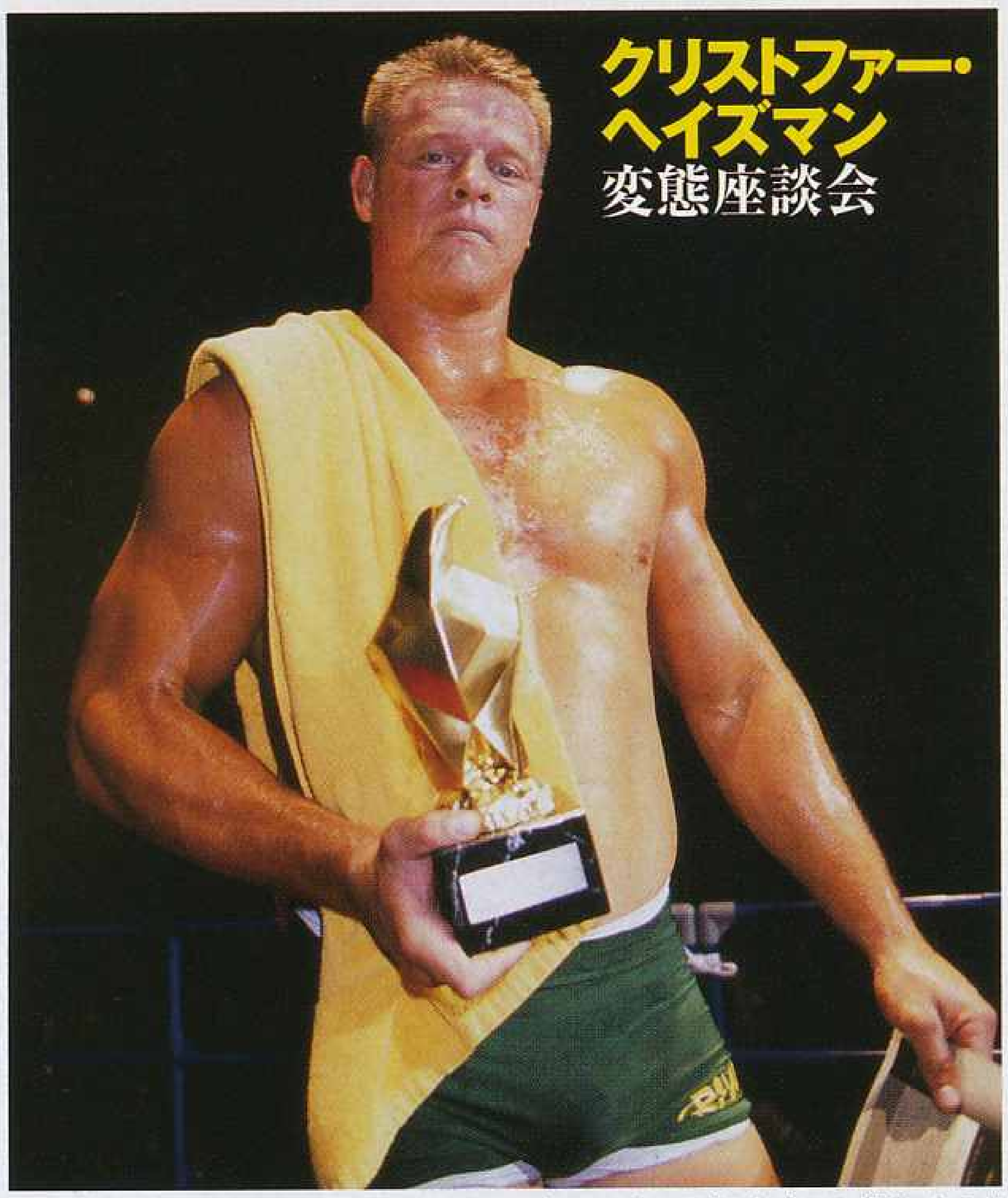
ガンツ　蒼い目の金原弘光（笑）。

斉藤　浮かばれないといえば『HERO'S』の件もありますよ。前田日明が『HERO'S』を立ち上げたときに、リングスの看板をかなり安売りしたじゃないですか。あれはおもしろかったな～（笑）。

ガンツ　全然笑いごとじゃないって！　だってアラン・カラエフがいたマルプロ軍団をロシア人ということだけで「リングス・ロシア」と名乗らせたんだから。ホントね、「パコージンさんの前で言ってみろ！」って感じだよ（怒）。

斉藤　さらに爆笑なのは、リングスで生まれ育ったヘイズマンにリングス・オーストラリアを名乗らせるんじゃなくて、敵対するシノシック軍団にリングス・オーストラリアを名乗らせたんですよ。リングスとはなんの縁もないイアン・シャファーがなぜかリングス・オーストラリアを名乗ってたじゃないですか。なんじゃそれって。

ガンツ　リングスがなくなるときもさ、来日したときにようやく知らされて。前田日明に「今回で終わりだから。悪いな」の一言だけだったみたいだからね。



今回のUFC参戦はオーストラリア出身のヘイズマンにとって晴れ舞台のはずだったのだが、ホントに残念な結果に。しかし、1年後にオーストラリア大会があるとするならば、これは目を離さずにはいられない。セコンドにはリー・ハスデル、金原弘光を推薦！

Christopher H

橋本　なんか報われないよなあ。今回のUFCが浮かばれるチャンスだったんだけど。

ガンツ　全部シノシックのせいだよ。腹が立つのはさ、シノシックはプロモーションやビジネスがうまくて、「オレこそがオーストラリアの第一人者です」という宣伝をやってたんだよね。当時のシノシックのインタビューなんかはその傾向が強くて「ヘイズマン？　そんなヤツがオーストラリアにいるのか？」って感じだったし。

斉藤　あの野郎！　スクワット1000回もアヒル歩きもやったことのねえくせに！

橋本　そこはいいだろ！（笑）。でも、ひさびさの大一番を自国で闘えるという注目度抜群の試合だったもんなあ。本人だってもの凄いモチベーションがあったはずだよ。UFCといういま一番流行ってるイベントで闘えたんだからね。

斉藤　だからこそ今回のオーストラリア大会では「オレが苦労したことは間違ってなかったな」というふうに思ってほしかったですよね。試合後、ジョー・ローガンにインタビューされてる姿も見たかったですよ。「ヘイズマン、20年間の思いを語ってくれ」ってね。ああ、無念すぎる。

ガンツ　でもね、ヘイズマンってまったくクヨクヨしない性格みたいなんだよ。リングスがなくなったときも「この10年間、毎月ビッグマッチやってるような偉大な団体に出られて本当にうれしかった」ということを言ってて誇りに思ってたからね。それが「ハート・オブ・ライオン」だっていうことなんだろうけど。

橋本　いいなあ、ヘイズマン。

斉藤　ちなみに、UFCってこのカードをもう一回組んだりしてくれるのかな。

ガンツ　それは組むでしょう（キッパリ）。

斉藤　さすがミスター北米、断言しますね。

ガンツ　きっと今回分の契約があるはずだから、最短で1年後ぐらいのUFCオーストラリア大会でまた組まれると思うよ。

斉藤　それにこれってオーストラリアでやらないとダメですよね。そのときはぜひヘイズマンにこそリングス・オーストラリアを名乗ってほしいですよ。そして、シノシックを倒しましょう！

ガンツ　そうだよね。あの逃げやがったシノシックを！

橋本　いや、逃げてはないでしょ、一応ケガなんだから。

ガンツ　（無視して）シノシックの野郎め！　ケガと言いながら「おいおい、なんかヘイズマン今回やる気じゃねえか？　こりゃ一回飛ばしたほうがいいな」ぐらいの感じかもしれないよ。きたねえ野郎だ！

橋本　それ全部妄想だろ！


斉藤　というわけで読者の皆さんも、オーストラリアで憎むべきはシー・シェパードとエルビス・シノシックだ！

ガンツ　シノシック、首洗って待ってろ！（怒）。

橋本　なぜかシノシックをディスって終わりか。ま、いいんだけど（笑）。

【10年2月21日／都内・kamipro編集部にて収録】

皇帝ヒョードル ストライクフォース離脱説の真相とは!?





ダナ・ホワイト ついに"60億分の1"の男を獲得か!?

**さまよえるヒョードルはどこへ行く～?
昨年は11月のストライクフォース、ブレット・ロジャース戦で世界中をおおいに興奮させたヒョードルだが、なんとストライクフォースを離れるという噂が浮上!
となると、ついにUFCへ!? とにかく現状を整理してみた。**

文／松下ミワ　撮影／Esther Lin（STRIKEFORCE）

09年11月のストライクフォースでは、勝利後、代表のスコット・コーカーとがっちり握手を交わしたヒョードル。はたしてこのシェイクハンドは解かれてしまうのか!?

皇帝エメリヤーエンコ・ヒョードルにまたもや移籍問題浮上か!?

最近、巷ではこんな噂が湧き上がっているが、いまのヒョードル周辺は本当にそう思わせる条件が重なりすぎている。

その一つは、参戦が噂されている4月大会の出場がいまだに発表されていないことだ。……え!? そんなの普通じゃないかって? いやいや、ジャパニーズ・セオリーを基準にしてはダメです!

そもそもヒョードルがストライクフォースに参戦したのは09年11月の大会。ブレット・ロジャースをKOでなぎ倒した姿は記憶に新しいが、その試合後、スコット・コーカー自ら「ヒョードルの次戦は4月になる予定だ」ということを発言していた。

最近もその情報は変わっておらず、対戦相手はファブリシオ・ヴェウドゥムが濃厚だとも言われているのだが、「カードがまだ発表されてないのはなぜ?」と心配するのは、大会まで2ヵ月を切っているというのが非常にキモで、アメリカの場合、PPVを含めたプロモーションのためにだいたい2ヵ月前に主だったカードを発表するのが通常のやり方だからだ。それがルールであり、そうでないとPPV件数が下がってしまうことは免れない。にもかかわらず発表が遅れているというのは、非常に勘ぐりたくなる状況である。

"条件"はそれだけではない。ヒョードル自身、まだ本格的なトレーニングを開始していないという話もあるのだ。試合前にヒョードルが必ず行なっているキャンプもいまだに行なわれていないのだそう。本当はカードが決まってるけどオフィシャル側の発表が遅れてるだけというならまだわかるが、ヒョードル自身がトレーニングを開始していないというのは非常に気になるところだ。


さらに気になるといえば、ストライクフォースを目の敵にしているUFC代表ダナ・ホワイトの発言である。これまでヒョードル陣営との交渉はことごとく決裂していたUFCだが、本誌の取材によると、何やらダナは「2ヵ月後にUFCで大きな発表があるから、楽しみにしてろ!」と、得意顔で言ったというではないか。2ヵ月後というと、またもや4月のストライクフォース大会と同じタイミング。もしや、同日かその周辺にヒョードルをオクタゴンを上がらせようと企てているのか……!? うーん、ヒョードルのUFC参戦もそれはそれで非常に観てみたいのだが。

とにかく噂が絶えないヒョードル周辺は、ヒョードルを抱えているM-1とストライクフォースの関係もどこかギクシャクしているという話も一部で浮上していたりする。

こういった状況から鑑みると、ヒョードル移籍の噂は現実のものになるのかも?

この号が発売される頃には何事もなかったかのようにヒョードルのストライクフォース参戦が発表されているかもしれないが、もし何も発表されないようなら、やっぱりヒョードル周辺の動きには目が離せない。この件については『kamipro』のポッドキャスト『mimipro』でもおおいに語っているので、ぜひアクセスを!

ああ、ヒョードルバブルはまだまだ続く～。



「ライブで3度試合を観てヒョードルに勝てると確信したよ」

4月のストライクフォースでヒョードル戦実現か？
柔術のスペシャリストが打倒・皇帝に名乗り！

Fabricio Werdum

ファブリシオ・ヴェウドゥム

現在は反UFCの急先鋒ストライクフォースのヘビー級戦線で活躍するヴェウドゥム。
柔術の大会で数々の実績を残し、マスター・オブ・ザ・ゲームの異名を持つ
百戦錬磨のファイターが、そのターゲットに捕らえたのはあの60億分の1の男。
4月に噂されるヒョードル戦に向けて、気合い充分のヴェウドゥムの声をお届け！

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）

MMAファイターとしてのゴールはヒョードルに勝つことだと思ってる

ファブリシオ（以下・ファブ）　ヘイ！　ハウ・アー・ユー、マイフレンド。なんでも聞いてくれよ。

――ありがとうございます。なんか見るからに調子はよさそうですね？

ファブ　調子は凄くいいよ。11月のビッグファット（アントニオ・シウバ）戦が終わってから、しばらく休暇を取って家族のいるスペインへ帰ってたんだけど、ちょうど2週間前からトレーニングを開始したところなんだよ。いまは4月の試合に向け集中したトレーニングができているんだ。

――4月というと、噂されているストライクフォースでのヒョードル戦ですか？

ファブ　まだヒョードルが対戦相手になるか100パーセント確定はしてないんだけど、4月にヒョードルと対戦するという前提でトレーニングをしてるんだ。

――昨年のシウバ戦の前には、同じ大会のメインで対戦したヒョードルとブレット・ロジャースに対して、「どちらでもかまわない。メインで勝ったほうと闘いたい」と対戦表明をしてましたよね。

ファブ　そうだね。現時点でMMAファイターとしてのゴールはヒョードルに勝つことだと思っているからね。まだ正式には対戦が決定してないけど、いまはヒョードル戦を見据えた練習をしっかり積んでいるし、そのカードが実現したらホントにいい試合になると思うよ。

――試合が決まったら、当然勝つ自信はあるわけですよね？

ファブ　もちろんさ。だからストライクフォース側にも「ヒョードルとの試合を組んでほしい」と伝えているしね。ただ、現時点ではヒョードルがこのカードを受け入れてくれるのか、受け入れてくれたとしてもストライクフォース側でまだ調整することがあるのかもしれないし、そこはボクにはわからない。とにかく、いまはその試合が実現することを祈るだけなんだ。

――この時期に、そんなビッグカードがまだ正式決定してないというのは精神的にイライラしたりはしませんか？

ファブ　そのとおりさ（笑）。正直なところちょっとイライラしてるんだ。これだけ対戦の話があちこちで広まっているのに、いまになってヒョードルが「闘いたくない」なんて言ってきたら腹が立つよ。





ヴェウドゥムはストライクフォースデビュー戦ではマイク・カイルをギロチンチョークで一蹴。そして続く第二戦では実力者アントニオ・シウバにフルマークで判定勝利。一躍ストライクフォースのトップ戦線に浮上した。

――それこそ、ヒョードルはオッケーでも、ストライクフォース側での諸問題でカードが決まらないという可能性もあるでしょうし。

ファブ　ヒョードル自身は相手を選ばず誰とでも対戦するファイターだってことはよく知ってるしね。ただ、いま4月の大会に向けストライクフォース内でいろいろなことが起こってるらしいというのもチラホラと耳に入ってきてるし……。そういった問題が早急に解決することを信じるしかないからね。

――もし、ヒョードル戦が実現すれば、これまでのキャリアの中で一番大きな試合になりますよね？

ファブ　そのとおりだね。それは自分でも自覚しているので、そこを見据えたトレーニングをしてるってわけさ。もし、いま世界最強で無敗のヒョードルに勝てたら自分にとって素晴らしいキャリアを作れるはずなんだ。

――もちろん、そうでしょうね。

ファブ　ヒョードルだっていつまでも勝ち続けることはできないだろうし、世界最強といっても同じ人間なんだから負けないはずはない。そう思わない？

――いつかは負ける可能性も当然あるでしょうね。

ファブ　その可能性を自分なら起こせると信じているし、そのためにもスタンド、グラウンド、どんな状況になっても優位に立てるような練習をしてるんだよ。

――勝負のポイントはズバリどこにあると思いますか？

ファブ　詳しいゲームプランは言えないけど、やはり自分としてはテイクダウンしてトップポジションをキープし、最後はチョークというパターンが一番勝つ可能性が高いんじゃないかと思ってるんだ。サブミッションではヒョードルはタップしないと思うし、たとえ極まったままでもトップポジションを取り返そうとしてくるだろうしね。だからこそ、チョークで失神させるしかないかなって思ってるんだ。

――昨年8月のストライクフォースでのマイク・カイル戦でもギロチンチョークで勝利してますよね。

ファブ　そうだね。もともとチョークは得意だし、頸動脈へのチョークっていうのは相手にタップする意思がなくても意識がなくなって試合を終わらせることができるんだ。だから狙っているのはヒョードルの首へのチョークさ。……くれぐれもヒョードルには内緒にしておいてくれよ（笑）。

――わかりました（笑）。ヒョードルはテイクダウンディフェンスも優れていますが、テイクダウンを取れる自信はありますか？

ファブ　そのためにはレスリングがカギを握るので、いまはキング・モーや、チーム・クエストのヘッドコーチであるライアン（・パーソン）とレスリングを強化してるんだ。

――いまファブリシオ選手はシュートボクセ所属ですけど、チーム・クエストでも練習をされているんですね？

ファブ　そうなんだ。クエストは比較的、ここから近い場所にあるんで、（ジェイソン・）メイヘム（・ミラー）なんかともよく練習をしてるんだよ。クエストにはキング・モーやライアンのほかにも（ダン・）ヘンダーソンや（マット・）リンドランドなどレスリングのスペシャリストが多いからね。しかも、彼らのレスリングテクニックはMMA向けにアジャストしたものだからヒョードルにも有効なはずなんだ。

――一部の報道では、同じ柔術出身のノゲイラとも練習をしたいと言われていたようですが、すでに実現はしましたか？

ファブ　いや、まだ実現はしてないよ。と

ヒョードルの弱点はキックにあるんじゃないかと感じてるんだ

いうか、ミノタウロとはちゃんと話をしたこともないんだ。

──あ、そうなんですか。それはちょっと意外ですね。

ファブ　ただ、チャンスがあれば、彼の次の対戦相手であるケイン（・ヴェラスケス）との試合に向けた練習パートナーになってあげられるし、もちろんヒョードル戦に向けた自分の練習にもなるしね。

──ノゲイラと練習をしたいというのは、ヒョードル戦を意識したものでは？

ファブ　いや、それだけのためではないよ。お互い助け合えるんじゃないかって思ってるんだ。体型的にも同じぐらいだし、二人の得意なグラウンドだけじゃなくストライキングのいいトレーニングもできると思うしね。

──ノゲイラはこれまでヒョードルと3度対戦してますけど、その3試合はファブリシオ選手が闘うにあたって研究の材料にはなります？

ファブ　もちろん、その試合のビデオは全部観てるけど、自分の戦略はそれとは異なるものになると思う。

──具体的にはどのへんでしょうか？

ファブ　自分の場合、ゲームプランのカギは常にヒョードルのトップにいることなんだ。

──ノゲイラは下のポジションにいることが多かったですからね。

ファブ　そうだろ。もちろん自分がトップにいたってヒョードルが非常に危険なファイターであることは変わらないよ。とにかく、ヒョードルに勝つためにはミスを犯すということが致命傷になるだろうからね。

──なぜノゲイラはヒョードルに勝てなかったと思います？

ファブ　あくまでも自分の意見になるけど、ミノタウロが想像した以上にヒョードルは完成されたオールラウンドファイターで、どこを攻めても優位に立てなかったというのが敗因だと思う。ノゲイラはフィジカル的には最高の状態で試合に臨んだと思うんだけど、ファイトの準備が完全にできなかったということじゃないかな。たとえばテイクダウンディフェンスとかね。

──そういった意味ではファブリシオ選手はヒョードル対策はバッチリできている、と？

ファブ　まだ完璧ではないけど、ヒョードルはすでに30試合以上もしてるので、ほとんどのパターンがわかるようになってきてるからね。これからトレーナーと一緒にしっかりとゲームプランを練って、それに向けた練習ができれば勝てると信じてるよ。

──すでに、ある程度は研究済みで？

ファブ　これまでのヒョードルのMMAでの試合のほとんどはビデオで観てるし、会場でも3回ライブで観戦してるからね。それにライブで観たときに、「これだったら勝てる」って確信したんだよ。

──実際に自分の目で見て「勝てる」と確信した、と？

ファブ　そうなんだ。やっぱり、ビデオで観るのとライブで観るのとでは全然違うんだよ。ビデオではわからなかったことがライブでは「勝てる」という確信にもつながったんだからね。

──勝てると確信したファブリシオ選手から見て、ヒョードルのウイークポイントはどこになりますか？

ファブ　当然ながらヒョードルは世界最強のベストファイターなので、「ここがウィークポイント」って言えるほどのものは見つかっていないよ。ただ、現時点ではキックに弱点があるんじゃないかと感じてるんだ。

──キックが弱点というのは、ヒョードルがキックを出したときに隙があるということですか？　それとも、攻撃手段としてキックが有効だと？

ファブ　まあ、試合のときを楽しみにしておいてくれよ（ニヤリ）。

──わかりました。ヒョードルの技はどれも危険だとは思いますが、その中で一番警戒しているのは？

ファブ　間違いなく、あのデンジャー・ハンドだね。

──多くのトップファイターたちが、あの右のパンチ一発で倒されてますからね。

ファブ　まあ、そうならないようにしっかりトレーニングを積むよ。……そのためにも早く試合が正式に決まってほしいところだけどね（苦笑）。

──まあ、そうですよね。ではヒョードル戦があると仮定して、4月までの約2ヵ月、どのような練習をするつもりですか？

ファブ　これから1ヵ月はすべてのトレーニングを行なうけど、そのあとは自分の武器となるグラウンドゲームに特化したトレーニングをすることになると思う。

──ヒョードルはグラウンドでも素晴らしいスキルを持っていると思いますが、やはり柔術の世界チャンピオンにもなったファブリシオ選手としては、グラウンドではかなりの自信があるわけですね？

ファブ　そうだね。ただ、ヒョードルは下になって背中をキャンバスにつけた状態からでもアームを使ってスピードのあるスイープをするのが得意なので、柔術王者といえども注意しなくてはいけないんだ。ヒョードルはサンボのテクニックをうまく使っているからね。

──スタンドでもグラウンドでも、とにかく厄介な相手なんですね（笑）。

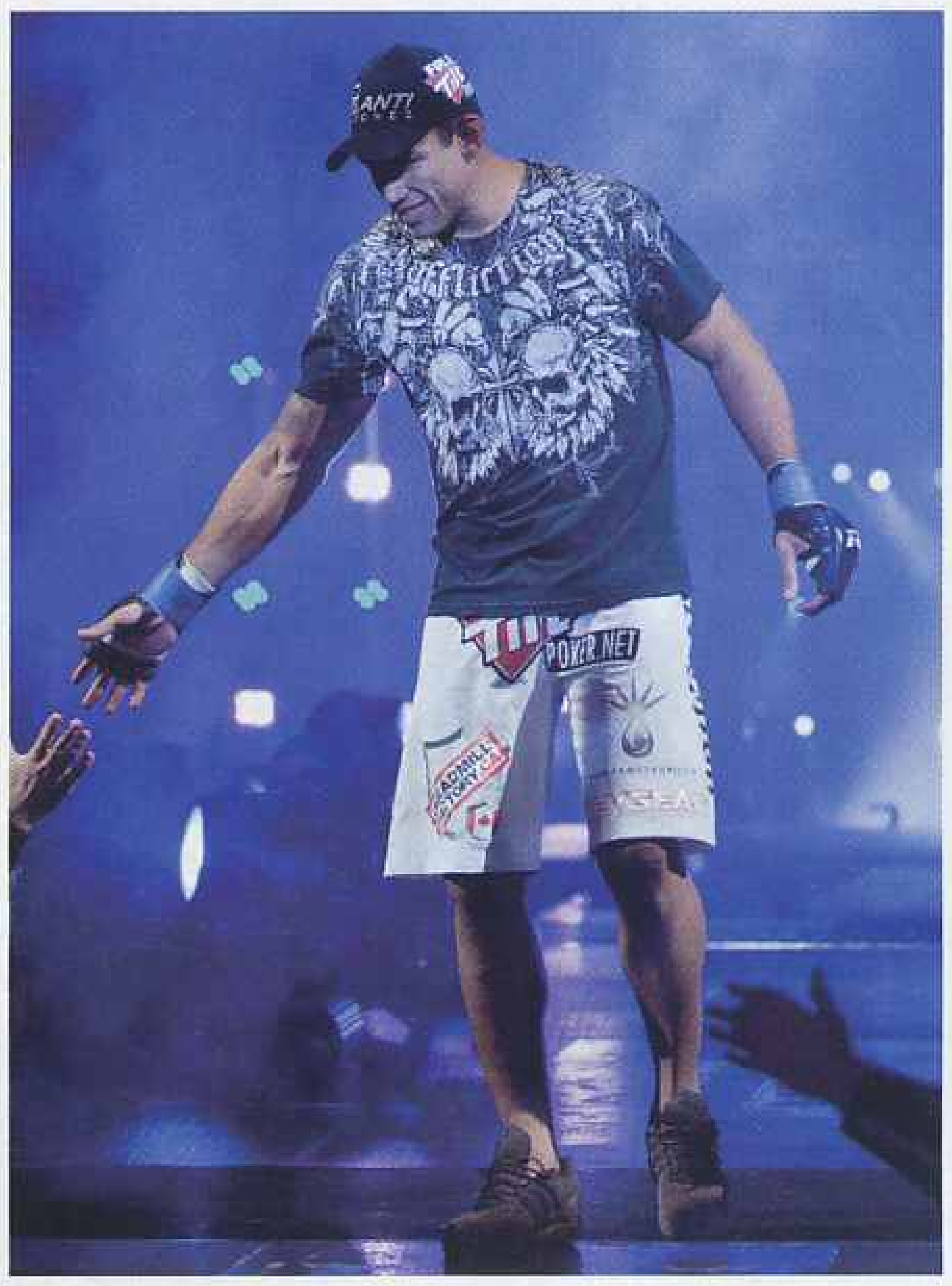
ファブ　そのとおりだよ（苦笑）。まあでも、彼はMMAのヒストリーを作ってる男だと思うし、そんな相手だからこそ、自分としても闘って勝利をつかみたいと強く思ってるんだ。

──それこそ、もしヒョードルに勝ったらMMAのヒストリーに名前も残りますからね。では、4月のヒョードルとの試合が正式決定することを楽しみにしています！

ファブ　アリガトゴザイマス！（日本語で）。

【10年2月2日／米国カリフォルニア州、アフリクション・ジムにて収録】

Fabricio Werdum



FABRICIO WERDUM■1977年8月24日、ブラジル出身。アブダビコンバット99kg以上級で07年、09年優勝をはじめ、柔術で数々の実績を誇る。MMAではPRIDEを経て、07年よりUFCに参戦。09年からはストライクフォースを主戦場とする。



「2000年代MVPはヒョードル。そして次が俺じゃないかい？（笑）」

KOK優勝からPRIDE王者、そして全米のトップへ
10年間、進化し続けた男が語る2000年代

Dan Henderson

ダン・ヘンダーソン

UFCを電撃離脱、その戦場を新天地ストライクフォースに求めたダンヘン。
遡れば日本ではリングスとPRIDEを主戦場とし、この10年間を常に第一線で闘ってきた。
いまなお業界を代表するアスリートとして活躍するダンヘンが、
自身のキャリアを振り返りながら、これからの展望を語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）



―今回、2000年代を振り返るインタビューをお願いできればと思っているのですが、ヘンダーソン選手はこの10年間ずっとMMA界のトップとして活躍し続けた数少ない選手の一人じゃないですか。

ダン　そう言ってくれるとうれしいね。確かにこの10年、世界でベストのファイターたちと試合をして、そのほとんどで勝利を収めることができたし、自分としても凄く楽しめたと思っている。それにMMAがスポーツとして、またビジネスとして大きく成長した10年間だと思うし、素晴らしいファイターたちがたくさん育ってきているという事実もうれしいことだよ。

―そんな中でトップに居続けるというのは凄く大変なことだと思うんですが。

ダン　さすがに、ここ数年は厳しくなってきたなっていう実感はあるけどね（苦笑）。

―ヘンダーソン選手が成功をつかむきっかけとなったのは、99年から00年にかけて行なわれたリングスのKOKトーナメントで優勝したことだと思うんですよ。

ダン　そうだね。あの大会は当時最大のトーナメントということで、いまでもトップ戦線で活躍しているファイターたちが全世界から集まった中での優勝だったからね、とても自信になったよ。体重的には参戦選手の中で小さかったこともあって優勝できるなんて思ってなかったんだ。

―いまと違って階級制もなかった時代ですからね。

ダン　もちろん、勝つためにハードなトレーニングをしてトーナメントに備えたんだけど、自分の持っていたテクニックやスキルがタフで大きなファイターたちにも通用したんだから、ただ単に試合に勝つこと以上に大きな意味があったんだ。

―当時はレスリングでオリンピックを目指していたこともあり、キャンプ費用等で生活が苦しかったと聞いていますが、あの当時、20万ドルの優勝賞金というのは、どんな意味がありましたか？

ダン　それまで参戦してたMMAのファイトマネーはたいした額じゃなかったし、合計しても3万ドル程度にしかなってなかったと思う。当時はレスリングも続けていたので、あの賞金は自分にとって凄い大金で生活が楽になると同時に「これでもう少しレスリングを続けられる」っていう大きな意味もあったんだ。

―リングス時代に最も印象に残っている試合は？

ダン　トーナメントのファイナルの（レナート・）ババルとの試合だね。あの大会ではセミファイナルでの（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとの試合でヒザを痛めてしまいコンディションも最悪の状態だったんだ。

―しかも、同じ日にはギルバート・アイブルとも闘ってますからね（笑）。

ダン　ただ、20万ドルという大金がかかってたんで、それがモチベーションになってたんだ。そんな中での勝利だったから、いまでも鮮明に記憶に残ってるんだよ。

―ノゲイラ、ヘンゾ・グレイシー、田村潔司ら強豪が多数参戦したあのトーナメントで優勝したことは、アマチュアとプロの中間にいたヘンダーソン選手にとって、プロのファイター一本で生活するきっかけになったんでしょうか？

ダン　もちろん。あの優勝があったからプロに転向しても通用するっていう確信が持てるようになったんだ。実際、レスリングは2001年まで続け、そのあとプロのMMAファイターになったんだ。



00年のKOKトーナメントではギルバート・アイブル、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、レナート・ババルと強豪相手にすべて判定勝ちし、見事に優勝を飾ったダンヘン。

Dan Henderson

―その後、次のステップとして、2000年の12月にPRIDEへ戦場を移したのは誰からどんなオファーが？

ダン　元リングスの関係者からビクトー（・ベウフォート）との試合でというオファーをもらったんだ。でも実際にはビクトーがケガをしてしまったため、PRIDEのデビュー戦は急きょヴァンダレイ（・シウバ）と対戦することになったんだよ。

―当時のPRIDEはどんなところに魅力を感じましたか？　やはり、リングスと比べて条件面で大きな差があったのでしょうか？

ダン　自分以外にもリングスへ参戦していたファイターたちがPRIDEへ流れていってたので、タフなファイターたちが集まるところなんだって思って、勝てば条件面もよくなっていくようになってたんだよ。

―PRIDEデビュー戦ではヴァンダレイに敗れたわけですが、その後、PRIDEでも成功をつかむターニングポイントとなった試合はなんでしょうか？

ダン　いや、オレはPRIDEに参戦する前から成功するって信じていたからね（笑）。

―そうでしたか（笑）。いま振り返ってみて、PRIDEの最も素晴らしかった部分はなんでしょうか？

ダン　当時のPRIDEは世界最大のプロモーションだったし、そのリングでベストのファイターたちと試合ができたことだね。ヴァンダレイや、負けたけどノゲイラとの試合は楽しませてもらったよ。

―PRIDE時代、最も印象に残っている試合は誰との試合ですか？

ダン　ヴァンダレイをKOした2戦目の試合（07年2月24日『PRIDE・33』）だね。地元のアメリカでの大会ってこともあったし、デビュー戦でのリベンジをKOというかたちでお返しすることもできたしね。

―逆にPRIDE時代、最も悔いが残っている試合はなんでしょうか？

ダン　ウェルター級GPの2回戦での三崎（和雄）との試合（06年8月26日『武士道―其の十二―』）だね。あのときはコンディションは悪くなかったんだけど、自分の試合がまったくできなかったんだ。三崎とは4ヵ月前に試合をしたばかりでの再戦ということもあってモチベーションがまったくなかったんだ。それ以前にトーナメントに出ること自体に気が引けてたし、トーナメントでのリマッチっていうのも納得いかなかったんだよ。

―前年のGPで優勝してウェルター級初代王者に輝いていたわけですからね。

ダン　そういうのもあって、モチベーションもなくて、試合になっても自分から仕掛けようということもなく、ただリングに入っただけのような状態だった。いまになってみると、本当に恥ずかしい試合をしてしまったと後悔してるけどね。

―PRIDEがUFCに買収されたときはどう感じましたか？

ダン　MMAがスポーツとして成長してきてるんだって実感したね。それと同時にもっと大きなものになる可能性に期待もしたんだ。

―PRIDEからUFCに戦場が移ることに対しては抵抗はありましたか？

PRIDE時代に一番印象に残ってるのは ヴァンダレイをKOした2戦目の試合だね



00年のPRIDEデビュー戦でヴァンダレイと対戦したダンヘンは途中KO寸前まで追い詰めるも判定負け。それから7年後、ダンヘンは見事に左フックでKO勝利! ウェルター級&ミドル級、PRIDE初の二冠王に君臨した。

ダン　とくに抵抗はなかったよ、ただし、ケージでの試合からは8年ほど遠ざかっていたんで、ケージを利用できるように練習しないといけないなとは思ったけどね。

——その後、PRIDEの二階級王者としてUFCに乗り込み、当時の王者のランペイジ・ジャクソン、アンデウソン・シウバとのチャンピオン対決で敗れたことについてはどう思っていますか?

ダン　UFCではライトヘビーで試合をしていたかったんだ。俺はランペイジを倒す自信があったし、敗れたあともその階級に残ってランペイジにリベンジをしたかったんだけどね。結局、ミドル級に階級を変えてアンデウソンにも負けてしまったけど、自分では納得しているよ。

——リングス、PRIDE、UFC、ストライクフォースと4つの大きな団体を渡り歩き、ビッグマネーを手にしたヘンダーソン選手にとって、やり残した仕事はなんだと思いますか?

ダン　世界でベストファイターと言われるタフな選手たちと試合をして自分の存在を証明することだね。ストライクフォースにはジェーク・シールズ、ゲガール・ムサシ、それにヒョードルというベストの中のベストがいるからね。そのすべてと対戦する可能性だってあるし、とても楽しみにしているんだ。

——UFCを辞めてストライクフォースと契約した一番の理由は?

ダン　いま言ったように闘ってみたい選手も多くいるし、金額的にもUFCより良いものだったし、スポンサーに関してもUFCのように制限がなく自由に選べるというところも大きなポイントだったね。

——4月大会ではジェイク・シールズとのミドル級タイトルマッチが内定しているみたいですが、ストライクフォースでも二階級制覇を目指すのでしょうか?

ダン　ストライクフォースのミドル級にはたくさんいいファイターがいるけど、チャンスがあれば目指すかもしれないね。いまはデビュー戦となるシールズ戦をどう闘うかだけを考えているけどね。

——シールズに勝ってミドル級王者になる自信はありますか?

ダン　ここ数週間は旅行続きで満足なトレーニングができていなかったので、まずは試合のできる身体を戻すことが先決だね。その後はジェーク戦に向けたトレーニングキャンプに入る予定だよ。

——最後に、ヘンダーソン選手が考える2000年代のMVPファイターは誰だと思いますか?

ダン　この10年でいったら、間違いなくヒョードルだろうね。

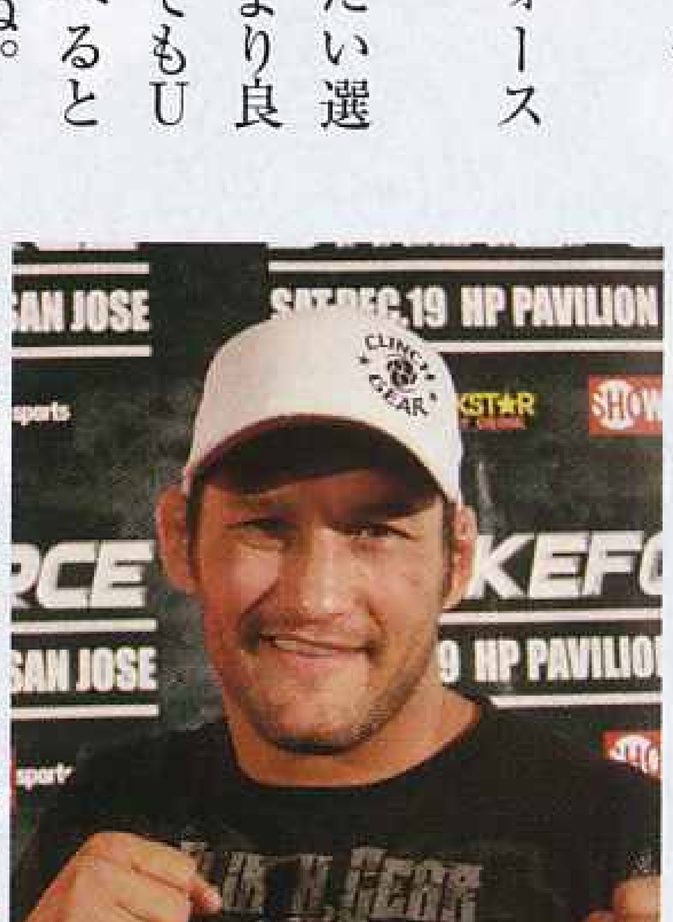
——やはり、ヒョードルですか。

ダン　うん。まあ、その次はオレかな(笑)。

——問題ないと思います(笑)。

ダン　最近は日本のファンの前で試合ができなくて寂しいけど、いつかまた必ず日本で試合をしたいと思ってるので、そのときを楽しみにしていてほしいね。

【10年2月10日/電話取材にて収録】



DAN HENDERSON■1970年8月24日、米国カリフォルニア州出身。グレコローマンレスリング米国代表としてバルセロナ、アトランタと五輪に二度出場後、97年にMMAデビュー。2000年にリングスのKOKトーナメント優勝し、PRIDEではウェルター級、ミドル級の二冠王に輝いた。



「DREAMライトヘビー級グランプリに出場したいんだ」

ストライクフォースの大物が日本マット復帰を熱望!
青木問題と自身の“過ち”についても語った!

Renato Babalu

レナート・ババル

日本でもその名が知られているレナート・ババル!! 現在はストライクフォースを主戦場にしており、今年開催が予定されるDREAMライトヘビー級にもぜひ登場していただきたい実力者である。今回の取材では、モラルに反した行為をしたことでUFCを追放されている彼に、青木問題も語ってもらった!

聞き手／堀江ガンツ　通訳／石井史彦　試合写真／Josh Hedges(UFC)

ババル　（聞き手を見て）あれ？　昔、会ったことなかったっけ？

――じつは以前、インタビューしたことあるんですよ。

ババル　やっぱりそうか！

――でも、インタビューをしたのはリングスで初来日したときですから、もう10年前になりますよ。よく覚えてますね（笑）。

ババル　そりゃ覚えてるよ。あのときは初めての日本で、本格的なインタビューを受けるのだって初めてだったからね。でも、初めて日本に行ってからもう10年かあ、俺も歳を取ったな（笑）。

――あなたにとって初めての大きな大会であるリングスKOKトーナメントは、やはり思い出深いですか？

ババル　もちろんだよ！　日本に行く前は、まだブラジルで4試合しかしたことがなかった駆け出しの頃だからね。日本はおろか、北半球の国に行くことすら初めてのことだったから、すべてが新鮮だったよ。もちろんカルチャーショックも受けたけど、同時にブラジルと日本は昔から深い関係にあったから、もともと興味がある国だったこともあって、招聘されたときはうれしかったよ。

――あのトーナメントは出場メンバーも凄いメンツでしたしね。

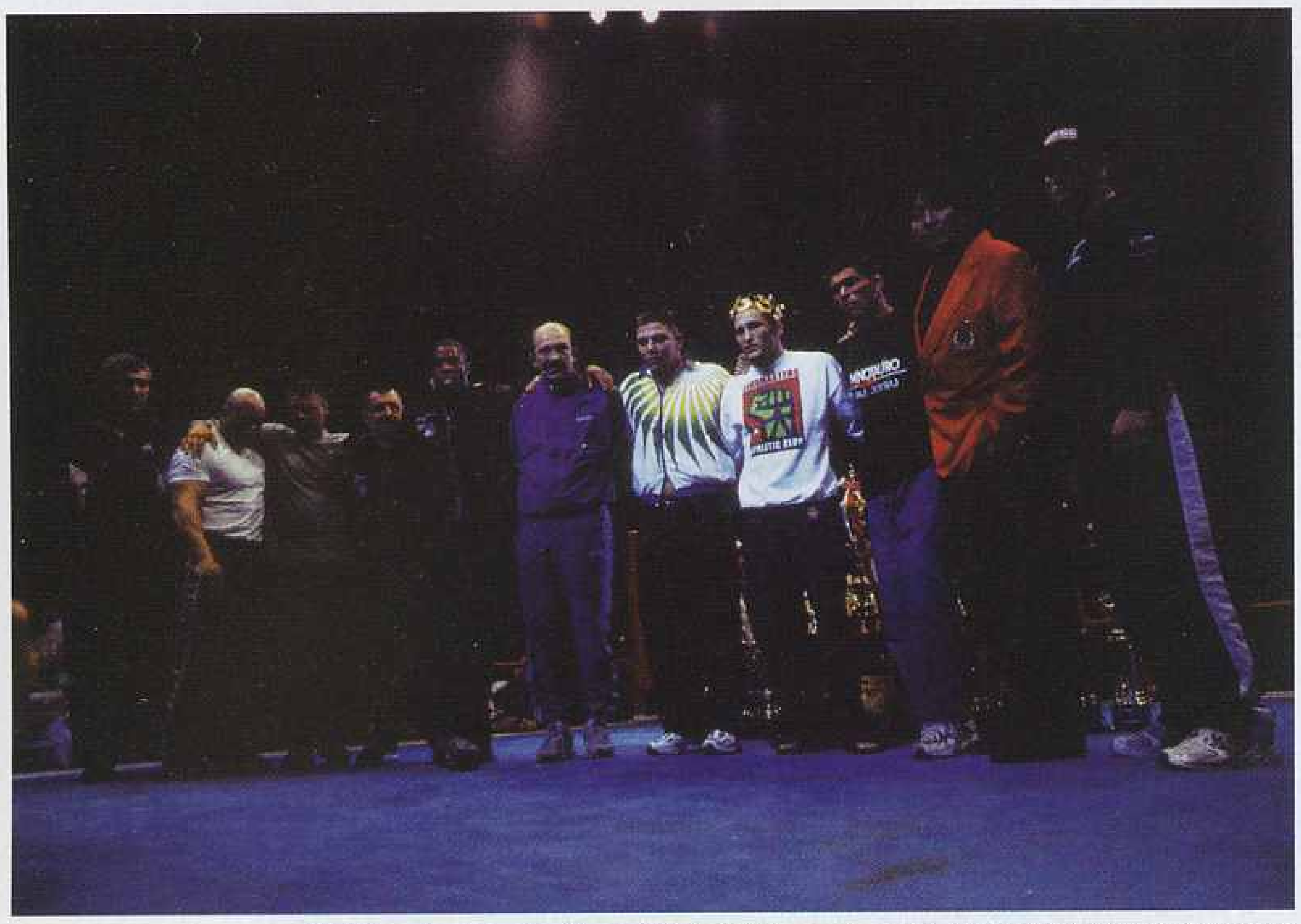
ババル　そうだよなあ。ダン・ヘンダーソン、ヘンゾ・グレイシー、ミノタウロ（ノゲイラ）、アリスター・オーフレイム……第2回大会には、ヒョードルやランディ（・クートゥアー）まで出ていたんだからね。

リングスのトーナメントは、いまでは考えられない豪華なメンバーだったよ

こんな豪華なトーナメントは、いまでは考えられないよ。そのメンバーの中で、準優勝できたことは大きな自信になったしね。

――当時の試合で印象深いのはどの試合ですか？

ババル　ダン・ヘンダーソン、（イリューヒン・）ミーシャ、タムラ（田村潔司）、カネハラ（金原弘光）との試合は、その内容からも思い出に残っている。でも、当時はいい試合ばかりだったから、すべてがいい思い出だけどね。あのトーナメントに出た



第1回KOKトーナメントの準優勝、その後もリングスに定期的参戦していたババルだが、同団体休止後は日本でその勇姿は見ることではできていない。

仲間たちは、リング上では全力で闘いながら、リングを降りたらメンバー全員が家族のようで、フレンドシップも築けたんだ。俺はリングスのあの雰囲気が好きだったし、懐かしく思い出すよ。

――世界最強のヒョードルが、初めて本当に「強い」と認識されたのも、あなたとの試合からでしたね。

ババル　そうだと思う。彼の強さには驚かされたよ。でも、彼は強いだけでなく、リングを降りると本当に紳士なんだよ。素晴らしいファイターだと思うね。

――当時、リングスに参戦していたトップファイターの大半は、その後PRIDEに参戦しましたが、あなたにはオファーがなかったんですか？

ババル　ちょうどそのとき、チームもマネージャーも変えたんで、オファーが来るルートがなくなってしまったんだと思う。それでUFCに行くことにしたんだ。

――日本にもあなたのファンがいますから、ぜひまた日本に来てもらいたいのですが。

ババル　俺も日本で闘いたいよ。日本は本当の意味で俺のキャリアが始まった大切な場所だからね、キャリアを終えるときも日本でありたいとさえ思っているんだ。

――じつは日本の青木真也選手もあなたのファンなんですよ。

ババル　本当かい？　俺も彼の大ファンだよ！　彼の試合は毎回観ているけど、驚きの連続だよ。ヒョードル、アンデウソン・シウバ、そしてシンヤ・アオキ。この3人こそが、ほかの誰にも代わりができない、世界でベストのファイターだと思っているくらいだからね。

――そこまで高い評価ですか。彼の昨年大晦日の試合（廣田瑞人戦）は観ましたか？

ババル　もちろんだよ！

――では、例の〝試合後の一件〟もご存知ですか？

ババル　ああ、あれはね……（苦笑）。でも、ファイターは命懸けで闘っているので、試合中っていうのはきわめて精神的に高ぶった状態なんだよ。ファイトはバスケットボールやサッカーとは根本的に異なるスポーツだからね。だから、どうしてもああいう行為をしてしまうことがあるんだ。だからこそ、ファイターはリングに自分のプライドを持って入るのと同時に、対戦相手も厳しいトレーニングを耐えてその日を迎えていることを感じて尊敬しなければならない。対戦相手ばかりでなく、その家族に対しても尊敬するぐらいにね。そういう意味で、試合後に相手を侮辱するようなことは絶対にあっちゃいけないんだ。そして、もし間違いを犯してしまったら、その過ちに相当する代償を支払わなければならなくなるしね。

――あなたもUFCで、試合に勝ったあとも技を解かずにトラブルになりましたよね？（07年8月の『UFC74』でデビット・ヒースをアナコンダチョークで破ったが、タップしたあとも技を解かなかったために、アスレチック・コミッションから罰金が言い渡され、UFCの契約が解除された）。

ババル　うん。だから、俺はアオキの気持ちもよくわかるんだ。あのときの自分と同じように、試合前から感情的なものがあり、その高ぶった気持ちが、間違った方向に爆発してしまったんだろう。そして俺はあの過ちに対して、大きなペナルティを支払うこととなった。いまは、「偉大なファイターになる」ということは、自分の気持ちもコントロールできるようになることも含まれていると思うし、そうありたい



本当のウォリアーは間違いから学ぶんだ。青木が成長するためのきっかけになる

Renato Babalu

『UFC74』デビット・ヒース戦。ババルの暴挙にアスレチック・コミッションは罰金刑、UFCは契約解除を通達。彼の運命が大きく狂った一戦となってしまった。

と思っているんだ。

——UFCでの〝過ち〟は後悔していますか？

ババル　誰にでも間違いはあることさ。だから、後悔とはちょっと違うんだ。人はみんな過ちを犯しながら、それを反省して成長していく。だから自分にとっても、あのときの一件は人生の過ちの一つであり、いろんなことを学ばせてくれたと同時に、自分を成長させてくれたと思っている。あの行為を肯定しているわけじゃないけど、過ちは誰にでもあるということだよ。

——青木選手にも同様のことが言えますかね。

ババル　本当のウォリアーは間違いからいろんなことを学ぶんだ。おそらくアオキも今度成長するための、いいきっかけになったはずだよ。それに、彼はすでに間違いに対しての支払いは済んだんじゃないかな。同時に対戦相手もなんらかの間違いに気づいたんじゃないかと思うよ。

——では、話をあなた自身のことに戻しますが、じつは今年、DREAMでライトヘビー級トーナメントが予定されているんですよ。もしオファーが来たら興味はありますか？

ババル　そりゃ、興味はあるよ！　そんなことを聞いたら、待ち遠しくて仕方がなくなるね。自分のドリームは、DREAMに参戦することだって書いておいてくれよ（笑）。もし、そのトーナメントに出られたら、自分のキャリアの中でハイライトになるかもしれないね。

——このトーナメントには、ゲガール・ムサシの参戦も濃厚と言われています。そうなると、リベンジマッチということになりますね。

ババル　それはグッドだね！　ムサシとリマッチが実現したら、ハイレベルな闘いになるだろうし、日本でリベンジができるなんて、最高の舞台になるね。

——ぜひ実現するように期待してますよ。

ババル　昔はブラジルから日本に行くには飛行機で24時間もかかったけど、いまはロサンゼルスに住んでいるから、半分以下の時間ですぐに行けるしね（笑）。ぜひ、実現するように応援してくれ。そんなことを聞いたら、なんだか練習にも力が入っちゃうな〜（笑）。

——いまは、いいトレーニングができているみたいですね。

ババル　そうなんだ。昨年はトレーニング中に筋肉を痛めてしまって充分なトレーニングができなかったけど、いまは100パーセントの状態に戻っているから、いつでも試合ができるよ。いまはファブリシオ・ヴェウドゥム、キング・モー、メイヘム・ミラーたちといい練習ができているし、月2回はヴァンダレイとも練習しているからね。その成果をぜひ、日本のファンの前で披露したいね！

——では、ババル選手の試合が再び日本で観られる日を楽しみにしています！

【10年2月2日／米国カリフォルニア州、アフリクション・ジムにて収録】



RENATO BABALU■1975年9月7日、ブラジル出身。非UFC大物ファイターの一人。リングスKOKトーナメントで初来日、同大会を準優勝。その後、UFCに参戦。ストライクフォースでは、ゲガール・ムサシとライトヘビー級のタイトルを争った。185センチ、93キロ。

ミノワマンのハルク優勝賞金より高額じゃありません

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2010年4月10日(水)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦もし日本でUFCが開催されたとき観たいカードは?⑧今後UFCに参戦してほしい選手は?

【宛先】〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
(株)ツー・スリー内『kamipro』編集部
「しるこサンド、もらった?」係まで

※応募締切は2010年3月24日(水)当日消印有効

PRESENT*01

1名様



OCTAGON BIG MARK MESH TEE

[リバーサル/¥5,040(税込)]

OCTAGON BIG MARKロゴをメッシュ素材に。通気性、速乾性に優れた機能が夏場に最適。全5色。今回はBLACK-RのMサイズをプレゼント。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

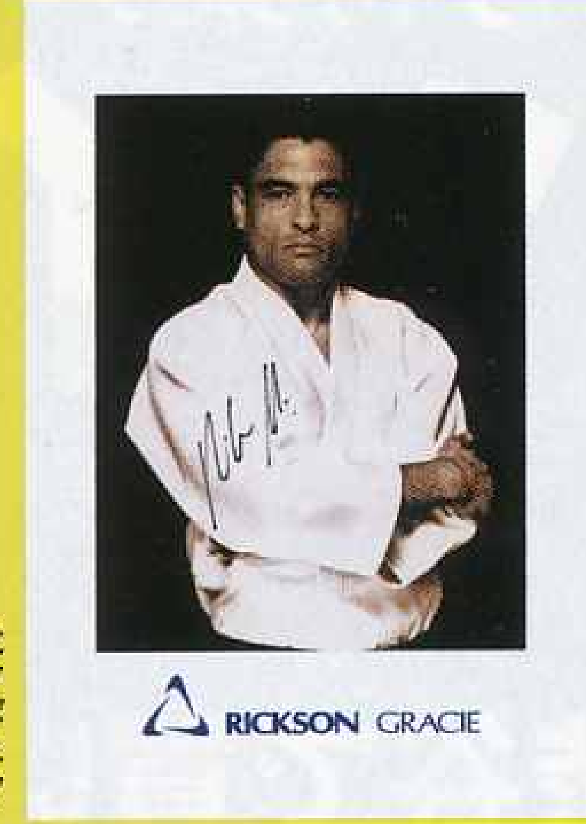
PRESENT*02

サイン入り

ヒクソン・グレイシー サイン入りポートレート

[闘道館/非売品]

プロレス・格闘技のお宝満載ショップ「闘道館」から、ヒクソン・グレイシーのサイン入りポートレートをプレゼント!! 水道橋駅すぐのお店へのアクセスは下記URLを参照。



闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*03

各4名様



WWE『レッスルマニア26』大会記念キーホルダー

[WWE/非売品]

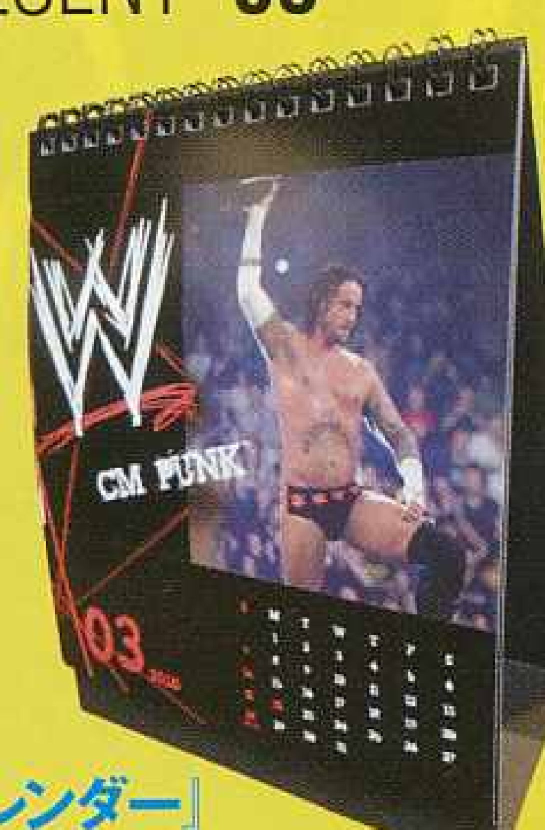
PRESENT*04



WWEレイ・ミステリオマグネット

[WWE/非売品]

PRESENT*05



『WWE卓上カレンダー』

[WWE/非売品]

WWE年間最大のイベント『レッスルマニア26』は4月8日よりPPV、9日よりVOD放送開始! 今回は日本人として初めてWWE殿堂入りが決定したアントニオ猪木の登場もあり見逃せない! UFCが格闘技のメジャーリーグなら、プロレスのメジャーリーグは間違いなくWWEです!! 太っ腹にプレゼントも大放出していただきました。『レッスルマニア26』中継の詳細は下記の日本語公式サイトまで。

WWE日本語公式サイト■http://www.wwe.co.jp/

PRESENT*06

1名様



DVD
不滅の昭和プロレス第2巻
魂のプロレス請負人
『竹内宏介』

[クエスト/¥5,880(税込)]

元『週刊ゴング』編集長・竹内宏介がレスラーたちとの交遊によって得た裏話を流智美とともに徹底的に語った3時間。メモリアルマッチとともに振り返る。

PRESENT*07

1名様



DVD
第1回
『東京国際ブラジリアン柔術オープントーナメント』

[クエスト/¥5,880(税込)]

日本人選手のレベルアップのために初めて開催されることになった日本と世界の強豪が集結する国際オープントーナメントを230分にわたって完全収録。

PRESENT*08

1名様



DVD
麻生秀孝格闘教室
『最強への道』

[クエスト/¥5,880(税込)]

現在のグラップリング競技の先駆けでもあるサブミッションアーツレスリングを創始した麻生秀孝。寝技&関節技の様々な闘い方を徹底的に伝授!!

クエスト■http://www.queststation.com/

PRESENT*09

1名様



DVD
新極真会 第41回
『全日本空手道選手権大会』

[クエスト/¥5,880(税込)]

現・世界王者の塚越孝行、前王者・鈴木国博、元王者・塚本徳臣と3人の世界王者が揃い踏み。実績あるベテランと未来を担う新鋭たちが激突!

PRESENT*10

1名様



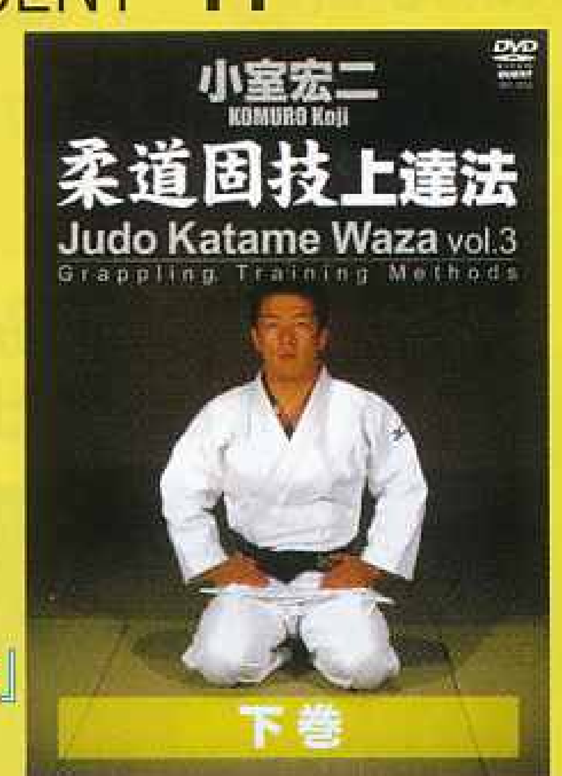
DVD
大道塾
『第三回世界空道選手権大会』

[クエスト/¥5,880(税込)]

対複数の場で威力を発揮する突き、蹴り、投げと1対1の場面で勝敗に大きく影響する絞め、関節技の双方を認めた空道の世界大会を収録!!

PRESENT*11

1名様



DVD
小室宏二
『柔道固技上達法』下巻

[クエスト/¥5,880(税込)]

柔道界有数の寝技師・小室宏二5段が寝技のさまざまな使い方や上達法を徹底紹介! 寝技の使い方、関節を極めるポイントなどを実演&解説。

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro SP
応募券
1,000万円

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!!
http://kamipro.com/

次号特集テーマは

『ツイッター』

「渋谷で買い物中なう」

はたして船木さんは つぶやいてくれるのか!?



3.7『SRC』詳報&
4.25『ASTRA』情報満載!!
kamipro No.145は
3月23日(火)発売予定!
※地域によっては多少発売が遅れます、なう。

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2010 APRIL
2010年3月17日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
青柳昌行
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎(ちゃんこ待ちのため非番)
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
編集次長(超UFCマニア)
松林 貴

デザインGM
出田さん(TwoThree)
デザイニングマネージャー
金井ヒサくん(TwoThree)
デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐺田やっちゃん(以上、TwoThree)
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
金山フヒト
お勘定
工藤ちゃん
二人乗り
入江ボブスレー(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
業務部
樽本"里紙"義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
編集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
白倉"クララ"明子
オージーマダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)
発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3
印刷
大日本印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport



GENDAI

BISCAL®
ビスカル

製薬会社だから提供出来る信頼・安全!
毎日食べてウチのコ、ハッスル!!



ビスカル 150g



ビスカル 300g



ビスカル 900g



ビスカル 2.5kg



ビスカル小粒 65g



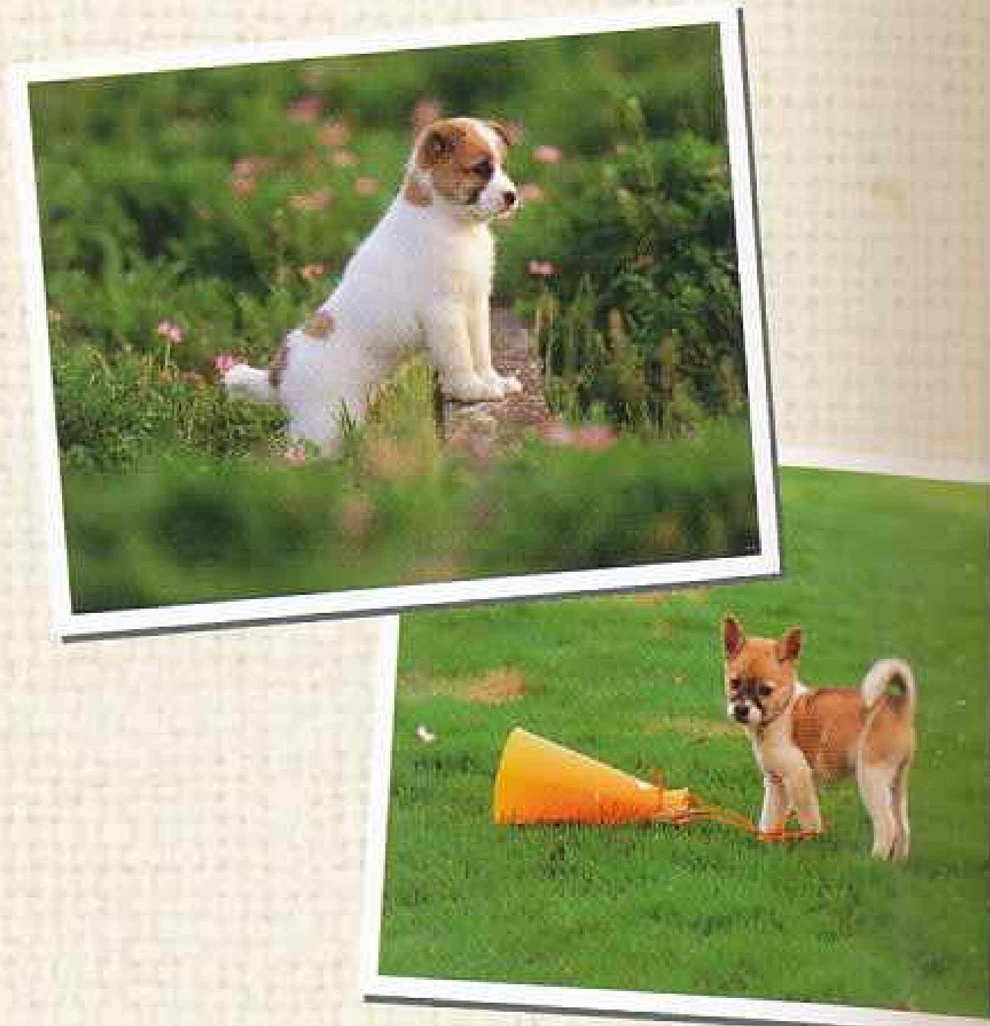
ビスカル小粒 180g



ビスカルシニア小粒 60g



ビスカルシニア 300g

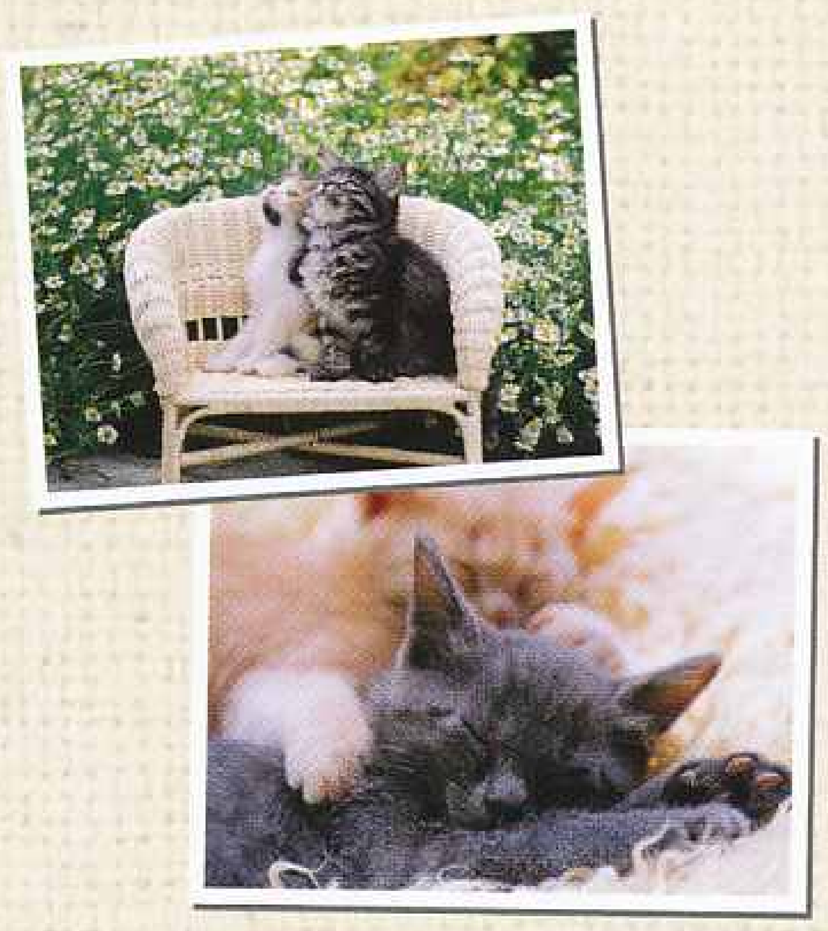




ビスカルダイエット 300g



ビスカルダイエット 900g





ビスカルcat 100g



ビスカルcat 200g

詳細(ビスカル他)はコチラ→ http://www.gendai.ne.jp/

HPから商品の
ご購入も出来ます!!



ペットの健康と幸せ支え、人と地球に、やすらぎと潤いを提供すること。
これからも変わらない現代製薬の使命です。

心の癒しや潤いを求める社会の変化の中で、ペットの存在は大きく変化してきました。今、ペットは、大切な伴侶や家族を意味するコンパニオン・アニマルとして捉えられています。ペットの暮らしをトータルに支えながら、人と社会に心の豊かさを発信していくこと。この理念を実現するために私たち現代製薬は、昭和32年創立されました。以来、私たちは医薬品から化粧品、食品まで様々な製品を提供し、そのフィールドをさらに多彩に広げ、深めつつあります。
高齢化や少子化が進む中でペットと人との関係は、さらに密接になっていくと考えられます。また、地球環境の悪化が深刻に進む今、ペットの存在は尊い生命と共存の素晴らしさを子どもたちに教えてくれることでしょう。その意味で私たちが果たすべき役割はますます重要になってきています。だからこそ現代製薬はその責任の重さを自覚しながら、さらに優れた品質の製品をお届けすることで業界をリードしていく決意です。今も、これからもペットの健康と幸せを支え、人々と地球にやすらぎと潤いを提供すること。それが創業以来変わらない、私たち現代製薬の使命です。

現代製薬株式会社
本社所在地 〒190-1222 東京都西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎東松原8-4 TEL：042-556-1971 FAX：042-557-2516
大阪営業所 〒567-0821 大阪府茨木市末広町2-24 末広13番館203号 TEL：072-633-3223 FAX：072-633-3065

kamipro Special 2010 APRIL
PRIDE魂は"最先端"でモガキ続ける！
昔の顔で出てねえぞ!!
2010年3月17日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤憤一、青柳昌行
発行所／株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元／株式会社角川グループパブリッシング　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
enterbrain

定価: 本体838円 +税

雑誌61971-54 Ⓗ2011.04

Printed in Japan 大日本印刷株式会社

ISBN978-4-04-726368-0
C9476 ¥838E